

# 総合検査案内

## 2020-2021

生化学検査

薬物検査

内分泌学検査

腫瘍関連検査

ウイルス学検査

免疫血清学検査

細胞性免疫検査

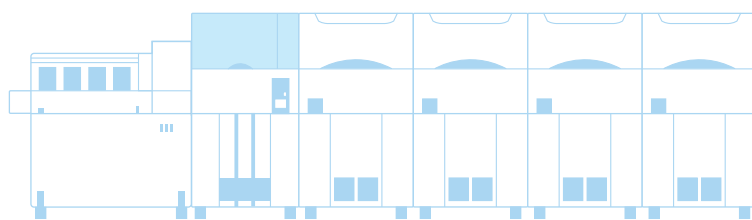
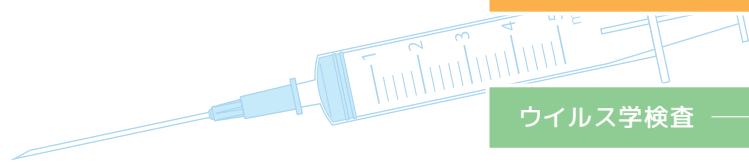
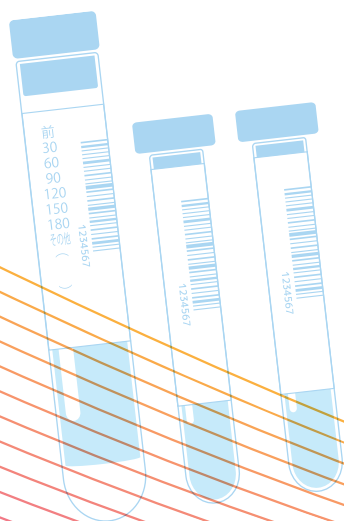
遺伝子関連/染色体検査

血液学検査

微生物学検査

一般臨床検査

病理学検査





検査項目索引	索引	1 ~ 8
ご利用の手引き	手引き	1 ~ 12
緊急報告対象項目	手引き	12

<b>生化学検査</b>	蛋白	1	低分子窒素化合物	3	電解質・微量金属	7	1
	生体色素	1	糖・有機酸	4	ボルフィリン関連	9	
	酵素	1	脂質	5	その他	9	
	アミノザイム	3	ビタミン	6	産業衛生関連検査	10	
<b>薬物検査</b>	抗てんかん剤	15	気管支拡張剤	17	抗炎症・抗リウマチ剤	18	15
	精神神経用剤	16	抗生剤・抗ウイルス剤	17	抗悪性腫瘍剤	18	
	抗不整脈剤	16	抗真菌剤	17	免疫抑制剤	18	
	強心剤	17	解熱・鎮痛剤	17			
<b>内分泌学検査</b>	下垂体	21	副腎髄質・交感神経・中枢神経	23	胎盤	25	21
	甲状腺	21	腎・副腎皮質	24	膵・消化管	25	
	副甲状腺	22	性腺	25	その他	26	
<b>腫瘍関連検査</b>	腫瘍関連検査	30					30
<b>ウイルス学検査</b>	ウイルス抗体の検出 (CF)	35	ウイルス抗体の検出 (FAT)	40	ウイルス抗原の検出	44	35
	ウイルス抗体の検出 (HI)	36	ウイルス抗体の検出 (EIA)	41	ウイルス核酸の検出	45	
	ウイルス抗体の検出 (LA)	36	肝炎ウイルス関連検査	42			
	ウイルス抗体の検出 (NT)	37	レトロウイルス	44			
<b>免疫血清学検査</b>	感染症血清反応	47	補体	53	アレルギー一覧	59	47
	蛋白	50	自己免疫関連	54			
	免疫グロブリン	52	血液型検査	57			
<b>細胞性免疫検査</b>	細胞形態検査	63	細胞機能検査	63	組織適合性抗原	63	63
<b>遺伝子関連/染色体検査</b>	白血病関連遺伝子	65	癌関連遺伝子	65	先天異常染色体検査・その他	66	65
<b>血液学検査</b>	血球計数	67	形態学的検査	67	出血凝固検査	67	67
<b>微生物学検査</b>	一般細菌検査	71	抗酸菌検査	72	その他	72	71
<b>一般臨床検査</b>	尿検査	74	髄液検査	75	精液検査	76	74
	糞便検査	74	穿刺液検査	75			
<b>病理学検査</b>	病理組織検査	78	細胞診検査(婦人科等)	79	細胞診検査(その他)	79	78

参照資料 (特定健診について)	83 ~ 84
主要参考文献	85 ~ 96
専用容器一覧	97 ~ 102
登録衛生検査所一覧	107

# 検査項目索引

## 五十音順

ア	頁	保険点数
(ALP)アイソザイム	3	48
(CK)アイソザイム	3	55
(LDH)アイソザイム	3	48
亜鉛 (Zn)	8	140
(P型)アミラーゼ	3	48
アスペルギルス 抗原	49	161
アセトアミノフェン	18	185
アデノ (NT法)	37	79
アデノシンデアミナーゼ (ADA)	2	32
アトピー鑑別試験 (ファディアトープ)	53	194
アプリンジン	16	(470)
アポリポ蛋白	6	頁参照
アミオダロン	17	(470)
アミカシン	17	(470)
アミノ酸11分画	4	1176
アミノ酸分画	4	1176
アミラーゼ (AMY)	2	11
アミロイド A (SAA)	51	47
アルカリフォスファターゼ (ALP)	1	11
アルドステロン	24	125
アルドラーゼ (ALD)	2	11
アルブミン (Alb)	1	11
アルベカシン	17	(470)
アルミニウム (Al)	8	115
アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)	24	144
アンチトロンビン III 活性 (AT III 活性)	68	70
アンモニア (NH <sub>3</sub> )	4	50
(抗)アセチルコリンレセプター結合抗体 (抗AChR抗体)	56	822

イ	頁	保険点数
胃癌HER2/neu (IHC法)	78	690
一般細菌塗抹	71	61
インスリン (IRI)	26	106
インスリン抗体	26	110
インフルエンザ (CF法)	35	79
インフルエンザ (HI法)	36	79+79

エ	頁	保険点数
エストラジオール (E2)	25	177
エコー (HI 法)	36	79
エコー (NT法)	39	79
エストロゲンレセプター (ER)	78	720
エタノール	9	111
エトサクシミド	15	(470)
エペロリムス	18	(470)
エラスターゼ1	30	126
エリスロポエチン (EPO)	26	209
塩基性フェトプロテイン (BFP)	30	150
塩酸ピルジカイニド	16	(470)
塩酸ピルメノール	17	(470)
エンテロ (NT法)	39	
(透析液)エンドトキシン	48	

オ	頁	保険点数
黄体形成ホルモン (LH)	21	111
オリゴクローナルバンド	52	522

カ	頁	保険点数
ガストリン	26	104
ガストリン放出ペプチド 前駆体 (ProGRP)	31	175
カテコールアミン 3分画	23	170
ガバペンチン	15	(470)
カリウム	7	11
カルニチン分画	7	95+95
カルシウム (Ca)	8	11
(抗)カルジオリピンβ <sub>2</sub> グリコプロテイン I 複合体抗体 (抗CLβ <sub>2</sub> GP I 抗体)	56	223
(抗)カルジオリピン抗体 (抗CLリピン抗体 (IgG))	56	232
カルシトニン (CT)	22	137
カルバマゼピン	15	(470)
(便中)カルプロテクチン	52	276
可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	32	438
(細菌薬剤)感受性検査	71	頁参照
(抗酸菌薬剤)感受性検査	72	380
間接クームス試験	57	47
間接ビリルビン (I-BIL)	1	
寒冷凝集反応	47	11

キ	頁	保険点数
キニジン	16	(470)

ク	頁	保険点数
クラミジア・トラコーマチス抗体 IgA&IgG	49	200
クラミジア・ニューモニエ抗体IgA	49	75
クラミジア・ニューモニエ抗体IgG	49	70
クラミジア・ニューモニエ抗体IgM	49	156
クリオグロブリン	51	42
グリコアルブミン (GA)	4	55
グルコース (血糖)	4	11
(髄液)グルコース	75	11
(穿刺液)グルコース	75	11
(蓄尿尿)グルコース	74	9
クレアチニン (CRE)	3	11
クレアチニンクリアランス	9	
(24時間)クレアチニンクリアランス	9	
クロール (Cl)	7	11
(髄液)クロール	75	11
クロナゼパム	15	(470)
クロバザム	15	(470)
グロブリン (Glb)	1	

ケ	頁	保険点数
(末梢)血液一般検査	67	21
血液ガス分析	10	
(末梢)血液像(鏡検法)《6分類》	67	25
(末梢)血液像(自動機械法)《5分類》	67	15
結核菌群同定	72	410
血小板第4因子 (PF-4)	68	178
血小板表面IgG (PA-IgG)	57	198
血漿レニン活性 (PRA)	24	100
血清補体価 (CH50)	53	38
結石鑑別 (結石分析)	9	120
血糖 (グルコース)	4	11
ケトン体分画	5	59
嫌気性培養	71	112
ゲンタマイシン	17	(470)

コ	頁	保険点数
抗ARS抗体	55	190
抗BP180抗体	56	270
抗CCP抗体〈抗シトルリン化ペプチド抗体〉	54	204
抗CLB2GPI抗体〈抗カルジオリピンβ <sub>2</sub> グリコプロテイン複合体抗体〉	56	223
抗CLリピン抗体(IgG)〈抗カルジオリピン抗体〉	56	232
抗DNA抗体	54	168
抗ds DNA抗体 IgG	54	168
抗ds DNA抗体 IgM	54	
抗GAD抗体	26	134
抗IA-2抗体	26	213
抗Jo-1抗体	55	140
抗MDA5抗体〈抗CADM-140抗体〉	55	270
抗MuSK抗体〈抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体〉	56	1000
抗P53抗体	30	163
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	55	170
抗RNP抗体	54	144
抗Scl-70抗体	55	161
抗Sm抗体	54	151
抗ss DNA抗体 IgG	54	168
抗SS-A抗体	55	163
抗SS-B抗体	55	161
抗TPO抗体〈抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体〉	22	146
抗アセチルコリンレセプター結合抗体〈抗AChR抗体〉	56	822
抗ガラクトース欠損IgG抗体〈CA・RF〉	54	117
抗サイログロブリン抗体〈Tg-Ab〉	22	144
抗セントロメア抗体	55	179
抗デスモグレイン1抗体	56	300
抗デスモグレイン3抗体	56	270
抗ミトコンドリアM2抗体	55	194
抗ミトコンドリア抗体	55	186
抗ミュラー管ホルモン〈AMH〉	25	
抗胃壁細胞抗体〈抗パリエタル細胞抗体〉	56	
抗核抗体〈ANA〉	54	105
抗血小板抗体	57	262
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体〈MPO-ANCA〉	56	265
抗好中球細胞質抗体〈PR3-ANCA〉	56	267
抗酸菌塗抹	72	82
抗酸菌同定DDH	72	410
抗酸菌分離培養検査	72	204
抗酸菌薬剤感受性検査	72	380
抗糸球体基底膜抗体〈抗GBM抗体〉	56	270
抗平滑筋抗体	56	
抗利尿ホルモン〈AVP(ADH)〉	21	235
高感度HBs抗原	42	88
コクサッキー(CF法)	35	79
コクサッキー(NT法)	38	79
骨型ALP〈BAP〉	22	161
コハク酸シベンゾリン	17	(470)
コリンエラスターゼ〈ChE〉	2	11
コルチゾール	24	127
(HDL)コレステロール〈HDL-Cho〉	5	17
(LDL)コレステロール〈LDL-Cho〉	5	18
(総)コレステロール〈T-Cho〉	5	17

サ	頁	保険点数
細菌薬剤感受性検査	71	頁参照
細菌培養同定検査	71	頁参照
サイトケラチン19フラグメント〈シフラ〉	31	162
サイトメガロCMV(CF法)	35	79
サイトメガロCMV(CLIA法)	41	212
サイトメガロウイルス抗原	44	377

細胞診	79	頁参照
サイロイドテスト	22	37
サイログロブリン〈Tg〉	21	133
サリチル酸	18	(470)
赤痢菌・サルモネラ菌	72	

シ	頁	保険点数
ジアゼパム	15	(470)
シアルリルLex-i抗原〈SLX〉	30	148
シアルリルTn抗原〈STN〉	31	146
シクロスポリン	18	(470)
ジゴキシシン	17	(470)
シスタチンC	3	118
ジソピラミド	16	(470)
シフラ〈サイトケラチン19フラグメント〉	31	162
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	25	122
脂肪酸4分画	5	417
(高感度)心筋トロポニンI	51	115
浸透圧〈血清〉	9	15
浸透圧〈尿〉	9	16

ス	頁	保険点数
髄液一般検査	75	62
髄液(グルコース)	75	11
髄液(クロール)	75	11
髄液(総蛋白)	75	11
水痘・帯状ヘルペス〈VZV〉(CF法)	35	79
水痘・帯状ヘルペス〈VZV〉(EIA法)	41	212
腓ホスホリパーゼA2〈腓PLA2〉	2	204
スチレン代謝物	10	
ステロイド10分画	25	

セ	頁	保険点数
精液一般検査	76	70
成長ホルモン〈GH〉	21	111
赤痢菌・サルモネラ菌	72	0
セルロプラスミン〈Cp〉	51	90
セレン〈Se〉	8	144
穿刺液一般検査	75	
穿刺液(ADA)	2	32
穿刺液(グルコース)	75	11
穿刺液(蛋白)	75	11
全脂質脂肪酸分画	5	417
(抗)セントロメア抗体	55	179
前立腺特異抗原〈PSA〉	31	127

ソ	頁	保険点数
総コレステロール〈T-Cho〉	5	17
総ビリルビン〈T-BIL〉	1	11
総三塩化物〈TTC〉	10	
総胆汁酸〈TBA〉	5	47
総蛋白〈TP〉	1	11
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比〈BTR〉	4	288
ソニサミド	15	(470)
ソマトメジンC〈IGF-I〉	21	218

タ	頁	保険点数
第Ⅱ因子活性〈F2〉	69	223
第Ⅴ因子活性〈F5〉	69	223
第Ⅶ因子活性〈F7〉	69	223

第Ⅷ因子インヒビター〈F8INH〉	69	148
第Ⅷ因子活性〈F8〉	69	223
第Ⅸ因子インヒビター〈F9INH〉	69	148
第Ⅸ因子活性〈F9〉	69	223
第Ⅹ因子活性〈F10〉	69	223
第Ⅺ因子活性〈F11〉	69	223
第Ⅻ因子活性〈F12〉	69	223
第Ⅻ因子定量〈F13〉	69	223
大腸菌 血清型別〈病原性大腸菌〉	71	175
タクロリムス	18	(470)
(総)胆汁酸〈TBA〉	5	47
単純ヘルペス〈HSV〉(CF法)	35	79
単純ヘルペス〈HSV〉(EIA法)	41	212
単純ヘルペス〈HSV〉(NT法)	37	79
単純ヘルペスウイルス 特異抗原	44	180
蛋白〈穿刺液〉	75	11
蛋白〈髄液〉	75	11
蛋白〈蓄尿〉	74	7
蛋白分画	1	18

チ	頁	保険点数
中性脂肪〈TG〉	5	11
虫体鑑別	74	23
虫卵〈集卵法〉	74	15
虫卵〈塗抹法〉	74	20
腸管出血性大腸菌	72	
直接クームス試験	57	34
直接ビリルビン〈D-BIL〉	1	11
尿沈渣顕微鏡検査	74	27

ツ	頁	保険点数
ツツガ虫	48	207

テ	頁	保険点数
テイコブラニン	17	(470)
デオキシピリジノリン〈Dpyr〉	23	191
テオフィリン	17	(470)
テストステロン	25	125
(抗)デスマグレイン1抗体	56	300
(抗)デスマグレイン3抗体	56	270
鉄〈Fe〉	8	11

ト	頁	保険点数
銅〈Cu〉	8	23
透析液 エンドトキシン	48	
トキソプラズマIgG	48	93
トキソプラズマIgM	48	95
特異的IgE	53	各 110
トピラマート	16	(470)
トブラマイシン	17	(470)
塗抹(一般細菌)	71	61
塗抹(抗酸菌)	72	50+32
トランスフェリン〈Tf〉	51	60
(尿中)トランスフェリン	51	104
トリクロル酢酸〈TCA〉	10	
トリブシン	2	189
トリメタジオン	15	(470)
トロンビン・アンチトロンビン複合体〈TAT〉	68	181

ナ	頁	保険点数
ナトリウム〈Na〉	7	11
鉛〈Pb〉	9	

ニ	頁	保険点数
ニトラゼパム	15	(470)
日本脳炎〈CF法〉	35	79
日本脳炎〈HI法〉	36	79
乳酸	5	47
尿ALB・CRE補正	50	102
尿グルコース〈蓄尿〉	74	9
(尿)浸透圧	9	16
尿中FDP	67	72
尿酸〈UA〉	3	11
尿素呼吸試験	50	70
尿素窒素〈BUN〉	4	11
尿蛋白〈蓄尿〉	74	7
尿中HCG定性〈妊娠反応〉	25	55
尿中NAG〈N-アセチルグルコサミニダーゼ〉	3	41
尿中トランスフェリン	51	104
尿中一般物質定性半定量検査	74	
尿中免疫電気泳動〈ベンス・ジョーンズ蛋白(BJP)同定〉	52	201
尿沈渣顕微鏡検査	74	27

ハ	頁	保険点数
肺がん ALK	66	6520
(細菌)培養同定検査	71	頁参照
パニリルマンデル酸〈VMA〉	24	90
馬尿酸〈HA〉	10	
ハプトグロビン(Hp)型判定	50	136
パルブロン酸ナトリウム	15	(470)
パルボウイルスB19 IgG	41	
パルボウイルスB19 IgM	41	212
ハロペリドール	16	(470)
パンコマイシン	17	(470)

ヒ	頁	保険点数
ヒアルロン酸	4	184
ビタミンB1〈サイアミン〉	6	246
ビタミンB12〈シアノコバラミン〉	6	144
ビタミンB2〈リボフラビン〉	6	249
ビタミンC〈アスコルビン酸〉	7	314
鼻汁好酸球	67	15
非特異的IgE	53	100
ヒト心房性Na利尿ペプチド〈HANP〉	26	227
ヒト精巢上体蛋白4〈HE4〉	31	200
ヒト絨毛性ゴナドトロピン〈HCG〉	25	138
(塩酸)ピルジカイニド	16	(470)
ピルビン酸	5	47
(塩酸)ピルメノール	17	(470)
百日咳菌核酸同定	47	360
百日咳菌抗体	47	264
病原性大腸菌〈大腸菌 血清型別〉	71	175
病理組織検査	78	頁参照

フ	頁	保険点数
ファディアトープ〈アトピー鑑別試験〉	53	194
フィブリノゲン	67	23
風疹(EIA法)	41	212

風疹 (HI法)	36	79
風疹 (LA法)	36	79
フェニトイン	15	(470)
フェノバルビタール	15	(470)
フェリチン	50	108
フォン・ウィルブランド 因子活性	68	132
フォン・ウィルブランド 因子定量 (第Ⅷ因子様抗原)	68	151
不規則性抗体	57	159
副甲状腺ホルモン (PTHインタクト)	22	170
副甲状腺ホルモン whole (ホールPTH)	22	170
副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	21	194
プリミドン	15	(470)
プレアルブミン	50	107
フレカイニド	17	(470)
プレグナンジオール (P <sub>2</sub> )	25	213
プレグナントリオール (P <sub>3</sub> )	25	234
プレセブシン	48	301
プロカインアミド	16	(470)
プロカルシトニン (PCT)	48	292
プロジェステロン	25	151
プロジェステロンレセプター (PgR)	78	690
プロテインC (活性)	68	241
プロテインC (抗原量)	68	239
プロテインS (活性)	68	168
プロテインS (抗原量)	68	162
プロトロンビン時間 (PT時間)	67	18
プロパフェノン	16	(470)
プロムベリドール	16	(470)
プロラクチン (PRL)	21	98

へ	頁	保険点数
ペプシノゲン (PG)	2	
ペプリジル	17	(470)
ペランパネル	16	(470)
(便中)ヘリコバクター・ピロリ抗原	50	142
ヘリコバクター・ピロリ抗体	50	80
ベンス・ジョーンズ蛋白 (BJP)同定 (尿中免疫電気泳動)	52	201
便中Hb定性	74	37
便中カルプロテクチン	52	276

ホ	頁	保険点数
ホモシステイン	4	287
ホモパニリン酸 (HVA)	24	69
ポリコナゾール	18	(470)
ホールPTH (副甲状腺ホルモン whole)	22	170

マ	頁	保険点数
マイクロゾームテスト	22	37
マイコプラズマ抗体	47	32
マイコ核酸同定LAMP	47	300
マグネシウム (Mg)	8	11
末梢血液一般検査	67	21
末梢血液像 (鏡検法)《6分類》	67	25
末梢血液像 (自動機械法)《5分類》	67	15
麻疹 (EIA法)	41	212
麻疹 (HI法)	36	79
麻疹 (NT法)	37	79
マンガン (Mn)	9	27
マンデル酸	10	

ミ	頁	保険点数
ミエリンベースック蛋白 (MBP)	57	577
ミオグロビン	51	139
(抗)ミトコンドリア抗体	55	186
(抗)ミトコンドリアM2抗体	55	194

ム	頁	保険点数
無機リン (P)	8	17
ムンプス (CF法)	35	79
ムンプス (HI法)	36	79
ムンプス (NT法)	37	79
ムンプス (EIA法)	41	212

メ	頁	保険点数
メキシレチン	17	(470)
メタネフリン2分画	23	221
メチル馬尿酸 (MHA)	10	
メトトレキサート	18	(470)
免疫電気泳動IEP (抗ヒト全血清による定性)	52	170
免疫電気泳動 (免疫固定法によるM蛋白同定)	52	224
免疫複合体 (C1q)	57	157

モ	頁	保険点数
網赤血球数	67	12

ユ	頁	保険点数
遊離HCG-β (HCG-βサブユニット)	32	136
遊離L鎖κ/λ比 (FLC)	52	388
遊離カテコールアミン3分画	23	170
遊離テストステロン	25	163

ヨ	頁	保険点数
葉酸	7	154

ラ	頁	保険点数
ラコサミド	16	(470)
ラモトリギン	16	(470)
卵胞刺激ホルモン (FSH)	21	111

リ	頁	保険点数
リウマトイド因子 (RF定量)	54	30
リゾチーム (ムラミダーゼ)	2	
リチウム	16	(470)
リドカイン	16	(470)
リパーゼ	6	24
リポ蛋白(a) (Lp(a))	6	107
リポ蛋白分画	6	49
リポ蛋白分画精密測定	6	80
リン脂質 (PL)	5	15
リンパ球幼若化試験	63	345

ル	頁	保険点数
ループスアンチコアグラント	68	281

レ	頁	保険点数
レジオネラ 菌定量培養	72	
(血漿)レニン活性〈PRA〉	24	100
レニン濃度〈PRC〉	24	108
レベチラセタム	15	(470)
レムナント様リポ蛋白コレステロール〈RLP-C〉	6	184

## アルファベット順

A	頁	保険点数
A/G比	1	
ABC分類	2	
ABO血液型	57	24
ACE〈アンジオテンシンI 転換酵素〉	24	144
(抗)AChR抗体〈抗アセチルコリンレセプター結合抗体〉	56	822
ACTH〈副腎皮質刺激ホルモン〉	21	194
ADA〈アデノシンデアミナーゼ〉	2	32
ADA(穿刺液)	2	32
AFP〈αフェトプロテイン〉	30	104
AFPレクチン分画	30	190
Al〈アルミニウム〉	8	115
Aib〈アルブミン〉	1	11
ALD〈アルドラーゼ〉	2	11
(肺がん)ALK	66	6520
ALK融合タンパク(高感度IHC法)	78	2700
ALP〈アルカリフォスファターゼ〉	1	11
ALPアイソザイム	3	48
ALT〈GPT〉	1	17
AMH〈抗ミュラー管ホルモン〉	25	
AMY〈アミラーゼ〉	2	11
ANA〈抗核抗体〉	54	105
APTT〈活性化部分トロンボプラスチン時間〉	67	29
(抗)ARS抗体	55	190
ASK価〈抗ストレプトキナーゼ〉	47	29
ASO価〈抗ストレプトリジンO〉	47	15
AST〈GOT〉	1	17
ATⅢ 活性〈アンチトロンビンⅢ活性〉	68	70
AVP(ADH)〈抗利尿ホルモン〉	21	235

B	頁	保険点数
BAP〈骨型ALP〉	22	161
BCA225	30	162
BFP〈塩基性フェトプロテイン〉	30	150
BNP〈脳性Na利尿ペプチド〉	26	136
(抗)BP180抗体	56	270
BTR〈総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比〉	4	288
BUN〈尿素窒素〉	4	11

C	頁	保険点数
C1q〈免疫複合体〉	57	157
C3	53	70
C4	53	70
Ca〈カルシウム〉	8	11
CA・RF〈抗ガラクトース欠損IgG抗体〉	54	117
CA125	31	144
CA15-3	30	118
CA19-9	30	127
CA72-4	32	146
(抗)CCP抗体〈抗シトルリン化ペプチド抗体〉	54	204
CEA	30	102
CH50〈血清補体価〉	53	38
ChE〈コリンエステラーゼ〉	2	11
CK〈CPK〉	2	11
CK-MB(%)	3	55
CK-MB定量	3	90
CKアイソザイム	3	55
Cl〈クロール〉	7	11
CMV〈サイトメガロ〉(CF法)	35	79
CMV〈サイトメガロ〉(CLIA法)	41	212
CPR〈C-ペプチド〉	26	111



CRE〈クレアチニン〉	3	11
CRP〈C反応性蛋白〉	51	16
Cu〈銅〉	8	23

D	頁	保険点数
D-BIL〈直接ビリルビン〉	1	11
DHEA-S〈デハイドロエピアンドロステロンサルフェート〉	25	174
(抗)DNA抗体	54	168
Dpyr〈デオキシピリジノリン〉	23	191
DUPAN-2	30	118
Dダイマー	68	133

E	頁	保険点数
E <sub>2</sub> 〈エストラジオール〉	25	177
EBウイルス (FAT法)	40	79・212
EGFR遺伝子変異解析	65	2100
EPO〈エリスロポエチン〉	26	209
ER〈エストロジェンレセプター〉	78	720

F	頁	保険点数
(尿)FDP	67	72
FDP定量〈フィブリン・フィブリノゲン分解産物〉	67	80
Fe〈鉄〉	8	11
FLC〈遊離L鎖κ/λ比〉	52	388
FSH〈卵巣刺激ホルモン〉	21	111
FT3〈遊離トリヨードサイロニン〉	21	127
FT4〈遊離サイロキシン〉	21	127
FTA-ABS 定性	47	138

G	頁	保険点数
GA〈グリコアルブミン〉	4	55
(抗)GAD抗体	26	134
(抗)GBM抗体〈抗糸球体基底膜抗体〉	56	270
GH〈成長ホルモン〉	21	111
Glb〈グロブリン〉	1	
Gバンド分染法	66	3028

H	頁	保険点数
H.ピロリ抗体	50	80
HA〈馬尿酸〉	10	
HANP〈ヒト心房性Na利尿ペプチド〉	26	227
HA抗体〈IgG-HA抗体〉	42	146
HbA1c (NGSP)	4	49
HBcrAg〈B型肝炎ウイルスコア関連抗原〉	42	266
HBc抗体	42	137
HBe抗原	42	104
HBe抗体	42	104
HBs抗原	42	88
(高感度)HBs抗原	42	88
HBs抗体	42	88
HBs抗体 半定量	42	32
HBV-DNA定量	43	271
HBVジェノタイプ判定〈HBV遺伝子型〉	43	340
(尿)HCG定性〈妊娠反応〉	25	55
HCG〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉	25	138
HCG-βサブユニット〈遊離HCG-β〉	32	136
HCV-RNA定量	43	437
HCVコア抗原	43	108

HCV群別	43	227
HCV抗体-II	43	108
HCV抗体-III	43	108
HDLコレステロール〈HDL-Cho〉	5	17
HE4〈ヒト精巢上体蛋白4〉	31	200
HER2/neu (FISH法)	78	2700
HER2/neu (IHC法)	78	690
(胃癌)HER2/neu (IHC法)	78	690
HIV-1抗体 (WB法)	44	280
HIV-2抗体 (WB法)	44	380
HIV抗原抗体定量	44	127
HLA遺伝子型判定	63	
HLA型判定	63	
HPV-DNA同定 [中~高リスク型]	45	350
HPV-DNA同定 [低リスク型]	45	
HPVジェノタイプ判定	45	2000
HPV核酸検出〈HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定〉	45	360
HSV〈単純ヘルペス〉(CF法)	35	79
HSV〈単純ヘルペス〉(EIA法)	41	212
HSV〈単純ヘルペス〉(NT法)	37	79
HTLV-I抗体価 (PA法)	44	85
HTLV-I抗体価〈ATLA抗体〉	44	168
HVA〈ホモバニリン酸〉	24	69

I	頁	保険点数
(抗)IA-2抗体	26	213
I-BIL〈間接ビリルビン〉	1	
ICG消失率	9	150
ICG停滞率	9	100
IgA	53	38
IgA-HEV抗体	43	210
IgE (特異的IgE)	53	各 110
IgE (非特異的IgE)	53	100
IGF-I〈ソマトメジンC〉	21	218
IgG	52	38
IgG インデックス	52	414
IgG-FcR+T細胞百分率	63	198
IgG-RF〈IgG型リウマチ因子〉	54	203
IgGサブクラス IgG4	52	377
IgM	53	38
IgM-HA抗体	42	146
IgM-HBc抗体	42	146
IRI〈インスリン〉	26	106

J	頁	保険点数
(抗)Jo-1抗体	55	140

K	頁	保険点数
KL-6	4	114
K〈カリウム〉	7	11

L	頁	保険点数
LAP	1	11
LD〈LDH〉	1	11
LDHアイソザイム	3	48
LDLコレステロール〈LDL-Cho〉	5	18
LH〈黄体形成ホルモン〉	21	111
Lp(a)〈リポ蛋白(a)〉	6	107
L-D-パ	18	

M	頁	保険点数
Mac2結合蛋白 (Mac2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	51	194
MAC同定-DNA	72	421
MBP (ミエリンペイシック蛋白)	57	577
(抗)MDA5抗体 (抗CADM-140抗体)	55	270
Mg (マグネシウム)	8	11
MHA (メチル馬尿酸)	10	
MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	3	116
Mn (マンガン)	9	27
MPO-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	56	265
MRSA簡易培養検査	71	60
(抗)MuSK抗体 (抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)	56	1000

N	頁	保険点数
Na (ナトリウム)	7	11
NCC-ST-439	30	118
NH3 (アンモニア)	4	50
NK細胞活性	63	
NSE (神経特異エノラーゼ)	31	146
NT-proBNP (脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	26	136
NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	23	156
N-アセチルグルコサミンダーゼ (尿中NAG)	3	41
N-メチルホルムアミド	10	

O	頁	保険点数
O-157	72	

P	頁	保険点数
(抗)P53抗体	30	163
P (無機リン)	8	17
PA-IgG (血小板表面IgG)	57	198
Pb (鉛)	9	
PD-L1 (22C3) (IHC法)	78	2700
PF-4 (血小板第4因子)	68	178
PgR (プロジェステロンレセプター)	78	690
PICテスト (α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	68	158
PIVKA II 定量	30	139
PL (リン脂質)	5	15
PR3-ANCA (抗好中球細胞質抗体)	56	267
PRA (血漿レニン活性)	24	100
PRC (レニン濃度)	24	108
PRL (プロラクチン)	21	98
Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	31	175
PSA (前立腺特異抗原)	31	127
PSA-ACT	31	127
PSAフリー / トータル比	31	154
PSA高感度	31	127
PTHインタクト (副甲状腺ホルモン)	22	170
PT時間 (プロトロンビン時間)	67	18
P型アミラーゼ	3	48

Q	頁	保険点数
QFT-TB (第4世代)	72	612

R	頁	保険点数
RAS-BRAF遺伝子変異検査	66	4000
RAST-16	53	1430
RF定量 (リウマトイド因子)	54	30

Rh(D)血液型	57	24
Rh-Hr式血液型	57	152
RLP-C (レムナント様リポ蛋白コレステロール)	6	184
(抗)RNP抗体	54	144
ROS1融合遺伝子解析	65	2500
RPR (梅毒血清反応) 定量	47	34
RPR 定性 (梅毒血清反応) 定性	47	15

S	頁	保険点数
SAA (アミロイドA)	51	47
SCC抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	31	107
(抗)Scl-70抗体	55	161
Se (セレン)	8	144
sIL-2R (可溶性インターロイキン-2レセプター)	32	438
SLX (シアリルLex-i抗原)	30	148
(抗)Sm抗体	54	151
SP-A (肺サーファクタント蛋白A)	52	130
SPan-1抗原	30	146
SP-D (肺サーファクタント蛋白D)	52	136
(抗)SS-A抗体	55	163
(抗)SS-B抗体	55	161
STN (シアリルTn抗原)	31	146

T	頁	保険点数
T <sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)	21	102
T <sub>4</sub> (総サイロキシン)	21	111
TARC	51	184
TAT (トロンビン・アンチトロンビン複合体)	68	181
TBA (総胆汁酸)	5	47
T-BIL (総ビリルビン)	1	11
TCA (トリクロル酢酸)	10	
T-Cho (総コレステロール)	5	17
Tg (サイログロブリン)	21	133
TG (中性脂肪)	5	11
Tg-Ab (抗サイログロブリン抗体)	22	144
TIBC [計算値] (総鉄結合能)	8	
TOTAL P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	22	169
TP (総蛋白)	1	11
TPA (組織ポリペプチド抗原)	30	110
TPHA (梅毒トレポネマ抗体) 定量	47	53
TPHA 定性 (梅毒トレポネマ抗体) 定性	47	32
(抗)TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	22	146
TRACP-5b (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	23	156
TSAb (TSH刺激性レセプター抗体)	22	340
TSH (甲状腺刺激ホルモン)	21	104
TSHレセプター抗体 (TRAb)	22	226
TTC (総三塩化物)	10	
T細胞・B細胞百分率	63	198

U	頁	保険点数
UA (尿酸)	3	11
ucOC (低カルボキシル化オステオカルシン)	23	158
UIBC (不飽和鉄結合能)	8	11

V	頁	保険点数
View アレルギー 39	53	1430
VMA (バニリルマンデル酸)	24	90
VZV (水痘・帯状ヘルペス) (CF法)	35	79
VZV (水痘・帯状ヘルペス) (EIA法)	41	212

W	頁	保険点数
(副甲状腺ホルモン)whole〈ホールPTH〉	22	170
WT1 mRNA定量	65	2520

Z	頁	保険点数
Zn〈亜鉛〉	8	140
ZTT	1	

数字順

項目	頁	保険点数
(1→3)-β-D-グルカン〈β-D-グルカン〉	48	207
1α,25-(OH)2ビタミンD	7	388
1,5AG〈1,5-アンヒドログルシトール〉	4	80
17-KS分画	25	213
24時間クレアチニンクリアランス	9	
2,5-ヘキサジオン〈2,5-HD〉	10	
25-OHビタミンD (Total)	7	117
25-OHビタミンD [骨粗鬆症]	7	117
5-HIAA〈5-ハイドロキシインドール酢酸〉	24	95

ギリシャ文字順

項目	頁	保険点数
αフェトプロテイン〈AFP〉	30	104
α1マイクログロブリン〈α1-MG〉	50	136
α2マクログロブリン	51	138
α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PICテスト)	68	158
βリポ蛋白〈β-LP〉	5	
β2-m〈β2-マイクログロブリン〉	50	104
β-D-グルカン〈(1→3)-β-D-グルカン〉	48	207
β-トロンボグロブリン〈β-TG〉	68	177
γ-GT	2	11
γ-Sm〈γ-セミノプロテイン〉	31	194
δ-アミノレブリン酸〈δ-ALA〉	9	109

ローマ数字順

項目	頁	保険点数
I型CTP〈I型コラーゲン-C-テロペプチド〉	32	頁参照
I型プロコラーゲン-N-プロペプチド〈TOTAL P1NP〉	22	169
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド〈NTx〉	23	156
IV型コラーゲン	51	139
(第)II因子活性〈F2〉	69	223
(第)V因子活性〈F5〉	69	223
(第)VII因子活性〈F7〉	69	223
(第)VIII因子インヒビター〈F8INH〉	69	148
(第)VIII因子活性〈F8〉	69	223
(第)VIII因子様抗原 (フォン・ウィルブランド因子定量)	68	151
(第)IX因子インヒビター〈F9INH〉	69	148
(第)IX因子活性〈F9〉	69	223
(第)X因子活性〈F10〉	69	223
(第)XI因子活性〈F11〉	69	223
(第)XII因子活性〈F12〉	69	223
(第)XIII因子定量〈F13〉	69	223

## 取引のお申込み

ご利用に際しましては、最寄りの検査所へご連絡下さい。営業担当者がお伺いし、ご説明・ご相談させていただきます。  
検査所の所在地、連絡先は裏表紙に記載しておりますのでご参照下さい。

## 検査のご依頼

検査のご依頼に際しましては、依頼内容に応じた所定の検査依頼書、採取容器および検体ラベルをご使用下さい。  
必要な検査依頼書等は、ご連絡により最寄りの検査所からお届け致します。また、電送によるご依頼・ご報告につきましては別途ご相談下さい。

### 検査依頼書

- 検査依頼書にはバーコードラベルが付属しています。バーコードラベルは依頼書毎の専用ラベルとなっており、そのバーコード番号を受付時に使用致しますので、他の依頼書のラベルを違う依頼書の検体に使用しないで下さい。また、使用後に余ったラベルは剥がさずにそのまま依頼書と一緒にご提出下さい。
- 依頼書はカタカナでご記入下さい。
- 採取月日、採取時刻等もご記入下さい。
- 性別、年齢、入院・外来、材料もご記入下さい。
- ご依頼検査項目は、該当箇所にご指示下さい。
- 依頼書に記載されていない検査項目は、「その他の検査」欄にご記入下さい。
- 所定欄に身長、体重、妊娠週、尿量等を必要に応じてご記入下さい。
- 受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、破れたりしないようお願い致します。
- 検査依頼書は複写式となっていますので、ボールペンで強くお書き下さい。また一部を検査ご依頼元「控」とし、併せて検体受領書に代えさせていただきますので、ご了承下さい。

### 検体ラベル

- 検体ラベルには、施設名、患者名、性別、年齢、材料等をご記入の上、採取容器に対して縦方向にお貼り下さい。  
記入要領につきましては、ご利用の手引き-5頁をご参照下さい。

### 検体の採取条件

- 本案内書をご参照の上、所定の容器に必要な量を採取して下さい。容器の種類については検査項目毎に記号で表示していますので、巻末の「専用容器一覧」(97～102頁)をご参照下さい。
- 採血の際は容器の規定量をお取りください。  
抗凝固剤等が添加された採取容器では、血液と抗凝固剤との比率が測定値に影響を及ぼすこと等が考えられます。
- 本案内書には、およその採取量・提出量を記載してあります。ご提出量は原則として再検査に依り得られるよう設定してあります。検体量不足にならないようご注意ください。
- 培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出下さい。

### 検体の保存条件

- 検査精度を維持するために、検体の採取後、提出されるまでの間、所定の保存条件を遵守して下さい。  
(本案内書「保存」欄をご参照下さい。)

### 凍結

必ず凍結(-12℃以下)保存してください。凍結温度指定のあるものは、その旨記載致します。なお、凍結指定の項目については原則として単独検体での出検をお願い致します。

### 冷蔵

4～10℃で保存して下さい。冷蔵温度指定のあるものは、その旨記載致します。また、数日以上にわたって保存される場合は凍結していただくようお願い致します。なお、凍結不可の材料については、その旨記載致します。

### 常温

常温保存して下さい。(15～25℃前後)

### 遮光

直射日光または蛍光灯、紫外線を避けて保存して下さい。

- 検査項目によっては、検査成績が保存状態の影響を明らかに受けるものもありますので、お取り扱いにご注意下さい。
- 検査項目毎に適正な検査結果をお届けすることができる検体採取後の「検体の安定性」を明記しておりますので、ご参照下さい。

## 検体の採取について

### 採血方法

採血には、真空採血管をご使用下さい。やむを得ずシリンジを使用される場合は、血液を採血管に移す際に細菌混入の汚染が起きないように、ご注意ください。

### 採血時の消毒

腕の静脈から採血される場合は、駆血して静脈の走行を確認後、針の穿刺部を中心にして外側に向かってアルコール綿で拭き、消毒して下さい。

### 採血管の確認

真空採血管をホルダーに挿入する前に、採血管に張付けた検体ラベルに記入された被検者氏名を確認して、採血管の取り違えがない事を確認して下さい。

### 採取量

血清または血漿については、提出量に対し約3倍量の血液を採取して下さい。(溶血防止のため23Gより細い注射針は使用しないで下さい。また、駆血時間が長引くと凝固反応が活性化するため、出来るだけ駆血後2分以内に採血して下さい。)

### 採取後の混和

抗凝固剤入りの真空採血管で血液を採取される場合は、吸引後に採血管をホルダーから外したら直ちに5回以上緩やかに転倒混和し、凝固反応が起きないようにご注意ください。なお、過度の激しい混和は溶血が生じる場合がありますので、ご注意ください。

### 血清・血漿分離

血清については、採血後、室温にて凝固を確認した後、遠心分離(3000rpm 10～15分間)し、上清を所定の提出容器に移して指定の保存条件にてご提出下さい。

血漿については、所定の抗凝固剤入り採取容器に採血後、遠心分離(3000rpm 10～15分間)し、上清を所定の提出容器に移して指定の保存条件にてご提出下さい。

上記以外の材料(尿・精液・微生物用・他)につきましては、各分野毎の参照資料をご確認下さい。検体採取に使用しました器材は、関係法令に従い安全な廃棄等の処理をお願いします。

## 被検者への指示事項について

検査測定値は、食事・運動・採血時間・服薬・その他の影響を受けるため、採血の際は下記の事項にご注意下さい。

- 採血は早朝空腹時が原則です。水・お茶等の糖分・カロリーの入っていないもの以外は摂取しないで下さい。また、前日の飲酒は控えて下さい。
- 採血直前は過度の運動を避け安静にして下さい。
- 必要に応じて医師と相談の上、服薬の調整をして下さい。

## 検体の受領・輸送

検査のご依頼に際しましては、営業担当者が受領に伺いますので、検査依頼書と検体とを照合の上、ご提出下さい。

### 検体の受領

- 貴院への集配は、予め申し合わせの上、お伺い致します。

受領日時	受領場所

### 検体の輸送

- お預かりした検体および検査依頼書類は、厳密な管理の下に当社検査所に搬入致します。平均搬送時間は下記の通りです。

搬送先	平均搬送時間	
	時間	分
検査所		

- 一部の検査につきましては、当社責任管理の下に、他施設に再委託致します。再委託先は、本案内書「主要参考文献」と「検査報告書」に以下の記号を表示してあります。なお、当社より外部委託先への平均輸送時間は、各施設名の後に表示の通りとなっております。

※01	ファルコバイオシステムズ(6時間)
※02	エスアールエル(6時間)
※03	LSIメディエンス(6時間)
※04	四国細胞病理センター(0.5時間)
※06	保健科学研究所(6時間)
※07	岡山医学検査センター(3時間)
※08	ビー・エム・エル(6時間)
※09	日本遺伝子研究所(17時間)
※16	エスアールエル(8時間)
※17	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所(8時間)
※18	ビー・エム・エル(11時間)
※21	常盤特殊分析センター(9時間)
※37	積水メディカル SMCL 東海ラボラトリー(9時間)

(※16～37はLSIメディエンス経由です。)

## 再検査

- 当社再検査基準に基づき、再検査を致します。
- 最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に応じられないことがあります。

## 検査測定値に重大な影響を与える主な要因

食事(空腹時)、過度の運動、年齢(成長期等)、性差、薬物の副作用等は測定値に影響を及ぼしますのでご注意ください。

## 検体の受入不可基準について

搬入された検体の状態によっては、測定をお断りする事があります。

- 検体採取から当社受入れまでの許容時間が指定されている検査項目で、その時間を超過して搬入された検体。
- 指定された搬送温度を逸脱して搬送された検体。
- 指定された採取量に対して著しく不足していたり、あるいは多く採取されている検体。
- 指定された専用容器に採取されていなかったり、採取されていても十分な混和がされていない検体。
- 著しい凝固、溶血、乳ビ等の性状不適が見られる検体。

## 所要日数

- 検体をお預かりした翌日を起算日とし、成績を先生のお手元にお届けするまでの日数です。
- 依頼検査項目の組合せにより、再検査に要する日数は含みません。
- 再検査の場合や祝祭日の前後は、さらに若干の日数を要することがあります。

## 検査結果のご報告

- 検査結果は、当社指定の報告書にてお届け致します。
- 緊急を要する検査結果は、まずFAXでご報告致します。
- 本案内書で緊急報告対象に指定した項目において異常データを示した場合は、測定後速やかにFAX等にてご報告致します。報告基準につきましては、手引き-12頁の「緊急報告対象項目」をご参照ください。
- 定量検査では、当社独自の基準により測定範囲に上限を設け、検査結果が上限値を超える場合、“〇〇以上”とご報告させていただきます。

## ▶ 検体の保管

- 検査を追加される場合は、最寄りの検査所までお問い合わせ下さい。
- 検査済み検体はお客様との特段の取り決めがない限り、血清検体は2週間、末梢血液検体など一部の検体は1週間保管いたします。なお、腐敗、変性の著しい材料につきましては検査実施後に処分させていただく場合がございますので、予めご了承下さい。保管期間後の検体は、適正な方法にて廃棄致します。なお、プール化および匿名化が可能なものにつきましては、個人情報保護法およびガイドラインを遵守した上で検査精度維持、向上等の目的で使用することがあります。また、検体保管期間中に検査を委託した医療機関より残検体の返還を求められた場合は速やかに返還致しますが、委託した医療機関以外または医師個人から学術研究等の目的により検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供に応じることはできません。

## ▶ 料金のご請求とお支払い方法

- 請求書は1ヶ月分をまとめてお届け致します。お支払方法は契約にしたがってお願い致します。
- お支払いは、なるべく銀行口座振替または振込にてお願い致します。なお、銀行振込の場合は、振込金受取書をもちまして、領収書に代えさせていただきます。

## ▶ 検査についてのお問い合わせ

- 検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、最寄りの検査所または営業担当者までお問い合わせください。

## ▶ 免責について

ご依頼いただきました検査は、弊社が定める実施基準に基づく作業手順にて実施いたしますが、お預かりした検体の状態、または技術的限界等により、期待された検査結果をご報告できない場合がございます。このような場合の検査結果につきましては、免責させていただきます。

## ▶ 業務時間

### 業務日

月曜日～土曜日

### 休業日

香川検査所	日曜日、祝日、年末年始 他
検査所	

### 業務時間

香川検査所	8:00～19:30
検査所	

## ▶ 検査項目名称

本検査案内書に記載の検査項目名称は、検査報告書・緊急報告用FAXあるいは電子報告データの検査項目名称と異なる場合があります。(字数制限等により、略号を用いる場合があります)

## ▶ 検査材料に関する主な用語

検査材料	概要
血液	検査のために採取していただく肘静脈血を表します。
～加血液	採血後速やかに添加剤を混和した血液を表します。添加剤の種類により、「EDTA加血液」、「ヘパリン加血液」、「クエン酸加血液」、「NaF加血液」などと表示致します。(所定の添加剤入り当社指定容器に血液を採取して下さい。)
～血漿	採血後速やかに添加剤を混和し、遠心分離によって得られた血漿を表します。添加剤の種類により、「EDTA血漿」、「ヘパリン血漿」、「クエン酸血漿」などと表示致します。なお、単に「血漿」とあるものについては「備考欄」に添加剤の種類を別記しております。
血清	採血後、血餅の収縮を待って遠心分離して得られた上清を表します。特に添加剤を用いる必要がある場合は、その旨「備考欄」に記載しております。
尿	原則として自然排尿された尿を表します。なお、「蓄尿」を要する場合、「備考欄」に使用する防腐剤の種類を別記しております。採尿方法については、以下を参考として下さい。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 普通尿の場合 新鮮尿を清潔な乾燥した容器に直接排尿するか、清潔な乾燥した携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。</li> <li>2) 中間尿の場合 清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。最初は便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、再び便器に放尿します。</li> <li>3) 無菌尿の場合 男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採尿しても構いません。</li> </ol>

主な基準値の単位

<b>L</b>	liter	(=1,000mL)	<b>T.U.</b>	Titer Units	
<b>dL</b>	deciliter	(=100mL)	<b>mmol</b>	millimole	(=0.001mol)
<b>mL</b>	milliliter		<b>μmol</b>	micromole	(=0.001mmol)
<b>mm<sup>3</sup></b>	cubicmillimeter		<b>nmol</b>	nanomole	(=0.001μmol)
<b>μ<sup>3</sup></b>	cubicmicron		<b>pmol</b>	picomole	(=0.001nmol)
<b>g</b>	gram		<b>fmol</b>	femtomole	(=0.001pmol)
<b>mg</b>	milligram	(=0.001g)	<b>mEq</b>	milli Equivalent	
<b>μg</b>	microgram	(=0.001mg)	<b>FE</b>	Fibrinogen Equivalent	
<b>ng</b>	nanogram	(=0.001μg)	<b>BCE</b>	Bone Collagen Equivalent	
<b>pg</b>	picogram	(=0.001ng)	<b>mOsm</b>	milli Osmole	
<b>U</b>	Unit		<b>sec</b>	second	
<b>UA</b>	Allergen Unit		<b>min</b>	minute	
<b>mU</b>	milli Unit	(0.001U)	<b>h</b>	hour	
<b>μU</b>	micro Unit	(0.001mU)	<b>%</b>	percent	
<b>IU</b>	International Unit		<b>‰</b>	permill	
<b>AU</b>	Arbitrary Unit		<b>SI</b>	Stimulation Index	
<b>BU</b>	Bethesda Unit		<b>cpm</b>	count per minute	
<b>RLU</b>	Relative Light Unit		<b>RBC</b>	Red Blood Cell	
<b>R.U.</b>	RPR Units		<b>LogIU</b>		

本文の記載内容について

- 本文では、検体採取量・提出量、検査方法、基準値、実施料・判断料区分、検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記してあります。下記の例をご参照の上、正確な検体の採取にご協力ください。

① 項目コード	② 検査項目	③ 検体量 (mL)	④ 容器	⑤ 保存 (安定性)	⑥ 検査方法	⑦ 基準値 (単位)	⑧ 実施料 判断料	⑧ 所要 日数	⑨ 備考
0115	総蛋白 (TP)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ビウレット法	6.6 ~ 8.1	11 生I ①	1 5 2	
		血清 0.5							
0117	アルブミン (Alb)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	BCP改良法	4.1 ~ 5.1	11 生I ①	1 5 2	
		血清 0.5							
0116	A/G比	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	1.32 ~ 2.23	-	1 5 2	計算値 (A/G) = (Alb) / (Glb)
		血清 0.5							
0118	グロブリン (Glb)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	2.2 ~ 3.4	-	1 5 2	計算値 (Glb) = (TP) - (Alb)
		血清 0.5							

「基準値」欄の記号

M: 男性(Male) F: 女性(Female)

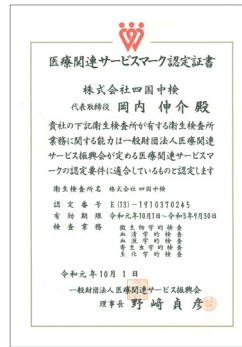
- ① 依頼項目コード番号です。
- ② 検査項目名(略称/別称)です。
- ③ 必要検体量です。
  - … 検体が血清である例: 分離剤入り汎用容器 [容器番号01] に血液を採取し、遠心操作後、ご提出下さい。(別容器への移し替えは不要です。)
- ④ 添加剤入り容器等、検査に必要な容器の番号を記載しております。
  - … 専用容器については、巻末の「専用容器一覧」をご参照下さい
- ⑤ ご提出いただく検体の保存条件と安定性です。
  - … 保存方法については、ご利用の手引き 1 頁「検体の保存条件」をご参照下さい。)
- ⑥ 検査方法です。
  - … 各検査方法の概略については、ご利用の手引き 9 頁からの「主な検査方法の概略」をご参照下さい。
- ⑦ 実施料、判断料区分です。
  - … 判断料区分の記号については、ご利用の手引き 8 頁をご参照下さい。
- ⑧ 所要日数です。
  - … 検体をお預かりした翌日を起算日とし、検査結果をお届けするまでの日数です。再検査・祝祭日の前後・気象状況・交通事情等により所要日数よりさらに日数を要することがあります。
- ⑨ 備考です。
  - … ご依頼にあたっての注意事項等です。

## 個人情報保護方針 / 取得認定類

個人情報保護方針は、弊社のホームページに記載しておりますのでご参照下さい。

URL: <http://www.s-cyuken.co.jp/>

### 認定・登録証



医療関連サービスマーク



ISO 15189 (香川検査所)



プライバシーマーク

## 検査報告書

The collage displays a variety of medical test reports from S-Cyuden Co., Ltd. (株式会社四国中検). The reports include:

- 血液検査報告書 (Blood Chemistry):** Standard panels showing values for hemoglobin, hematocrit, white blood cells, platelets, and various enzymes and electrolytes.
- 尿検査報告書 (Urinalysis):** Reports detailing urine color, specific gravity, pH, and the presence of glucose, protein, and other substances.
- アレルギー検査報告書 (Allergy Test):** Reports showing results for various allergens such as dust mites, pollen, and mold.
- 糖負荷試験報告書 (Glucose Tolerance Test):** Reports showing blood glucose levels at different intervals during a test to diagnose diabetes.
- 胆汁酸検査報告書 (Bile Acid Test):** Reports measuring bile acid levels in the blood.
- 尿酸検査報告書 (Uric Acid Test):** Reports showing uric acid levels.
- 尿酸値情報サービス (Uric Acid Information Service):** A specialized report for monitoring uric acid levels.
- 尿酸検査報告書 (Uric Acid Test):** Another report showing uric acid levels.
- 抗酸菌検査報告書 (Acid-Fast Bacteria Test):** Reports showing the presence of acid-fast bacteria like Mycobacterium tuberculosis.



## 検査依頼書の記入要領

### 総合検査依頼書

- 検査依頼書の2枚目は、検査依頼元「控」および検体受領書となっております。
- 受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、破れたりしないようにご注意ください。
- 検査依頼書は複写式となっておりますので、ボールペンで強くお書き下さい。
- 患者名、診療科名、病棟名、提出医名、フリーコメントは、カタカナ・アルファベット・アラビア数字を左詰めでご記入下さい。
- 検体採取月日、採取時刻をご記入下さい。
- 性別に☑印をご記入下さい。併せて年齢もご記入下さい。
- 必要に応じてカルテ№をご記入下さい。
- 必要に応じて入院・外来、透析前・透析後、随時尿・蓄尿に☑印をご記入下さい。尿量が必要な場合は、尿量もご記入下さい。
- 緊急検査につきましては、緊急に☑印をご記入下さい。
- ご依頼検査項目は、項目のチェック欄に☑印をご記入下さい。
- チェックした☑印を取り消す場合は、☒印をご記入下さい。
- 記載されていない項目をご依頼の場合は、追加検査欄に項目名をご記入下さい。
- 検査の優先順位等、特にご指示のある場合は、その旨を備考欄にご記入下さい。
- 提出検体の種類毎の検体数及び合計数をご記入下さい。
- 依頼書下部に「検体ラベル」が付属しています。負荷試験等で付属ラベルが不足する場合は、別途お持ちする「汎用検体ラベル」に必要事項を記入してご提出下さい。

### 細菌検査依頼書

- 検査依頼書の2枚目は、検査依頼元「控」および検体受領書となっております。
- 受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、破れたりしないようにご注意ください。
- 検査依頼書は複写式となっておりますので、ボールペンで強くお書き下さい。
- 依頼書は、検査材料毎に作成して下さい。(重複不可)
- 患者名、診療科名、病棟名、提出医名、フリーコメントは、カタカナ・アルファベット・アラビア数字を左詰めでご記入下さい。
- 検体採取月日、採取時刻をご記入下さい。
- 性別に☑印をご記入下さい。併せて年齢もご記入下さい。
- 必要に応じてカルテ№をご記入下さい。
- 必要に応じて入院・外来、採取部位区分(右・左)に☑印をご記入下さい。
- 緊急検査につきましては、緊急に☑印をご記入下さい。
- 検査材料に☑印をご記入下さい。
- ご依頼検査項目は、項目のチェック欄に☑印をご記入下さい。
- チェックした☑印を取り消す場合は、☒印をご記入下さい。
- 記載されていない項目をご依頼の場合は、追加検査欄に項目名をご記入下さい。
- 特にご指示のある場合は、その旨をその他連絡事項欄にご記入下さい。
- 依頼書下部に「検体ラベル」が付属しています。材料欄に提出材料をご記入ください。

## 実施料について

保険点数は2020年4月現在の検体検査実施料に準じております

● 下記に掲げた検査を、1回に採取した材料を用いて複数行った場合、その点数は、項目数に応じて実施料欄に示したように算定されます。

### ■ 出血・凝固検査

項目数	実施料
3項目 又は 4項目	530
5項目以上	722

D ダイマー定性 プラスミンインヒビター(アンチプラスミン) Dダイマー半定量 von Willebrand因子(VWF)活性 Dダイマー α2-マクログロブリン PIVKA-II 凝固因子インヒビター von Willebrand因子(VWF)抗原 プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC) プロテイン S 抗原 プロテイン S 活性	β-トロンボグロブリン(β-TG) 血小板第4因子(PF4) トロンピン・アンチトロンピン複合体(TAT) プロトロンピンフラグメントF 1+2 トロンボモジュリン 凝固因子 (第II因子、第V因子、第VII因子、第VIII因子、第IX因子、 第X因子、第XI因子、第XII因子、第XIII因子) フィブリンモノマー複合体 プロテインC抗原 tPA・PAI-1複合体 プロテインC活性
--	--

### ■ 生化学的検査 I

項目数	実施料
5項目以上7項目以下	93
8項目 又は 9項目	99
10項目以上	109

総ビリルビン 直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン 総蛋白 アルブミン(BCP改良法・BCG法) 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 アルカリホスファターゼ(ALP) コリンエステラーゼ(ChE) γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT) 中性脂肪 ナトリウム及びクロール カリウム カルシウム マグネシウム クレアチン グルコース 乳酸デヒドロゲナーゼ(LD) アミラーゼ ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP) クレアチンキナーゼ(CK)	アルドラーゼ 遊離 コレステロール 鉄(Fe) 血中ケトン体・糖・クロール検査 (試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの) 不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法) 総鉄結合能(TIBC)(比色法) リン 脂質 HDL-コレステロール 無機リン及びリン酸 総コレステロール アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST) アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT) LDL-コレステロール 蛋白分画 銅(Cu) リパーゼ イオン化カルシウム マンガン(Mn)
--	--

### ■ 生化学的検査 II

項目数	実施料
3項目以上5項目以下	410
6項目 又は 7項目	623
8項目以上	900

成長ホルモン(GH) 卵胞刺激ホルモン(FSH) C-ペプチド(CPR) 黄体形成ホルモン(LH) アルドステロン テストステロン 遊離サイロキシン(FT <sub>4</sub> ) 遊離トリヨードサイロニン(FT <sub>3</sub> ) コルチゾール サイロキシン結合グロブリン(TBG) 抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体) 脳性Na利尿ペプチド(BNP) サイログロブリン サイロキシン結合能(TBC) 脳性Na利尿ペプチド 前駆体N端フラグメント(NT-proBNP) ヒト胎盤性ラクトゲン(HPL) ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β) カルシトニン ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量 ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量 グルカゴン プロゲステロン I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX) 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b) 骨型アルカリホスファターゼ(BAP) 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC) オステオカルシン(OC) 遊離テストステロン インタクト I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P I NP) I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)(尿) セクレチン 低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量	I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX) I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PINP) サイクリック AMP(cAMP) 副甲状腺ホルモン(PTH) インターロイキン-6(IL-6)《ECLIA》 カテコールアミン分画 デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S) エストリオール(Es) エストロゲン半定量 エストロゲン定量 副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP) エストラジオール(E <sub>2</sub> ) デオキシピリジノリン(DPD)(尿) 副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP) 17-ケトジェニックスステロイド(17-KGS) 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH) カテコールアミン エリスロポエチン 17-ケトステロイド分画(17-KS分画) 17α-ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP) 抗IA-2抗体 プレグナンジオール 17-ケトジェニックスステロイド分画(17-KGS分画) メタネフリン ソマトメジンC 心房性Na利尿ペプチド(ANP) メタネフリン・ノルメタネフリン分画 抗利尿ホルモン(ADH) プレグナントリオール ノルメタネフリン インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3) 遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画
---	---

■腫瘍 マーカー

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	408

癌胎児性抗原(CEA)	サイトケラチン8・18(尿)
α-フェトプロテイン(AFP)	BCA225
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	サイトケラチン19フラグメント(シフラ)
組織ポリペプチド抗原(TPA)	抗p53抗体
DUPAN-2	シアリルLe <sup>x</sup> 抗原(CSLEX)
NCC-ST-439	I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)
CA15-3	ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)
エラスターゼ1	CA54/61
前立腺特異抗原(PSA)	癌関連ガラクトース転移酵素(GAT)
CA19-9	CA602
PIVKA-II半定量	α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)
PIVKA-II定量	γ-セミノプロテイン(γ-Sm)
CA125	ヒト精巢上体蛋白4(HE4)
CA72-4	可溶性メソテリン関連ペプチド
Span-1	癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)
シアリルTn抗原(STN)	癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)
神経特異エノラーゼ(NSE)	HER2蛋白
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)	可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)	
シアリルLe <sup>x</sup> -抗原(SLX)	
塩基性フェトプロテイン(BFP)	
遊離型PSA比(PSAF/T比)	

■肝炎 ウイルス 関連検査

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	438

HBs抗原	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性
HBs抗体	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量
HBe抗原	HE-IgA抗体定性
HBe抗体	HCV血清群別判定
HCV抗体定性・定量	HBVコア関連抗原(HBcrAg)
HCVコア蛋白	デルタ肝炎ウイルス抗体
HBc抗体半定量・定量	HCV特異抗体価
HCVコア抗体	HBVジェノタイプ判定
HA-IgM抗体	
HA抗体	
HBc-IgM抗体	

■自己抗体検査

項目数	実施料
2項目	320
3項目以上	490

抗Jo-1抗体定性	抗SS-B/La抗体定量
抗Jo-1抗体半定量	抗Scl-70抗体定性
抗Jo-1抗体定量	抗Scl-70抗体半定量
抗サイログロブリン抗体	抗Scl-70抗体定量
抗RNP抗体定性	抗SS-A/Ro抗体定性
抗RNP抗体半定量	抗SS-A/Ro抗体半定量
抗RNP抗体定量	抗SS-A/Ro抗体定量
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
抗Sm抗体定性	抗ARS抗体
抗Sm抗体半定量	抗MDA5抗体
抗Sm抗体定量	抗TIF1-γ抗体
C1q結合免疫複合体	抗Mi-2抗体
抗SS-B/La抗体定性	
抗SS-B/La抗体半定量	

● 検体検査判断料、病理学的検査診断・判断料の区分は「実施料 判断料」欄に下記の通り併記してあります。

① 尿・糞便等検査判断料区分	34点	尿便
② 遺伝子関連・染色体検査判断料区分	100点	遺伝
③ 血液学的検査判断料区分	125点	血液
④ 生化学的検査(Ⅰ)判断料区分	144点	生Ⅰ
⑤ 生化学的検査(Ⅱ)判断料区分	144点	生Ⅱ
⑥ 免疫学的検査判断料区分	144点	免疫
⑦ 微生物学的検査判断料区分	150点	微生物
⑧ 病理診断・判断料区分		病理
組織診断料	450点	
細胞診断料	200点	
病理判断料	150点	

実施料欄中、検体検査以外の生体検査、特定薬剤治療管理料などは、点数に( )を付してあります。

(注意) ○検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数にかかわらず各々月1回に限り算定できる。

○尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合には、当該検査については、尿・糞便等検査判断料は算定しない。

○同一区分の判断料は、入院・外来又は診療科の別にかかわらず月1回の算定とする。

## 主な検査方法の概略

### CF 補体結合試験

Complement Fixation Test

抗原-抗体結合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、免疫グロブリンのFc部分に補体を結合する現象を応用した検査方法。主にウイルス抗体の検出などに用いられる最も基本的な検査方法である。CF活性を持つのはIgGとIgMのみであるが、一般に感染後短期間のみ検出される場合が多い。ペア血清で測定するのが望ましい。

### CLEIA 化学発光・酵素免疫測定法

Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

被検物質に対する抗体を担体に固相したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加えると、この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光する。その発光量をルミノメーターで測定し定量する検査方法である。

### CLIA 化学発光免疫測定法

Chemiluminescent Immunoassay

被検検体にアクリジニウム・エステルを標識した抗体と固相化抗体を反応させサンドイッチ状の複合物を形成させることにより測定する検査方法、磁気分離固相法によりB/F分離した後、専用アナライザーでアクリジニウム・エステル発光量を測定することにより定量する。

### dRVVT 希釈ラッセル蛇毒試験法

Diluted Russell's Viper Venom Time

ラッセル蛇毒は、外因系の第VII因子、接触因子、内因系の抗出血性因子の関与を受けずに直接血漿中の第X因子を活性化して凝固反応を開始し、リン脂質、カルシウム、活性第V因子の共存下で最終的にトロンビンを生成する。抗リン脂質抗体の一種であるルーブスアンチコアグラント(LA)が存在すると上記反応系からリン脂質が消費され、その結果として凝固時間の延長をきたす。ここで過剰なリン脂質を添加して同様の反応を行いLAの影響を予め排除した場合に凝固時間の延長が補正されれば、血漿中のLAの存在を間接的に証明できる。

### ECLIA 電気化学発光免疫測定法

Electro Chemiluminescent Immunoassay

電解反応により生成されるエネルギーによりルテニウムピリジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一つである。

被検検体に測定を目的とする物質(A)に対する抗体を結合したビーズを反応させると、抗原抗体複合物が生成される。次にこのビーズを洗浄し、ビーズに結合した(A)にルテニウム標識抗体を反応させるとサンドイッチ状の複合物が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上にて電気エネルギーを加えるとビーズに結合したルテニウム標識抗体量に応じてルテニウム錯体が発光する。この発光量は(A)の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。

### EIA 酵素免疫測定法

Enzyme Immunoassay

抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合物に酵素標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、広く各種ホルモン、ウイルス抗原・抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素にはペルオキシダーゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられる。

### ELISPOT

Enzyme-Linked ImmunoSpot

サイトカインを高感度に検出する検査法の一つ。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを通常のELISA法の数十倍以上の感度で測定が可能で、100,000個中1個の細胞という低レベルでも検出可能とされる。結核菌感染既往を検査するT-SPOT.TB検査に用いられており、抗原により刺激してIFN- $\gamma$ 産生細胞数を計測することにより感染診断を行う。

### EMIT

Enzyme-multiplied Immunoassay Technique

EMITは、主に薬物濃度測定に用いられる検査方法である。検体中の薬物とグルコース-6-リン酸脱水素酵素(G-6-PDH)で標識されたその薬物の抗体に対する競合反応を利用したもので、抗体に未結合のG-6-PDHが、さらにニコチンアミドアデニンジヌクレオチド(NAD)をNADHに還元することによって生じる吸光度の変化を測定することを利用した酵素免疫法の一つである。

### FAT 蛍光抗体法

Fluorescent Antibody Test

抗原または抗体を測定する場合にFITCなどの蛍光色素を標識し抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると反応が生じた場合は特異的な蛍光が見られる。抗体(抗原)に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後、さらに抗血清に蛍光色素を反応させる間接法がある。

### FEIA 蛍光・酵素免疫測定法

Fluorescence-Enzyme Immunoassay

EIA法の一つである。主にアレルゲン特異的IgE抗体を測定するのに用いられている。酵素を標識として用い測定対象のアレルゲン(抗原)を被検検体に入れ、抗原抗体反応により酵素が基質に反応する。その際に発する蛍光の強度により検量線より濃度を測定する。

### FISH

Fluorescence In Situ Hybridization

ISH法(In Situ Hybridization)は細胞培養や核酸抽出などを行わずに染色体、細胞、組織などを相補的プローブを用いて核酸ハイブリダイゼーションを行い、標的遺伝子の有無や異常などを判定する検査方法である。FISH法は蛍光物質(Fluorescence)を用いて非放射性プローブによりISH法を行うものである。

### GC ガスクロマトグラフィー法

Gas Chromatography

固定相としてキャピラリーカラムを用い、測定試料が移動相(キャリアーガス)にのって流動する間に溶解性の差によって分離・同定される。固定相(液相)は測定試料の構造により無極性型、極性型があり、検出器には電子捕獲検出器(ECD)、水素炎イオン化検出器(FID)、熱伝導度検出器(TCD)などが用いられている。

### GC-MS ガスクロマトグラフィー・マスマスペクトロメトリー法

Gas Chromatography-Mass Spectrometry

マスマスペクトロメトリー(質量分析;MS)は測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得られたイオン化した物質のエネルギー分布や電荷分布の違いによる特異なスペクトルを解析することにより化合物の同定、定量、構造解析が行われる。GC-MSはこのMSにガスクロマトグラフィーを組み合わせたものである。

### HEIA ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ法

Homogeneous Enzyme Immunoassay

検体中の測定対象物質(抗原物質)は試薬中の酵素(G-6-PDH)で標識された測定対象物質と同一の抗原物質と反応させると競合する。その結果、抗体と結合できなかったG-6-PDHで標識された測定対象物質はG-6-PDHの酵素活性により補酵素であるNADが還元され、NADHに変換される。しかし、この酵素活性は抗体と結合することにより活性を失うため、検体中の測定対象物質の量に比例してNADHの量が増加する。吸光度によりこのNADHを測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

### HI 赤血球凝集抑制試験

Hemagglutination Inhibition Test

一般にウイルスは動物の赤血球を凝集する性質を持っており、ウイルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被検検体と反応させた後、赤血球を加え、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。

### HPLC 高速液体クロマトグラフィー法

High Performance Liquid Chromatography

微細な球体のシリカやイオン交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的な方法や電気的な検出方法によりその測定物質を検出し、得られたクロマトグラムからピーク高やピーク面積により定量化する。

### ICP-MS

Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometry

誘導結合プラズマ質量分析法ともいい、様々な元素を測定する方法である。ICPは試料を気体化させ、高電圧をかけることによりプラズマ化し、さらに高周波の変動磁場により高温プラズマ化させるものである。ICP-MSはこの高温プラズマ質量分析計に導入し、そこで元素の同定・定量を行う。

## IR 赤外吸収スペクトロメトリー法

Infrared Absorption Spectrometry

分子は各々固有の振動をしているため、測定試料に照射する赤外線波長の波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収されて、その分子構造に応じた固有の振動スペクトルを得ることができる。その物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行う方法である。

## IRMA 免疫放射定量法

Immunoradiometric Assay

RIA法(ラジオイムノアッセイ)の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般のRIA法より特異性が高いといわれる。測定を目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原と標識抗体が結合した抗原・抗体複合物ができるが、その放射活性により検量線から濃度を読み取る。最近では2抗体法以外の方法をIRMAと呼ぶことがある。

## KIMS

Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

検体中の測定対象物質と試薬中の測定対象物質に対する抗体を反応させる。検体中に測定対象物質が存在する場合は測定対象物質とその抗体が反応し、試薬中の抗体量が減少する。しかし、測定対象物質が存在しない場合は試薬中の抗体量は変化しない。これらの反応液に測定対象物質が結合した微粒子(Microparticles)が入った溶液を添加し反応させると、反応液中に残存する抗体量に比例して微粒子が凝集する。この凝集を吸光度として測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

## LA ラテックス凝集比濁法

Latex Agglutination-Turbidimetric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると陽性の場合に抗原抗体反応によりラテックス粒子が凝集する性質を利用し、凝集に伴う反応液の濁度変化に基づいて目的物質を測定する。

## LAMP

Loop-Mediated Isothermal Amplification

PCR法と同じく遺伝子増幅法の一つ、ターゲットとするDNAの6つの領域に対し4種類のプライマーを設定し鎖置換反応を利用して、サンプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型DNA合成酵素、基質等を一定温度(約65℃)で反応させ増幅を行う。DNAを15分~1時間で $10^2 \sim 10^{10}$ 倍に増幅することができ、また逆転写酵素(Reverse transcriptase:RT)を添加することによりRNAを増幅することも可能である。

## LC-MS・LC-MS/MS

Liquid Chromatography-Mass Spectrometry

LC-MSは分離能力に優れた高速液体クロマトグラフ(HPLC)と定性能力に優れた質量分析計(MS)を接続させた装置。質量分析計を2重に結合したものはLC-MS/MS(タンデムMS)と呼ばれ、試料をHPLCにより分離し、1台目のMSでイオン化させ質量毎に分離(プレカークサーイオン)する。これを不活性ガスと衝突させ、1台目のMSで選択したイオンから生じた2次的イオン(プロダクトイオン)を2段目のMSで計測する。2回の質量分離を行うため高い分離能と特異性が得られるため、試料中の夾雑成分の影響を受けにくく信頼性の高い正確な定量を行うことができる。

## LPIA ラテックス近赤外比濁法

Latex Photometric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁度が増加する。これに赤外線当てその透過度により定量する方法である。

## MPHA 混合受身赤血球凝集試験

Mixed Passive Hemagglutination Test

プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行う。

## NT 中和試験

Neutralization Test

ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検検体を段階希釈しウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果(CPE)が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。

## PA 粒子凝集試験

Particle Agglutination Test

ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これと被検検体を反応させると、抗体が存在する場合にはゼラチン粒子が凝集する。

## PCR ポリメラーゼ連鎖反応

Polymerase Chain Reaction

DNA断片を増幅する方法。ターゲットとする領域のDNAを増幅するため、加熱・変性させ一本鎖DNAにし、次に2種のプライマーを混合させ、適当な温度条件においてアニールさせると各々のプライマーは相補性のある塩基対を形成する。さらにDNAポリメラーゼ反応により鎖が伸長し、最初のDNA部分の鎖が1回だけ増幅される。このプロセスを繰り返すことによりDNA断片のコピーを無限大に増幅することができる。PCR法ではDNAしか増幅できないのでRNA断片を増幅する場合は逆転写酵素(Reverse transcriptase:RT)によりDNAに転換して増幅するRT-PCR法が用いられる。PCR法には増幅量をリアルタイムにモニタリングし、電気泳動が不要なリアルタイムPCR法、またその中にTaqManプロンプを用いるTaqManPCR法などがある。さらにPCRにより増幅した後、シーケンサーにより遺伝子配列を決定するPCR/シーケンス法やプロット法を用いた微量なタンパク質を検出するPCR/ドットプロット法などPCR法を併用した様々な検査法が用いられている。

## PHA 受身赤血球凝集試験

Passive Hemagglutination Test

動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これに被検検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。

## PNA-LNA PCR Clamp法

Peptide Nucleic Acid-Locked Nucleic Acid Polymerase Chain Reaction Clamp method

DNA突然変異および欠失変異を高感度に検出する方法。EGFRの遺伝子変異の検出に用いられるが、検体中に野生型と変異型が存在している場合、PCR増幅時には野生型alleleはclamp primerにより増幅が阻害されるが変異型alleleには増幅阻害が起こらないため、変異型が優先して増幅される。それを検出およびtotal probeのシグナルにより変異の有無を判定する。

## RFLP 制限酵素断片長多型

Restriction Fragment Length Polymorphism

遺伝子多型が存在するDNA配列を、制限酵素断片の長さや数によって解析する方法全般を指す。必要量のDNAを採取して直接解析する場合や、PCRにより増幅したDNA断片を試料とする場合がある。

## RIA ラジオイムノアッセイ法

Radioimmunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検検体に抗体を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオアイソトープ(主に $^{125}\text{I}$ )で標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物(bound)と未反応物(free)を分離(B・F分離)し、放射活性を測定してB/Fの比率を求めて検量線から濃度を測定する。一般に二抗体法のような競合反応以外の方法をIRMAと呼んでいる。

## RPLA 逆受身ラテックス凝集試験

Reversed Passive Latex Agglutination Test

RPLA法と基本的な検出原理を同じくするが、抗体の固相化担体として動物赤血球に代えてラテックス粒子を用いるものである。

## SRID 免疫拡散法

Single Radial Immunodiffusion

ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対応する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体をスポットし、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定する。

## 主な検査方法の概略

### TIA 免疫比濁法

Turbidimetric Immunoassay

被検体中の測定目的物質に対応する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。

### UV 紫外外部吸光度分析法

Ultraviolet Spectrophotometry

通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素がNADHやNADPHの場合は波長が340nm付近の紫外部に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に関与する場合はUV法が用いられる。

### イムノクロマトグラフィー法

Immunochemistry

液体をニトロセルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用して免疫学的測定法である。液状検体中の標的物質が膜を移動する過程でまず色素標識抗体に結合させ、さらに膜に固相化した抗体で抗原・抗体複合体を捕捉する。こうして形成されたサンドイッチ複合体(色素標識抗体-抗原-固相化抗体)は抗体固相化地点で呈色することになるため、目視にて確認することができる。

### ウェスタンブロット

Western Blot method

電気泳動によって分離した蛋白質をニトロセルロース膜に転写し、その蛋白質に対する特異的抗体を用いることにより目的の蛋白質のバンドを検出する方法である。

### キャピラリー電気泳動法

Capillary Electrophoresis

キャピラリー(微小細管)に電解質溶液を満し、その両端に高電圧を掛けると、試料は電気泳動と電気浸透流を合わせた速度で移動する。電気泳動の移動度に差異がある場合、物質はそれぞれ異なった速度で移動し、これを吸光度計などで定量的に検出する手法。主に極微量の低分子イオン化合物の分離などに利用される。

### 原子吸光法

Atomic Absorption method

金属などの様々な元素を測定する方法である。検体を化学炎(フレイム)や加熱グラファイト管(フレイムレス)中で元素の基底状態原子化を行い、さらにその元素固有の共鳴線を照射すると吸収が生ずる。この吸収は気体化原子の原子数に応じて起こるため、これを利用することにより、検体中の目的元素の濃度を測定する方法である。

### サザンブロット法

Southern Blot Method

電気泳動法の一つで、特定のDNAの同定に用いられる手法である。制限酵素により処理されたゲノムDNAをゲル内電気泳動により分離した後、ニトロセルロース膜などに転写しアイソトープでラベルした特異的プローブを用いて目的とするDNA断片を検出する方法。開発者のEdwin M. Southernの名をとって命名された。

### 次世代シーケンス法

Next Generation Sequencing

次世代シーケンス法(NGS)は、ランダムに切断された数千万~数億のDNA断片をフローセルと呼ばれるスライドガラス上に張り付け、断片の相補鎖を合成しながら配列を決定する。従来のDNAシーケンス法と比べ短い時間で大量の遺伝情報を解析することが可能となる他、遺伝子配列に関する事前情報がなくてもバリエーションなどを特定、定量できるという利点がある。

### ダイレクトシーケンス法

Direct Sequencing

DNAを構成する塩基配列を決定する方法。主にジデオキシ法が用いられる。原理は測定対象の鋳型DNAに対して特異的に結合するプライマーの伸長反応を利用する。本反応中に取り込まれたジデオキシヌクレオチド(ddNTP)により伸長反応が停止。停止反応に用いるddNTPは蛍光標識してあるため、生成したDNA断片の長さから塩基配列を決定できる。

### 電気泳動法

Electrophoresis

溶液中に存在する全ての蛋白質は固有の電荷を帯びており、アルカリ溶液中においてはマイナス側に荷電している。そこに電流を通じると、その物質固有の易動度で陽極側に移動する。電気泳動法はこの性質を利用して検査を目的とする物質の分離・同定を行うものである。

### ネフェロメトリー法

Nephelometry

検出を目的とする抗原物質に対応する抗体を検体に添加し、抗原抗体反応を行わせ、それによって生じた抗原抗体複合物に光を照射し、その散乱強度により検量線より濃度を読み取り測定する方法。

### ハイブリッドキャプチャー法

Hybrid Capture method

ハイブリッドキャプチャー法(HC法)は、RNAプローブを用いて検体中のDNAとハイブリダイゼーションを行い、生成したDNA/RNAハイブリッドを特異抗体を用いてイムノアッセイで検出するものである。DNA増幅操作を行わずに高感度に目的遺伝子を検出することが可能である。

### 比濁時間分析法

Turbidimetric Time Assay

エンドトキシン測定法の一つ、エンドトキシンの存在下にカプトガニ血液抽出物中の凝固成分であるファクターC、ファクターB、凝固酵素(clotting enzyme)前駆体、およびコアグロゲン(coagulogen)が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリン(coagulin)がゲル化する性質を利用したものである。ここでゲル形成に要する時間は反応初発時のエンドトキシン量の2回対数に反比例することから、ゲル化時間を測定すれば、検体中のエンドトキシン量を求めることができる。

### フローサイトメトリー法

Flowcytometry

フローサイトメーターを用い細胞などの粒子1個1個から大きさや形態の情報、DNA/RNA蛍光染色、モノクローナル抗体を用いた白血球などの表面抗原の解析などを1秒間に数千個以上の速度で認識し、それらの相関を解析するヒストグラムを作成し、さらに目的とする複数種の細胞集団などを高速度で分取することが可能な検査方法。

### Bethesda法(ベセスダ法)

主に血液凝固系検査に用いられる検査方法である。凝固因子インヒビター測定の場合は目的とする凝固因子の正常血漿と被検血漿を混合・反応させ、反応前と反応後の残存凝固因子を測定し、その比によりBethesda算定図より凝固因子阻止量を読み取る。

### 免疫電気泳動法(免疫固定法)

Immunofixation / Electrophoresis

免疫固定電気泳動法はアガロース支持体を用いた蛋白質の電気泳動と免疫沈降反応を組み合わせた検査方法である。支持体上に検体を塗布し、電気泳動により蛋白質成分を分離させ、さらに特異抗血清(IgG、A、M、D、E、κ、λ)による免疫沈降反応を応用することで反応生成物を支持体中に固定する。反応を起こした複合体は蛋白染色により明瞭なバンドとして観察することができる。

### 免疫電気泳動法

Immuno-electrophoresis

電気泳動を行う際に支持体として用いるゲルの中に抗血清(抗体)を入れることにより、検体中の蛋白質を解析する検査。抗ヒト全血清を用いた検査では数十種類のヒト血清蛋白の観察が可能であり、抗ヒト特異血清を用いた検査では単クローンの免疫グロブリンが認められるM-蛋白血症の診断に有用である。泳動を行う際に用いる支持体にはセルロース・アセテート膜やアガロース(寒天)ゲル、比較的分離能が良いとされるポリアクリルアミドゲル(PAGE)などがある。

緊急報告対象項目

●下記の検査項目で、緊急報告値が検出された場合は、測定後速やかにFAX等にてご報告いたします。

	検査項目名	緊急報告基準値		参考基準値	備考	
生化学	総蛋白	3.5 以下	10.0 以上	g/dL	6.6 ~ 8.1	
	総ビリルビン		12.0 以上	mg/dL	0.2 ~ 1.0	新生児以外
	AST (GOT)		500 以上	U/L	5 ~ 40	
	ALT (GPT)		500 以上	U/L	5 ~ 42	
	LD (LDH) IFCC		1000 以上	U/L	124 ~ 222	
	CK (CPK)		1000 以上	U/L	M57 ~ 284 F45 ~ 176	
	アンモニア		400 以上	μg/dL	30 ~ 86	除蛋白不良は除く
	尿素窒素		80.0 以上	mg/dL	8.0 ~ 20.0	透析患者は除外
	クレアチニン		8.00 以上	mg/dL	M0.50 ~ 1.00 F0.40 ~ 0.80	透析患者は除外
	ナトリウム	120 以下	160 以上	mEq/L	136 ~ 148	
	クロール		120 以上	mEq/L	98 ~ 108	
	カリウム	2.5 以下	7.0 以上	mEq/L	3.6 ~ 5.0	透析患者は除外
	カルシウム	6.0 以下	12.0 以上	mg/dL	8.6 ~ 10.4	
	グルコース (空腹時)	50 以下	500 以上	mg/dL	70 ~ 110	低値は専用容器使用のみ報告
	アミラーゼ (血清)		1000 以上	U/L	37 ~ 125	
血清	CRP		30.00 以上	mg/dL	0.30以下	
	ABO血液型	表裏試験不一致				
	クームス (直接)	( + )		( - )		新生児に限る
血液学	白血球数	15 以下	200 以上	$\times 10^2/\mu\text{L}$	40 ~ 80	
	ヘモグロビン	5.0 以下	20.0 以上	g/dL	M12.4 ~ 17.6 F11.0 ~ 15.2	
	血小板数	3.0 以下	100.0 以上	$\times 10^4/\mu\text{L}$	14.0 ~ 34.0	
	血液像	blastoid cell (+) 異常細胞多数出現 赤芽球多数出現(30/200WBC) 以上				初診者のみ報告
	プロトロンビン時間		30.0 以上	秒	9.7 ~ 12.3	
プロトロンビン-INR		4.0 以上				
細菌	血液培養		菌検出		細菌を認めず	
	髄液 (培養)		菌検出		細菌を認めず	
	培養同定	一類二類三類感染症原因菌の検出			細菌を認めず	

	検査項目名	緊急報告基準値		有効治療濃度	備考
薬物検査	フェニバルピタール	60.0以上	μg/mL	10.0 ~ 40.0	
	フェニトイン	30.0以上	μg/mL	10.0 ~ 20.0	
	カルバマゼピン	12.0以上	μg/mL	4.0 ~ 12.0	
	バルプロ酸ナトリウム	150以上	μg/mL	50 ~ 100	
	テオフィリン	25.0以上	μg/mL	10.0 ~ 20.0	
	ジゴキシン	2.5以上	ng/mL	0.9 ~ 2.0	

参考：日本臨床検査自動化学会誌「極端値・パニック値対応マニュアルVer.1.4(2005.9.1)」

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0115	総蛋白 <TP>	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ビウレット法	6.6 ~ 8.1	11 生I ①	1 5 2	
		血清 0.5							
0117	アルブミン <Alb>	血液 2	01	冷蔵 (4週)	BCP改良法	4.1 ~ 5.1	11 生I ①	1 5 2	
		血清 0.5							
0116	A/G比	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	1.32 ~ 2.23	-	1 5 2	【項目】計算値 (A/G) = (Alb) / (Glb)
		血清 0.5							
0118	グロブリン <Glb>	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	2.2 ~ 3.4	-	1 5 2	【項目】計算値 (Glb) = (TP) - (Alb)
		血清 0.5							
0101	蛋白分画 <PR-F>	血液 2	01	冷蔵 (1週)	電気泳動法 (セルロース アセテート膜電気 泳動法)	11頁参照:「蛋白分画」 基準値	18 生I ①	1 5 2	
		血清 0.7							
0125	ZTT <硫酸亜鉛試験>	血液 2	01	冷蔵 (3日)	硫酸亜鉛混濁 試験	2.0 ~ 12.0	-	1 5 2	膠質反応
		血清 0.5							
0119	総ビリルビン <T-BIL>	血液 2	01	冷蔵 (1週)	バナジン酸 酸化法	0.2 ~ 1.0	11 生I ②	1 5 2	
		血清 0.5							
0120	直接ビリルビン <D-BIL>	血液 2	01	冷蔵 (1週)	バナジン酸 酸化法	0 ~ 0.4	11 生I ②	1 5 2	
		血清 0.5							
0121	間接ビリルビン <I-BIL>	血液 2	01	冷蔵 (1週)	計算値	0 ~ 0.6	-	1 5 2	【項目】計算値 (I-BIL) = (T-BIL) - (D-BIL)
		血清 0.5							
0126	AST <GOT>	血液 2	01	冷蔵 (1週)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 40	17 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0127	ALT <GPT>	血液 2	01	冷蔵 (3日)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 42	17 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
9218	LD(IFCC) <LDH>	血液 2	01	冷蔵 (2日)	IFCC 標準化対応法	124 ~ 222	11 生I	1 5 2	【検体】溶血検体は高値を示す 場合があります。
		血清 0.5							
9217	アルカリホスファターゼ(IFCC) <ALP(IFCC)>	血液 2	01	冷蔵	IFCC 標準化対応法	38 ~ 113	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0131	LAP	血液 2	01	冷蔵 (4週)	L-ロイシル-P- ニトロアニリド 基質法	30 ~ 70	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							

① : 「蛋白分画」、「総蛋白」、「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定できます。

② : 直接・間接ビリルビンをご依頼の場合、保険請求は「総ビリルビン」および「直接ビリルビン」と明記してください。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0132	γ-GT	血液 2	01	冷蔵 (4週)	JSCC 標準化対応法	M 7 ~ 74 F 7 ~ 32	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0133	コリンエステラーゼ (ChE)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	JSCC 標準化対応法	213 ~ 501	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0134	CK (CPK)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	JSCC 標準化対応法	M 57 ~ 284 F 45 ~ 176	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
2266	アルドラーゼ (ALD)	血液 2	01	冷蔵 (3~4日)	UV法	2.7 ~ 5.9	11 生I	2 5 3	【検体】溶血検体は高値を示す場合があります。
		血清 0.5							
0241	アミラーゼ (S-AMY)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	エチリデン-G7- PNP基質法	37 ~ 125	11 生I	1 5 2	【方法】JSCC(IFCC)標準化 対応法
		血清 0.5							
0242	(尿)アミラーゼ (U-AMY)	尿 10	25	冷蔵 (10日)	エチリデン-G7- PNP基質法	47 ~ 458	11 生I	1 5 2	【方法】JSCC(IFCC)標準化 対応法
2181	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法	8.6 ~ 20.5	32 生I	2 5 3	
		血清 0.4							
0766	(穿刺液)ADA	穿刺液 2	25	冷蔵 (1週)	酵素比色法		32 生I	1 5 2	
2291	リゾチーム (ムラミダーゼ)	血液 1	01	凍結 (4週)	比濁法	4.2 ~ 11.5	-	3 5 6	
		血清 0.3							
2296		尿 1	25			1.0 未満 (検出限界値)			
1371	トリプシン	血液 2	01	冷蔵 (3週)	EIA 法	100 ~ 550	189 生I	3 5 5	
		血清 0.4							
2305	膵ホスホリパーゼA2 (膵PLA2)	血液 1	01	凍結 (12週)	RIA 法 (ビーズ固相法)	130 ~ 400	204 生I	2 5 5	
		血清 0.3							
2218	ペプシノゲン (PG)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	11頁参照:ペプシノゲン (PG)による胃粘膜萎縮 度の判定基準	-	2 5 3	
		血清 0.3							
7745	ABC分類	血液 2	01	冷蔵	ペプシノゲン LA(ラッセクス凝集比濁法) ヘリコバクター・ピロリ抗体 LA(ラッセクス凝集比濁法)	11頁参照:胃がんリスク 層別化検査(ABC分類) の判定基準と胃の健康 度	-	2 5 3	【報告】*1 【項目】*2 【依頼】*3 【方法】*4
		血清 0.6							

- \*1 : ペプシノゲンとヘリコバクター・ピロリ抗体を実施し、それぞれの判定とABCD、Eの分類をご報告します。
- \*2 : ・明らかな上部消化器症状のある方、上部消化器疾患治療中の方、プロトンポンプ阻害剤服用中の方、胃切除後の方、腎不全の方、ピロリ菌の除菌治療を受けた方は正しい結果が得られない場合がありますので、あらかじめご注意ください。  
 ・ご依頼の際は、ピロリ菌の除菌歴の有無をご確認ください。(未感染者と既感染者ではリスク程度が異なると考えられており、既感染者がA群に編入される可能性があります)  
 ・A群はおおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる可能性は低く、未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます(一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です)。  
 ・E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。
- \*3 : ・ピロリ菌の除菌治療を受けた方は当該検査対象外となるため、ピロリ抗体とペプシノゲンの測定値をご報告し、ABCD判定は行わず、E(Eradication)群としてご報告します。  
 ・ご依頼の際は、依頼書に[7745]ABC分類(E群)とご記入ください。
- \*4 : 胃がんリスク層別化検査におけるヘリコバクター・ピロリ抗体は2020年4月よりLA法(Lタイプワコー H.ピロリ抗体・J)にて実施しています。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0189	尿中NAG (N-アセチルグルコサミナーゼ)	尿 10	25	冷蔵	MPT 基質法	IU/L 0.3 ~ 11.5	41 尿便	1 2	【検体】 pH4.0以下の酸性尿、あるいはpHが8.0以上のアルカリ尿では測定値が低下する場合があります。
5568	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	ng/mL M 36.9 ~ 121 F 17.3 ~ 59.7	116 免疫 ②	2 3	【容器】 分離剤入り真空採血管、凝固促進剤入り採血管を使用する際、採血管規定量より採血量が少ない場合は測定値が低下する可能性があります。
		血清 0.4							
2098	LDHアイソザイム	血液 1	01	冷蔵	アガロースゲル電気泳動法	% 12頁参照:「アイソザイム」基準値/活性値換算基準値(参考基準値)	48 生I	2 3	【保存】 全血では常温保存を推奨します。 【保存】 長期保存の場合は-45℃以下の保存を推奨します。
		血清 0.3							
2104	ALPアイソザイム	血液 1	01	冷蔵	アガロースゲル電気泳動法	% 12頁参照:「アイソザイム」基準値/活性値換算基準値(参考基準値)	48 生I	2 3	
		血清 0.3							
2254	CKアイソザイム	血液 1	01	冷蔵	アガロースゲル電気泳動法	% 12頁参照:「アイソザイム」基準値/活性値換算基準値(参考基準値)	55 生I	2 3	
		血清 0.3							
0135	CK-MB(%)	血液 2	01	凍結	免疫阻害法	6 未満	55 生I	1 2	
		血清 0.5							
2267	CK-MB定量	血液 2	01	凍結	CLIA 法	ng/mL 2.2 以下	90 生I	2 3	
		血清 0.4							
0239	P型アミラーゼ	血液 2	01	冷蔵	阻害抗体法	U/L 16 ~ 52	48 生I ③	1 2	
		血清 0.5							
0240	(尿)P型アミラーゼ	尿 10	25	冷蔵	阻害抗体法	U/L 32 ~ 325	48 生I ③	1 2	
0183	クレアチニン (CRE)	血液 2	01	冷蔵	酵素法	mg/dL M 0.50 ~ 1.00 F 0.40 ~ 0.80	11 生I	1 2	
		血清 0.5							
0389	(蓄尿)クレアチニン (尿中CRE)	尿 10	25	冷蔵	酵素法	g/day 0.50 ~ 1.50	11 生I	1 2	【検体】 蓄尿の一日尿量値が必要です。
0180	シスタチンC	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	mg/L M 0.61 ~ 1.00 F 0.51 ~ 0.82	118 生I ④	1 2	
		血清 0.5							
0181	尿酸 (UA)	血液 2	01	冷蔵	ウリカーゼ・POD法	mg/dL M 3.8 ~ 7.0 F 2.6 ~ 7.0	11 生I	1 2	
		血清 0.5							
0387	(蓄尿)尿酸 (尿中UA)	尿 10	25	冷蔵	ウリカーゼ・POD法	g/day 0.40 ~ 1.20	11 生I	1 2	【検体】 蓄尿の一日尿量値が必要です。

- ① : 「リウマトイド因子定量」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目のみ算定ができます。
- ② : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定ができます。
- ③ : 実施料は、「アミラーゼアイソザイム」としての算定となります。
- ④ : 「尿素窒素(BUN)」または「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0182	尿素窒素 (BUN)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ウレアーゼGLD H法(アンモニア 消去法)	8.0 ~ 20.0 mg/dL	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0388	(蓄尿)尿素窒素 (尿中BUN)	尿 10	25	冷蔵 (3日)	ウレアーゼGLD H法(アンモニア 消去法)	7.00 ~ 14.00 g/day	11 生I	1 5 2	【検体】蓄尿の一日尿量値が必要です。
0139	アンモニア (NH3)	血液 1	05	凍結	藤井・奥田法変法	30 ~ 86 μg/dL	50 生I	1 5 2	【検体】採血後直ちに正確に1.0mlの血液を専用容器に加え、十分に混和した後、遠心分離後の上清全量(3.0ml)を提出容器に移し、凍結しご提出ください。
		上清 3							
1973	アミノ酸分画	血液 2	10	凍結 (2週)	LC-MS/MS	13頁参照:「アミノ酸分画」基準値	1176 生II	4 5 5	【項目】13頁参照:アミノ酸分画基準値 【検体】採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結してください。
		ヘパリン血漿 0.5	02						
1982		尿 0.5	25	凍結 (2週)	LC-MS/MS	13頁参照:「アミノ酸分画」基準値	1176 生II	4 5 5	【項目】13頁参照:アミノ酸分画基準値 【検体】早期2番尿を直ちに凍結して下さい(トルエン、塩酸などの防腐剤は加えないでください)。
1983	アミノ酸11分画	血液 2	10	凍結 (2週)	LC-MS/MS	13頁参照:「アミノ酸11分画」基準値	1176 生II	3 5 4	【項目】13頁参照:アミノ酸11分画基準値 【検体】採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結してください。
		ヘパリン血漿 0.5	02						
1990	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)	血液 2	01	凍結	酵素法	BTR 4.41 ~ 10.05 μmol/L BCAA 344 ~ 713 チロシン 51 ~ 98	288 生II	2 5 3	【検体】溶血検体は不適です。
		血清 0.5							
2000	ホモシステイン	血液 1	14	冷蔵 (2週)	LC-MS/MS	5 ~ 15 nmol/mL	287 生II	3 5 4	【検体】ヘパリン血漿、血清も検査可。
		EDTA血漿 0.3	02						
0261	グルコース (血糖)	血液 2	04	冷蔵 (2週)	ヘキシキナーゼ法	70 ~ 110 mg/dL	11 生I	1 5 2	
0649	グリコアルブミン (GA)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法	11.0 ~ 16.0 %	55 生I 02	1 5 2	
		血清 0.5							
0686	HbA1C(NGSP)	血液 2	04	冷蔵 (1週)	酵素法	4.6 ~ 6.2 %	49 血液 02	1 5 2	【検体】凍結不可
1382	1, 5AG (1,5-アンヒドログルシトール)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	酵素法	14.0 以上 μg/mL	80 生I 02	2 5 3	
		血清 0.4							
2361	ヒアルロン酸	血液 1	01	冷蔵	LA法 (ラテックス凝集 比濁法)	50.0 以下 ng/mL	184 生I 03	2 5 3	【基準】 肝硬変の判定基準 130ng/mL以上 (50~130ng/mLの場合、肝の繊維化が疑われます)
		血清 0.3							
1965	KL-6	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA法	500 未満 U/mL	114 生I 05	2 5 3	
		血清 0.4							

- ① : 「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」、「グリコアルブミン」および「1, 5-アンヒドログルシトール(1, 5AG)」は、同一月内に1回に限り主たる項目のみ算定できます。
- ② : 妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できます。
- ③ : 慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察および肝生検の適応の確認を行う場合に算定できます。
- ④ : 「ATX」、「M2BPGi」、「P-Ⅲ-P」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」もしくは「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑤ : 「KL-6」、「SP-A」および「SP-D」のうち、いずれか複数を実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2339	乳酸	血液 1	06	凍結 (4週)	酵素法	3.7 ~ 16.3 (空腹安静時)	47 生I ①	2 5 3	必ず指定容器使用 【容器】専用容器(0.8N過塩素酸入り)はあらかじめご依頼ください。 【検体】*1
		除蛋白上清 0.5							
2340	ピルビン酸	血液 1	06	凍結 (4週)	酵素法	0.30 ~ 0.90 (空腹安静時)	47 生I ①	2 5 3	必ず指定容器使用 【容器】専用容器(0.8N過塩素酸入り)はあらかじめご依頼ください。 【検体】*1
		除蛋白上清 0.5							
2331	ケトン体分画 (静脈血)	血液 1	01	-70℃以下 凍結 (4週)	酵素法	11頁参照:「ケトン体分画(静脈血)」基準値	59 生I ②	2 5 3	【項目】総ケトン体にアセトンは含まれません。 【検体】早期空腹時採血(静脈)。 【検体】*2
		血清 0.3							
2498	ケトン体分画 (動脈血)	血液 1	01	-70℃以下 凍結 (4週)	酵素法	アセト酢酸/ 3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	59 生I ②	2 5 3	【検体】食事1時間後またはブドウ糖投与後(血中グルコース120~200mg/dL)採血。 【検体】*2
		血清 0.3							
0228	中性脂肪 (TG)	血液 2	01	冷蔵 (4日)	酵素法 (グリセロール消去法)	30 ~ 149	11 生I ③	1 5 2	【参考】女性では、加齢と共に増加傾向が認められます。
		血清 0.5							
0226	総コレステロール (T-Chol)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法	130 ~ 220	17 生I ③	1 5 2	【参考】女性では、加齢と共に増加傾向が認められます。
		血清 0.5							
0225	HDLコレステロール (HDL-Chol)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	直接法	40 ~ 99	17 生I ③	1 5 2	
		血清 0.5							
0233	LDLコレステロール (LDL-Chol)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	直接法	70 ~ 139	18 生I ③	1 5 2	
		血清 0.5							
0224	LDLコレステロール 計算	血液 2	01	冷蔵	計算値	70 ~ 139	-	1 5 2	【項目】計算値 (LDL-C) = (T-CHO) - (HDL-C) - (TG/5)
		血清 0.5							
0230	リン脂質 (PL)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	コリンオキシダーゼ/DAOS法	150 ~ 250	15 生I ③	1 5 2	
		血清 0.5							
0143	総胆汁酸 (TBA)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	酵素サイクリング法	10 以下	47 生I ③	1 5 2	
		血清 0.5							
2452	全脂質脂肪酸分画	血液 3	01 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS	12頁参照:「全脂質脂肪酸分画」基準値	417 生II ③	14 5 21	【検体】血清の場合、分離剤入り容器で採血し、遠心後に分注をお願いします。 【検体】血漿も検査可。
		血清 0.8							
2439	脂肪酸4分画	血液 2	01 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS	12頁参照:「脂肪酸4分画」基準値	417 生II ③	4 5 5	【検体】血清の場合、分離剤入り容器で採血し、遠心後に分注をお願いします。 【検体】血漿も検査可。
		血清 0.5							
0229	βリポ蛋白 (β-LP)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ヘパリンを用いた比濁法	173 ~ 582	-	1 5 2	
		血清 0.5							

\*1 : 0.8N過塩素酸と血液を等量混合し、十分攪拌し3,000rpm、5分間遠心後、その上清液をご提出ください。

\*2 : 採血後、速やかに血清分離し、凍結してください。

① : 「乳酸」および「ピルビン酸」の測定を行った場合、それぞれの測定ごとに実施料が算定できます。

② : 「ケトン体」、「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、「ケトン体分画」の実施料のみ算定できます。

③ : 「HDL-コレステロール」、「総コレステロール」、「LDL-コレステロール」を併せて実施した場合は、主たる2項目の実施料が算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
2470	リポ蛋白分画	血液 1	01	凍結不可 冷蔵 (4日)	アガロースゲル電気泳動法	12頁参照:「リポ蛋白分画」基準値	49 生I	2 5 3	【項目】カイロミクロンは測定できません。 【検体】食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守してください。	
		血清 0.3								
2480	リポ蛋白分画(PAGE) (リポ蛋白分画精密測定)	血液 2	01	凍結不可 冷蔵 (4日)	ポリアクリルアミドゲル・ディスク電気泳動法	12頁参照:「リポ蛋白分画(PAGE)」基準値	80 生I	5 5 7	【項目】カイロミクロンは測定できません。 【検体】血清・血漿以外は検査不可。	
		血清 0.5								
0245	リパーゼ	血液 2	01	冷蔵 (4週)	カラー法	16 ~ 56	24 生I	1 5 2		
		血清 0.5								
2478	リポ蛋白(a) (Lp(a))	血液 2	01	冷蔵 (2週)	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	30.0 以下	107 生I ①	2 5 3	【検体】EDTA血漿も検査可	
		血清 0.5								
2477	レムナント様 リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	血液 2	01	凍結不可 冷蔵 (5日)	酵素法	7.5 以下	184 生I ①	2 5 3	【基準】*1	
		血清 0.4								
2432	アポリポ蛋白	血液 2	01	冷蔵 (2~3日)	TIA法	M 119 ~ 155 F 126 ~ 165	※ 生I ②③	2 5 3		
2433						A-I				M 25.9 ~ 35.7 F 24.6 ~ 33.3
2434						A-II				M 73 ~ 109 F 66 ~ 101
2435						B				M 1.8 ~ 4.6 F 1.5 ~ 3.8
2436						C-II				M 5.8 ~ 10.0 F 5.4 ~ 9.0
2437						C-III				M 2.7 ~ 4.3 F 2.8 ~ 4.6
2514	ビタミンB1 (サイアミン)	血液 1 EDTA加血液	84	遮光 凍結 (20日)	LC-MS/MS	2.6 ~ 5.8	246 生I	3 5 4	【保存】ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結してください。	
2521	ビタミンB2 (リボフラビン)	血液 1 EDTA加血液	84	遮光 凍結 (20日)	HPLC法	12.8 ~ 27.6	249 生I	3 5 4	【保存】ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結してください。	
2511	ビタミンB12 (シアノコバラミン)	血液 2	01	凍結 (12週)	CLIA法	233 ~ 914	144 生I	2 5 3		
		血清 0.4								

\*1 : 基準値は、健常者における“平均値+1.96SD”に相当します。ただし、糖尿病、冠動脈疾患などの既往歴がある場合は、“5.2mg/dL以上”をハイリスク域とします。

- ① : 3月に1回を限度として算定できます。
- ② : ※「A I」、「A II」、「B」、「C II」、「C III」、「E」のうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定します。
- ③ : ※1項目の場合31点。2項目の場合62点。3項目以上の場合94点。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2512	葉酸	血液 2	01	凍結 (12週)	CLIA 法	ng/mL 3.6 ~ 12.9	154 生I	2 5 3	【検体】溶血検体では測定値が上昇する場合があります。
		血清 0.5							
2543	カルニチン分画	血液 2	01	冷蔵	酵素 サイクリング法	μmol/L 総カルニチン 45~91 遊離カルニチン 36~74 アシルカルニチン 6~23	95 + 95 生I ①②③④	2 5 3	
		血清 0.5							
2522	ビタミンC (アスコルビン酸)	血清	58	-70℃以下 遮光 凍結 (4週)	HPLC 法	μg/mL 5.5 ~ 16.8	314 生I	5 5 7	必ず指定容器使用 【検体】正確に血清0.5mLを専用容器に加え、混和後、遠心分離し、その上清を遮光容器に移し、直ちに凍結してください。
		除蛋白 上清 0.5							
2516	25-OHビタミンD	血液 2	01	冷蔵 (4日)	ECLIA法	ng/mL	117 生I ⑤	2 5 3	【項目】*1 【基準】*2
		血清 0.5							
9212	〔骨粗鬆症〕 25-OHビタミンD(Total)	血液 2	01	冷蔵 (3週)	ECLIA法	ng/mL ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0~29.9 ビタミンD充足状態 30.0以上	117 生II ⑥⑦	1 5 2	
		血清 0.5							
2517	1α, 25-(OH)2ビタミンD	血液 3	01	凍結	RIA法 (二抗体法)	pg/mL 20 ~ 60	388 生I ⑧⑨	3 5 6	
		血清 1							
0201	ナトリウム (Na)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	mEq/L 136 ~ 148	11 生I	1 5 2	【検体】EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0202	クロール (Cl)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	mEq/L 98 ~ 108	11 生I	1 5 2	【検体】EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0381	(蓄尿)ナトリウム (尿中Na)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	g/day 1.60 ~ 5.80	11 生I	1 5 2	【検体】蓄尿の一日尿量値が必要です。
0382	(蓄尿)クロール (尿中Cl)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	g/day 2.50 ~ 8.90	11 生I	1 5 2	【検体】蓄尿の一日尿量値が必要です。
0203	カリウム (K)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	mEq/L 3.6 ~ 5.0	11 生I	1 5 2	【検体】EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0383	(蓄尿)カリウム (尿中K)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	g/day 1.00 ~ 3.90	11 生I	1 5 2	【検体】蓄尿の一日尿量値が必要です。

\*1 : 高用量のピオチン投与・摂取している場合、偽高値になる可能性がありますので、投与後は8時間以上空けて採血してください。

\*2 : 日本小児内分泌学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」には、診断基準(血清25OHD低値)として下記が記載されています。

- ・20 ng/mL 以下
- ・15 ng/mL 以下 であればより確実

- ① : 関係学会の定める診療に関する指針を遵守する必要があります。
- ② : 先天性代謝異常症の診断補助または経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定できます。
- ③ : 静脈栄養管理もしくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症もしくは小児の患者、人工乳もしくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルブ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者または慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助もしくは経過観察のために実施する場合は、6月に1回を限度として算定できます。
- ④ : 同一検体について本検査と「先天性代謝異常症検査」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑤ : ビタミンD欠乏性くる病もしくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できます。
- ⑥ : 原発性骨粗鬆症の患者に対して薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できます。
- ⑦ : 本検査を行う場合には、関連学会が定める実施方針を遵守してください。
- ⑧ : 慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存性Ⅰ型もしくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時、またはそれらの疾患に対する活性型ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療中に測定した場合にのみ算定できます。
- ⑨ : ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療開始後1月以内は2回、その後は3月に1回を限度として算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0206	マグネシウム <Mg>	血液 2	01	冷蔵 (2週)	キシリジルブルー法	1.8 ~ 2.7 mg/dL	11 生I	1 5 2	【検体】 EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0386	(蓄尿)マグネシウム <尿中Mg>	尿 10	25	冷蔵 (1週)	キシリジルブルー法	0.02 ~ 0.13 g/day	11 生I	1 5 2	【検体】 蓄尿の一日尿量値が必要です。
0204	カルシウム <Ca>	血液 2	01	冷蔵 (2週)	アルセナゾⅢ法	8.6 ~ 10.4 mg/dL	11 生I	1 5 2	【検体】 EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0384	(蓄尿)カルシウム <尿中Ca>	尿 10	25	冷蔵 (1週)	アルセナゾⅢ法	0.10 ~ 0.30 g/day	11 生I	1 5 2	【検体】 蓄尿の一日尿量値が必要です。
0205	無機リン <P>	血液 2	01	冷蔵 (1週)	モリブデン酸直接法	2.6 ~ 4.4 mg/dL	17 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0385	(蓄尿)無機リン <尿中P>	尿 10	25	冷蔵 (1週)	モリブデン酸直接法	0.50 ~ 1.00 g/day	17 生I	1 5 2	【検体】 蓄尿の一日尿量値が必要です。
0207	鉄 <Fe>	血液 2	01	冷蔵 (2週)	パソフェナントロリン直接法	M 60 ~ 200 F 50 ~ 160 μg/dL	11 生I	1 5 2	【検体】 EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0208	UIBC <不飽和鉄結合能>	血液 2	01	冷蔵 (12週)	パソフェナントロリン直接法	M 119 ~ 285 F 143 ~ 313 μg/dL	11 生I	1 5 2	【検体】 EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0209	TIBC [計算値] <総鉄結合能>	血液 2	01	冷蔵	計算値	M 236 ~ 381 F 250 ~ 383 μg/dL	-	1 5 2	【項目】 計算値(TIBC) = (Fe) + (UIBC)
		血清 0.5							
2064	銅 <Cu>	血液 2	01	冷蔵	比色法	70 ~ 132 μg/dL	23 生I	2 5 3	
		血清 0.4							
2072	(尿)銅	畜尿 5 または 部分尿 5	59	冷蔵 (4週)	原子吸光法	(1日量) 13 μg/day以下 (濃度) 18 μg/L以下	23 生I	3 5 6	必ず指定容器使用 【検体】 畜尿の場合は、依頼書に1日畜尿量を必ず明記してください。 【報告】 *1 【検体】 *2
2067	亜鉛 <Zn>	血液 2	68	冷蔵 (18日)	原子吸光法	80 ~ 130 μg/dL	140 生I	2 5 3	必ず指定容器使用 【検体】 *3 【検体】 *2, 4 【基準】 *5
		血清 0.5							
2068		尿 5	59	冷蔵 (4週)		64 ~ 947 μg/L	140 生I	3 5 6	必ず指定容器使用 【検体】 *2
2791	アルミニウム <Al>	血液 2	68	冷蔵 (3週)	原子吸光法	0.9 以下 μg/dL	115 生I	4 5 5	必ず指定容器使用 【検体】 *2
		血清 0.5							
2801	セレン <Se>	血液 2	68	冷蔵 (3週)	原子吸光法	10.6 ~ 17.4 μg/dL	144 生I	5 10	必ず指定容器使用 【検体】 *2
		血清 0.5							

\*1 : 部分尿の場合は、一日量は「換算不可」でご報告します。

\*2 : 必ず指定容器で採取し、採取後は別の容器に移さず、専用検体としてご提出ください(同じ容器を用いる項目は同一検体でも可)。

\*3 : 日内変動や食物の採取により血中濃度が低下しますので、朝食前の午前中に採血してください(基準値は朝食前の採血により得られたデータです)。

\*4 : 指定容器は、ゴム栓の影響はありません。

\*5 : 基準値は日本臨床栄養学会「亜鉛欠乏症の診療指針2018」の亜鉛欠乏症診断基準に則った値です。

① : 「総鉄結合能(TIBC)」と「不飽和鉄結合能(UIBC)」を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能(UIBC)または総鉄結合能(TIBC)の所定点数を算定します。

② : 長期静脈栄養管理もしくは長期成分栄養剤を用いた経腸栄養管理を受けている患者、人工乳もしくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者または重症心身障害児(者)に対して、診察および他の検査の結果からセレン欠乏症が疑われる場合の診断および診断後の経過観察を目的として実施した場合に限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2788	マンガン (Mn)	血液 0.5 ヘパリン加血液	10	冷蔵 (3週)	原子吸光法	0.4 ~ 2.0 μg/dL	27 生I ①	6 5 11	必ず指定容器使用 【検体】*1
2789		血液 2	68			0.7 以下 μg/dL			
2790		血清 0.5	59			2.0 未満 μg/L			
2748	鉛 (Pb)	血液 1 ヘパリン加血液	10	冷蔵 (4週)	原子吸光法	1.0 以下 μg/dL	—	4 5 5	【基準】産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は11頁参照:「特殊健診項目」名称及び分布区分
2189	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	尿 1	66	遮光 冷蔵 (4週)	HPLC 法	2.2 以下 (参考値) mg/L	109 尿便	4 5 5	【基準】産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は11頁参照:「特殊健診項目」名称及び分布区分
2731	エタノール	血液 1 ヘパリン加血液	10	凍結 (12日)	GC 法	0.1 未満 mg/mL	111 生I	6 5 7	【検体】*2 【保存】*3 【基準】検出限界未満を基準値とします。
2031	浸透圧	血液 3	01	冷蔵 (4週)	氷点降下法	275 ~ 290 mOsm/kg・H <sub>2</sub> O	15 血液	2 5 3	
		血清 1							
2032	尿 1	25	冷蔵 (4週)	氷点降下法	50 ~ 1,300 mOsm/kg・H <sub>2</sub> O	16 尿便	2 5 3		
0140	ICG停滞率 (肝機能テスト)	血液 各 5	01	遮光 冷蔵	比色法	10 以下 %	100	1 5 2	【検体】投与後の検体は遮光してご提出ください。
	血清 各 2								
0141	ICG消失率 (肝機能テスト)	血液 各 5	01	遮光 冷蔵	比色法	0.168 ~ 0.206	150	1 5 2	【検体】14頁参照:ICGの検体採取方法
	血清 各 2								
0186	24時間クレアチニン クリアランス	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	67 ~ 214 mL/min	—	1 5 2	【依頼】年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を依頼書に必ず明記してください。 【検体】血清、尿の両材料をご提出ください。 【検体】14頁参照:クレアチニン・クリアランスの検体採取方法
	尿 10	25							
0185	クレアチニンクリアランス	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	82 ~ 183 mL/min	—	1 5 2	
	尿 10	25							
2654	結石鑑別	結石 10 <sub>mg</sub>	23	常温	IR 法 (KBr Wafer法)	組成比率 %	120 生II	5 5 7	【項目】多数検体の場合は、あらかじめご連絡ください。 【検体】*4、5

\*1 : 必ず指定容器で採取し、採取後は別の容器に移さず、専用容器としてご提出ください(同じ容器を用いる項目は同一検体でも可)。

\*2 : 採血に当たってエタノール消毒を行う場合、血液中への混入がないようご注意ください。(エタノール乾燥後に採血、あるいは他の消毒薬を使用)

\*3 : ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結してください。

\*4 : 試料は乾燥させた上で、所定の専用容器にてご提出ください。

\*5 : 専用容器は必ず密栓し(シャーレの代用不可)、抽出臓器および結石の種類(胆石、尿路結石などの別)を必ず明示してください。血液などの付着した試料については蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出ください。液状成分を含む試料は、分析対象として不適当です。試料はガーゼやティッシュペーパー等で包まず、結石の外観を目視可能な状態でご提出ください。

① : 1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については、2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2740	馬尿酸 (HA)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS 法	g/L	—	4 5 6	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。 【基準】*1
2741	メチル馬尿酸 (MHA)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS 法	g/L	—	4 5 6	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。 【基準】*1
7378	スチレン代謝物	尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS 法	0.43以下 (合算値)	—	4 5 5	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。 【基準】*1【報告】*2, 3
2730	マンデル酸EB	尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS 法	g/L	—	4 5 5	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。 【基準】*1
2743 2754 2793	総三塩化物 (TTC)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 5	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の5日目以降(週末)。 【基準】*1
2744 2751 2796	トリクロル酢酸 (TCA)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 5	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の5日目以降(週末)。 【基準】*1
2746	N-メチルホルムアミド	尿 2	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 5	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。 【基準】*1
2747	2, 5-ヘキサンジオン (2, 5-HD)	尿 3	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 5	【検体】[検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。 【基準】*1
0399	血液ガス分析	血液	専用	氷冷 冷蔵	電極法		※ ①	1 2	【基準】12頁参照:血液ガス

複数項目の「産業衛生関連検査」をご依頼の場合は、25番容器で尿6mlをご提出ください。  
作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出ください。

\*1 : 11頁参照:「特殊健診項目」名称及び分布区分

\*2 : マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸(PGA)および合算値(MA+PGA)の3つの値をご報告します(分布区分はご報告しません)。

\*3 : 生物学的許容量:0.43g/L以下は、ほとんど全ての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度です。

① : 当該保険医療機関内で実施した場合のみ算定可能。

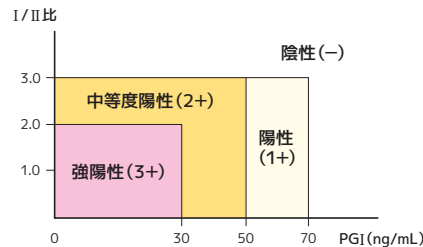
## ▶ 特殊健診項目 名称および分布区分

項目コード	対象物質名	検査項目名	単位	分布		
				1	2	3
2748	鉛	鉛	μg/dL	≤ 20	20 <, ≤ 40	40 <
2189		δ-アミノレブリン酸	mg/L	≤ 5	5 <, ≤ 10	10 <
2603		赤血球プロトポルフィリン	μg/dL 全血	≤ 40	40 <, ≤ 100	100 <
2740	トルエン	馬尿酸	g/L	≤ 1	1 <, ≤ 2.5	2.5 <
2741	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	≤ 0.5	0.5 <, ≤ 1.5	1.5 <
7378	スチレン	スチレン代謝物	g/L	—	—	—
2730	エチルベンゼン	マンデル酸 E B	g/L	—	—	—
2746	N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	≤ 10	10 <, ≤ 40	40 <
2747	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	mg/L	≤ 2	2 <, ≤ 5	5 <
2743	1,1,1-トリクロロエタン	TTC 111-トリクロロエタン (総三塩化物)	mg/L	≤ 10	10 <, ≤ 40	40 <
2744		TCA 111-トリクロロエタン (トリカル酢酸)	mg/L	≤ 3	3 <, ≤ 10	10 <
2754	トリクロロエチレン	TTC トリクロロエチレン (総三塩化物)	mg/L	( ≤ 100 )	( 100 <, ≤ 300 )	( 300 < )
2751		TCA トリクロロエチレン (トリカル酢酸)	mg/L	( ≤ 30 )	( 30 <, ≤ 100 )	( 100 < )
2793	テトラクロロエチレン	TTC テトラクロロエチレン (総三塩化物)	mg/L	( ≤ 3 )	( 3 <, ≤ 10 )	( 10 < )
2796		TCA テトラクロロエチレン (トリカル酢酸)	mg/L	( ≤ 3 )	( 3 <, ≤ 10 )	( 10 < )
7377	メチルイソブチルケトン	尿中メチルイソブチルケトン	mg/L	—	—	—

出典：鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)、有機溶剤等健康診断個人票(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号)、有機溶剤等健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)、特定化学物質健康診断結果報告書(特定化学物質等障害予防規則、様式第3号)  
 ※2014年11月よりスチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンにつきましては、有機溶剤中毒予防規則(有機則)から特定化学物質障害予防規則(特化則)の対象物質に位置づけられ、分布区分の報告義務はなくなりました。

## ▶ ペプシノゲン(PG)による胃粘膜萎縮度の判定基準

判定	測定値	
	PG I (ng/mL)	I / II 比
強陽性	3+	30 以下 かつ 2.0 以下
中等度陽性	2+	50 以下 かつ 3.0 以下
陽性	1+	70 以下 かつ 3.0 以下
陰性	—	上記条件以外



## ▶ 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の判定基準と胃の健康度

### 【胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の判定基準】

PG 法		<i>H. pylori</i> 抗体法 (LA)	
		(-) 4U/mL 未満	(+) 4U/mL 以上
(-)	(-)	A 群	B 群
(+)	(-)	D 群	C 群

判定対象外→E群(ピロリ菌の除菌治療を受けた方)

判定基準(陽性)

PG→ペプシノゲンI:70ng/mL以下かつペプシノゲンI/II比:3.0以下

### 【胃の健康度】

- A群**：健康な胃で、胃の病気になる危険性は低いです。内視鏡検査をお勧めします。
- B群**：少し弱った胃で、潰瘍などにご注意下さい。内視鏡検査とピロリ除菌をお勧めします。
- C群**：萎縮の進んだ弱った胃粘膜です。定期的な内視鏡検査とピロリ除菌をお勧めします。
- D群**：萎縮が非常に進んだ胃粘膜です。必ず内視鏡検査などの診断を受けましょう。

## ▶ 基準値一覧

### ■ 蛋白分画

		百分率 (%)
アルブミン	ALB	58.2 ~ 72.4
α1-グロブリン	α1-GLB	1.7 ~ 3.0
α2-グロブリン	α2-GLB	5.3 ~ 9.5
β-グロブリン	β-GLB	7.5 ~ 12.0
γ-グロブリン	γ-GLB	10.2 ~ 22.9

### ■ ケトン分画(静脈血)

	(μmol/L)
総ケトン体	26 ~ 122
アセト酢酸	13 ~ 69
3-ヒドロキシ酪酸	76 以下

■ 全脂質脂肪酸分画

分画成分名	略号	濃度 (µg/mL)	成分比 (weight%)
ラウリン酸	C12:0	4.2 以下	0.16 以下
ミリスチン酸	C14:0	8.2 ~ 40	0.33 ~ 1.17
ミリストレイン酸	C14:1 ω 5	3.4 以下	0.10 以下
パルミチン酸	C16:0	451 ~ 898	18.38 ~ 22.80
パルミトレイン酸	C16:1 ω 7	25 ~ 112	0.90 ~ 3.05
ステアリン酸	C18:0	164 ~ 306	6.30 ~ 9.10
オレイン酸	C18:1 ω 9	432 ~ 1069	17.53 ~ 26.82
リノール酸	C18:2 ω 6	697 ~ 1280	25.30 ~ 37.02
γ-リノレン酸	C18:3 ω 6	3.6 ~ 22	0.14 ~ 0.71
リノレン酸	C18:3 ω 3	10 ~ 41	0.31 ~ 1.06
アラキジン酸	C20:0	1.2 ~ 2.7	0.07 以下
エイコセン酸	C20:1 ω 9	3.2 ~ 8.2	0.12 ~ 0.23
エイコサジエン酸	C20:2 ω 6	3.6 ~ 10	0.17 ~ 0.29
5-8-11 エイコサトリエン酸	C20:3 ω 9	1.2 ~ 5.4	0.17 以下
ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3 ω 6	23 ~ 72	0.92 ~ 2.24
アラキドン酸	C20:4 ω 6	142 ~ 307	4.86 ~ 9.42
エイコサペンタエン酸	C20:5 ω 3	12 ~ 112	0.36 ~ 3.42
ベヘニン酸	C22:0	1.3 ~ 2.6	0.08 以下
エルシン酸	C22:1 ω 9	1.4 以下	0.04 以下
ドコサテトラエン酸	C22:4 ω 6	2.9 ~ 7.6	0.11 ~ 0.23
ドコサペンタエン酸	C22:5 ω 3	26 ~ 60	0.98 ~ 1.79
リグノセリン酸	C24:0	1.6 ~ 2.9	0.09 以下
ドコサヘキサエン酸	C22:6 ω 3	51 ~ 185	1.69 ~ 5.55
ネルボン酸	C24:1 ω 9	2.1 ~ 4.0	0.13 以下
T/T 比 (C20:3 ω 9/C20:4 ω 6)		0.02 以下*	
EPA/AA 比 (C20:5 ω 3/C20:4 ω 6)		0.06 ~ 0.44 *	

\*: 単位なし

■ 血液ガス

項目	基準値	単位
PH	7.38 ~ 7.46	
PCO2	32.00 ~ 46	mmHg
PO2	74 ~ 108	mmHg
BE	-2 ~ 2	mmol/L
tCO2	22.0 ~ 30.0	mmol/L
HCO3	21.0 ~ 29.0	mmol/L
SO2	92 ~ 96	%
tHB		g/dL
大気圧		mmHg

■ 脂肪酸4分画

分画成分名	略号	(µg/mL)
アラキドン酸 (AA)	C20:4 ω 6	142 ~ 307
エイコサペンタエン酸 (EPA)	C20:5 ω 3	12 ~ 112
ジホモ-γ-リノレン酸 (DHLA)	C20:3 ω 6	23 ~ 72
ドコサヘキサエン酸 (DHA)	C22:6 ω 3	51 ~ 185
EPA/AA 比 (C20:5 ω 3/C20:4 ω 6)		0.06 ~ 0.44 *
DHA/AA 比 (C22:6 ω 3/C20:4 ω 6)		0.25 ~ 0.81 *
(EPA+DHA)/AA 比 (C20:5 ω 3+C22:6 ω 3)/C20:4 ω 6		0.30 ~ 1.11 *

\*: 単位なし

■ アイソザイム 基準値/活性値換算基準値(参考基準値)

項目	分画成分	基準値 (%)	活性値換算基準値 (U/L)
LDH アイソザイム	LDH-1	20.0 ~ 31.0	-
	LDH-2	28.8 ~ 37.0	-
	LDH-3	21.5 ~ 27.6	-
	LDH-4	6.3 ~ 12.4	-
	LDH-5	5.4 ~ 13.2	-
ALP アイソザイム	ALP 1	0.0 ~ 5.3	-
	ALP 2	36.6 ~ 69.2	-
	ALP 3	25.2 ~ 54.2	-
	ALP 4	-	-
	ALP 5	0.0 ~ 18.1	-
	ALP 6	-	-
CK アイソザイム	CK-BB	0 ~ 2	0 ~ 2
	CK-MB	0 ~ 3	0 ~ 4
	CK-MM	96 ~ 100	45 ~ 240

■ リポ蛋白分画

	男性 (%)	女性 (%)
α分画	26.9 ~ 50.5	32.6 ~ 52.5
pre β分画	7.9 ~ 23.8	6.6 ~ 20.8
β分画	35.3 ~ 55.5	33.6 ~ 52.0

■ リポ蛋白分画(PAGE)

	男性 (%)	女性 (%)
HDL (高比重リポ蛋白)	22 ~ 50	26 ~ 53
LDL (低比重リポ蛋白)	44 ~ 69	42 ~ 65
VLDL (超低比重リポ蛋白)	5 ~ 20	4 ~ 17

## ■ アミノ酸分画基準値

成分名	略号	血漿 (nmol/mL)	尿 (μmol/L)
タウリン	Tau	34.5 ~ 80.6	23.3 ~ 2349
ホスフォエタノールアミン	PEA	5.0 以下	65.5 以下
アスパラギン酸	Asp	5.7 以下	13.8 以下
ヒドロキシプロリン	Hyp	19.7 以下	20.2 以下
トレオニン	Thr	89.2 ~ 241.6	28.7 ~ 788.8
セリン	Ser	78.4 ~ 200.1	56.4 ~ 1062
アスパラギン	Asn	37.7 ~ 78.5	20.6 ~ 361.8
グルタミン酸	Glu	13.3 ~ 86.7	33.6 以下
グルタミン	Gln	503.4 ~ 851.4	57.8 ~ 1439
サルコシン	Sarco	5.0 以下	12.7 以下
α-アミノアジピン酸	α-AAA	5.0 以下	117.2 以下
プロリン	Pro	89.8 ~ 304.7	42.0 以下
グリシン	Gly	136.8 ~ 397.7	277.7 ~ 4443
アラニン	Ala	253.6 ~ 601.9	38.4 ~ 956.7
シトルリン	Cit	18.2 ~ 50.1	34.4 以下
α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.2 ~ 40.1	33.7 以下
バリン	Val	162.9 ~ 351.4	5.1 ~ 94.4
シスチン	Cys Cys	34.9 ~ 77.7	221.8 以下
メチオニン	Met	18.1 ~ 43.5	25.1 以下
シスタチオニン	Cysthio	5.0 以下	58.4 以下
イソロイシン	Ile	44.9 ~ 120.3	30.9 以下
ロイシン	Leu	84.4 ~ 200.2	77.5 以下
チロシン	Tyr	46.7 ~ 103.6	10.0 ~ 263.6
β-アラニン	β-Ala	8.0 以下	84.6 以下
フェニルアラニン	Phe	49.0 ~ 90.8	7.9 ~ 135.5
β-アミノイソ酪酸	BAIBA	6.7 以下	7.8 ~ 3013
ホモシスチン	Homocys	5.0 以下	5.0 以下
γ-アミノ酪酸	GABA	5.0 以下	5.0 以下
モノエタノールアミン	MEA	6.7 ~ 12.2	73.6 ~ 1076
ヒドロキシリジン	Hyl	5.0 以下	46.0 以下
オルニチン	Orn	50.8 ~ 137.4	76.1 以下
1-メチルヒスチジン*1	1-Me-His	26.5 以下	23.2 ~ 1990
ヒスチジン	His	68.0 ~ 116.6	86.1 ~ 2375
リジン	Lys	138.6 ~ 294.2	20.2 ~ 1500
3-メチルヒスチジン*2	3-Me-His	7.2 以下	26.2 ~ 755.8
トリプトファン	Trp	46.7 ~ 92.0	8.4 ~ 186.7
アンセリン	Ans	5.0 以下	85.4 以下
カルノシン	Carno	5.0 以下	51.9 以下
アルギニン	Arg	44.1 ~ 115.2	77.4 以下
アロイソロイシン	allo-Ile	5.0 以下	5.0 以下
グリシルプロリン	Gly-Pro	5.0 以下	32.8 以下
ホモシトルリン	hCit	5.0 以下	43.0 以下
S-スルホシステイン	SSC	5.0 以下	27.0 以下
キヌレニン	Kyn	5.0 以下	16.9 以下
アルギニノコハク酸	ASA	5.0 以下	22.8 以下
フィッシャー比*3		2.36 ~ 4.69*4	-

### 〈血漿〉

血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸 (Asp, Glu, Ala, Lys) が増加をきたします。  
溶血血漿では Asp, Glu が著しい高値を、Cys Cys, Trp が低値を示します。

### 〈尿〉

畜尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝 2 番尿による測定をお勧めします。

\*1: 1-メチルヒスチジンの IUPAC 名は「3-メチル-L-ヒスチジン」

\*2: 3-メチルヒスチジンの IUPAC 名は「1-メチル-L-ヒスチジン」

\*3: フィッシャー比 =  $\frac{\text{バリン} + \text{イソロイシン} + \text{ロイシン}}{\text{チロシン} + \text{フェニルアラニン}}$

\*4: 単位なし

## ■ アミノ酸11分画基準値

成分名	略号	血漿 (nmol/mL)
バリン	Val	162.9 ~ 351.4
メチオニン	Met	18.1 ~ 43.5
イソロイシン	Ile	44.9 ~ 120.3
ロイシン	Leu	84.4 ~ 200.2
チロシン	Tyr	46.7 ~ 103.6
フェニルアラニン	Phe	49.0 ~ 90.8
オルニチン	Orn	50.8 ~ 137.4
ヒスチジン	His	68.0 ~ 116.6
リジン	Lys	138.6 ~ 294.2
トリプトファン	Trp	46.7 ~ 92.0
アルギニン	Arg	44.1 ~ 115.2
フィッシャー比*1		2.36 ~ 4.69*2

### 〈血漿〉

血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸 (Asp, Glu, Ala, Lys) が増加をきたします。  
溶血血漿では Asp, Glu が著しい高値を、Cys Cys, Trp が低値を示します。

### 〈尿〉

畜尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝 2 番尿による測定をお勧めします。

\*1: フィッシャー比 =  $\frac{\text{バリン} + \text{イソロイシン} + \text{ロイシン}}{\text{チロシン} + \text{フェニルアラニン}}$

\*2: 単位なし

クレアチニン・クリアランスの検体採取方法

60分法、120分法

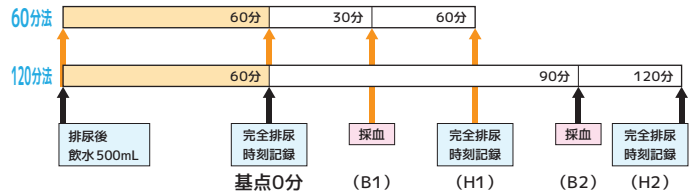
- 1) 排尿後、微温水500mLを飲ませてください。
- 2) 飲水後、約60分後に放尿させ、完全に排尿し終わった時の時刻を正確に(1分以内の誤差で)記録してください。

60分法の場合

- 3) 開始30分後に2mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B1)
- 4) 開始約1時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録してください。(H1)

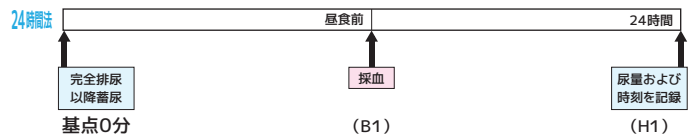
120分法の場合

- 3) 開始90分後に2mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B2)
- 4) 開始約2時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録してください。(H2)
- 5) 以上のようにして得た血清および尿を冷蔵保存し、所定量を提出して下さい。その際、年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を必ず明記してください。



24時間法

- 1) 一定時刻に完全排尿させ、以後の尿を翌日の同時刻まで冷所に蓄尿してください。
- 2) 昼食前に2mL採血し溶血を避けて血清分離してください。(B1)
- 3) 蓄尿終了時に正確に尿量を記録してください。(H1)
- 4) 以上のようにして得た血清および尿を冷蔵保存し、所定量を提出して下さい。その際、年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を必ず明記してください。



ICGの検体採取方法

早朝空腹時に採血(検査終了まで安静仰臥)してください。

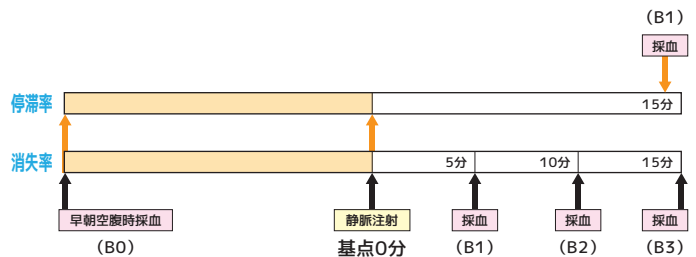
- 1) 負荷前に5mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B0)
- 2) ICG試験薬25mgを無菌蒸留水5mLに溶解し、体重10Kgにつき1mLの割合で肘静脈より30秒以内に症状に注意しながら徐々に静脈注射してください。

停滞率

- 3) 注射後15分に注射時と反対側から5mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B1)

消失率

- 3) 注射後5分(B1)、10分(B2)、15分(B3)に注射時と反対側から5mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。
- 4) 以上のようにして得た血清(B0, B1)を冷蔵にて暗所に保存し、遮光し所定量を提出してください。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
0581	フェノバルビタール	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	10.0 ~ 40.0	[470]	1 5 2	【参考】主な商品名:フェノバル、フェノバルビタール 【算定】*1
		血清 0.4	03						
2812	プリミドン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	EMIT 法	5 ~ 12	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:プリミドン 【算定】*1
		血清 0.3	02						
0582	フェニトイン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	10.0 ~ 20.0	[470]	1 5 2	【参考】主な商品名:ピダントール、アレピアチン 【算定】*1
		血清 0.4	03						
0583	カルバマゼピン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	4.0 ~ 12.0	[470]	1 5 2	【参考】主な商品名:テグレートール、カルバマゼピン 【算定】*1
		血清 0.4	03						
0584	バルプロ酸ナトリウム	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	50 ~ 100	[470]	1 5 2	【参考】主な商品名:デパケン、バレリン、セレニカR 【算定】*1
		血清 0.4	03						
2817	エトサキシミド	血液 2	03	冷蔵 (4週)	EIA 法	40 ~ 100	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:ザロンチン、エビレオプチマル 【算定】*1
		血清 0.4	02						
2818	トリメタジオン	血液 2	03	凍結 (30日)	LC-MS/MS 法	300 ~ 500	[470]	4 5 10	【項目】活性代謝物であるジメタジオンを測定します。 【参考】主な商品名:ミノアレ 【算定】*1
		血清 0.5	02						
2811	クロナゼパム	血液 2	03	冷蔵 (2週)	LC-MS/MS 法	10 ~ 70	[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:ランドセン、リボトリール 【算定】*1
		血清 0.5	02						
2835	ニトラゼパム	血液 2	03	冷蔵 (3週)	LC-MS/MS 法	20 ~ 100	[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:ベンザリン、ネルボン 【算定】*1
		血清 0.5	02						
2836	ジアゼパム	血液 2	03	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	有効治療濃度 200 ~ 500 中毒域 1000 以上	[470]	3 5 5	【参考】主な商品名:セルシン、ホリゾン、ジアパックス、セナミン、ダイアップ 【項目】*2 【基準】*3 【算定】*1
		血清 0.5	02						
2822	ゾニサミド	血液 1	03	冷蔵 (4週)	ラテックス凝集法	トラフ 10 ~ 30	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:エクセグラ、トレリーフ 【算定】*1
		血清 0.3	02						
2893	ガバペンチン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法		[470]	3 5 5	【検体】EDTA血漿も検査可。 【参考】主な商品名:ガバペン 【算定】*1
		血清 *2 0.3	02						
2826	クロバザム	血液 2	03	冷蔵 (3週)	LC-MS/MS 法	トラフ クロバザム: 30~300 デスメチルクロバザム: 300~3,000	[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:マイスタン 【項目】*4 【算定】*1
		血清 0.5	02						
2896	レベチラセタム	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LC-MS 法	トラフ 12 ~ 46	[470]	3 5 4	【検体】EDTA血漿も検査可。 【参考】主な商品名:イーケブラ 【算定】*1
		血清 *2 0.3	02						

【ご注意】「主な薬物検査の採血時期」(19頁)をご参照ください。

血中薬物検査をご依頼の際は、分離剤入り採血管は使用しないでください(測定値が分離剤の影響を受ける場合があります)。

\*1 : 20頁参照: 特定薬剤治療管理料

\*2 : ジアゼパムおよび活性代謝物であるデスメチルジアゼパムの各定量値をご報告します。

\*3 : 有効治療濃度、中毒域は、ジアゼパムの値です。

\*4 : クロバザムおよび活性代謝物であるデスメチルクロバザムの各定量値をご報告します。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
2895	ラモトリギン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	トラフ 2.5 ~ 15	[470]	3 5 4	【検体】 EDTA血漿も検査可。 【参考】 主な商品名: ラミクター 【算定】 *1
		血清 *1 0.3							
2897	トピラマート	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	トラフ 5 ~ 20	[470]	3 5 4	【検体】 EDTA血漿も検査可。 【参考】 主な商品名: トピナ 【算定】 *1
		血清 *1 0.3							
2863	ペランパネル	血液 1	14 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法		[470]	3 5 4	【参考】 主な商品名: フィコンパ 【検体】 *2 【算定】 *1
		EDTA血漿 0.3							
2989	ラコサミド	血液 1	14 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法		[470]	3 5 4	【参考】 主な商品名: ビムパット 【検体】 *2 【算定】 *1
		EDTA血漿 0.3							
2831	リチウム	血液 2	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	原子吸光法	0.3 ~ 1.2 (早朝服薬前)	[470]	2 5 3	【参考】 主な商品名: リーマス 【項目】 *3 【算定】 *1
		血清 0.5							
2855	ハロペリドール	血液 2	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法 (CEDIA)	3 ~ 17	[470]	2 5 3	【参考】 主な商品名: セレネース、ハロステン 【項目】 *4 【算定】 *1
		血清 0.4							
3036	ブロムペリドール	血液 2	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法 (CEDIA)	15 以下	[470]	2 5 3	【参考】 主な商品名: インプロメン 【項目】 *4 【算定】 *1
		血清 0.4							
2874	キニジン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	KIMS 法	2.3 ~ 5.0	[470]	2 5 3	【参考】 主な商品名: 硫酸キニジン 【算定】 *1
		血清 0.3							
2877	プロカインアミド	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	HEIA 法	4 ~ 8	[470]	2 5 3	【参考】 主な商品名: アミサリン 【算定】 *1
		血清 0.3							
2875	ジソピラミド	血液 2	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法	2 ~ 5	[470]	2 5 3	【参考】 主な商品名: リスモダン 【算定】 *1
		血清 0.4							
2873	リドカイン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EMIT 法	有効治療濃度 1.5 ~ 5 中毒域 5 以上	[470]	2 5 3	【参考】 主な商品名: キシロカイン、オリベス 【算定】 *1
		血清 0.3							
2886	アプリンジン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	0.25 ~ 1.25	[470]	3 5 4	【参考】 主な商品名: アスペノン 【算定】 *1
		血清 0.3							
3037	塩酸ピルジカイニド	血液 2	10 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	0.2 ~ 0.9	[470]	3 5 4	【参考】 主な商品名: サンリズム 【算定】 *1
		へパリン血漿 0.5							
2823	プロパフェノン	血液 2	10 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	50 ~ 1500	[470]	3 5 5	【参考】 主な商品名: プロノン 【項目】 *5, 6 【算定】 *1
		へパリン血漿 0.5							

【ご注意】 「主な薬物検査の採血時期」(19頁)をご参照ください。

血中薬物検査をご依頼の際は、分離剤入り採血管は使用しないでください(測定値が分離剤の影響を受ける場合があります)。

\*1 : 20頁参照: 特定薬剤治療管理料

\*2 : 血清も検査可(その際は分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります)。

\*3 : ①血清リチウム濃度が1.5mEq/Lを超えたときは臨床症状の観察を十分にを行い、必要に応じて減量または休薬などの処置を行って下さい。

②血清リチウム濃度が2.0mEq/Lを超えたときは過量投与による中毒を起こすことがあるので、減量または休薬して下さい。

\*4 : 本検査は、ハロペリドールとブロムペリドールにほぼ同等の交差反応性を示します。したがって、2薬剤を併用している患者ではそれぞれの薬剤の正確な測定値を得ることはできません。

\*5 : 有効治療濃度はプロパフェノンと5-OHプロパフェノンとの総量値です。

\*6 : プロパフェノンおよび主代謝物である5-OHプロパフェノンの各定量値をご報告します。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
2882	メキシレチン	血液 2	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	0.5 ~ 2.0 (不整脈患者)	[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:メキシチール、チルミメール 【算定】*1
		血清 0.5							
3038	アミオダロン	血液 2	10 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法		[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:アンカロン 【項目】*2【算定】*1
		ヘパリン血漿 0.5							
2890	塩酸ピルメノール	血液 2	10 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法		[470]	3 5 6	【参考】主な商品名:ピメノール 【項目】*3【算定】*1
		ヘパリン血漿 0.5							
2888	コハク酸シベンゾリン	血液 2	10 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	70 ~ 250 朝投与前(トラフ濃度)	[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:シベノール 【算定】*1
		ヘパリン血漿 0.5							
2887	フレカイニド	血液 2	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	200 ~ 1000	[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:タンボコール 【算定】*1
		血清 0.5							
2898	ベプリジル	血液 1	14 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	250 ~ 800	[470]	3 5 4	【参考】主な商品名:ベプリコール 【検体】*4【算定】*1
		EDTA血漿 0.3							
0595	ジゴキシシン	血液 2	01 ↓ 03	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	0.9 ~ 2.0	[470]	1 5 2	【参考】主な商品名:ジゴシン 【算定】*1
		血清 0.4							
0591	テオフィリン	血液 2	01 ↓ 03	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	10.0 ~ 20.0	[470]	1 5 2	【参考】主な商品名:スロービット、テオドール、テオロング、ユニフィル 【項目】*5【算定】*1
		血清 0.4							
2904	ゲンタマイシン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EMIT 法	グラム陰性菌感染症に対する標準治療 ピーク 15 ~ 20 トラフ 1 未満	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:ゲンタシン、エルタシン 【算定】*1
		血清 0.3							
2905	トブラマイシン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	HEIA 法	グラム陰性菌感染症に対する標準治療 ピーク 15 ~ 20 トラフ 1 未満	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:トブラシン 【算定】*1
		血清 0.3							
2906	アミカシン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	KIMS 法	グラム陰性菌感染症に対する標準治療 ピーク 50 ~ 60 トラフ 4 未満	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:アミカマイシン 【算定】*1
		血清 0.3							
2922	アルベカシン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	ピーク 15 ~ 20 トラフ 1~2 未満	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:ハベカシン 【算定】*1
		血清 0.3							
2908	バンコマイシン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	トラフ 10 ~ 15	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:塩酸バンコマイシン 【算定】*1
		血清 0.3							
2923	テイコプラニン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	トラフ 15 ~ 30	[470]	2 5 3	【参考】主な商品名:タゴシッド 【算定】*1
		血清 0.3							

【ご注意】「主な薬物検査の採血時期」(19頁)をご参照ください。

血中薬物検査をご依頼の際は、分離剤入り採血管は使用しないでください(測定値が分離剤の影響を受ける場合があります)。

\*1 : 20頁参照: 特定薬剤治療管理料

\*2 : アミオダロンおよび主代謝物であるモノデスエチルアミオダロンの各定量値をご報告します。

\*3 : 最小有効血中濃度は0.40 μg/mL前後と推定されています。

\*4 : 血清も検査可(その際は分離剤入り採血管を使用しないでください。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります)。

\*5 : アミノフィリン(テオフィリンエチレンジアミン)はテオフィリンを測定します。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
2894	ポリコナゾール	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	トラフ 1~2 以上 トラフ 4~5 以上の場 合に肝障害に注意する	[470]	3 ↓ 4	【参考】主な商品名:ブイフェン ド 【算定】*1
		血清 0.3							
2944	アセトアミノフェン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	HEIA 法	中毒域 4時間後 200以上 12時間後 50以上	185 生1 ①	2 ↓ 3	【参考】主な商品名:カロナール
		血清 0.3							
2947	サリチル酸 (アスピリン)	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	酵素法	抗リウマチ薬として 150 ~ 300	[470]	2 ↓ 3	【参考】主な商品名:アスピリン、ハフトロン、ヘパルス 【算定】*1
		血清 0.3							
2878	L-ドーパ	血液 5	14 ↓ 02	凍結	HPLC 法	ng/mL	-	3 ↓ 5	【検体】ヘパリン血漿は検査不可。 【参考】主な商品名:ドバストン、ドバゾール
		EDTA 血漿 2							
2943	メトトレキサート	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (7日)	EIA 法	中毒域(大量投与時) 24時間後 10 以上 48時間後 1 以上 72時間後 0.1 以上	[470]	2 ↓ 3	【参考】主な商品名:メトトレキサート 【算定】*1
		血清 0.3							
2950	シクロスポリン	血液 1	07	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	ng/mL	[470]	2 ↓ 3	【参考】主な商品名:ネオオラール、サンディムン 【検体】*2 【算定】*1
		EDTA加血液							
6553	タクロリムス	血液 1	07	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	ng/mL *1	[470]	2 ↓ 3	【参考】主な商品名:プログラフ 【項目】*3 【検体】*2 【算定】*1
		EDTA加血液							
2988	エベロリムス	血液 1	07	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	ng/mL 免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合のトラフ 3 ~ 8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合のトラフ 5 ~ 15	[470]	2 ↓ 3	【項目】シロリムス投与歴がある患者検体は検査不可。 【参考】主な商品名:サーティカン、アフィニートル 【検体】*2【算定】*1
		EDTA加血液							

【ご注意】「主な薬物検査の採血時期」(19頁)をご参照ください。

血中薬物検査をご依頼の際は、分離剤入り採血管は使用しないでください(測定値が分離剤の影響を受ける場合があります)。

\*1 : 20頁参照:特定薬剤治療管理料

\*2 : 専用採血管に規定量を採血し、必要検体量をご提出下さい。

\*3 : 有効治療濃度は、臓器移植後患者における12時間トラフ値の管理目標を示します。

① : 同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回の測定を行ったときに1回に限り算定できます。

## 主な薬物検査の採血時期

薬剤名	採血時期
-----	------

抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前(トラフ)*
プリミドン	投与直前(トラフ)
フェニトイン	経 口：投与直前(トラフ) 静 注：投与直前(トラフ)
カルバマゼピン	投与直前(トラフ)*
バルプロ酸ナトリウム	
エトサクシミド	
トリメタジオン	
クロナゼパム	
ニトラゼパム	
ジアゼパム	
ゾニサミド	

向精神薬	
リチウム	投与直前(トラフ)
ハロペリドール	投与直前(トラフ)*
ブロムペリドール	投与直前(トラフ)

抗不整脈剤	
キニジン	投与直前(トラフ)
プロカインアミド	
ジソピラミド	カプセル：投与直前(トラフ)および 投与後2~4時間(ピーク) 徐放剤：投与直前(トラフ)および 投与後4~7時間(ピーク) 注射剤：投与直前(トラフ)
リドカイン	静 注：投与後2時間 点滴静注：終了後6~12時間
アプリンジン	経 口：投与直前(トラフ)および 投与後2~4時間(ピーク) 静 注：投与直前(トラフ)
塩酸ピルジカイニド	投与直前(トラフ)
プロパフェノン	経 口：投与直前(トラフ)
メキシレチン	投与直前(トラフ)または 投与後約3時間(ピーク)
ピルメノール	投与直前(トラフ)
アミオダロン	

強心剤	
ジゴキシン	経 口：投与直前(トラフ)または 投与後6時間以降 注射剤：投与直前(トラフ)または 静注後3時間以降

\*：半減期が長いいため随時可能ですが、同一患者では一定時刻に採血することが推奨されます。

薬剤名	採血時期
-----	------

気管支拡張剤	
テオフィリン	速放性製剤：投与直前(トラフ)および 投与後2時間(ピーク) 徐放性製剤：投与直前(トラフ)および 投与後4時間後(ピーク) 静注：点滴静注： 投与直前(トラフ)および 投与後30分(ピーク) 持 続 静 注：投与後4~6時間および その後12~24時間ごと

抗生剤	
ゲンタマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、 終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
トブラマイシン	
アミカシン	
アルベカシン	
バンコマイシン	投与前30分以内(トラフ)
テイコプラニン	

解熱・鎮痛剤	
アセトアミノフェン	投与直前(トラフ) 大量に服薬した患者においては、中毒発現 が疑われる場合に随時

抗炎症・抗リウマチ剤	
サリチル酸	投与直前(トラフ)

抗悪性腫瘍剤	
メトトレキサート	ロイコボリン救療療法時 24,48,72時間後
エベロリムス(アフィニートル)	投与直前(トラフ)

抗パーキンソン薬	
L-ドーパ	経 口：投与直前(トラフ)

免疫抑制剤	
シクロスポリン	経 口：投与直前(トラフ) 静 注：投与直前(トラフ) 必要に応じて投与直後(ピーク)
タクロリムス	経 口：投与直前(トラフ) 静 注：投与直前(トラフ) 必要に応じて投与直後(ピーク)
シロリムス	投与直前(トラフ)
エベロリムス(サーティカン)	投与直前(トラフ)

## 特定薬剤治療管理料

特定薬剤治療管理料1は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。  
(てんかん患者において2種類以上の抗てんかん剤を投与しており、同一暦月に複数の抗てんかん剤の血中濃度を測定した場合、1月に2回に限り算定できる)  
2018年度診療報酬改定により新設された特定薬剤治療管理料2(サリドマイドおよびその誘導体)については省略。

特定薬剤治療管理料

弊社で扱っていない検査項目も掲載しています

薬物名	検査項目 (算定備考上の名称)	特定薬剤治療管理料		加算点	備考	
		1〜3ヶ月	4ヶ月以降			
抗てんかん剤(てんかん)	フェノバルビタール プリミドン フェニトイン カルバマゼピン バルプロ酸ナトリウム エトサクシミド トリメタジオン クロナゼパム ニトラゼパム ジアゼパム ゾニサミド ガバペンチン クロバザム レベチラセタム ラモトリギン トピラマート スチリベントール ルフィナミド ペランパネル ラコサミド	[単一薬剤] 470点	[単一薬剤] 470点	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る)	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合またはてんかん重積状態の患者に対して抗てんかん剤の注射などを行った場合は、所定点数にかかわらず、1回に限り740点を算定する。	
		[複数薬剤] 470点 ×2	[複数薬剤] 470点 ×2			
ジギタリス製剤(心疾患)	ジゴキシン	470点	235点	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る)	<p>数日間以上投与している入院患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。バンコマイシンは1回に限り、530点を加算。</p> <p>気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫または未熟児無呼吸発作</p>	
アミノ配糖体抗生物質(入院中)	ゲンタマイシン トブラマイシン アマカシン アルベカシン					
グリコペプチド系抗生物質(入院中)	バンコマイシン テイコブラニン					
トリアゾール系抗真菌剤(入院中) (重症または難治性真菌感染症、造血幹細胞移植(深在性真菌症の予防を目的とするものに限る))	ボリコナゾール					
テオフィリン(備考参照)	テオフィリン					
不整脈用剤(不整脈)	キニジン プロカインアミド N-アセチルプロカインアミド ジソピラミド リドカイン アブリンジン ピルジカイニド塩酸塩 プロパフェノン メキシレチン フレカイニド シベンソリンコハク酸塩 ピルメノール アミオダロン ソタロール塩酸塩 ベプリジル塩酸塩					
	ハロペリドール製剤 ブロムペリドール製剤(統合失調症)					ハロペリドール ブロムペリドール
	リチウム製剤(躁うつ病)					炭酸リチウム
	バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン(躁うつ病または躁病)					バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン
	免疫抑制剤(臓器移植後)					シクロスポリン タクロリムス水和物 エベロリムス ミコフェノール酸モフェチル
免疫抑制剤(備考参照)	シクロスポリン	470点	2740点 (臓器移植を行った月 から3月以内)	臓器移植後の患者でミコフェノール酸モフェチルまたはエベロリムスを含む2種類以上の免疫抑制剤を投与する場合、ミコフェノール酸モフェチルは6月に1回に限り250点を、エベロリムスは初回投与を行った月を含む3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。		
免疫抑制剤(備考参照)	タクロリムス水和物	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る)	2740点 (臓器移植を行った月 から3月以内)	臓器移植後の患者でミコフェノール酸モフェチルまたはエベロリムスを含む2種類以上の免疫抑制剤を投与する場合、ミコフェノール酸モフェチルは6月に1回に限り250点を、エベロリムスは初回投与を行った月を含む3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。		
サリチル酸系製剤(備考参照)	サリチル酸	235点	235点	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る)	<p>ベーチェット病(活動性、難治性眼症状を有するもの)、その他の非感染性ぶどう膜炎(既存治療で効果不十分で視力低下のおそれのある活動性の中間部または後部の非感染性ぶどう膜炎に限る)、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎(既存治療で十分な効果が得られない患者に限る)、ネフローゼ症候群</p> <p>全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎、間質性肺炎(多発性筋炎または皮膚筋炎に合併するものに限る)</p> <p>若年性関節リウマチ、リウマチ熱、慢性関節リウマチ</p>	
メトトレキサート(悪性腫瘍)	メトトレキサート					
バルプロ酸ナトリウム(片頭痛)	バルプロ酸ナトリウム					
イマチニブ	イマチニブ					
エベロリムス(備考参照)	エベロリムス					
シロリムス製剤(リンパ脈管腫症)	シロリムス					
スニチニブ(腎細胞癌)	スニチニブ					

# 内分泌学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1001	GH (成長ホルモン)	血液 1	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL M 2.47 以下 F 0.13 ~ 9.88 (負荷前安静時)	111 生II	2 5 3	【検体】 EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。
		血清 0.3							
0589	LH (黄体形成ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	mIU/mL 27頁参照:「LH/FSH」 基準値	111 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0590	FSH (卵胞刺激ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	mIU/mL 27頁参照:「LH/FSH」 基準値	111 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1046	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	血液 1	14 ↓ 02	凍結 (10週)	ECLIA 法	pg/mL 7.2 ~ 63.3 (早朝安静時)	194 生II	2 5 3	【検体】 必ず血漿分離の上ご提出ください。 【検体】 抗凝固剤として必ずEDTAをご使用ください。 【検体】 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。
		EDTA血漿 0.3							
0175	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	μIU/mL 0.500 ~ 5.000	104 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0592	プロラクチン (PRL)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL 27頁参照:「プロラクチン」 基準値	98 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1098	AVP(ADH) (抗利尿ホルモン)	血液 4	14 ↓ 02	凍結	RIA 法 (二抗体法)	pg/mL 水制限 4.0 以下 自由飲水 2.8 以下	235 生II	5 5 7	【検体】 溶血の影響により、測定値が変動する可能性があります。
		EDTA血漿 1.2							
1076	ソマトメジンC (IGF-1)	血液 2	01	凍結 (4週)	ECLIA 法	ng/mL 27頁参照:「ソマトメジンC」 基準値	218 生II	2 5 3	【依頼】 性別、年齢を必ず明記してください。 【検体】 血漿も検査可
		血清 0.4							
0172	T <sub>4</sub> (総サイロキシン)	血液 2	01	冷蔵 (8日)	ECLIA 法	μg/dL 6.1 ~ 12.4	111 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0171	T <sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL 0.80 ~ 1.60	102 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0174	FT <sub>4</sub> (遊離サイロキシン)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	ng/dL 0.9 ~ 1.7	127 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0173	FT <sub>3</sub> (遊離トリヨードサイロニン)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	pg/mL 2.3 ~ 4.3	127 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0170	サイログロブリン (Tg)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL 33.70 以下	133 生II	1 5 2	
		血清 0.4							

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0451	サイロイドテスト (抗サイログロブリン抗体)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	PA 法 (粒子凝集試験)	100 未満	倍 37 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
0168	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	血液 2	01	冷蔵 (4日)	ECLIA 法	28.0 未満	IU/mL 144 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
0452	マイクロゾームテスト (抗マイクロゾーム抗体)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	PA 法 (粒子凝集試験)	100 未満	倍 37 免疫 ①	1 1 2	
		血清 0.4							
0169	抗TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	血液 2	01	冷蔵 (8日)	ECLIA 法	16.0 未満	IU/mL 146 免疫 ①	1 1 2	
		血清 0.4							
1215	TSHレセプター抗体 (TRAb)	血液 1	01	冷蔵 (6日)	ECLIA 法	2.0 未満	IU/L 226 免疫 ②	2 1 3	
		血清 0.3							
1216	TSAb (TSH刺激性レセプター抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	120 以下	% 340 免疫 ②	3 1 6	【検体】血清以外は検査不可。
		血清 0.5							
1273	カルシトニン (CT)	血液 1	01	凍結 (24ヶ月)	ECLIA 法	M 5.15 以下 F 3.91 以下 (空腹時)	pg/mL 137 生II	2 1 3	
		血清 0.3							
1287	ホールPTH (副甲状腺ホルモンwhole)	血液 2	14 ↓ 02	凍結 (6ヶ月)	ECLIA 法	14.9 ~ 56.9	pg/mL 170 生II ③	2 1 3	【項目】1-84PTHのみを測定します。 【検体】*1, 2, 3
		EDTA 血漿 0.4							
0253	PTHインタクト (副甲状腺ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (1日)	ECLIA 法	10 ~ 65	pg/mL 170 生II ③	1 1 2	【検体】血漿も検査可。
		血清 0.5							
2151	骨型ALP (BAP)	血液 1	01	凍結	CLEIA 法	M 3.7 ~ 20.9 F 閉経前 2.9 ~ 14.5 閉経後 3.8 ~ 22.6	μg/L 161 生II ④	2 1 3	【検体】ヘパリン血漿も検査可。 【項目】*4
		血清 0.3							
1691	TOTAL P1NP (I型プロコラーゲンN-プロペプチド)	血液 1	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	M (30~83歳) 18.1 ~ 74.1 F 閉経前 (30~44歳) 16.8 ~ 70.1 閉経後 (45~79歳) 26.4 ~ 98.2	μg/L 169 生II ④	2 1 3	【検体】溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 【検体】EDTA血漿も検査可。 【項目】*4
		血清 0.3							

\*1 : 必ず血漿分離の上ご提出ください。

\*2 : PTHは採血後、直ちに冷却下で血漿を分離することで不活性化を防ぎます。

\*3 : 血清も検査可(急速凝固管による血清は避けてください)。

\*4 : [骨形成マーカー]BGP, BAP, total P1NP。  
[骨吸収マーカー]NTx, TRACP-5b, Dpyr。

① : 「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」と「マイクロゾームテスト(抗マイクロゾーム抗体)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

② : 「TSHレセプター抗体」と「TSH刺激性レセプター抗体」を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定できます。

③ : 「副甲状腺ホルモン(PTH)」として一連の算定となります。

④ : 「BAP」、「Intact P1NP」、「ALPアインザイム(PAG電気泳動法)」および「total P1NP」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

# 内分泌学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1833	〔骨粗鬆症〕 NTx(血清) 〈I型コラーゲン架橋N-テロペプチド〉	血液 1	01	凍結	EIA 法	nmol BCE/L 28頁参照:「NTx(血清)」 基準値	156 生II ①②③④	3 5 4	【項目】*1
		血清 0.3							
1413	〔骨粗鬆症〕 NTx(尿) 〈I型コラーゲン架橋N-テロペプチド〉	尿 1.5 (早朝2番尿)	25	冷蔵 (5日)	CLEIA法	nmol BCE/mmol・Cr M 13.0 ~ 66.2 F 閉経前 9.3 ~ 54.3 閉経後 14.3 ~ 89.0	156 生II ①②③④	3 5 4	【項目】*1, 2 【報告】*3
1270	TRACP-5b 〈酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ〉	血液 1	01	凍結	EIA 法	mU/dL M 170 ~ 590 F (YAM) 120 ~ 420	156 生II ①②③④	2 5 3	【検体】同一検体での他項目との重複依頼は避けてください(凍結融解によりデータが低値化傾向にあることが確認されています)。 【参考】*4 【項目】*1
		血清 0.3							
1410	〔骨粗鬆症〕 デオキシピリジノリン 〈Dpyr〉	尿 1.5 (早朝2番尿)	25	冷蔵 (6週)	EIA 法	nmol/mmol・Cr 28頁参照:「Dpyr(骨粗鬆症)」基準値	191 生II ①②③④	3 5 5	【検体】遊離型デオキシピリジノリンを測定します。 【検体】早朝2番尿をご提出ください。 【項目】*1, 2 【報告】*5
1110	低カルボキシル化 オステオカルシン 〈ucOC〉	血液 1	01	凍結	ECLIA法	4.50未満	158 生II ⑦	3 5 5	【検体】溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。
		血清 0.3							
1445	カテコールアミン 3分画	血液 3 EDTA 血漿 1	14 ↓ 02	凍結 (10日)	HPLC 法	ng/mL 28頁参照:「カテコールアミン3分画」基準値	170 生II ⑧	3 5 4	【検体】採血後、速やかに血漿分離の後、-20℃以下の条件でご提出ください。 【検体】*6
		酸性蓄尿 各1							
1452	遊離カテコールアミン3分画	酸性蓄尿 各1	25	冷蔵 (4週)	HPLC 法	μg/day 28頁参照:「カテコールアミン3分画」、「遊離カテコールアミン3分画」基準値	170 生II ⑧	3 5 4	【検体】*7
1435	遊離カテコールアミン3分画	酸性蓄尿 各1	25	冷蔵 (5日)	HPLC 法	μg/day 28頁参照:「カテコールアミン3分画」、「遊離カテコールアミン3分画」基準値	170 生II ⑧	3 5 4	【検体】*7
1493	メタネフリン2分画	酸性蓄尿 2	25	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day MN 1日量 0.05 ~ 0.20 NMN 1日量 0.10 ~ 0.28 MN総1日量 0.15 ~ 0.41	221 生II	3 5 4	【報告】メタネフリン濃度(mg/L)、ノルメタネフリン濃度(mg/L)もご報告します。 【検体】*7

\*1: [骨形成マーカー]BGP, BAP, total P1NP。  
[骨吸収マーカー]NTx, TRACP-5b, Dpyr。

\*2: 原発性副甲状腺機能亢進症、あるいは癌の骨転移の診断・治療効果判定指標としての「同名」の各検査項目(項目コード: 1389、1393)とは取り扱いが異なります。骨粗鬆症の検査としてご利用の場合、依頼書上に必ず本欄に記載されている項目コードを明記してください。

\*3: 濃度が15.0nmolBCE/L未満の場合、クレアチニン補正値は【換算不可】でご報告します。

\*4: YAM: 若年者成人平均値

\*5: 濃度が3.0nmol/L未満の場合、クレアチニン補正値は【換算不可】でご報告します。

\*6: 穿刺のストレスのみで増加するため肘静脈に留置針をあらかじめ挿入することが望ましいです。30分以上安静臥床後に採血します。

\*7: 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当り)」または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください(上記はいずれも市販品です。貴院にてあらかじめご購入ください)。

①: 「オステオカルシン」、「NTx」、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

②: 乳癌、肺癌または前立腺癌と既に診断された患者に対し骨転移診断のために行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合には、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。

③: (原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定または)骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定できます。

④: 骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できます。

⑤: 代謝性骨疾患および骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できます。

⑥: 治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できます。

⑦: 骨粗鬆症におけるビタミンK<sub>2</sub>剤の治療選択目的で行った場合または治療経過観察を行った場合に算定できます。ただし、治療開始前においては1回、その後6月以内に1回に限り算定できます。

⑧: 「カテコールアミン分画」として一連の算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1482	VMA (バニリルマンデル酸)	酸性蓄尿	1	25	冷蔵 (4週)	mg/day 1.4 ~ 4.9	90 生II	3 5 4	【報告】バニリルマンデル酸濃度(mg/L)もご報告します。 【検体】*1
1519		尿 (クレアチニン補正)	1	25		冷蔵 (4週)			$\mu\text{g}/\text{mg}\cdot\text{Cr}$ 1.2 ~ 4.9 28頁参照: 正常児参考基準値
1483	HVA (ホモバニリン酸)	酸性蓄尿	1	25	冷蔵 (4週)	mg/day 1.6 ~ 5.5	69 生II	3 5 4	【報告】ホモバニリン酸濃度(mg/L)もご報告します。 【検体】*1
1520		尿 (クレアチニン補正)	1	25		冷蔵 (4週)			$\mu\text{g}/\text{mg}\cdot\text{Cr}$ 1.6 ~ 5.5 28頁参照: 正常児参考基準値
1484	5-HIAA (5-ハイドロキシインドール酢酸)	酸性蓄尿	1	25	冷蔵 (4週)	mg/day 0.6 ~ 4.1	95 生II	3 5 4	【報告】5-HIAA濃度(mg/L)もご報告します。 【検体】*1
1521		尿 (クレアチニン補正)	1	25		冷蔵 (4週)			$\mu\text{g}/\text{mg}\cdot\text{Cr}$ 0.4 ~ 3.5
1531	血漿レニン活性 (PRA)	血液	2	14	凍結 (4週)	EIA 法 臥位 0.2 ~ 2.3 座位 0.2 ~ 3.9 立位 0.2 ~ 4.1	100 生II ①	3 5 4	【検体】必ず血漿分離の上ご提出ください。 【検体】溶結検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 【検体】*2、*3
		EDTA 血漿	0.6	02					
1552	レニン濃度 (PRC)	血液	2	14	凍結 (4週)	CLEIA法 随時: 1.2~35.4 血清の基準値は1.5~42.0pg/mL(随時)	108 生II ①	2 5 3	【項目】活性型を測定します。 【検体】血清も検査可 【検体】*2、4、5
		EDTA 血漿	0.5	02					
1549	アルドステロン	血液	2	14	凍結 (4週)	CLEIA法 随時: 173以下 血清の基準値は170pg/mL以下(随時)	125 生II	2 5 3	【検体】採血後、できるだけ速やかに遠心分離してください。 【検体】血清も検査可。 【検体】*2【参考】*6、7
1551		尿	2	25					冷蔵 (4週)
1555	ACE (アンジオテンシン I 転換酵素)	血液	2	01	冷蔵 (4週)	笠原法 7.7 ~ 29.4	144 生I	2 5 3	【検体】EDTA血漿は検査不可。
		血清	0.5	01					
1534	コルチゾール	血液	1	14	冷蔵 (12週)	CLIA 法 3.7 ~ 19.4 (午前10時以前)	127 生II	2 5 3	【検体】血清も検査可。
		EDTA 血漿	0.3	02					

- \* 1 : 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当たり)」または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください(上記はいずれも市販品です。貴院にてあらかじめご購入ください)。
- \* 2 : 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血を推奨します。
- \* 3 : 臥位は30分以上横になった状態での採血を推奨します。
- \* 4 : 血漿分離後、-20℃以下の条件で速やかに凍結して下さい。
- \* 5 : 氷結点(0℃)前後では冷却活性化によるレニン濃度の上昇が認められます。
- \* 6 : 測定値に42.3を加算するとRIA法相当値になります。
- \* 7 : アルドステロン測定値の解釈は、日本内分泌学会「アルドステロン測定を行っている会員へ的重要なお知らせ」をご参照ください。

① : 「血漿レニン活性(PRA)」、「レニン濃度(PRC)」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。

# 内分泌学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1597	17-KS分画 (17-ケトステロイド分画)	蓄尿 各 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	29頁参照:「17-KS分画」 基準値	213 生II	5 5 7	【依頼】分画数をご指定ください。 【検体】 畜尿時は冷蔵所に保管してください(保存剤による影響はありません)。
1601									
1602	ステロイド10分画	蓄尿 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	29頁参照:「ステロイド10分画」基準値	—	5 5 7	【保存】 畜尿時は冷蔵所に保管してください(保存剤による影響はありません)。 【項目】 *1【基準】 *2
1634	DHEA-S (デハイドロエピアンドロステロンサルフェート)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (3週)	CLEIA 法	28頁参照:「DHEA-S」 基準値	174 生II	2 5 3	
1660	プレグナンジオール (P <sub>2</sub> )	蓄尿 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	29頁参照:「プレグナンジオール(P <sub>2</sub> )」	213 生II	5 5 7	【保存】 畜尿時は冷蔵所に保管してください(保存剤による影響はありません)。
1656	プレグナントリオール (P <sub>3</sub> )	蓄尿 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	29頁参照:「プレグナントリオール(P <sub>3</sub> )」	234 生II	5 5 7	【保存】 畜尿時は冷蔵所に保管してください(保存剤による影響はありません)。
0598	テストステロン	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	M 1.31 ~ 8.71 F 0.11 ~ 0.47	125 生II	1 5 2	【依頼】 性別、年齢を必ず明記してください。 【検体】 午前中(9~12時)に採血してください。
1687	遊離テストステロン	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (2ヶ月)	RIA (チューブ固相法)	29頁参照:「遊離テストステロン」基準値	163 生II	2 5 5	【依頼】 性別、年齢を必ず明記してください。 【検体】 午前中(9~12時)に採血してください。
1655	プロジェステロン	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	29頁参照:「プロジェステロン」基準値	151 生II	2 5 3	【依頼】 妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。
0597	E <sub>2</sub> (エストラジオール)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2日)	ECLIA 法	29頁参照:「エストラジオール(E <sub>2</sub> )」基準値	177 生II	1 5 2	【依頼】 妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。
7783	抗ミュラー管ホルモン (AMH)	血液 2 血清 0.5	01	凍結	CLEIA 法	27頁参照:「抗ミュラー管ホルモン(AMH)」参考基準値	—	3 5 7	
0366	HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (3日)	ECLIA 法	1 以下	138 生II ①	1 5 2	【依頼】 妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。
0367		尿 10	25	冷蔵	ECLIA 法	1 以下	138 生II ①	1 5 2	
0368	(尿)HCG定性(妊娠反応) (ヒト絨毛性ゴナドトロピン)	尿 10	25	冷蔵 (3日)	金コロイドイムノクロマト法		55 生II ①	1 5 2	
1704	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	子宮頸管粘液	71	凍結 (12週)	LA (ラッセクス凝集比濁法)	1.60 以下	122 尿便 ②	2 5 3	必ず指定容器使用 【検体】 *3、4

\*1 : [分画範囲] 17-ケトステロイド7分画,プレグナンジオール,プレグナントリオール,プレグナントリオール

\*2 : プレグナントリオールは定量限界が基準値となります。

\*3 : 必ず専用の採取器具を用い、抽出・濾過検体をご提出ください。

\*4 : 検体採取は陰洗浄前に行ってください。

① : 「HCG定性」、「遊離HCG-β」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。

② : 絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上、満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0287	インスリン (IRI)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	ECLIA 法	1.4 ~ 13.8 $\mu\text{U/mL}$	106 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1385	インスリン抗体	血液 1	01	冷蔵	RIA 法	$^{125}\text{I}$ -insulin結合率 0.4%未満 濃度 125 nU/mL 未満	110 免疫	3 5 6	
		血清 0.3							
5537	抗GAD抗体	血液 1	01	冷蔵 (2週)	EIA 法	5.0 未満 U/mL	134 生II ①	2 5 4	
		血清 0.3							
5497	抗IA-2抗体	血液 2	01	冷蔵	EIA 法	0.6 未満 U/mL	213 生II ②	3 5 9	
		血清 0.4							
1321	C-ペプチド (CPR)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	0.6 ~ 1.8 (空腹時負荷前) ng/mL	111 生II ③	2 5 3	【検体】急速凝固管による血清は避けてください。
		血清 0.4							
1369		蓄尿 または 部分尿 0.4	16	凍結 (12週)		20.1 ~ 155 $\mu\text{g/day}$	111 生II ③		【検体】全尿保存の場合は、必ず専用保存剤を添加してください。 【検体】*1
		尿 0.4							
1306	ガストリン	血液 2	01	凍結 (12週)	RIA 法 (PEG法)	37 ~ 172 pg/mL	104 生II	2 5 5	
		血清 0.4							
1097	HANP (ヒト心房性Na利尿ペプチド)	血液 2	08 ↓ 02	凍結 (12週)	FEIA 法	43.0 以下 pg/mL	227 生II ④⑤	2 5 3	必ず指定容器使用 【検体】必ず血漿分離の上、ご提出ください。 【検体】*2, 3 【容器】*4
		血漿 0.3							
0259	BNP (脳性Na利尿ペプチド)	血液 2	96 ↓ 02	凍結	CLEIA法	18.4 以下 pg/mL	136 生II ④⑤⑥	1 5 2	
		EDTA 血漿 0.4							
0254	NT-proBNP (脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	血液 2	01	冷蔵 (6日)	ECLIA 法	125 以下 pg/mL	136 生II ④⑤⑥	1 5 2	
		血清 0.5							
1723	エリスロポエチン (EPO)	血液 3	01	凍結 (12週)	CLEIA 法	4.2 ~ 23.7 mIU/mL	209 生II ⑦	2 5 3	
		血清 0.7							

\*1 : 部分尿の場合は濃度(単位:  $\mu\text{g/L}$ )をご報告します(その場合、基準値はありません)。

\*2 : 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。

\*3 : 長時間全血のままの放置は避けてください。EDTA採血の場合は、直ちに分離の上、凍結保存してください。

\*4 : 専用容器(EDTA・アプロチニン入り)はあらかじめご依頼ください。

① : すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合または自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できます。

② : すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗GAD抗体」陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できます。算定するに当たっては「抗GAD抗体」の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄へ記載することが必要です。

③ : 血液および尿の検体を同時に測定した場合は、血液の所定点数のみを算定できます。

④ : 「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から1週間以内に併せて実施した場合は、主たる1項目のみ算定できます。

⑤ : 「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」のうち2項目以上を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に各々の検査の実施日を記載して下さい。

⑥ : 心不全の診断または病態把握のために実施した場合に、月1回に限り算定できます。

⑦ : 赤血球増加症の鑑別診断、重度の慢性腎不全患者またはエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータベゴルもしくはHIF-PH阻害剤の投与前の透析患者における腎性貧血の診断、および骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定のために行った場合に算定できます。

## 抗ミュラー管ホルモン(AMH) 参考基準値

AMH測定値の年齢別分布(中央値)※RI:Reference Interval

年齢(歳)	N(例)	中央値(ng/mL)	95%RI(基準範囲)(ng/mL)
≤27	558	4.69	0.76 ~ 14.18
28	387	4.27	0.84 ~ 12.44
29	555	4.14	0.86 ~ 11.97
30	663	4.02	0.79 ~ 12.74
31	865	3.85	0.44 ~ 13.08
32	872	3.54	0.62 ~ 13.87
33	959	3.32	0.40 ~ 12.76
34	1,064	3.14	0.38 ~ 11.16
35	1,191	2.62	0.37 ~ 10.18
36	1,122	2.50	0.33 ~ 9.93
37	1,154	2.27	0.24 ~ 8.50
38	1,230	1.90	0.11 ~ 7.81
39	1,176	1.80	0.13 ~ 7.45
40	1,057	1.47	0.08 ~ 6.13
41	888	1.30	0.06 ~ 5.52
42	715	1.00	0.05 ~ 5.81
43	509	0.72	0.03 ~ 4.49
44	309	0.66	0.03 ~ 3.98
45	144	0.41	0.03 ~ 3.43
46 ≤	127	0.30	0.02 ~ 1.67
全群	15,545	2.36	0.12 ~ 10.67

\* JISART(日本生殖補助医療標準化機関)各施設に通院する不妊症患者で当該試薬を用いて測定した16,526例のうち、多嚢胞性卵巣(PCO)(939例)および早期卵巣不全(POI)(42例)と診断された症例を除外した後の、女性15,545例のAMH測定値の年齢別分布(中央値)をノンパラメトリック法により求められています。(国内検討データ)(試薬添付文書より)

### 【判定上の留意事項】

日本産科婦人科学会 生殖・内分泌委員会 生殖医療リスクマネジメント小委員会の報告では、AMH測定に際して留意すべき事項として次の4項目を挙げています。

- ① AMHは卵子の質とは関連しない。
- ② AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巣年齢」の推定はできない。
- ③ 測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられる。
- ④ 測定値が低い場合でも「閉経が早い」という断定はできない。

## 基準値一覧

### ■ LH/FSH

		LH(mIU/mL)	FSH(mIU/mL)
男性		2.2 ~ 8.4	1.8 ~ 12.0
女性	卵胞期	1.4 ~ 15.0	3.0 ~ 10.0
	排卵期	8.0 ~ 100.0	5.0 ~ 24.0
	黄体期	0.5 ~ 15.0	1.3 ~ 6.2
	閉経後	11.0 ~ 50.0	26.0 ~ 120.0

### ■ プロラクチン

		(ng/mL)
男性		4.29 ~ 13.69
女性	閉経前	4.91 ~ 29.32
	閉経後	3.12 ~ 15.39

### ■ ソマトメジン-C

男性(ng/mL)					女性(ng/mL)						
年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD		
0	11 - 149	26	119 - 329	52	86 - 242	0	15 - 154	26	146 - 336	52	78 - 213
1	14 - 148	27	116 - 322	53	85 - 240	1	23 - 186	27	141 - 328	53	77 - 212
2	18 - 154	28	114 - 315	54	84 - 239	2	32 - 213	28	137 - 320	54	76 - 211
3	24 - 164	29	111 - 309	55	84 - 238	3	40 - 227	29	133 - 312	55	75 - 210
4	32 - 176	30	109 - 303	56	83 - 237	4	48 - 238	30	129 - 304	56	74 - 208
5	44 - 193	31	107 - 297	57	82 - 236	5	56 - 252	31	126 - 297	57	73 - 207
6	55 - 215	32	105 - 292	58	81 - 235	6	69 - 287	32	122 - 290	58	72 - 205
7	63 - 247	33	103 - 287	59	80 - 233	7	89 - 357	33	119 - 283	59	71 - 203
8	72 - 292	34	102 - 283	60	79 - 232	8	111 - 438	34	115 - 277	60	70 - 201
9	84 - 350	35	100 - 279	61	77 - 230	9	133 - 517	35	112 - 271	61	69 - 198
10	99 - 423	36	99 - 275	62	76 - 228	10	155 - 588	36	109 - 265	62	68 - 196
11	113 - 499	37	97 - 272	63	75 - 226	11	175 - 638	37	106 - 260	63	66 - 194
12	125 - 557	38	96 - 269	64	73 - 224	12	188 - 654	38	103 - 254	64	65 - 191
13	133 - 579	39	95 - 266	65	72 - 221	13	193 - 643	39	100 - 250	65	64 - 188
14	138 - 570	40	94 - 263	66	70 - 219	14	193 - 625	40	98 - 245	66	62 - 186
15	141 - 552	41	94 - 261	67	68 - 216	15	192 - 614	41	95 - 240	67	61 - 183
16	142 - 543	42	93 - 259	68	66 - 213	16	192 - 611	42	93 - 236	68	60 - 180
17	142 - 540	43	92 - 257	69	65 - 209	17	191 - 599	43	90 - 233	69	59 - 177
18	142 - 526	44	92 - 255	70	63 - 206	18	188 - 574	44	88 - 229	70	57 - 175
19	143 - 501	45	91 - 253	71	61 - 202	19	182 - 539	45	87 - 226	71	56 - 172
20	142 - 470	46	90 - 250	72	58 - 198	20	175 - 499	46	85 - 224	72	55 - 170
21	139 - 436	47	90 - 250	73	56 - 194	21	168 - 459	47	83 - 221	73	54 - 167
22	135 - 405	48	89 - 248	74	54 - 190	22	161 - 425	48	82 - 219	74	53 - 165
23	131 - 379	49	88 - 246	75	52 - 185	23	155 - 397	49	81 - 218	75	52 - 163
24	128 - 356	50	87 - 245	76	50 - 181	24	151 - 375	50	80 - 216	76	50 - 160
25	125 - 337	51	87 - 243	77	48 - 177	25	147 - 358	51	79 - 215	77	49 - 158

■ カテコールアミン3分画

分画成分名	カテコールアミン3分画	
	血漿 (ng/mL)	尿 (μg/day)
アドレナリン(A)	0.17 以下	1.1 ~ 22.5
ノルアドレナリン(NA)	0.15 ~ 0.57	29.2 ~ 118
ドーパミン(DA)	0.03 以下	100 ~ 1,000

■ 遊離カテコールアミン3分画

分画成分名	遊離カテコールアミン3分画 (μg/day)
アドレナリン(A)	0.6 ~ 14.1
ノルアドレナリン(NA)	9.7 ~ 41.4
ドーパミン(DA)	120 ~ 310

■ Dpyr(骨粗鬆症)

正常参考値 (nmol/mmol·Cr)	判定基準 (nmol/mmol·Cr)
男性: 2.1 ~ 5.4	骨量低下リスクのカットオフ値: 5.9 骨折リスクのカットオフ値: 7.6
女性: 2.8 ~ 7.6	

出典: 日本骨粗鬆症学会:Osteoporosis Japan 12:191, 2004.

■ 尿中VMA/HVA(クレアチニン補正):正常児参考基準値

月齢	VMA (μg/mg·Cr) mean ± S.D	HVA (μg/mg·Cr) mean ± S.D
1 ~ 3	8.6 ± 4.10	18.1 ± 6.18
4	8.9 ± 3.35	18.2 ± 4.79
5	9.1 ± 3.20	17.9 ± 4.96
6	9.1 ± 3.25	17.5 ± 4.88
7	9.0 ± 3.29	17.2 ± 5.16
8	8.8 ± 3.43	16.6 ± 5.42
9	8.6 ± 3.20	16.7 ± 5.28
10	8.8 ± 3.32	16.4 ± 5.40
11 ~ 12	8.3 ± 3.44	16.1 ± 5.54
1 ~ 12	9.1 ± 3.38	17.4 ± 4.98

出典: 沼田公介, 他:小児科診療 12, 2921, 1990.

■ I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx):血清

正常参考値 (nmol BCE/L)		判定基準 (nmol BCE/L)
男性	40 ~ 59 歳: 9.5 ~ 17.7	骨量低下リスクのカットオフ値: 13.6 骨折リスクのカットオフ値: 16.5
女性	閉経前 40 ~ 44 歳: 7.5 ~ 16.5	
	閉経後 45 ~ 79 歳: 10.7 ~ 24.0	

出典: 日本骨粗鬆症学会:Osteoporosis Japan 12:191, 2004.  
試薬添付文書

■ DHEA-S

年齢		DHEA-S (μg/dL)
男性	20 ~ 29 歳	159 ~ 538
	30 ~ 39 歳	125 ~ 475
	40 ~ 49 歳	123 ~ 422
	50 ~ 59 歳	76 ~ 386
女性	20 ~ 29 歳	92 ~ 399
	30 ~ 39 歳	58 ~ 327
	40 ~ 49 歳	41 ~ 218
	50 ~ 59 歳	30 ~ 201

## ■ 17-KS分画

		分画成分名	男性 (mg/day)	女性 (mg/day)
7分画	3分画	アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
		エチオコロン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
		デハイドロエピアンドロステロン	2.92 以下	1.49 以下
	11-ケトアンドロステロン	0.50 以下	0.48 以下	
	11-ケトエチオコロン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下	
	11-ヒドロキシアンドロステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17	
	11-ヒドロキシエチオコロン	0.54 以下	0.75 以下	

## ■ ステロイド10分画

		男性 (mg/day)	女性 (mg/day)
ステロイド10分画	アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
	エチオコロン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
	デハイドロエピアンドロステロン	2.92 以下	1.49 以下
	11-ケトアンドロステロン	0.50 以下	0.48 以下
	11-ケトエチオコロン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下
	11-ヒドロキシアンドロステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17
	11-ヒドロキシエチオコロン	0.54 以下	0.75 以下
	プレグナンジオール	0.12 ~ 0.93	(卵胞期) 0.16 ~ 1.28 (黄体期) 0.69 ~ 4.70 (閉経後) 1.00 以下
	プレグナントリオール	0.25 ~ 1.48	(卵胞期) 0.07 ~ 1.24 (黄体期) 0.25 ~ 1.58 (閉経後) 1.00 以下
	プレグナントリオロン	0.5 以下	0.5 以下

## ■ プレグナンジオール(P<sub>2</sub>)

		(mg/day)
女性	男性	0.12 ~ 0.93
	卵胞期	0.16 ~ 1.28
	黄体期	0.69 ~ 4.70
	閉経後	1.00 以下

## ■ プレグナントリオール(P<sub>3</sub>)

		(mg/day)
女性	男性	0.25 ~ 1.48
	卵胞期	0.07 ~ 1.24
	黄体期	0.25 ~ 1.58
	閉経後	1.00 以下

## ■ 遊離テストステロン

年齢	男性 (pg/mL)	女性 (pg/mL)
20 ~ 29 歳	7.6 ~ 23.8	0.4 ~ 2.3
30 ~ 39 歳	6.5 ~ 17.7	0.6 ~ 2.5
40 ~ 49 歳	4.7 ~ 21.6	0.3 ~ 1.8
50 ~ 59 歳	4.6 ~ 19.6	0.8 ~ 1.7 (50歳以上)
60 ~ 69 歳	5.3 ~ 11.5	
70 歳以上	4.6 ~ 16.9	

## ■ エストラジオール(E<sub>2</sub>)

		(pg/mL)
女性	男性	14.6 ~ 48.8
	卵胞期	28.8 ~ 196.8
	排卵期	36.4 ~ 525.9
	黄体期	44.1 ~ 491.9
	閉経後	47.0 以下
妊婦	前期	208.5 ~ 4289.0
	中期	2808.0 ~ 28700.0
	後期	9875.0 ~ 31800.0

## ■ プロジェステロン

		(ng/mL)
女性	男性	0.6 以下
	卵胞期	0.4 以下
	排卵期	3.7 以下
	黄体期	8.5 ~ 21.9
妊婦	前期	23.9 ~ 141
	中期	25.7 ~ 143
	後期	51.2 ~ 326

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0162	AFP (αフェトプロテイン)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	10.0 以下	104 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1800	AFPレクチン分画	血液 2	01	冷蔵 (3週)	LBA 法 (LBA-EATA)	L3分画 10.0 未満	190 生II	3 5 4	
		血清 0.4							
0163	CEA	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	5.0 以下	102 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
2621	BFP (塩基性フェトプロテイン)	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法	75 未満	150 生II	3 5 6	【検体】採血後、凝固確認後速やかに血清分離してください。 【検体】*1
		血清 0.3							
1792	TPA (組織ポリペプチド抗原)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	75 未満	110 生II	2 5 3	【検体】唾液による汚染で高値異常を示す場合がありますので、検体の取り扱いに十分ご注意ください。
		血清 0.4							
0164	CA19-9	血液 2	01	冷蔵 (30日)	ECLIA 法	37 以下	127 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1816	SPan-1 抗原	血液 1	01	冷蔵 (3週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	30 以下	146 生II	2 5 5	
		血清 0.3							
1817	DUPAN-2	血液 2	01	冷蔵 (1週)	EIA 法	150 以下	118 生II	3 5 5	
		血清 0.4							
1336	エラスターゼ1	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	300 以下	126 生II	2 5 3	
		血清 0.5							
1840	PIVKA II 定量 《CLIA》	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	40 未満	139 生II	2 5 3	
		血清 0.4							
1784	SLX (シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原)	血液 1	01	凍結 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	38.0 以下	148 生II	2 5 4	【検体】溶血検体での依頼は避けてください。
		血清 0.3							
1846	NCC-ST-439	血液 2	01	冷蔵 (2週)	EIA 法	M 4.5 未満 F 49歳以下 7.0 未満 50歳以上 4.5 未満	118 生II	3 5 4	【検体】唾液による汚染で高値異常を示す場合がありますので、検体の取り扱いに十分ご注意ください。
		血清 0.4							
1825	BCA225	血液 2	01	冷蔵 (3週)	CLEIA 法	160.0 未満	162 生II	2 5 3	
		血清 0.4							
1814	CA15-3	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	31.3 以下	118 生II	2 5 3	
		血清 0.4							
4099	抗P53抗体	血液 2	01	冷蔵 (1週)	CLEIA 法	1.30 以下	163 生II	2 5 3	
		血清 0.4							

【ご参考】各項目における、「腫瘍部位とマーカーの有用性」(34頁)を掲載しています。

\*1 : 溶血検体、または分離剤入り容器による採血では高値になる場合がありますので、避けてください。

# 腫瘍関連検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
1812	NSE (神経特異エノラーゼ)	血液 1	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	16.3 以下	ng/mL 146 生II	2 5 3	【検体】採血後、凝固後速やかに血清分離してください。 【検体】溶血検体では、NSE値は上昇するため、避けてください。	
		血清 0.3								
1834	Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	血液 1	14 ↓ 02	冷蔵 (10日)	CLIA 法	81.0 未満	pg/mL 175 生II	2 5 3	【検体】ヘパリン血漿も検査可。	
		EDTA 血漿 0.3								
1813	SCC抗原	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	1.5 以下	ng/mL 107 生II	2 5 3	【検体】唾液による汚染で高値異常を示す場合がありますので、検体の取り扱いに十分ご注意ください。	
		血清 0.3								
1867	シフラ (サイトケラチン19フラグメント)	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	3.5 以下	ng/mL 162 生II	2 5 3		
		血清 0.4								
1859	γ-Sm (γ-セミノプロテイン)	血液 2	01	凍結 (8週)	CLEIA 法	4.00 以下	ng/mL 194 生II	2 5 3		
		血清 0.4								
0166	PSA (前立腺特異抗原)	血液 1	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	4.000 以下	ng/mL 127 生II 02	1 5 2		
		血清 0.3								
1871	PSA高感度 (前立腺特異抗原)	血液 1	01	凍結 (12週)	CLIA 法	4.00 以下	ng/mL 127 生II 02	2 5 3	【方法】測定レンジ:0.008~∞ ng/mL 【参考】前立腺癌診断のカットオフ値としては“10.0ng/mL”が推奨されます。	
		血清 0.3								
1873	PSA-ACT	血液 1	01	凍結 (12週)	CLIA 法	3.4 以下	ng/mL 127 生II 02	2 5 5	【参考】前立腺癌診断のカットオフ値としては“7.0ng/mL以下”が推奨されます。	
		血清 0.3								
1874	PSAフリー/トータル比	血液 2	01	凍結 (2週)	CLIA 法	27以上	%	154 生II	2 5 3	【項目】*1【日数】*2
		血清 0.5								
0165	CA125	血液 2	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	35.0 以下	U/mL 144 生II	1 5 2		
		血清 0.5								
1772	HE4 (ヒト精巣上体蛋白4)	血液 1	01	冷蔵 (14日)	CLIA 法	F 閉経前 70.0 以下 閉経後 140 以下	pmol/L 200 生II	3 5 5		
		血清 0.3								
1845	STN (シアリルTn抗原)	血液 1	01	凍結 (12週)	RIA 法 (ビーズ固相法)	45.0 以下	U/mL 146 生II	2 5 4		
		血清 0.3								

【ご参考】 各項目における、「腫瘍部位とマーカーの有用性」(34頁)を掲載しています。

\*1 : 原則として、あらかじめ「総PSA」をご依頼の検体について検査を受託・実施します。なお、「総PSA」をご依頼の際は必ずCLIA法(項目コード:1871)をご指定下さい。他法による「総PSA」値では適正なF/T比の算出ができません。

\*2 : 所要日数は、あらかじめご依頼いただいた「総PSA」の検査結果ご報告後、改めて「PSA F/T比」の追加検査をお受けしてからの日数です。

① : 前立腺癌を強く疑う場合に、前立腺癌の診断の確定または転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定できます。ただし、「PSA」の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合は、3月に1回に限り、3回を上限として算定できます。

② : 当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1849	CA72-4	血液 1	01	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	8.0 以下	146 生II	2 5 3	
		血清 0.3							
1684	遊離HCG-β (HCG-β サブユニット)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	0.1 以下	136 生II ①	2 5 4	【項目】*1 【依頼】妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。
		血清 0.4							
1685		蓄尿 または 部分尿 1	25	凍結 (12週)			136 生II ①		【項目】*1 【依頼】妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。 【検体】*2
		部分尿 1							
1810	I型CTP (I型コラーゲン-C-テロペプチド)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	RIA 法 (二抗体法)	5.5 未満 (骨転移判定のカットオフ値)	※ ②	2 5 4	
		血清 0.5							
5594	sIL-2R (可溶性インターロイキン-2レセプター)	血液 2	01	冷蔵 (14日)	CLEIA 法	121 ~ 613	438 生II	2 5 3	
		血清 0.4							

[ご参考] 各項目における、「腫瘍部位とマーカーの有用性」(34頁)を掲載しています。

\*1 : 本検査は、遊離型のHCG-βのみを測定します(LHとの交差反応は認められません)。

\*2 : トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出ください。

① : 実施料は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合にのみ算定できます。ただし、「HCG定性」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。

② : 「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ保険請求が認められます。

## 検体検査実施料と悪性腫瘍特異物質治療管理料

検査項目名	悪性腫瘍であることが強く疑われる患者		悪性腫瘍であると既に診断が確定した患者	
	検体検査実施料		悪性腫瘍特異物質治療管理料	
尿中 BTA *1	( 80 点 )		220 点	
癌胎児性抗原 ( CEA )	102 点		1 項目 360 点 2 項目以上 400 点  初回月加算 150 点 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。	
α - フェトプロテイン ( AFP )	104 点			
扁平上皮癌関連抗原 ( SCC 抗原 )	107 点			
組織ポリペプチド抗原 ( TPA )	110 点			
DUPAN-2 NCC-ST-439 CA15-3	118 点			
エラスターゼ 1	126 点			
前立腺特異抗原 ( PSA ) CA19-9	127 点			
PIVKA - II 半定量 PIVKA - II 定量	139 点			
CA125	144 点			
CA72-4 SPan-1 シアリル Tn 抗原 ( STN ) 神経特異エノラーゼ ( NSE )	146 点			
核マトリックスプロテイン 22 ( NMP22 ) 定量 ( 尿 ) *2 核マトリックスプロテイン 22 ( NMP22 ) 定性 ( 尿 ) *2	147 点			
シアリル Le <sup>x</sup> -i 抗原 ( SLX )	148 点	2 項目 230 点 3 項目 290 点 4 項目以上 408 点		1 項目 360 点 2 項目以上 400 点  初回月加算 150 点 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
塩基性フェトプロテイン ( BFP )	150 点			
遊離型 PSA 比 ( PSA F/T 比 )	154 点			
サイトケラチン 8・18 ( 尿 ) *2	160 点			
BCA225 サイトケラチン 19 フラグメント ( シフラ )	162 点			
抗 p53 抗体	163 点			
シアリル Le <sup>x</sup> 抗原 ( CSLEX )	164 点			
I 型コラーゲン -C- テロペプチド ( ICTP ) *1	170 点			
ガストリン放出ペプチド前駆体 ( ProGRP )	175 点			
CA54/61 癌関連ガラクトース転換酵素 ( GAT )	184 点			
CA602 α - フェトプロテインレクチン分画 ( AFP-L3% )	190 点			
γ - セミノプロテイン ( γ -Sm )	194 点			
ヒト精巣上体蛋白 4 ( HE4 )	200 点			
可溶性メソテリン関連ペプチド	220 点			
癌胎児性抗原 ( CEA ) 定性 ( 乳頭分泌液 ) 癌胎児性抗原 ( CEA ) 半定量 ( 乳頭分泌液 )	305 点			
HER2 蛋白 *1	320 点			
可溶性インターロイキン -2 レセプター ( sIL-2R )	438 点			
I 型コラーゲン架橋 N- テロペプチド ( NTX ) デオキシピリジノリン ( DPD ) ( 尿 ) 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ ( TRACP-5b )			1 項目 360 点 2 項目以上 400 点  初回月加算 150 点 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。	

[注] \*1: 「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として、のみ算定。  
\*2: 「検体検査実施料」として、のみ算定。

弊社で扱っていない検査項目も掲載しています



腫瘍部位とマーカーの有用性

	肺・乳腺		消化管			肝・胆・膵			性腺・泌尿器			
	肺がん	乳がん	食道がん	胃がん	大腸がん	肝がん	胆嚢・胆道がん	膵がん	卵巣がん	子宮がん	腎・膀胱がん	前立腺がん
CEA	◎		○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
BFP	○				○	○	○	○	○	○	◎	○
TPA	◎	○		○	◎	○	○	○	○	○	○	○
AFP						◎						
AFP レクチン分画						◎						
PIVKA-II						◎						
エラスターゼ 1								◎				
CA19-9				○	○	○	◎	◎				
Span-1				○	○	○	◎	◎				
DUPAN-2				○		○	◎	◎				
NCC-ST-439	◎	◎		○	○	○	◎	◎	○			
SLX	◎					○	◎	◎	◎			
CA125	○			○				○	◎	○		
CA602									◎	○		
HE4									◎			
STN				◎	○			○	◎	○		
CA72-4				◎	○			○	◎	○		
CA54/61				○	○			○	◎	○		
SCC 抗原	◎		○							◎		
CYFRA (シフラ)	◎											
NSE	◎											
ProGRP	◎											
CA15-3		◎										
P53 抗体		◎	◎		◎							
BCA225		◎										
HER2 蛋白		◎										
PAP												◎
PSA												◎
PSA-ACT												◎
PSA・F/T 比												◎
γ-Sm												◎

◎ 特に有用性の高いもの  
○ 有用性が認められているもの

# ウイルス学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考
3566 3589	単純ヘルペス (HSV)	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ~ 5	
3567 3590	水痘・帯状ヘルペス (VZV)	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ~ 5	
3568 3591	サイトメガロ (CMV)	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①②	3 ~ 5	
3559 3582	インフルエンザA型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ~ 5	
3560 3583	インフルエンザB型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ~ 5	
3563 3586	ムンプス	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ~ 5	
3565 3588	日本脳炎	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ~ 5	
3575 3598	コクサッキーA群	9型							
3576 3599	コクサッキーB群	1型							
3577 3600		2型							
3578 3601		3型	血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ~ 5
3579 3602		4型							
3580 3603		5型							
3581 3604		6型							

【ご注意】 補体結合試験(CF):溶血血清では検査不能の場合もあります。

- ① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
- ② : 先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「CMV抗体(CF法)」もしくは「CMV抗体IgG、IgM」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考
3713 3723	インフルエンザ	血液 2	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 原液	79+79 免疫 ①	3 5	【項目】 インフルエンザA型およびB型の流行ワクチン株について、一括で検査を実施します。
		血清 0.4 または 髄液 0.9							
3677 3697	ムンプス	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 または 髄液 0.4							02
3675 3695	麻疹	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 4	
		血清 0.3 または 髄液 0.4							02
3676 3696	風疹	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 4	
		血清 0.3 または 髄液 0.4							02
3682 3702	エコー	血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
3683 3703									3型
3684 3704									7型
3685 3705									11型
3678 3698	日本脳炎	血液 2	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 10倍	79 免疫 ①	6 9	【報告】 抗体価40倍以上の検体は、2ME処理した上でその測定結果も併せてご報告します。
		血清 0.5 または 髄液 1							

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0441	風疹抗体価 (LA)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス 免疫比濁法	IU/mL 6未満 : 陰性 6 ≤ 弱陽性 < 10 10以上 : 陽性	79 免疫 ①	1 2	
		血清 0.5							

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

# ウイルス学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考
3744 3772	単純ヘルペス (HSV)	1型	血液 各1	01 02	冷蔵	NT 法	79 免疫 ①	10 5 15	【報告】1型、2型間には抗原交差性があります。
3745 3773		2型	血清 各0.3 または 髄液 各0.4						
3749 3862	アデノ	1型	血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01 02	冷蔵	NT 法	79 免疫 ①	9 5 14	
3750 3863		2型							
3751 3864		3型							
3752 3865		4型							
3753 3866		5型							
3754 3867		6型							
3755 3868		7型							
3756 3869		8型							
3757 3870		11型							
3758 3871		19型							
3791 3792		37型						9 5 15	
3742 3770	ムンプス	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 5 15	
3741 3769	麻疹	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 5 15	

【ご注意】 中和試験(NT): 所要日数は一応の目安です(多少遅れる場合もありますのでご了承ください)。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考					
3788	コクサッキーA群	2型			NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	9 5 15						
3789		3型						10 5 15						
3793		4型				血清 8倍 髄液 原液		9 5 15						
3798		5型				血清 4倍 髄液 原液		10 5 15						
3817		6型						11 5 16						
3759 3872		7型				血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4		01 02		冷蔵	NT 法	79 免疫 ①	10 5 15	
3760 3873		9型						11 5 16						
3790		10型				血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4		01 02		冷蔵	NT 法	79 免疫 ①	10 5 15	
3761 3874		16型						11 5 16						
3762 3875		コクサッキーB群				1型					NT 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	11 5 16
3763 3876	2型		11 5 16											
3764 3877	3型		血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01 02	冷蔵	NT 法	79 免疫 ①		11 5 16					
3765 3878	4型			11 5 16										
3766 3879	5型		血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01 02	冷蔵	NT 法	79 免疫 ①		11 5 16					
3767 3775	6型			11 5 16										

**[ご注意]** 中和試験(NT): 所要日数は一応の目安です(多少遅れる場合もありますのでご了承ください)。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

# ウイルス学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考				
3833 3776	エコー	1型			NT法								
3834 3777		3型											
3835 3778		4型											
3836 3779		5型											
3837 3780		6型											
3838 3781		7型											
3839 3782		9型											
3840 3783		11型											
3841 3784		12型											
3842 3785		13型								血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01	冷蔵	
3846 3847		14型									02		
3848 3849		16型											
3843 3786		17型											
3768 3850		18型											
3851 3852		19型											
3853 3854		21型											
3855 3856		22型※											【項目】※パレコウイルス1型
3857 3858		24型											
3844 3787		25型											
3845 3880	30型												
3831 3881	エンテロ	70型		01	冷蔵	NT法		11 5 16					
3832 3882		71型								02			

ウイルス

【ご注意】 中和試験(NT)：所要日数は一応の目安です(多少遅れる場合もありますのでご了承ください)。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。

①：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考
3921 3920	EBV VCA IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液	212 免疫 ①	3 5 4	【検体】血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4 mLです。
		血清 0.3 または 髄液 0.4							
3922 3930	EBV VCA IgM	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液	79 免疫 ②	3 5 4	【検体】血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4 mLです。
		血清 0.3 または 髄液 0.4							
3923 3931	EBV VCA IgA	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液	212 免疫 ①	3 5 4	【検体】血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4 mLです。
		血清 0.3 または 髄液 0.4							
3924 3932	EBV EA-DR IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液	79 免疫 ②	3 5 4	【検体】血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4 mLです。
		血清 0.3 または 髄液 0.4							
3925 3933	EBV EA-DR IgA	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液	212 免疫 ①	3 5 4	【検体】血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4 mLです。
		血清 0.3 または 髄液 0.4							
3926 3934	EBV EBNA	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液	79 免疫 ②	3 5 4	【検体】血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4 mLです。
		血清 0.3 または 髄液 0.4							

① : 同一ウイルスについて「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて実施した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

② : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
3989	水痘・帯状ヘルペス定量 (VZV)	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	212 免疫	3 5	【基準】 判定保留2.0~3.9 陽性4.0≤
			血清 0.3							
IgM		血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	212 ①	【基準】 判定保留0.80~1.20 陽性1.21≤		
		血清 0.3								
3551	風疹	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	212 免疫	3 5	【基準】 判定保留2.0~3.9 陽性4.0≤
			血清 0.3							
IgM		血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	212 ①	【基準】 判定保留0.80~1.20 陽性1.21≤		
		血清 0.3								
4016	麻疹	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	212 免疫	3 5	【基準】 判定保留2.0~3.9 陽性4.0≤
			血清 0.3							
IgM		血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	212 ①	【基準】 判定保留0.80~1.20 陽性1.21≤		
		血清 0.3								
3997 4040	単純ヘルペス (HSV)	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 血清: 2.0 未満 髄液: 0.20 未満	212 免疫	3 5	【基準】判定保留2.0~3.9 (血清)陽性4.0≤ (髄液)陰性≤0.20 (髄液)判定保留0.20~0.39 (髄液)陽性0.40≤
			血清 0.3 または 髄液 0.3							
IgM		血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	212 ①	【基準】 判定保留0.80~1.20 陽性1.21≤		
		血清 0.3								
7404	サイトメガロ (CMV)	IgG	血液 1	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	陰性(-) AU/mL 6.0 未満	212 免疫	2 3	【基準】 判定保留 設定なし 陽性6.0≤
			血清 0.3							
IgM		血液 1	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	陰性(-) (S/CO) 0.85 未満	212 ①②	【基準】 判定保留 0.85≤, <1.00 陽性1.00≤		
		血清 0.3								
3973	ムンプス	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	212 免疫	3 5	【基準】 判定保留2.0~3.9 陽性4.0≤
			血清 0.3							
IgM		血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	212 ①	【基準】 判定保留0.80~1.20 陽性1.21≤		
		血清 0.3								
4201	パルボウイルス B19	IgG	血液 1	01	冷蔵 (90日)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	-	3 9	【基準】 判定保留0.80~0.99 陽性1.00≤
			血清 0.3							
IgM		血液 1	01	冷蔵 (90日)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	212 免疫	③		
		血清 0.3								

① : 同一ウイルスについて「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて実施した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

② : 先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「CMV抗体(CF法)」もしくは「CMV抗体IgG. IgM」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。

③ : 紅斑が出現している15歳以上の成人について感染が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3656	HA抗体 (IgG-HA抗体)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(-) (S/CO) 1.00 未満	146 免疫 ①②	2 3	
		血清 0.3							
3650	IgM-HA抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(-) (S/CO) 0.80 未満	146 免疫 ①②	2 3	【基準】 判定保留0.80~1.20 陽性1.21≤
		血清 0.3							
0402	HBs抗原	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	IU/mL 0.05 未満 (-)	88 免疫 ③	1 2	【報告】測定法の限界上、陰性判定であっても陽性を完全に否定するものではありません。 【報告】*1
		血清 0.5							
4221	高感度HBs抗原	血液 5	62	凍結 (-20℃以下) (15日)	CLEIA 法	IU/mL 陰性(-) 0.005未満	88 免疫 ③	3 4	必ず指定容器使用 【検体】必ず専用検体としてご提出ください。 【検体】*2,3【報告】*4
		血清 1.2							
0403	HBs抗体 半定量	血液 2	01	冷蔵	PHA 法 (受身赤血球凝集反応)	8 未満	32 免疫	1 2	
		血清 0.4							
0404	HBs抗体	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	mIU/mL 10.00 未満 (-)	88 免疫 ③	1 2	
		血清 0.5							
0405	HBe抗原	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	S/CO 陰性 (1.00 未満)	104 免疫	1 2	
		血清 0.5							
0407	HBe抗体	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	% Inh 陰性 (50.0 未満)	104 免疫	1 2	
		血清 0.5							
0410	HBc抗体	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	S/CO 1.00 未満	137 免疫 ③④	1 2	
		血清 0.5							
3496	IgM-HBc抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(-) (S/CO) 1.00 未満	146 免疫 ④	2 3	
		血清 0.3							
4127	B型肝炎ウイルスコア 関連抗原 (HBcrAg)	血液 2	01	凍結 (-20℃以下)	CLEIA 法	Log U/mL 3.0未満	266 免疫 ⑤⑥	3 6	
		血清 0.5							

\*1 : B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HBc抗体測定など、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断ください。

\*2 : 採血後、直ちに採血管を転倒混和してください(フィブリンの析出により偽陽性や偽高値となる可能性があるため)。

\*3 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。

\*4 : 検査結果が陽性の場合、他の検査結果などと併せて、総合的なご判断をお願いします。

① : 「HA抗体」、「IgM-HA抗体」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。

② : 保険請求の際は、「HA抗体」とご記入下さい。

③ : 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療前に「HBs抗原」、「HBs抗体」、「HBc抗体」、を同時に算定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できます。

④ : 「HBc抗体」、「IgM-HBc抗体」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。

⑤ : HBV感染の診断の補助および治療効果の判定の目的で測定した場合に1月に1回に限り算定できます。

⑥ : 「HBcrAg」と「HBV-DNA定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
4078	HBV-DNA定量 《TaqManPCR法》	血液 5	62	-20℃以下 凍結 (12週)	ロシユ・リアルタイムPCR法	Log IU/mL 定量結果: 1.0 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず	271 微生物 1,2	3 5 4	必ず指定容器使用 【検体】46頁参照:血清を用いた遺伝子増幅検査の留意点 【検体】*1,2 【参考】46頁参照:TaqManPCR法による遺伝子増幅検査の結果の考え方
		血清 2.1							
4150	HBVジェノタイプ判定 《EIA》	血液 2	01	凍結	EIA法		340 免疫 3	3 5 9	【報告】HBs抗原量が少なく型判定が不能な場合、判定保留とご報告します。 【報告】*3,4
		血清 0.5							
0419	HCV抗体-II	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	S/CO 1.00 未満 (-)	108 免疫	1 5 2	【項目】スクリーニング検査としてご利用下さい。 【報告】C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HCV-RNA測定など、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断ください。
		血清 0.5							
3481	HCV抗体-III	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LPIA 法	陰性(-) (C. O. I) 1.0未満	108 免疫	2 5 3	
		血清 0.5							
3528	HCV群別 《グルーピング》	血液 1	01	冷蔵	CLEIA 法		227 免疫 4,5	2 5 3	
		血清 0.3							
3738	HCVコア抗原	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	fmol/L 3.0 未満	108 免疫 6	2 5 3	【報告】本検査が“定量下限未満”でも、直ちにウイルスの存在は否定できません。
		血清 0.5							
3914	HCV-RNA定量 《TaqManPCR法》	血液 5	62	-20℃以下 凍結 (12週)	ロシユ・リアルタイムRT-PCR法	Log IU/mL 定量結果: 1.2 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず	437 微生物 7	3 5 4	必ず指定容器使用 【検体】46頁参照:血清を用いた遺伝子増幅検査の留意点 【参考】46頁参照:TaqManPCR法による遺伝子増幅検査の結果の考え方 【検体】*1,2,5
		血清 2.1							
4153	IgA-HEV抗体	血液 1	01	凍結	EIA法	陰性(-)	210 免疫	3 5 9	
		血清 0.3							

- \*1: 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)。
- \*2: コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- \*3: 抗原量が十分に存在する場合でも、重複感染や抗体の非特異反応の問題により、判定保留となる場合があります。
- \*4: HBVジェノタイプがE~Hの場合、判定結果はC、Dもしくは判定保留となります。
- \*5: 「HCV-RNA関連検査」のご依頼の際は、他項目とは別に(RNA検査用の)専用検体としてご提出ください。

- ①: 「HBcrAg」と「HBV-DNA定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ②: B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、測定した場合は、当該治療中および治療終了後1年以内に限り、月1回を限度に算定できます。
- ③: B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。
- ④: 保険請求の際は「HCV血清群別判定」とご記入下さい。
- ⑤: C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。
- ⑥: 保険請求の際は「HCVコア蛋白」とご記入下さい。
- ⑦: 急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択および治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
4077	HIV抗原抗体定量 《スクリーニング》	血液 2	62	冷蔵	CLIA 法	陰性 (-)	127 免疫 ①②③④	2 3	必ず指定容器使用 【項目】46頁参照: HIV抗原・抗体検査の留意点 【検体】*1,2
		血清 0.6							
4015	HIV-1抗体 《確認試験》	血液 2	62	冷蔵 (12週)	ウエスタンブロット法	陰性 (-)	280 免疫 ⑤	3 6	必ず指定容器使用 【項目】46頁参照: HIV抗原・抗体検査の留意点 【検体】*1,2
		血清 0.6							
4013	HIV-2抗体 《確認試験》	血液 2	62	冷蔵 (4週)	ウエスタンブロット法	陰性 (-)	380 免疫 ⑤	3 9	必ず指定容器使用 【項目】46頁参照: HIV抗原抗体検査の留意点 【検体】*1【報告】*3
		血清 0.6							
0417	HTLV-I 抗体価 《ATLA抗体》	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	1.0 未満 (-)	S/CO 168 免疫	1 2	
		血清 0.5							
4014	HTLV-I 抗体価 《ATLA抗体》 《スクリーニング》	血液 1	01	冷蔵 (3週)	PA 法	16倍未満 (最低希釈倍率)	85 免疫	2 4	【報告】検査結果が陽性の場合には、「確認試験」の実施を推奨します。
		血清 0.3							
4175	単純ヘルペスウイルス 特異抗原	塗抹 標本	56	-20℃以下 凍結	FAT 法	1型 陰性 (-) 2型 陰性 (-)	180 免疫 ⑥	3 5	必ず指定容器使用 【容器】*4
4130	サイトメガロウイルス抗原 《アンチジェネミア法》	EDTA 加血液	5	14 冷蔵 凍結不可	間接酵素抗体法 (アンチジェネミア法)	判定 (-) 陽性細胞数スライド 1:0個 陽性細胞数スライド 2:0個	377 免疫 ⑦⑧	2 3	【検体】採血後、速やかに検体をご提出ください(原則として採血後24時間以内の検体を用います)。 【項目】*5

- \*1 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- \*2 : 提出検体量は、スクリーニング検査 (CLIA法) および抗体確認試験 (ウエスタンブロット法) の両方を行った場合の必要量です。
- \*3 : HIV-2抗体検査は、HIV-1抗体陽性の場合 (免疫学的な交差反応により) やその他の非特異的反応により偽陽性となることがありますので、結果の解釈にはご注意ください。
- \*4 : 専用容器 (無蛍光スライド) はあらかじめご依頼ください。塗抹の際は、スライドガラスの裏表を確認の上、必ず「表」面に塗抹願います。また、氏名などの記入には鉛筆をご使用ください。
- \*5 : 受付曜日: 月～金曜日 (午前中) < 休日とその前日は受付不可 >

- ① : 診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者および診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対してHIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず所定点数を算定できます。
- ② : ア 新生児出血症 (新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等) 等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者。イ 肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者。ウ 食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐血があった者。エ 大量に出血するような手術を受けた者 (出産時の大量出血も含む)。
- ③ : なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい性感染症が認められる場合、既往がある場合または疑われる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できます。
- ④ : 輸血 (自己血輸血を除く) を算定した患者または血漿成分製剤の輸注を行った患者に対して、一連として行われた輸血または輸注の最終日から起算して概ね2ヶ月後に測定が行われた場合はHIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず1回に限り算定できます。他の保険医療機関において輸血料の算定または血漿成分製剤の輸注を行った場合も同様です。いずれの場合も、診療報酬明細書の摘要欄に輸血または輸注が行われた最終日を記載して下さい。
- ⑤ : 「HIVスクリーニング」が陽性の場合の確認診断用の検査です。
- ⑥ : ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できます。
- ⑦ : 臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者またはHIV感染者または高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合のみ算定できます。
- ⑧ : 高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合は、検査が必要であった理由について診療報酬明細書の摘要欄への記載が必要です。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
4189	HPV-DNA同定 [中～高リスク型]	ぬぐい液	61	冷蔵 (3週)	ハイブリッド キャプチャー法	陰性(-) index 1.00 未満	350 微生物 ①②③④	2 3	必ず指定容器使用 【項目】*1
4190	HPV-DNA同定 [低リスク型]	ぬぐい液	61	冷蔵 (3週)	ハイブリッド キャプチャー法	陰性(-) index 1.00 未満	—	2 8	必ず指定容器使用 【項目】6,11,42,43および44型の “低リスク型”HPVを検出します。 (型別判定はできません)
4159	HPV核酸検出 (HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定)	LBC用採取液 (ThinPrep) 2 または LBC用採取液 (SurePath) 2	81 82	冷蔵 (6ヶ月) (3ヶ月)	ロシユ・リアルタイムPCR法	検出せず	360 微生物 ①②③④	3 4	必ず指定容器使用 【項目】*3【依頼】*2 【検体】*4
4182	HPVジェノタイプ判定	LBC用採取液 (ThinPrep) 3 または LBC用採取液 (SurePath) 3	81 82	冷蔵	PCR-rsso法		2000 微生物 ③④⑤⑦	3 6	必ず指定容器使用 【項目】16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, および68型 の“中～高リスク型”HPVを検出しま す。 【検体】*4

\*1 : HPVとして、16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59および68型の“中～高リスク型”HPVを検出します(型別判定はできません)。

\*2 : 依頼書に液状細胞診採取容器の商品名をご記入ください。

\*3 : HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定(TaqManPCR法)

・型別判定が可能なもの:16型、18型

・66型を含む12種類の高リスク型HPV

(31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 66, 68型)については、いずれかまたは全ての型に感染している場合に陽性となります。どの型に感染しているかは判別できません。

\*4 : コンタミネーション防止のため、先に必要量を分注いただく方法を推奨します。

① : 予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者または過去に子宮頸部円錐切除もしくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できます。

② : 細胞診と同時にHPV検査を実施した場合は算定できません。

③ : 算定に当たっては、厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等への届出が必要です。

④ : 「HPV核酸検出」と「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」を併せて実施した場合は主たるもの1つに限り算定できます。

⑤ : 予め行われた組織診断の結果、CIN1またはCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的としハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定できます。

⑥ : 算定に当たっては、予め行われた組織診断の実施日および組織診断の結果、CIN1またはCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

⑦ : 同一患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日も診療報酬明細書の摘要欄に併せて記載する必要があります。

▶ TaqManPCR法による遺伝子増幅検査の結果の考え方

【HBV-DNA定量】

	結果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HBV 増幅反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	9.0 以上	検出	HBV を検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.0 ~ 8.9	検出	HBV を検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.0 未満	検出	HBV を検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.0 未満	検出せず	HBV を検出しなかった

【HCV-DNA定量】

	結果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HCV 増幅反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	8.0 以上	検出	HCV を検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.2 ~ 7.9	検出	HCV を検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.2 未満	検出	HCV を検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.2 未満	検出せず	HCV を検出しなかった

▶ 血清を用いた遺伝子増幅 (PCR等)検査の留意点

《検体の取り扱い、および依頼方法》

- 1) 遺伝子増幅検査の検体採取・保存の際は、核酸分解酵素の影響および検体相互のコンタミネーションを防ぐため、以下の点にご注意ください。
  - ① 専用の真空採血管 (分離剤入り、容器番号62) を使用し、採血・ご提出ください。
  - ② 同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい (遺伝子検査専用検体)。
  - ③ 上記指定容器に採取後、4 ~ 5 回静かに転倒混和し、常温にて 30 ~ 60 分放置してください。凝固完了を確認後、遠心機にかけ、そのまま凍結してご提出下さい。なお、凍結融解をしないでください。  
※未分離凍結検体、溶血検体では抽出効率の低下、遺伝子増幅阻害などによるデータへの影響が考えられます。
- 2) 遺伝子増幅検査については、ヘパリンによる増幅反応の阻害があるため、透析患者などでは検出されないことが考えられますので、ご注意ください。

▶ HIV抗原・抗体検査の留意点

《検体の取り扱い、および依頼方法》

- 1) 必ず指定容器 (容器番号62) で採血後、遠心機にかけ、そのまま冷蔵保存でご提出ください。
- 2) 同一検体で他項目との重複依頼は避けてください。(単独検体)
- 3) 患者名にはイニシャルまたはID番号をご使用ください。
- 4) スクリーニング検査 (CLIA法) で「陽性」を呈した場合は、原則としてウエスタンブロット法による HIV- 1 抗体確認試験を実施致します。

# 免疫血清学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0432	ASO価 〈抗ストレプトリジノ〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	IU/mL 239 以下	15 免疫	1 1 2	
		血清 0.5							
0431	ASK価 〈抗ストレプトキナーゼ〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	PA 法 (粒子凝集反応)	倍 1280 以下	29 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
0470	RPR 定性 〈梅毒血清反応〉定性	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	(ー)	15 免疫	1 1 2	【算定】(梅毒脂質抗原使用検査)
		血清 0.4							
0473	TPHA 定性 〈梅毒トレポネーマ抗体〉定性	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	(ー)	32 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
3451	FTA-ABS 定性 〈梅毒検査〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	FAT 法	(ー)	138 免疫	2 1 3	【算定】手術前医学管理料-5の対象項目ではありません。【日数】陽性の場合、確認検査を行うため、ご報告が遅れるときがあります。
		血清 0.4							
0483	RPR 〈梅毒血清反応〉定量	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	R. U. 0.9 以下	34 免疫	1 1 2	【算定】(梅毒脂質抗原使用検査)【単位】R. U. は従来の希釈倍数とおおよそ同じになるように設定された単位です。
		血清 0.5							
0476	TPHA 〈梅毒トレポネーマ抗体〉定量	血液 2	01	冷蔵 (2週)	PHA 法 (受身赤血球凝集反応)	倍 80 未満	53 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
3284	マイコプラズマ抗体 《CF法》	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	32 免疫	3 1 5	
3305		血清 0.3 または 髄液 0.4							
0442	マイコプラズマ抗体 《PA法》	血液 2	01	冷蔵 (2週)	PA 法 (粒子凝集反応)	倍 40 未満	1 1 2	1 1 2	【参考】判定基準: ペア血清で4倍以上の上昇が見られた場合 1回の検査で320倍以上の抗体価の場合
		血清 0.4							
0445	マイコプラズマ抗体IgM	血液 2	01	冷蔵 (2週)	EIA 法	(ー)	32 免疫 1	1 1 2	
		血清 0.4							
9162	マイコ核酸同定LAMP	咽頭ぬぐい液 または 鼻咽頭ぬぐい液	99 100	-20℃以下 凍結	LAMP法	(ー)	300 微生物	2 1 3	必ず指定容器使用 【検体】*1, 2
0443	寒冷凝集反応	血液 2	01	常温 (2週)	赤血球凝集反応	倍 64以下	11 免疫	1 1 2	【検体】採血後、速やかに血清分離して保存して下さい。(血清分離までは、37℃保存)
		血清 0.5							
3313	百日咳菌抗体 《EIA法》	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	EU/mL PT-IgG 10 未満 FHA-IgG 10 未満	264 免疫	3 1 5	
		血清 0.3							
7530	百日咳菌核酸同定	後鼻腔 ぬぐい液	53 55	-20℃以下 凍結	LAMP法	検出せず	360 微生物 2	3 1 4	必ず指定容器使用 【検体】61頁参照:百日咳菌核酸同定の検体採取方法 【検体】*2、3、4

\* 1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。

\* 2 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。。

\* 3 : 必ず専用検体としてご提出ください。

\* 4 : 後鼻腔ぬぐい液は、専用スワブ(容器番号53)で拭い、スワブの柄にあるスリットで折り、スワブを指定容器(容器番号55)に入れてご提出ください。

① : 「マイコプラズマ抗体」と「マイコプラズマ抗原(免疫クロマト法)(FA法)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

② : 関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床診断例の定義を満たす患者に対して測定した場合に算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3323	トキソプラズマIgG	血液 各1	01	冷蔵 (2週)	CLIA法	IU/mL 陰性(-) 1.6未満	93 免疫	2 5 3	【基準】 判定保留1.6≤, <3.0 陽性3.0≤
3322	トキソプラズマIgM	血清 各0.3				陰性(-) (S/CO) 0.83未満	95 免疫		【基準】 判定保留0.83≤, <1.00 陽性1.00≤
0193	透析液エンドトキシン	透析液 4	70	冷蔵 (1週)	カイネティック 比色法	EU/mL	—		必ず指定容器使用
3360	β-D-グルカン (1→3)-β-D-グルカン)	血液 2	51	凍結不可 冷蔵 (5日)	発色合成基質法	pg/mL 20以下	207 免疫 ①②	2 5 3	必ず指定容器使用 【検体】*1, 2, 3
2209	プロカルシトニン (PCT)	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (24ヶ月)	ECLIA法	ng/mL 0.05以下	292 生I ③④	2 5 3	【検体】EDTA血漿、ヘパリン 血漿も検査可。 【基準】*4
1835	プレセプシン	血液 2 ヘパリン 血漿 *3.4	10 ↓ 02	凍結 (12週)	CLEIA法	pg/mL 敗血症(細菌性)診断の カットオフ値 500	301 生I ③④	2 5 3	【検体】*5, 6, 7
3350	ツツガ虫ギリアム (Gilliam)	IgG	01	凍結	FAT法	IgG 10倍 IgM 10倍 (最低希釈倍率)	207 免疫 ⑤	5 5 8	
3351	IgM	207 免疫 ⑤							
3348	ツツガ虫カトー (Kato)	IgG					207 免疫 ⑤		
3349	IgM	207 免疫 ⑤							
3346	ツツガ虫カーブ (Karp)	IgG					207 免疫 ⑤		
3347	IgM	207 免疫 ⑤							

- \*1 : 検体はエンドトキシンフリーの専用容器にて無菌的に採取してください。
- \*2 : 73頁参照:[微生物学検査]【主要材料の採取保存方法】4)血液・穿刺液
- \*3 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- \*4 : 敗血症(細菌性)の鑑別診断のカットオフ値:0.50ng/mL未満  
敗血症(細菌性)の重症度判定のカットオフ値:2.00ng/mL以上
- \*5 : 専用検体としてご提出下さい(同一検体での他項目との重複依頼は避けてください)。
- \*6 : EDTA血漿も検査可。
- \*7 : ボルテックスミキサーなどによる強い攪拌は測定値が上昇するので使用しないでください。

- ① : 深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択、または深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定できます。
- ② : 「(1→3)-β-D-グルカン」、「カンジダ抗原」、「D-アラビノール」、「アスペルギルス抗原」または「クリプトコックス抗原」と併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ③ : 「エンドトキシン」、「プロカルシトニン」、「プレセプシン」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ④ : 敗血症(細菌性)を疑う患者を対象として測定した場合に算定できます。
- ⑤ : 各株ごとに算定します。

# 免疫血清学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3364 3440	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA 《TaqManPCR法》	初尿 4.5 または ぬぐい液	86	冷蔵 (1年)	ロシユリアルタイムPCR法	検出せず	198 微生物 ①②	2 5 3	必ず指定容器使用 【検体】咽頭材料も検査可。 【容器】専用容器は、あらかじめ ご依頼ください。
4157	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA(うがい液) 《TaqManPCR法》	うがい液 4.5	86	冷蔵 (1年)	ロシユリアルタイムPCR法	検出せず	198 微生物 ①②	2 5 3	必ず指定容器使用 【容器】専用容器は、あらかじめ ご依頼ください。
6451	クラミジア・トラコーマチス 抗体 IgA&IgG	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵	EIA 法	陰性(-) (C.O.I) 0.900 未満	200 免疫 ③	3 5 5	【基準】 判定保留0.900~1.099 陽性1.100≦
3280	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgG					陰性(-) (EIU) 30 未満	70 免疫 ④	3 5 5	【基準】 判定保留30~45 陽性46≦
3279	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgA	血液 各2 血清 各0.4	01	冷蔵	EIA 法	陰性(-) (EIU) 8 未満	75 免疫 ④	3 5 5	【基準】 判定保留8~12 陽性13≦
3887	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgM					陰性(-) (S/CO) 0.5 未満	156 免疫 ④	3 5 5	【基準】 判定保留0.5~1.1 陽性1.2≦
3370 3807	淋菌同定DNA 《TaqManPCR法》	初尿 4.5 または ぬぐい液	86 85	冷蔵 (1年)	ロシユリアルタイムPCR法	検出せず	204 微生物 ⑤⑥	2 5 3	必ず指定容器使用 【検体】咽頭材料も検査可。 【容器】専用容器は、あらかじめ ご依頼ください。
4158	淋菌同定DNA(うがい液) 《TaqManPCR法》	うがい液 4.5	86	冷蔵 (1年)	ロシユリアルタイムPCR法	検出せず	204 微生物 ⑤⑥	2 5 3	必ず指定容器使用 【容器】専用容器は、あらかじめ ご依頼ください。
3260	アスペルギルス抗原	血液 3 血清 0.7	01	凍結 (5週)	EIA 法	陰性(-) (C.O.I) 0.5未満	161 免疫 ⑦⑧	2 5 4	【項目】61頁参照:アスペルギ ルス抗原 検査結果の判定に関 する注意 【報告】*1

\*1 : ピペラシリン/タゾバクタム合剤投与患者では陽性となる場合があります。

- ① : 「クラミジア・トラコーマチス核酸検出」と「クラミジア・トラコーマチス抗原定性」を併用した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。
- ② : 泌尿器・生殖器または咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できます。
- ③ : 「クラミジア・トラコーマチス抗原定性」の検出不能または検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児、乳児肺炎等)の診断に際し実施した場合に算定できます。
- ④ : 「クラミドフィラ・ニューモニエ抗体」IgMをIgA・IgGと併せて実施した場合は、主たるもののみ算定となります。
- ⑤ : 泌尿器・生殖器または咽頭からの検体(尿検体を含む)により実施した場合に限り算定できます。
- ⑥ : 「淋菌核酸検出」、「淋菌抗原定性」と「細菌培養同定検査」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑦ : 侵襲性肺炎アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できます。
- ⑧ : 「(1→3)-β-D-グルカン」、「カンジダ抗原」、「D-アラビノール」、「アスペルギルス抗原」または「クリプトコックス抗原」と併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5529	H. ピロリ抗体	血液 1	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	陰性(-) (10 U/mL 未満)	80 免疫 ①	2 5 3	【項目】 * 1
		血清 0.3							
5569	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	糞便	76	冷蔵 (7日)	EIA 法	(-)	142 免疫 ①	2 5 3	必ず指定容器使用 【項目】 * 2 【検体】 62頁参照: 便中ヘリコバクター・ピロリ抗原 検査の検体採取方法
0494	尿素呼気試験 (UBT)	呼気 120mL以上	32	常温	赤外分光分析	Δ13C(‰) 2.5 未満	70 微生物 ①	1 5 2	必ず指定容器使用 【項目】 * 2 【検体】 62頁参照: 尿素呼気試験の実施手順 【検体】 * 3
4247	プレアルブミン	血液 1	01	冷蔵 (4週)	TIA 法	22 ~ 40	107 免疫	2 5 3	
		血清 0.3							
0255	尿ALB・CRE補正	尿 10	25	冷蔵	TIA 法	27 未満	102 尿便 ②	1 5 2	
4231	α1マイクログロブリン (α1-MG)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	9.1 ~ 18.4	136 免疫	2 5 3	
		血清 0.5							
4232		尿 1	25	冷蔵 (3週)		8.3 以下			
0485	β2-m (β2-マイクログロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	0.8 ~ 2.0	104 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0486	(尿) β2-m (β2-マイクログロブリン)	尿 5	25	冷蔵 (3週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	30 ~ 340	104 免疫	1 5 2	【検体】 酸性蓄尿は検査不可。 【検体】 尿はpH5.5~7.5を確認の上、ご提出ください。
0210	フェリチン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	M 39.9 ~ 465.0 F 6.2 ~ 138.0	108 生i	1 5 2	
		血清 0.5							
4239	ハプトグロビン(Hp) 型判定	血液 1	01	冷蔵	TIA 法/ 薄層アクリルアミドゲル 電気泳動法	1-1型 43 ~ 180 2-1型 38 ~ 179 2-2型 15 ~ 116	136 免疫	4 5 5	【報告】 感度(10mg/dL)未満の場合は型判定不能でご報告します。
		血清 0.3							

\* 1 : 除菌判定は、除菌終了後6カ月以降にご提出ください。

\* 2 : 除菌判定は、除菌終了後4週以降にご提出ください。

\* 3 : 尿素服用前および服用後20分の呼気をそれぞれ採取し、必ずベアにしてご提出ください。

① : ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に則して行う必要があります。

② : 「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」、「尿中IV型コラーゲン」は、糖尿病患者または糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限る)に対して行った場合に、3月に1回に限り主たる項目のみ算定できます。

# 免疫血清学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
4235	α2マクログロブリン	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ネフェロメトリー法	M 100 ~ 200 F 130 ~ 250	138 血液	2 5	
		血清 0.4							
0434	CRP (C反応性蛋白)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	0.30 以下	16 免疫 ①	1 2	
		血清 0.5							
1959	アミロイドA (SAA)	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	8.0 以下	47 免疫 ①	2 3	
		血清 0.5							
4237	セルロプラスミン (Cp)	血液 2	01	冷蔵	ネフェロメトリー法	21 ~ 37	90 免疫	2 3	
		血清 0.4							
4275	トランスフェリン (Tf)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	TIA 法	190 ~ 320	60 免疫	2 3	
		血清 0.5							
4280	尿中トランスフェリン	尿 1	25	冷蔵 凍結不可	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	1.0 以下	104 尿便 ②	2 3	
4283	クリオグロブリン	血液 1	01	冷蔵 (4週)	ゲル内拡散法	(一)	42 免疫	4 5	【検体】血清分離の際は、冷却遠心を避けてください。
		血清 0.3							
1911	ミオグロビン (血清)	血液 1	01	冷蔵 (1週)	CLIA 法	M 154.9以下 F 106.0以下	139 生I ③	2 3	
		血清 0.3							
1912	ミオグロビン (尿)	尿 6	73	冷蔵 (10日)	RIA 法	10 以下	139 生I ③	2 4	必ず指定容器使用 【検体】検体は、必ず安定化剤入り専用容器にてご提出ください。
2029	高感度 心筋トロポニンI	血液 2	01	凍結	CLIA 法	26.2 以下 急性心筋梗塞のカットオフ値:26.2	115 生I ④	2 3	
		血清 0.5							
1910	IV型コラーゲン	血液 1	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	150 以下	139 生I ⑤	2 3	
		血清 0.3							
2314	Mac2結合蛋白 (Mac2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	陰性(-) (C.O.I) 1.00未満	194 生I ⑤⑥	2 3	【基準】 陰性(-) 1.00未満 陽性(1+) 1.00~2.99 陽性(2+) 3.00以上
		血清 0.3							
4350	TARC	血液 1	01	冷蔵	CLEIA 法	60頁参照:TARC判定基準	184 免疫 ⑦	2 3	【基準】 中等症以上のアトピー性皮膚炎の目安は、成人700pg/mL以上、小児(2歳以上)760pg/mL以上です。
		血清 0.3							

- ① : 「アミロイドA」を「CRP定性」または「CRP定量」と併せて測定した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ② : 「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」、「尿中IV型コラーゲン」は、糖尿病患者または糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限る)に対して行った場合に、3月に1回に限り主たる項目のみ算定できます。
- ③ : 「H-FABP」、「ミオグロビン」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ④ : 「心筋トロポニンT」と「心筋トロポニンI」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑤ : 「ATX」、「M2BPGi」、「P-III-P」、「IV型コラーゲン」、「IV型コラーゲン・7S」もしくは「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑥ : 慢性肝炎または肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定できます。
- ⑦ : 月1回を限度として算定が可能です。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
7472	便中カルプロテクチン	糞便 1g	33	凍結	FEIA 法	mg/kg 炎症性腸疾患の診断補助の指標 50以下 潰瘍性大腸炎の病態把握の指標 300以下	276 尿便 ①②③	4 5 10	58頁参照:便中ケルプロテクチン 検査の検体採取方法
1966	肺サーファクタントプロテインA (SP-A)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	ng/mL 43.8未満	130 生I ④	2 5 4	
1967	肺サーファクタントプロテインD (SP-D)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (15日)	EIA 法	ng/mL 110 未満	136 生I ④	3 5 5	
4233	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による定性)	血液 2 血清 0.5	01		免疫電気泳動法 (IEP法)		170 免疫 ⑤⑥	4 5 7	【依頼】泳動後の判読のため、年齢・性別・臨床診断名あるいは臨床症状・その他参考データなどを明記してください。
4250	免疫電気泳動 (免疫固定法によるM蛋白同定)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵	免疫固定電気泳動法 (IFE法)	検出せず	224 免疫 ⑤⑥	3 5 5	【検体】ベンス・ジョーンズ蛋白同定には早朝尿を推奨します。 【報告】検査結果は「検出せず」または「M蛋白」とご報告します (「M蛋白」の場合、そのM蛋白の種類も併せてご報告します)。
4246	尿中免疫電気泳動 (免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白(BJP)同定)	尿 5	25				201 免疫 ⑦		
6787	遊離L鎖κ/λ比 (FLC)	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵	LA (ラテックス凝集比濁法)	κ 鎖 : 3.3~19.4 mg/L λ 鎖 : 5.7~26.3 mg/L κ/λ 比 : 0.26~1.65	388 免疫	2 5 3	
4286	IgG インデックス	血液 3 血清 0.7 および 髄液 0.7	01 02	冷蔵	TIA 法/ ネフロメトリー法	インデックス 0.73 以下	414 尿便 ⑧	2 5 3	【検体】血清、髄液の両材料をご提出ください。 【報告】*1、2
4300	オリゴクローナルバンド (等電点電気泳動法)	血液 2 血清 0.4 および 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	等電点電気泳動法	陰性:バンド数 0 ~ 1	522 尿便 ⑧	5 5 8	【検体】血清、髄液の両材料をご提出ください。 【参考】バンド数1本とは、血清中にはなく、髄液中にのみ検出されるバンドを意味します。
0495	IgG	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL 870 ~ 1700	38 免疫 ⑨	1 5 2	
4307	IgGサブクラスIgG4	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (2週)	LA (ラテックス凝集比濁法)	mg/dL 11~121	377 免疫	2 5 3	

\*1 : インデックス、IgG髄液、IgG血清、アルブミン髄液、アルブミン血清の値をご報告します。

\*2 : インデックスの算出方法は次のとおりです。

$$\text{IgGインデックス} = (\text{髄液IgG} / \text{髄液アルブミン}) / (\text{血清IgG} / \text{血清アルブミン})$$

- ① : 慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助を目的として測定した場合に算定できます。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施して下さい。その要旨を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
- ② : 潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、3月に1回を限度として算定できます。ただし、医学的な必要性から、1月に1回行う場合は、その詳細な理由および検査結果を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
- ③ : 慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助または潰瘍性大腸炎の病態把握を目的として「LRG」、「便中カルプロテクチン」または「大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。
- ④ : 「KL-6」、「SP-A」および「SP-D」のうち、いずれか複数を実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑤ : 同一検体につき一回に限り算定できます。
- ⑥ : 「免疫電気泳動(抗ヒト全血清)」および「免疫電気泳動(免疫固定法)」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑦ : 保険請求の際は、「Bence Jones蛋白同定(尿)」とご記入下さい。
- ⑧ : 「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」、「ミエリンベースック蛋白(MBP)」は多発性硬化症の診断を目的に行った場合に算定できます。
- ⑨ : 「IgG」、「IgA」および「IgM」を測定した場合に、それぞれの実施料を算定できます。

# 免疫血清学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0496	IgA	血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL 110 ~ 410	38 免疫 ①	1 1 2	
		血清 0.5							
0497	IgM	血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL M 33 ~ 190 F 46 ~ 260	38 免疫 ①	1 1 2	
		血清 0.5							
0501	IgE(非特異的IgE)	血液 1	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法	IU/mL 60頁参照:非特異的IgE 判定基準	100 免疫	2 1 3	
		血清 0.3							
	IgE(特異的IgE)	血液 1	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法	UA/mL 0.35 未満 60頁参照:特異的IgE 判 定基準	各110 免疫 ②	2 1 3	【項目】59頁参照:シングル/マ ルチアレルゲン 項目一覧 【項目】60頁参照:多項目アレ ルギーセット 項目内容
		血清 0.3							
0502	アトピー鑑別試験 (ファディアトープ)	血液 1	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法	(一)	194 免疫 ③	2 1 3	【項目】60頁参照:アトピー鑑別 試験 混合アレルゲンの内容
		血清 0.3							
0498	RAST-16吸入系	血液 3	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法		1430 免疫 ②	2 1 3	【項目】60頁参照:多項目アレ ルギー検査
		血清 1							
0499	RAST-16食餌系	血液 3	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法		1430 免疫 ②	2 1 3	【項目】60頁参照:多項目アレ ルギー検査
		血清 1							
4703	View アレルギー39	血液 3	01	冷蔵	FEIA 法	(index) 0.27 未満 58頁参照:Viewアレル ギー39 判定基準	1430 免疫 ②	3 1 4	【項目】58頁参照:Viewアレル ギー39 構成アレルゲン 【項目】*1
		血清 0.9							
0457	CH50 (血清補体価)	血液 2	01	凍結 -20℃以下	Mayer法相対 比濁法	CH50/mL 30.0 ~ 46.0	38 免疫	1 1 2	【検体】採血後、速やかに遠心 分離し、血清を直ちに凍結(- 20℃以下)してください。 【検体】*2
		血清 0.5							
0449	C3 (β <sub>1</sub> C/β <sub>1</sub> Aグロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (1日)	免疫比濁法	mg/dL 86 ~ 160	70 免疫	1 1 2	
		血清 0.5							
0450	C4 (β <sub>1</sub> Eグロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	免疫比濁法	mg/dL 17 ~ 45	70 免疫	1 1 2	
		血清 0.5							

\*1 : アレルゲン39種に対し、検査優先順位の指定は受けできませんので、あらかじめご了承ください。

\*2 : 同時に他の項目の検査がある場合は、必ず別にして「血清補体価」は単独にて検体をご提出ください。

① : 「IgG」、「IgA」および「IgM」を測定した場合に、それぞれの実施料を算定できます。

② : アレルゲン1項目毎に実施料110点を適用、ただし、同一検体について、複数のアレルゲン特異的IgEを測定した場合、実施料の算定は1,430点が限度となります。

③ : 保険請求の際は、「アトピー鑑別試験定性」とご記入下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0436	RF定量 (リウマトイド因子)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	15 以下	IU/mL 30 免疫 02	1 5 2	
		血清 0.5							
4334	IgG-RF (IgG型リウマチ因子)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA法	(IgG-RF index) 2.0 未満	203 免疫 03	3 5	
		血清 0.3							
5559	抗ガラクトース欠損IgG抗体 (CA・RF)	血液 1	01	凍結 (4週)	ECLIA法	6.0 未満	AU/mL 117 免疫 034	3 5	
		血清 0.3							
5498	抗CCP抗体 (抗シトルリシ化ペプチド抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLIA法	4.5 未満	U/mL 204 免疫 035	2 3	
		血清 0.4							
5382	抗核抗体 (ANA)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FAT法	40 倍 未満	105 免疫	2 3	
		血清 0.4							
5381	抗DNA抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA法 (硫酸塩析法)	6 以下	IU/mL 168 免疫 06	2 3	
		血清 0.3							
5397	抗ds DNA抗体 IgG	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA法	12.0 以下	IU/mL 168 免疫 06	2 3	
		血清 0.4							
5399	抗ds DNA抗体 IgM	血液 1	01	冷蔵 (12週)	EIA法	6 未満	U/mL —	2 8	
		血清 0.3							
5450	抗ss DNA抗体 IgG	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA法	25.0 以下	AU/mL 168 免疫 06	2 3	
		血清 0.4							
5433	抗RNP抗体	血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍 144 免疫	4 5	
5613		血清 各0.4			CLEIA法	10.0 未満			
5429	抗Sm抗体	血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍 151 免疫	4 5	
5609		血清 各0.4			CLEIA法	10.0 未満			

- ① : 「リウマトイド因子定量」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目のみ算定ができます。
- ② : 「抗ガラクトース欠損IgG抗体」と同時に測定した場合は、主たるもののみ算定ができます。
- ③ : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定ができます。
- ④ : 「リウマトイド因子定量」と同時に測定した場合は、主たるもののみ算定ができます。
- ⑤ : 関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき1回に限り算定できます。ただし、検査結果が陰性であったが臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合は3月に1回に限り算定できます。
- ⑥ : 実施料は、「抗DNA抗体(定量)」として一連の算定となります。

# 免疫血清学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5421	抗SS-A抗体 (抗SS-A/Ro抗体)	血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍	4 5	
5601		血清 各0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL		
5425	抗SS-B抗体 (抗SS-B/La抗体)	血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍	4 5	
5605		血清 各0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL		
5439	抗Scl-70抗体 (抗トポイソメラーゼ I 抗体)	血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍	4 5	
5617		血清 各0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL		
5663	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	血液 1 血清 0.3	01	凍結	EIA 法	陰性 (-) index 28 未満	170 免疫 ①②	3 9	【基準】 判定保留28≤, <50 陽性50≤
5452	抗Jo-1抗体 (免疫拡散法)	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (7日)	免疫拡散法	陰性 (-) 1 倍 未満	140 免疫 ③	3 5	
1267	抗ARS抗体	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (18日)	EIA 法	陰性 (-) index 25.0 未満	190 免疫 ③	3 9	
7531	抗MDA5抗体 (抗CADM-140抗体)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性 (-) index 32 未満	270 免疫 ④	2 5	
5461	抗セントロメア抗体	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵	CLEIA 法	10.0 未満	U/mL 179 免疫 ⑤	2 3	
5471	抗ミトコンドリア抗体	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	20 倍 未満	186 免疫 ⑥	2 3	
5530	抗ミトコンドリアM2抗体	血液 2 血清 0.4			CLEIA 法	陰性 (-) index 7.0 未満	194 免疫 ⑥	2 3	

- ① : びまん性強皮症の確定診断を目的として行った場合には、1回を限度として算定できます。
- ② : びまん性強皮症の確定診断において陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できます。
- ③ : 「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定できます。
- ④ : 厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において測定した場合に算定できます。
- ⑤ : 原発性胆汁性肝硬変または強皮症の診断または治療方針の決定を目的に用いた場合にのみ算定できます。
- ⑥ : 保険請求の際はそれぞれ次のご記入下さい。[5471]抗ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体半定量。[5530]抗ミトコンドリアM2抗体→抗ミトコンドリア抗体定量

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5475	抗平滑筋抗体	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	20 倍 未満	-	2 5 3	
		血清 0.3							
5495	抗デスモグレイン1抗体 (抗Dsg1抗体)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLEIA 法	20.0未満	U/mL 300 免疫 123	2 5 4	
		血清 0.4							
5496	抗デスモグレイン3抗体 (抗Dsg3抗体)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLEIA 法	20.0未満	U/mL 270 免疫 123	2 5 4	
		血清 0.4							
1238	抗BP180抗体 (血清中抗BP180NC16a抗体)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	CLEIA 法	9.0未満	U/mL 270 免疫 4	2 5 3	
		血清 0.4							
5457	PR3-ANCA (抗好中球細胞質抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	陰性(-) 2.0未満	IU/mL 267 免疫	2 5 3	【検体】 EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。 【基準】 疑陽性2.0~3.0 陽性3.1≧
		血清 0.4							
6655	MPO-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	陰性(-) 3.5未満	IU/mL 265 免疫 5	2 5 3	【検体】 EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。 【基準】 疑陽性3.5~5.0 陽性5.1≧
		血清 0.4							
5481	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	FEIA 法	陰性(-) 7.0未満	U/mL 270 免疫 6	2 5 3	【検体】 EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。 【基準】 疑陽性7.0~10.0 陽性10.1≧
		血清 0.4							
5482	抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体)	血液 1	01	冷蔵 (2週)	FAT 法	10 倍 未満	-	4 5 6	
		血清 0.3							
5531	抗CLB2GPI抗体 (抗カルジオリピンβ <sub>2</sub> グロブリン複合体抗体)	血液 1	01	凍結	EIA 法	3.5 以下	U/mL 223 免疫 7	2 5 4	
		血清 0.3							
5555	抗CLリピン抗体(IgG) (抗カルジオリピン抗体)	血液 2	01	凍結	EIA 法	10.0 未満	U/mL 232 免疫 7	3 5 6	
		血清 0.4							
5504	抗アセチルコリン レセプター結合抗体 (抗AChR抗体)	血液 1	01	凍結	RIA 法 (抗ヒトIgG法)	陰性 (-) 0.2 以下	nmol/L 822 免疫 89	3 5 6	【基準】 疑陽性0.2<, ≦0.5 陽性0.5<
		血清 0.3							
1236	抗MuSK抗体 (抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)	血液 1	01	凍結	RIA法	0.02未満	nmol/L 1000 免疫 89	3 5 9	
		血清 0.3							

- ① : 厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者に対し、天疱瘡の鑑別診断または経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できます。
- ② : 落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ③ : 尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ④ : 水泡性類天疱瘡の鑑別診断または経過観察中の治療効果判定を目的として測定をした場合に算定できます。
- ⑤ : 急速進行性糸球体腎炎の診断、または経過観察のために測定した場合に算定できます。
- ⑥ : 抗糸球体基底膜抗体腎炎およびグッドパスチャー症候群の診断または治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定できます。
- ⑦ : 「抗カルジオリピン抗体」と「抗CLβ<sub>2</sub>GPI複合体抗体」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑧ : 重症筋無力症の診断または診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できます。
- ⑨ : 「抗アセチルコリンレセプター抗体」と「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
4282	ミエリンベース蛋白 (MBP)	髄液 0.3	02	凍結	EIA 法	102 以下 pg/mL	577 尿便 ①	3 5 9	
5410	免疫複合体(C1q)	血液 1	01	-20℃以下 凍結 (8週)	EIA 法	3.0 以下 μg/mL	157 免疫 ②③	2 5 4	
		血清 0.3							
5437	抗血小板抗体 (PB-IgG)	血液 2	01	凍結 (8週)	MPHA 法	(一)	262 免疫	3 5 5	
		血清 0.5							
4327	PA-IgG (血小板表面IgG)	血液 7 保存液加血液	52	冷蔵	EIA 法	30.2 以下 ng/10 <sup>7</sup> cells	198 免疫 ④	2 5 3	※9 指定容器使用 【項目】 受付曜日:月~金曜日(午前中) ≪土曜日は受付不可 ≫ 【検体】*1,2
0463	ABO血液型	血液 2	95	常温	カラム凝集法		24 免疫	1 5 2	
0464	Rh(D)血液型	血液 2	95	常温	カラム凝集法		24 免疫	1 5 2	
5543	Rh-Hr式血液型	血液 2 EDTA加血液	13	凍結不可 冷蔵	カラム凝集法		152 免疫 ⑤	2 5 3	
0458	直接クームス試験	血液 2	13	常温	試験管法	(一)	34 免疫	1 5 2	【検体】他の項目とは別に、単独検体にてご提出ください。
0459	間接クームス試験	血液 5	03	常温	試験管法	(一)	47 免疫	1 5 2	【検体】他の項目とは別に、単独検体にてご提出ください。
0460	間接クームス試験 定量	血液 5	03	常温	試験管法	1 未満 倍	47 免疫	1 5 2	【検体】他の項目とは別に、単独検体にてご提出ください。
0461	不規則性抗体	血液 7 EDTA加血液	98	常温	カラム凝集法 (クームス法, 酵素法)		159 免疫 ⑥⑦	2 5 3	【検体】他の項目とは別に、単独検体にてご提出ください。

\*1 : 血小板数が1~3万/μLの場合は、2倍量の血液をご提出下さい(専用採血管2本使用)。1万/μL以下の場合は営業担当者までお問合せください。

\*2 : 検体採取後、24時間以内に弊社検査室に搬入されるようお願いいたします。

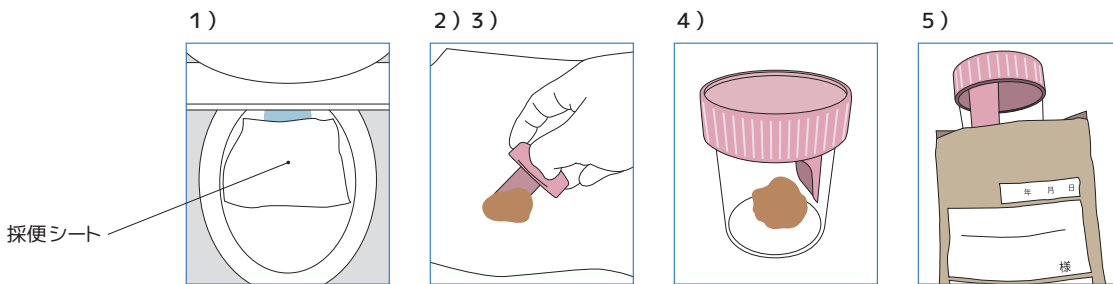
- ① : 「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」、「ミエリンベース蛋白 (MBP)」は多発性硬化症の診断を目的に行った場合に算定できます。
- ② : 「リウマトイド因子」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目のみ算定ができます。
- ③ : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定ができます。
- ④ : 特発性血小板減少性紫斑病の診断または経過判定の目的で行った場合に算定できます。
- ⑤ : Rh(その他の因子)血液型については、同一検体による検査の場合は因子の種類および数にかかわらず所定点数を算定します。
- ⑥ : 輸血歴または妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術または子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)、帝王切開術または異所性妊娠手術が行われた場合、手術当日に算定できます。また、手術に際して輸血が行われた場合は、不規則抗体または輸血に定められる不規則抗体検査加算のいずれかを算定します。
- ⑦ : 診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者または妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載して下さい。



便中カルプロテクチン 検査の検体採取方法

- 1) 便器の水たまりが隠れるように、採便シートを置いてください。  
採便時に尿が混入しないよう、採便シートを置く前に排尿は済ませてください。  
(採便シートは、5分程度は水に溶けず採便が可能です。長時間になると水に溶けるのでご注意ください。)
- 2) 敷いた採便シート上に排便してください。
- 3) 採取容器の蓋(裏側がサジ状になっている)で、シート上の便をすくい取ってください。  
採取量は小指の第一関節程度の大きさを採取してください。下痢便、水様便も同じくらいの体積(量)が必要です。  
(使用後の採便シートは、そのまま水で流すことが可能です。)
- 4) 容器のふたですくい取った便をそのまま容器本体に入れてふたをして下さい。
- 5) 糞便の入った採取容器を収納袋に入れ、チャックを閉めてください。患者が自宅で採取する際は、病院へ提出されるまでの間、冷暗所にて保管してください。  
(便採取は、通院の当日もしくは前日に行ってください。)  
\* 月経期間中および痔ろうなど血液が混入した便でのご提出は控えてください。

【採取手順】



免疫

アレルギー関連検査

■ Viewアレルギー 39 構成アレルゲン

項目コード	4703		
項目名	View アレルギー 39		
構成アレルゲン	吸入	その他	食物
	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ハンノキ(属) シラカンパ(属) カモガヤ オオアワガエリ ブタクサ ヨモギ アルテルナリア アスペルギルス カンジダ マラセチア(属) ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ゴキブリ ガ	ラテックス	ミルク 卵白 オボムコイド 米 小麦(実) ソバ 大豆 ピーナッツ リンゴ バナナ キウイ ゴマ 牛肉 豚肉 鶏肉 エビ カニ サバ サケ マグロ

■ Viewアレルギー 39 判定基準

index 値	クラス	判定
0.27 未満	0	陰性
0.27 ~ 0.49	1	疑陽性
0.50 ~ 1.79	2	陽性
1.80 ~ 7.04	3	
7.05 ~ 17.34	4	
17.35 ~ 29.30	5	
29.31 以上	6	

※各39項目について、個々のindex値をご報告致します。判定基準は、従来の「特異的IgE」とは異なります。

## ■ シングル/マルチアレルゲン 項目一覧

アレルゲンは一時的に入手不可能な場合がありますので、あらかじめご了承ください。

項目コード	アレルゲン名
<b>室内塵</b>	
0524	ハウスダスト 1
0526	ハウスダスト 2

項目コード	アレルゲン名
<b>ダニ</b>	
0520	ヤケヒョウヒダニ
0522	コナヒョウヒダニ
4894	アシフトコナダニ
4895	サヤアシコナダニ
4896	ケナガコナダニ

項目コード	アレルゲン名
<b>樹木花粉</b>	
0560	すぎ
0566	ひのき
0920	オリーブ
4872	かえで(属)
9303	はんのき(属)
4874	しらかんば(属)
4876	ぶな(属)
4877	びやくしん(属)
4878	こなら(属)
4879	にれ(属)
4881	くるみ(属)
4883	やなぎ(属)
4886	まつ(属)
4889	アカシア(属)
4891	くわ(属)

項目コード	アレルゲン名
<b>イネ科花粉</b>	
0562	はるがや
0564	かもがや
0578	おおあわがえり
4921	ぎょうぎしば
4923	ひろはうしのけ草
4924	ほそむぎ
4926	あし
4927	ながは草
4928	こぬが草(属)
4929	せいばんもち
4934	小麦(属)
4935	オオスズメノテッポウ
4936	すすめひえ(属)

項目コード	アレルゲン名
<b>雑草花粉</b>	
0556	ぶたくさ
0558	よもぎ
0926	アキノキリンソウ
0928	カナムグラ
4854	ぶた草もどき
4855	おおぶた草
4857	にがよもぎ
4859	フランス菊
4860	たんぼぼ(属)

項目コード	アレルゲン名
4861	へらおおぼこ
4862	しろぎ
4869	ひめすいば
4871	いらくさ(属)

項目コード	アレルゲン名
<b>真菌 / 細菌</b>	
0546	ペニシリウム
0548	クラドスポリウム
0550	アスペルギルス
0552	カンジダ
0554	アルテルナリア
0912	トリコフィトン(白せん菌)
4901	ムコール
4905	ヘルミントスポリウム
9319	マラセチア(属)
5113	SEAトキシソ(黄色ブドウ球菌A)
5115	SEBトキシソ(黄色ブドウ球菌B)

項目コード	アレルゲン名
<b>動物</b>	
0542	ネコ皮膚(フケ)
0544	イヌ皮膚(フケ)
5089	ウマ皮膚(フケ)
5091	ウシ皮膚(フケ)
5005	ヤギ上皮
5006	羊上皮
5007	家兎上皮
5008	豚上皮
5009	ハムスター上皮
4993	モルモット上皮
5012	ラット
5013	マウス
4995	ガチョウ羽毛
5010	ニワトリ羽毛
5011	アヒル羽毛
5003	セキセイインコ羽毛
5002	セキセイインコのふん

項目コード	アレルゲン名
<b>昆虫</b>	
0922	ユスリカ(成虫)
0924	ガ
4914	ミツバチ
4915	スズメバチ
4916	アシナガバチ
9307	ゴキブリ
4918	ヤブカ(属)

項目コード	アレルゲン名
<b>寄生虫</b>	
5014	RAST 回虫
5021	アニサキス

項目コード	アレルゲン名
<b>職業性アレルゲン</b>	
5017	絹
5045	綿
5079	オオバコ種子
5071	イソシアネート TDI
5072	イソシアネート MDI
5081	イソシアネート HDI
5083	エチレンオキサライド
5055	無水フタル酸
5073	ラテックス
5143	Hev b 6.02(ラテックス由来)
5075	ホルマリン

項目コード	アレルゲン名
<b>薬物</b>	
5044	ヒトインスリン
0918	ゼラチン

項目コード	アレルゲン名
<b>食品</b>	
0528	卵白
0536	卵黄
9301	オボムコイド
0530	ミルク
0574	チーズ
5099	モールドチーズ
0516	かに
0518	えび
4977	ロブスター
5029	イカ
5030	タコ
0570	マグロ
0572	サケ
0916	サバ
4939	タラ
5032	アジ
9309	イワシ
5038	カレイ
5125	カキ(牡蠣)
5127	ホタテ
5123	アサリ
4964	ムラサキイガイ(ムール貝)
9305	イクラ
5121	タラコ
4958	豚肉
0568	牛肉
4984	羊肉
0576	鶏肉
0532	小麦
0534	米
5135	ω-5 グリアジン(小麦由来)
4941	ライ麦(食物)
4942	大麦(食物)
4943	オート麦(食物)
5026	キビ

項目コード	アレルゲン名
5027	アワ
9311	ゴマ
0538	そば
0540	大豆
5141	Gly m 4(大豆由来)
4948	えんどう
4951	いんげん豆
4952	いしばみの実(ハーゼリナツ)
0914	ピーナツ
5198	Ara h 2(ピーナツ由来)*1
4953	ブラジルナツ
4963	ココナツ
5137	カシューナツ
5145	Ana o 3(カシューナツ由来)
4954	アーモンド
5037	カカオ
9317	クルミ
5147	Jug r 1(クルミ由来)
4944	とうもろこし
5024	タケノコ
4962	じゃがいも
5025	サツマイモ
5129	ヤマイモ
5039	カボチャ
4969	にんにく
4970	たまねぎ
4981	セロリ
4982	パセリ
4960	にんじん
5035	ほうれん草
4957	トマト
5133	スイカ
5103	アボガド
5101	洋ナシ
4971	リンゴ
5018	桃
4961	オレンジ
5069	グレープフルーツ
9315	バナナ
9313	キウイ
4983	メロン
4987	マンゴ
4967	いちご
4985	マスタード
4973	α-ラクトアルブミン
4974	β-ラクトグロブリン
4975	カゼイン(牛乳由来)
4976	グルテン
4986	麦芽
4968	ビール酵母

項目コード	0504	0506	0508	0510	0512	0514
項目名	マルチアレルゲン イネ	マルチアレルゲン 雑草	マルチアレルゲン カビ	マルチアレルゲン 動物	マルチアレルゲン 食物	マルチアレルゲン 穀物
混合アレルゲン	はるがや ぎょうぎしば かもがや おおあわがえり あし	ぶたくさ よもぎ フランス菊 たんぼぼ(属) アキノキリンソウ	ペニシリウム クラドスポリウム アスペルギルス カンジダ アルテルナリア ヘルミントスポリウム	ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) モルモット上皮 ラット マウス	卵白 ミルク 小麦 ピーナツ 大豆	米 小麦 とうもろこし ゴマ そば

\*1:「Ara h 2」は他のシングルアレルゲンとは判定基準および報告形態が異なります(クラス報告は行いません)。検査結果が陽性の場合、問診および「ピーナツ」の検査結果と併せて、総合的なご判断をお願いします。(アレルギー検査専用報告書では報告されませんのでご注意ください。)

・アレルゲン1項目ごとに実施料110点を適用。ただし、同一検体について、複数のアレルゲン特異的IgEを測定した場合、実施料の算定は1,430点が限度となります。アレルゲンは一時的に入手不可能な場合がありますので、あらかじめご了承ください。

・マルチアレルゲン検査は、複数アレルゲンの混合物を用いておおまかなカテゴリーとしての原因アレルゲン検索を行うものであり、個々のアレルゲンにおける陰性/陽性の別を判定することはできません。

■ 特異的IgE 判定基準

IgE 抗体濃度 (U <sub>A</sub> /mL)	クラス	判定	
0.35 未満	0	陰 性	(-)
0.35 ~ 0.69	1	疑陽性	(±)
0.70 ~ 3.49	2	陽 性	(1+)
3.50 ~ 17.49	3		(2+)
17.50 ~ 49.99	4		(3+)
50.00 ~ 99.99	5		(4+)
100.00 以上	6		(5+)

■ 非特異的IgE 判定基準

年 齢	IgE 抗体濃度 (IU/mL)
1 歳 未 満	1.36 ~ 19.32
1 歳 ~ 3 歳	5.24 ~ 29.99
4 歳 ~ 6 歳	5.19 ~ 111.94
7 歳 ~ 9 歳	13.12 ~ 141.91
10 歳 ~ 12 歳	11.09 ~ 171.79
13 歳 ~ 18 歳	24.72 ~ 126.77
19 歳 以上	27.54 ~ 138.34

■ TARC 判定基準

年 齢	(pg/mL)
小 児 (6 ~ 12 ヶ月未満)	1367 未満
小 児 (1 ~ 2 歳未満)	998 未満
小 児 (2 歳以上)	743 未満
成 人	450 未満

■ Ara h 2 判定基準

IgE 抗体濃度 (U <sub>A</sub> /mL)	判定
0.35 未満	陰 性
0.35 ~ 3.99	疑陽性
4.00 以上	陽 性

■ 多項目アレルギー検査

項目コード	0498	0499
項目名	RAST-16 吸入系	RAST-16 食餌系
検査項目	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 マルチアレルゲンカビ すぎ ひのき はんのき(属) ぶたくさ よもぎ はるがや おおあわがえり かもがや ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ユスリカ(成虫) ガ ゴキブリ	卵白 ミルク オボムコイド 小麦 大豆 そば ゴマ かに えび マグロ サケ イクラ キウイ バナナ クルミ ピーナッツ

■ アトピー鑑別試験 混合アレルゲンの内容

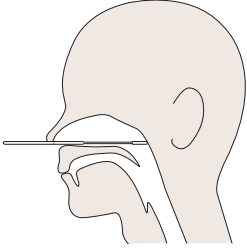
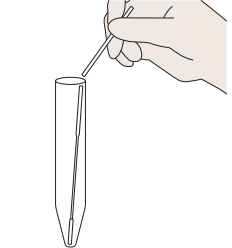
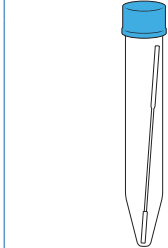


項目コード	0502
項目名	アトピー鑑別試験
検査項目	ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ぎょうぎしば かもがや ぶたくさ よもぎ しらかんば(属) すぎ カンジダ アルテルナリア

※個々のアレルゲンにおける陰性/陽性の別を判定することはできません。

■ 多項目アレルギーセット 項目内容

セット番号	S-57	S-58	S-59	S-60
セット名	小 児 13	皮膚炎 13	喘息 13	鼻炎 13
検査項目	えび ヤケヒョウヒダニ 卵白 ミルク 小麦 そば 大豆 ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ピーナッツ オボムコイド イクラ イワシ	かに えび ヤケヒョウヒダニ 小麦 そば ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) カンジダ すぎ マラセチア(属) ピーナッツ サバ ガ	マルチアレルゲン雑草 ヤケヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) アスペルギルス カンジダ アルテルナリア すぎ かもがや ひのき ユスリカ(成虫) ガ ゴキブリ	マルチアレルゲンカビ ヤケヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ぶたくさ よもぎ すぎ かもがや ひのき ユスリカ(成虫) ガ はんのき(属) ゴキブリ

## 百日咳菌核酸同定の検体採取方法

容器番号		採取方法			
53番	55番	<p>① 専用スワブを袋から取り出します。この時、先端の綿球部分に触れぬよう注意し、柄をつまんで取り出します。</p>	 <p>② 被検者の頭部が動かないよう固定してから、スワブを慎重に後鼻腔の後壁に接するまで深く挿入し、約10秒間留置して鼻腔粘液を採取します。</p>	 <p>③ スワブを速やかに提出用容器に入れ、スワブの柄をスリット部分で折ります。</p>	 <p>④ スワブを入れたままキャップをしっかりと閉め、凍結(-20℃以下)保存でご提出下さい。</p>
					

- \* 成人は座位で、幼児学童は保護者が座位でしっかり抱っこして、乳児は横に寝かせて固定します。はじめにしっかりと固定することが苦痛を最小にします。
- \* 鼻汁が多い場合は、あらかじめ鼻かみにより鼻汁を出してから、後鼻腔ぬぐい液を採取します。

## アスペルギルス抗原 検査結果の判定に関する注意

- 1) 侵襲性アスペルギルス症の診断は、本検査の結果のみではなく、臨床症状や培養検査、病理学的検査、画像診断などの結果を加味し、総合的に行ってください。
- 2) 陽性と判定された場合には、再採血を行った検体にて再測定を実施することをお勧めします。
- 3) 臨床症状がなく陽性と判定された場合、次の状況が考えられます。
  - ① 感染初期に、臨床症状や画像所見などよりも先に、アスペルギルス抗原(ガラクトマンナン)が陽性となることがあります。
  - ② ガラクトマンナンは豆や種子等に多く含まれており、食物繊維としても種々の食物に添加されています。また、わが国では多くの食品(味噌、醤油など)でコウジカビ(アスペルギルス属)を使用しています。乳幼児や消化管粘膜に損傷のある患者では食物の影響により陽性を示す可能性があるとの報告がありますので、注意して診断してください。
  - ③ 海外でピペラシリン/タゾバクタムの合剤の投与により、測定結果が陽性を示したという報告があります。したがって、同薬剤で治療されている患者においては判定の際に注意が必要です。
  - ④ ペニシリウム属などの菌種では交差反応性が認められます。また、*Talaromyces marneffei* (旧名:*Penicillium marneffei*)による侵襲性真菌症の患者検体で陽性となったとの報告があります。
- 4) 抗真菌薬の投与を受けている患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低くなる場合があります。
- 5) 慢性肉芽腫症の患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低かったとの報告があります。
- 6) 陰性と判定された場合でも、侵襲性アスペルギルス症の可能性は否定できません。検体中の抗原濃度が、試薬の検出できる濃度に達していなかった可能性もあります。
- 7) 自己免疫性疾患患者の血清では、非特異性反応が起こりうるので測定結果に基づく診断は他の検査結果や臨床症状を加味して総合的に判断してください。

尿素呼気試験の実施手順

【ユービット®】

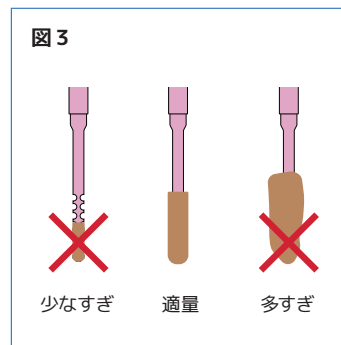
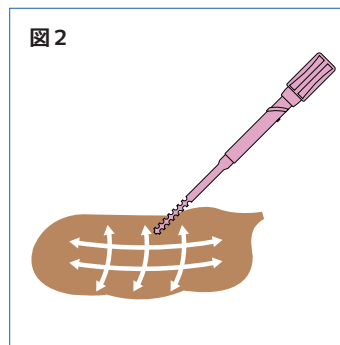
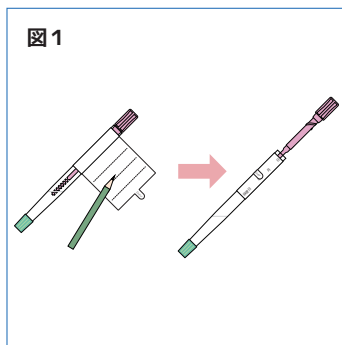
- 1) <sup>13</sup>C 尿素製剤(ユービット®)の服用前に呼気を採取します。  
(「服用前」検体になります)  
呼気採取バックのキャップを外し、深く息を吸い、5～10秒息をとめてください。  
その後ゆっくりと呼気をバックに入れた後、キャップをしっかりと閉めてください。
- 2) <sup>13</sup>C 尿素製剤 100mg (1錠) をつぶさずに、空腹時に水100mL と共に速やかに(5秒以内)に飲み込んでください。
- 3) 左側臥位の姿勢を5分間保ち、その後は座位の姿勢を保ちます。
- 4) <sup>13</sup>C 尿素製剤 100mg 服用後20分に呼気を採取します。  
(「服用後」検体になります)
- 5) 「服用前」と「服用後」の呼気中<sup>13</sup>C O<sub>2</sub>(<sup>13</sup>C O<sub>2</sub>/<sup>12</sup>C O<sub>2</sub>比)を測定し、その変化量(Δ<sup>13</sup>C)を算出してΔ<sup>13</sup>Cが2.5‰以上の場合にヘリコバクター・ピロリ陽性と判定します。

《注意》

呼気採取時には、バックが大きく膨らむまで息を吹き込み、キャップをパチンと音がするまできちんと押し込んで呼気が漏れないようにしてください。(漏出等で呼気量が少ない場合は検査不能になることがあります)

便中ヘリコバクター・ピロリ抗原 検査の検体採取方法

- 1) 容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付などを記入し、また巻いてください。ピンクの採便棒を回して引き抜いてください。  
(図1)
- 2) 採便棒先端の溝全てが便で埋まるように、便の表面をこすりとってください。(図2、3)
- 3) 採便棒を容器に戻して根元までしっかりねじ込んでください。



# 細胞性免疫検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
6411	T細胞・B細胞百分率	血液 各 3 EDTA加血液	13	常温	フローサイトメトリー法 [T細胞]CD2 [B細胞]CD20	64頁参照:「T細胞・B細胞百分率」基準値	198 免疫 ①	2 5 3	【項目】64頁参照:細胞性免疫検査のご依頼について 【項目】 受付曜日:月～土曜日(午前中)
5748	IgG-FcR <sup>+</sup> T細胞百分率				フローサイトメトリー法	5 ~ 20			
6401	リンパ球幼若化試験 《リンパ球分離培養法》	血液 各 5 保存液加血液	21	常温	<sup>3</sup> H-サイミジン 取込能測定法	41,000 ~ 79,900 コントロール 180 ~ 660	345 免疫	6 5 7	必ず指定容器使用 【項目】64頁参照:細胞性免疫検査のご依頼について 【項目】64頁参照:「リンパ球幼若化試験」の留意点 【検体】白血球数が <sup>3</sup> 3,000/ $\mu$ L以下の場合は、倍量採血し、ご提出ください。 【項目】*1
6404						PHA ConA			
6535	NK細胞活性	血液 6 保存液加血液	21	常温	<sup>51</sup> Cr遊離法	64頁参照:NK細胞活性健常者対照表	—	3 5 4	必ず指定容器使用 【項目】64頁参照:細胞性免疫検査のご依頼について 【検体】白血球数が <sup>3</sup> 3,000/ $\mu$ L以下の場合は、倍量採血し、ご提出ください。 【項目】*1
5759	HLA型判定 (A, B Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-rSSO		—	3 5 5	【項目】64頁参照:「HLA型判定、遺伝子型判定検査」の留意点 【検体】EDTA-2Na容器(容器番号 14)でも検査可。
5760	HLA型判定 (DR Locus)								
5751	HLA遺伝子型判定 (A Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-SBT		—	5 5 8	【項目】64頁参照:「HLA型判定、遺伝子型判定検査」の留意点 【検体】EDTA-2Na容器(容器番号 14)でも検査可。
5752	HLA遺伝子型判定 (B Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-SBT		—	5 5 8	【項目】64頁参照:「HLA型判定、遺伝子型判定検査」の留意点 【検体】EDTA-2Na容器(容器番号 14)でも検査可。
5753	HLA遺伝子型判定 (C Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-SBT		—	5 5 8	【項目】64頁参照:「HLA型判定、遺伝子型判定検査」の留意点 【検体】EDTA-2Na容器(容器番号 14)でも検査可。

【ご注意】 土曜日受付可能な項目も日曜日、月曜日が連休となる場合は受託出来ません。

\*1 : 受付曜日:月～金曜日(午前中) <<土曜日は受付不可>>

① : 「T細胞・B細胞百分率」と同時に測定した場合、実施料は一連の算定となります。

## 細胞性免疫検査のご依頼について

## 【検査受付可能日】

- 1) 月～金(午後)、土、日、祝日の検体は受託出来ませんので、必ず確認の上ご提出ください。
- 2) 検査項目によって検査実施日が異なることがありますので、必ず確認の上ご提出ください。
- 3) 受付曜日は、各項目の備考欄に記載してあります。受付可能日、締切り時刻などについては営業担当者にご相談ください。

## 【検査依頼書】

- 1) 細胞性免疫検査をご依頼の際は、専用依頼書をご利用下さい。
- 2) 依頼書所定事項中、採血年月日、時刻、疾患名を必ずご記入ください。

## 【検体採取・保存方法】

- 1) 溶血、雑菌混入は絶対に避けて、無菌的に採血してください。
- 2) 必要量採血後、直ちに所定容器に移してください。
- 3) ヘパリン加血液、EDTA加血液は、採血後、直ちに転倒混和し凝固を防止してください。
- 4) 提出検体は、常温で保存してください。
- 5) 白血球数が減少した患者検体において、所定の採血量でも検査不能となる場合があります。極端な白血球減少が予想される際にはできるだけ多めに採血してご提出ください。

## 【検査にとりかかるまでの検体保存可能時間】

- 1) 採血後、下表の条件を満たす時間内に検査を開始する必要があります。(弊社から委託先に検体を搬送する時間が必要となりますので、予め営業担当者にご確認ください。)
- 2) 保存液容器(8.0mL容量)は弊社にて用意します。保存液容器をご使用になる場合、各検査項目の採血量が多くなりますのでご了承ください。

## 【その他】

組織など、血液以外の検査材料(骨髄液、リンパ節など)でご提出の場合は、あらかじめ営業担当者にご確認ください。

検査項目	材 料	全 血	保存液入採血管
リンパ球関連検査全般 (細胞表面マーカー検査を除く)		—	24 時間以内
細胞表面マーカー検査		48 時間以内*	—
好中球貪食能・殺菌能		24 時間以内	—

★血液疾患が疑われる場合、または血液以外の材料による場合は 24 時間以内となります。

## 「HLA型判定、遺伝子型判定検査」の留意点

- 1) 「HLA型判定、遺伝子型判定」の検体採取・保存の際は、検体相互のコンタミネーションを防ぐため、以下の点にご注意ください。
  - ① 真空採血管を使用し、採血してください。
  - ② 素手で採血管のゴムキャップに触れないでください。
  - ③ 同一検体で他の項目との同時依頼をしないでください。
  - ④ キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず1 検体ずつ処理してください。
- 2) 複数項目を同時に依頼の場合、HLA型判定A,B LocusおよびDR LocusはEDTA加血液 2 mL、HLA遺伝子型判定群では3 項目までは同 2 mL、4 項目以上は同 4 mL で検査可能です。ただし、DQA1 は単独でEDTA加血液 3 mL が必要となります。
- 3) 有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となることがあります。白血球数が3,000/ $\mu$ L以下の場合、所定量の2 倍の血液をご提出ください。
- 4) 血液以外の材料で検査を希望される場合、あらかじめ受託可否についてお問い合わせください。

## 「リンパ球幼若化試験」の留意点

リンパ球幼若化試験用マイトジェンは、PHA、ConA、PWMの中からご指定ください。なお、PWMは、実施料適用外となります。特にご指定のない場合は、PHAのみにて検査します。

## 「T細胞・B細胞百分率」基準値

	陽性細胞百分率 (%)	陽性細胞絶対数 (/ $\mu$ L)
T 細胞	72 ~ 90	605 ~ 2,564
B 細胞	7 ~ 30	70 ~ 663

## NK細胞活性 健常者対照表

[E/T比 50:1]

	男性 (%)	女性 (%)
$\bar{X}$	59.79	50.09
S.D.	15.65	13.36
$\bar{X} \pm 1S.D.$	44.1 ~ 75.4	36.7 ~ 63.4

[年齢別・性別対照表E/T比 50:1]

年齢		男性 (%)	女性 (%)	男女 (%)
20 ~ 29 歳	$\bar{X}$	58.71	52.62	55.53
	S.D.	15.50	12.68	14.28
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	43.2 ~ 74.2	39.9 ~ 65.3	41.2 ~ 69.8
30 ~ 39 歳	$\bar{X}$	58.97	44.05	52.39
	S.D.	16.11	11.91	16.07
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	42.8 ~ 75.0	32.1 ~ 55.9	36.3 ~ 68.4
40 ~ 49 歳	$\bar{X}$	60.54	51.40	56.73
	S.D.	13.65	17.24	15.66
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	46.8 ~ 74.1	34.1 ~ 68.6	41.0 ~ 72.3
50 ~ 59 歳	$\bar{X}$	62.38	50.97	55.72
	S.D.	20.15	11.16	16.19
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	42.2 ~ 82.5	39.8 ~ 62.1	39.5 ~ 71.9

# 遺伝子関連/染色体検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
7717	WT1 mRNA定量	血液 7 * EDTA加血液	89	冷蔵	リアルタイム RT-PCR法	コピー/μgRNA	2520 遺染 ①	3 5	【依頼】『遺伝子検査依頼書』をご利用ください。 【項目】*1【検体】*2 【基準】*3
6631	EGFR遺伝子変異解析	組織 30mg (3mm角)	27	凍結 -70℃以下	PNA-LNA PCR Clamp法	検出せず	2100 遺染 ②③④⑤	4 5 8	【依頼】『遺伝子検査依頼書』をご利用ください。 【検体】病理組織診断にて悪性腫瘍が認められていることを確認の上、ご提出ください。腫瘍細胞が少ない場合、変異を検出できない場合があります。 【検体】「胸水」「気管支肺胞洗浄液」は細胞診検査にて悪性腫瘍細胞が認められていることを確認の上、ご提出ください。 【項目】*1 【検体】*4、5、6
		または 未染スライド* 4~5枚 (5μm厚)	30	常温					
		または パラフィン切片 4~5枚 (5μm厚)	27						
		または 胸水 1 または 気管支肺胞洗浄液 1	55 55	冷蔵					
7477	ROS1融合遺伝子解析	未染スライド 5枚 (5μm厚)	30	常温	リアルタイム RT-PCR法	検出せず	2500 遺染 ④⑤⑥	4 5 7	【依頼】『遺伝子検査依頼書』をご利用ください。 【検体】未染スライド、パラフィン切片および組織検体では、本検査で必要な腫瘍細胞含有率は30%以上です。 【検体】病理組織診断にて腫瘍が認められた部位をマーク(実線で囲む)したH&E染色スライドを併せてご提出ください。 【検体】壊死組織、脂肪組織、出血性組織を多く含む非腫瘍性組織は避けてください。 【検体】*7【検体】*8、9 【項目】*1 【検体】*6、10、11
		または パラフィン切片 5枚 (5μm厚)	27						
		または 組織 50mg (4mm角)	43	冷蔵					
		または 穿刺液(胸水、腹水、心嚢液)から採取した沈渣物 ※ または 気管支肺胞洗浄液から採取した沈渣物 ※	55 55	凍結 -70℃以下					

\*1 : 受付曜日:月~金曜日(午前中) <<休日とその前日は受付不可>>

\*2 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。

\*3 : AML早期再発診断の参考基準値

・200 コピー/μgRNA

小児ALL寛解を判定するための参考基準値

・220 コピー/μgRNA

MDS鑑別診断の暫定的カットオフ値

・50 コピー/μgRNA

\*4 : 強酸による脱灰操作した検体はご提出できません。

\*5 : ホルマリン固定検体では、固定条件によってDNAの断片化が著しく、解析不能な場合があります。

\*6 : ホルマリン固定検体では、一般に推奨される固定液は10%中性緩衝ホルマリンです。固定時間の目安は、手術材料では室温で18~36時間、生検材料では室温で3~6時間程度です。4~5mm程度の厚さの組織として短時間で固定した後に切り出しを行うことにより核酸の断片化が改善されることがあります。

\*7 : 「組織」は新鮮組織50mg(4mm角)を43番容器に移し冷蔵保管下さい。

\*8 : ※「穿刺液(胸水、腹水または心嚢液)」「気管支肺胞洗浄液」は55番容器に3mL採取後、遠心分離し、上清を廃棄した沈渣物を深冷凍(-70℃以下)でご提出ください。上清廃棄の際、沈渣物の流失にご注意ください(ビペットによる上清除去が望ましい)。

\*9 : <穿刺液の遠心分離条件>1,500~3,000×gで5分間遠心分離 ※冷却遠心(2~4℃)が望ましい。

\*10 : 本検査ではRNAが解析対象となるため、検体中のRNAが分解しないよう、適切に検体をお取扱ください。また、日本肺癌学会『肺癌患者におけるROS1融合遺伝子検査の手引き』により詳細な内容が明記されておりますので、併せて参照ください(同資料13~18頁:提出検体の選択における注意事項)。

\*11 : ホルマリン固定検体では、固定条件によってRNAの断片化が著しく、解析不能な場合があります。

① : 急性骨髄性白血病または骨髄異形成症候群の診断補助または経過観察時に行った場合に、1月に1回を限度として算定できます。

② : 肺癌の詳細な診断および治療法の選択を目的として患者本人に対して行った場合に限り、原則患者1人につき1回に限り算定できます。算定に当たっては、「EGFR遺伝子検査(リアルタイムPCR法以外)」と診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

③ : 肺癌においては、再発や増悪から二次的遺伝子変異等が疑われ再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できます。EGFR遺伝子変異解析コバSv2(血漿)と同一月に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

④ : 「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」または「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

⑤ : 患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して悪性腫瘍遺伝子検査を実施した場合は、次の通り算定します。2項目:4000点。3項目:6000点。4項目以上:8000点。

⑥ : 肺癌の詳細な診断および治療法の選択を目的として検査を行った場合に限り、原則患者1人につき1回に限り算定できます。算定に当たっては、「ROS1融合遺伝子検査」と診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
7427	<b>RAS-BRAF 遺伝子変異検査</b>	未染スライド 5枚 (5~10μm厚) または パラフィン切片 5枚 (5~10μm厚)	30	常温	PCR-rSSO法	変異陰性	4000 遺染 ①②③④	4 5 7	【項目】*1 【依頼】「遺伝子検査依頼書」をご利用ください。 【検体】*2, 3, 4 【項目】受付曜日: 月~金曜日(午前中) 《休日とその前日は受付不可》

- \*1: KRAS遺伝子およびNRAS遺伝子のそれぞれcodon12,13,59,61,117および146のアミノ酸置換およびBRAF遺伝子のcodon600のアミノ酸置換を伴うV600Eの遺伝子変異を検出し、変異の有無と変異型をご報告します。
- \*2: HE染色を行い腫瘍細胞が含まれていることが確認できた切片との連続切片(未染スライド)をご提出ください。腫瘍細胞の比率が少ない場合、より多い検体を選びご提出ください。
- \*3: 強酸による脱灰操作した検体はご提出できません。
- \*4: 長時間ホルマリン固定した組織や、ホルマリン固定前に室温放置が長い検体は、DNAの断片化が著しく、解析不能となる場合があります。

- ① 「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」または「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。
- ② 患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して悪性腫瘍遺伝子検査を実施した場合は、次の通り算定します。2項目:4000点。3項目:6000点。4項目以上:8000点。
- ③ 大腸癌患者における治療方針の決定として、「RAS遺伝子検査」、「BRAF遺伝子検査」の2項目包括点数として4000点を算定できます。
- ④ 早期大腸癌におけるリンチ症候群の除外を目的に本検査を実施した場合は、「BRAF遺伝子検査」として2500点のみ算定できます。RAS遺伝子検査の所定点数を併せて算定することはできません。また、マイクロサテライト不安定性検査を実施した年月日を、診療報酬明細書の摘要欄に記載下さい。

## ● 染色体検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
6584	<b>Gバンド分染法</b> 《先天性Gバンド分染法》	血液 3 ヘパリン加血液	10	冷蔵	分染法		2631 + 397 遺染 ①	13 5 18	【依頼】『遺伝学的検査依頼書【先天異常染色体検査】』をご利用ください。 【項目】*1, 2
7713	<b>肺がんALK</b> 《FISH法》	未染スライド 3枚 (4μm厚)	30	常温	FISH法		6520 病理 ②	5 5 12	【検体】*3, 4 【項目】*5 【検体】*6

【ご注意】 ご提出検体は冷蔵(4~20℃)で保存して下さい(ただし、肺がんALKは常温)。また、その他の材料でご提出の場合には、記載の所要日数以内にご報告できない場合がありますのでご了承ください。

- \*1: 受付曜日:月~金曜日(午前中) 《休日とその前日は受付不可》
- \*2: 検査に当たり、被検者への十分なご説明を行ってください。被検者ご自身の承諾が文書で得られた場合にのみ、検査を受託します。依頼書の被検者名はプライバシー保護のため、匿名化をお願いします。また、検査前後の被検者への十分なカウンセリングを併せてお願いします。
- \*3: 組織標本の固定は10%中性緩衝ホルマリン、6~48時間程度でお願いします。
- \*4: パラフィン切片を剥離防止コートスライドに貼付してご提出ください。
- \*5: 受付曜日:月~金曜日(午前中) 《休日は受付不可》
- \*6: 未染スライドは、外科的切除、針生検、FFPE細胞ペレット(例:穿刺吸引細胞診)などによるFFPE組織検体用(原発性腫瘍および転移性腫瘍)に至適化されたものをご提出ください。

- ① 分染法を実施した場合は、397点の加算ができます。
- ② ALK融合遺伝子標本作製は、ALK阻害剤の投与の適応を判断することを目的として、FISH法により遺伝子標本作製を行った場合に、当該薬剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
(0601) 0602	[末梢血液一般] 白血球数	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵 (当日中)	フローサイトメトリー法	$\times 10^2 / \mu\text{L}$ 40 ~ 80	21 血液 ①	1 5 2	
(0601) 0603	[末梢血液一般] 赤血球数				シーフローDC検出法	$\times 10^4 / \mu\text{L}$ M 420 ~ 540 F 380 ~ 480			
(0601) 0604	[末梢血液一般] ヘモグロビン				SLS (ヘモグロビン法)	g/dL M 12.4 ~ 17.6 F 11.0 ~ 15.2			
(0601) 0606	[末梢血液一般] ヘマトクリット				赤血球パルス波高値検出法	% M 36.0 ~ 52.0 F 33.0 ~ 43.0			
(0601) 0611	[末梢血液一般] 血小板数				シーフローDC検出法	$\times 10^4 / \mu\text{L}$ 14.0 ~ 34.0			
0651	網赤血球数				フローサイトメトリー法	% 8 ~ 22			
0654 0669	鼻汁好酸球	鼻汁	塗抹標本	常温	鏡検法		15 血液	1 5 2	
0631	末梢血液像(自動機械法) 《5分類》	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵 (当日中)	フローサイトメトリー法	70頁参照:「血液像」基準値と留意点	15 血液 ②	1 5 2	
0612	末梢血液像(鏡検法) 《6分類》	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵 (当日中)	鏡検法	70頁参照:「血液像」基準値と留意点	25 血液 ②	1 5 2	
0671	PT時間 〈プロトロンビン時間〉	血液 1.8	15	凍結	凝固法	秒 9.7 ~ 12.3	18 血液	1 5 2	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5	02						
0673	APTT 〈活性化部分トロンボプラスチン時間〉	血液 1.8	15	凍結	凝固法	秒 24.3 ~ 36.0	29 血液	1 5 2	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5	02						
0675	フィブリノゲン	血液 1.8	15	凍結	凝固法	mg/dL 200 ~ 400	23 血液	1 5 2	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5	02						
0683	(血中)FDP定量 〈フィブリン・フィブリノゲン分解産物〉	血液 1.8	15	凍結	免疫比濁法	$\mu\text{g/mL}$ 5.0 未満	80 血液	1 5 2	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5	02						
3193	(尿)FDP 〈フィブリン・フィブリノゲン分解産物〉	尿 2	18	冷蔵	LPIA	$\text{ng/mL}$ 100 以下	72 尿便	2 5 3	必ず指定容器使用

\*1 : 必ず血漿分離の上、ご提出ください。

\*2 : 3. 2%クエン酸ナトリウム液0. 2mL入り容器に血液1. 8mLを正確に入れ、全量2. 0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出ください(遠心力の換算表70頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

① : 実施料は、「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。

② : 同一検体で「好酸球数」および「白血球像」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
0684	Dダイマー	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	免疫比濁法	1.0 以下	μg/mL	133	1 5 2	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5								
3205	プロテインC(抗原量)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	LPIA	62 ~ 131	%	239	2 5 5	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.3								
3212	プロテインC(活性)	血液 1.8	15 ↓ 02	(2週)	合成基質法	64 ~ 135	%	241	2 5 3	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5								
3206	プロテインS(抗原量)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	M 74 ~ 132 F 60 ~ 127	%	162	2 5 3	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.3								
3213	プロテインS(活性)	血液 1.8	15 ↓ 02	(2週)	凝固時間法	64 ~ 149	%	168	2 5 5	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.4								
0678	アンチトロンビンⅢ活性 (ATⅢ)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	合成基質法	80 ~ 130	%	70	1 5 2	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5								
3236	TAT (トロンビン・アンチトロンビン複合体)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	CLEIA	3.0 未満	ng/mL	181	2 5 3	【検体】採血方法の不敵により異常値を示すことがあります (ツーンシリンジ採血法にてお願いします)。 【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5								
3245	PICテスト (α <sub>2</sub> プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	LPIA	0.8 未満	μg/mL	158	2 5 3	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.3								
3272	β-トロンボグロブリン (β-TG)	血液 2.7	19 ↓ 02	凍結 (4週)	EIA	60 以下	ng/mL	177	3 5 9	必ず指定容器使用 【検体】70頁参照: β-TG、PF-4の採血方法、遠心力の換算表 【検体】*1 【容器】*3
		乏血小板血漿 0.5								
3271	PF-4 (血小板第4因子)	血液 2.7	19 ↓ 02	凍結 (4週)	EIA	20 以下	ng/mL	178	3 5 9	必ず指定容器使用 【検体】70頁参照: β-TG、PF-4の採血方法、遠心力の換算表 【検体】*1 【容器】*3
		乏血小板血漿 0.5								
3235	フォン・ウィルブラント因子定量 (第Ⅷ因子様抗原)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	50 ~ 150	%	151	2 5 5	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5								
3241	フォン・ウィルブラント因子活性 (リストセチンコファクター)	血液 1.8	15 ↓ 02	(2週)	固定血小板凝集法			132	2 5 3	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.4								
3170	ループスアンチコアグラント	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	希釈ラッセル蛇毒試験法 (dRVVT)	1.2以下 (NR: Normalized Ratio)		281	2 5 3	【検体】*1,2
		クエン酸血漿 0.5								

\*1: 必ず血漿分離の上、ご提出ください。

\*2: 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出ください(遠心力の換算表70頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

\*3: 専用容器(テオフィリン、アデノシン、ジピリダモール、他入り)は、あらかじめご依頼下さい。なお、ジピリダモールは蛍光灯に48時間晒されると不活性化するため、使用時までには遮光保存をお願いします。

①: 「TAT」および「SFMC」を同時に実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

②: 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考		
3159	第Ⅱ因子活性 (F2)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	PT 法	74 ~ 146	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3160	第Ⅴ因子活性 (F5)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	PT 法	70 ~ 152	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3161	第Ⅶ因子活性 (F7)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	PT 法	63 ~ 143	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3162	第Ⅷ因子活性 (F8)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	APTT 法	62 ~ 145	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3163	第Ⅸ因子活性 (F9)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	APTT 法	74 ~ 149	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3164	第Ⅹ因子活性 (F10)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	PT 法	71 ~ 128	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3165	第Ⅺ因子活性 (F11)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	APTT 法	73 ~ 136	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3166	第Ⅻ因子活性 (F12)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	APTT 法	46 ~ 156	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3167	第ⅩⅢ因子定量 (F13)	血液 1.8	↓	凍結	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	70 以上	%	223	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.4									
3168	第Ⅷ因子インヒビター (F8INH)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	Bethesda 法	検出せず	BU/mL	148	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									
3169	第Ⅸ因子インヒビター (F9INH)	血液 1.8	↓	凍結 (2週)	Bethesda 法	検出せず	BU/mL	148	2 5	血液	【検体】 *1、2
		クエン酸血漿 0.5									

\*1 : 必ず血漿分離の上、ご提出ください。

\*2 : 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1.500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出ください(遠心力の換算表70頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

「β-トロンボグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)」の採血方法

操作を2分以内に行う

20ゲージ(19~21ゲージ可)の針を用いたポリプロピレン注射器で、血液3mLを採取してください。  
**真空採血管の使用は絶対に止めてください。**また、できれば駆血帯も使用しないでください。  
 10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採血してください。

注射針を外して、あらかじめキャップを開けた専用容器(容器番号19)に血液2.7mLを静かに移し、キャップを閉めてゆっくり2~3回反転して混合させてください。  
 指定の専用容器以外は使用しないでください。  
 専用容器は振とうさせないでください。

採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れ、冷却してください。  
 砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。  
 角氷は使用しないでください。

砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500xgで20分間、2~8℃で遠心分離してください。(右表に2,500xgにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します)  
 1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。

上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL\*検体容器へ採取してください。  
 検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存してください。  
 (1ヶ月安定)  
 血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けてください。 ※TGF-β1は0.6mL

遠心力の換算表

1,500 x g

半径 (cm)	回転数 (r.p.m.)
10	3,700
12	3,300
14	3,100
16	2,900
18	2,700
20	2,600
22	2,500
24	2,400
26	2,300
28	2,200
30	2,100

2,500 x g

半径 (cm)	回転数 (r.p.m.)
10	4,700
12	4,300
14	4,000
16	3,700
18	3,500
20	3,300
22	3,200
24	3,100
26	2,900
28	2,800
30	2,700

「血液像」基準値と留意点

細胞の種類		構成比率 (%)
好中球	NEUT	37 ~ 70
杆状核球	ST	1 ~ 6
分節核球	SEG	35 ~ 68
好酸球	E	0 ~ 5
好塩基球	B	0 ~ 1
単球	MONO	2 ~ 8
リンパ球	L	24 ~ 53
芽球	BLA	0
前骨髄球	PROM	0
骨髄球	M	0
後骨髄球	MET	0
異型リンパ球	A-L	0
形質細胞	PLC	0
不明細胞	OTHER	0
異常細胞	ABNC	0
裸核細胞		0/100WBC

- 1) 時間経過等により、血球形態破壊が著しくなるため検査不能になることがあります。できるだけ早くご提出ください。
- 2) 塗抹標本でご提出の場合は、採血後直ちに作成してください。(標本冷蔵厳禁)
- 3) 血液塗抹標本は、患者氏名をご記入の上ケースに収納してご提出ください。ケースには、検査依頼書のバーコードラベルに患者氏名、施設名を明記してお貼りください。

血液

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0801	一般細菌塗抹	尿・喀痰 / その他	各種	冷蔵	グラム染色法		61 微生物 ①	2 5 5	〔検体〕 * 1
0806	MRSA簡易培養検査	尿・喀痰 / その他	各種	冷蔵			60 微生物	3 5 7	
0811	細菌培養同定検査	口腔気道 喀痰・咽頭液 / その他	各種	冷蔵	使用培地は目的菌検査材料により異なるが基本的には血液寒天・BTB(便の場合はSS)寒天・各種確認培地診断用免疫血清を使用		160 微生物 ②③	3 5 7	〔検体〕 * 2 〔日数〕 * 3
0812		消化管 糞便 胆汁・胃液 / その他				180 微生物 ②③	〔検体〕 * 2 〔日数〕 * 3		
0813		泌尿器生殖器 尿・分泌物 / その他				170 微生物 ②③	〔検体〕 * 1, 2, 4 〔日数〕 * 3		
0814		血液穿刺液 血液・穿刺液				215 微生物 ②③④⑤	5 5 10	〔検体〕 * 2, 5, 6 〔日数〕 * 3	
0815		その他の部位 膿・耳漏・分泌物 / その他				160 微生物 ②③	3 5 10	〔検体〕 * 2 〔日数〕 * 3	
0816	大腸菌 血清型別 (病原性大腸菌)	消化器系材料 (便等)	各種	冷蔵	O抗原血清型別		175 免疫 ⑥⑦⑧	3 5 7	
0807	嫌気性培養	膿・分泌物、血液・穿刺液・胆汁 / その他	各種	冷蔵			112 微生物 ⑨	3 5 10	〔容器〕嫌気培養輸送容器をご利用ください。 〔依頼〕気性培養のみのご依頼はお受け出来ません。必ず、培養同定と併せてご依頼ください。
0825	細菌薬剤感受性検査	1菌種 培養同定に同じ	各種	冷蔵	微量液体希釈法またはディスク拡散法		170 微生物 ⑩	4 5 10	
0826		2菌種 培養同定に同じ				220 微生物 ⑩			
0827		3菌種以上 培養同定に同じ				280 微生物 ⑩			

注) :ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

- \*1 :トリコモナスの検査では検体を常温保存してください。
- \*2 :検体を乾燥させないようにしてください。
- \*3 :真菌培養(材料:尿の場合を除いて)の場合は7~14日前後を要します。
- \*4 :淋菌の検査では検体を常温保存してください。
- \*5 :血液培養の検査では検体を常温保存してください。
- \*6 :髄液培養の検査では検体を常温保存してください。

- ① :染色の有無および方法の如何にかかわらず、2種類以上用いた場合であっても、1回としての算定となります。
- ② :同一検体を用いて簡易培養検査を併せて行った場合は、簡易培養検査は算定できません。
- ③ :症状等から同一起因菌によるかと判断される場合であって、起因菌を検索する目的で異なった部位や同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主な部位または1か所の実施料の算定となります。
- ④ :但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、「血液または穿刺液」を2回算定できます。この場合、「嫌気性培養加算」は2回算定できます。
- ⑤ :穿刺液とは、胸水、腹水、髄液、および関節液を指します。
- ⑥ :保険請求の際は、「大腸菌血清型別」とご記入下さい。
- ⑦ :細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定となります。
- ⑧ :当該点数が該当する場合、細菌培養同定検査の点数は算定できません。
- ⑨ :嫌気性培養のみを行った場合は、所定の部位の細菌培養同定検査の実施料のみを算定し、嫌気性培養の加算は算定できません。
- ⑩ :培養の結果、菌が検出できず実施できなかった場合は算定できません。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0832	抗酸菌塗抹	呼吸器系材料 / その他	各種	冷蔵	集菌塗抹 (蛍光)法		50+32 微生物 ①②	2 5	【方法】 * 1
0836	抗酸菌分離培養検査	呼吸器系材料 / その他	各種	冷蔵	2%小川培地		204 微生物 ③④	4 5 8 週	【方法】 通常培地を使用します。
0853	抗酸菌同定DDH	喀痰・菌株 / その他	各種	冷蔵	DNA-DNA ハイブリダイゼーション法		410 微生物	1 2 週	
0842	抗酸菌薬剤感受性検査	喀痰・菌株 / その他	各種	冷蔵	マイクロタイター法 (一濃度比率法)		380 微生物 ⑤		
6742	結核菌群同定 (TaqManPCR法)	呼吸器系材料 / その他	55	冷蔵	ロシュ・リアルタイムPCR法		410 微生物 ④	2 3	必ず指定容器使用 【検体】 * 2, 3 【算定】 * 4 【日数】 * 5
6740	MAC同定-DNA (TaqManPCR法)	呼吸器系材料 / その他	55	冷蔵	ロシュ・リアルタイムPCR法		421 微生物 ⑥	2 3	必ず指定容器使用 【検体】 * 2, 3 【算定】 * 4 【日数】 * 5
0503	QFT-TB(第4世代)	血液	5	97 冷蔵 2~8℃	ELISA 法	(一)	612 免疫 ⑦	3 5 10	【項目】 受託曜日: 月~金曜日 (祝祭日前日を除く)
0871 0872	赤痢菌・サルモネラ菌	糞便 / その他	各種	冷蔵		(一)	—	3 7	
0860	腸管出血性大腸菌	糞便 / その他	各種	冷蔵		(一)	—	3 7	
0879	O-157	糞便 / その他	各種	冷蔵		(一)	—	3 7	
6730	レジオネラ菌定量培養	環境水	250 5 500 mL	28 冷蔵 凍結不可	定量培養・同定		—	12 5 16	【項目】 検査をご検討の際は、検査実施内容をあらかじめご相談ください。 【検体】 専用の滅菌ボトルを用い、冷蔵にてご提出ください。

- \* 1 : 集菌塗抹(蛍光)法で陽性の場合はチール・ネルゼン法で確認致します
- \* 2 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)。
- \* 3 : 菌株の場合は、所定の保護ケースをご利用の上、常温保存にてご提出ください(保護ケースは、あらかじめ営業担当へお申し付けください)。
- \* 4 : 保険請求の際は、それぞれ次のようにご記入下さい。  
[6742] 結核菌群同定 → 結核菌群核酸検出  
[6740] MAC同定-DNA → マイコバクテリウム・アビウムおよびイントラセラー(MAC)核酸検出
- \* 5 : その他の材料および微生物検査を併せてご依頼の際は、所定の日数よりも1日延長する場合があります。

- ① : 蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、暗視野装置等を使用するもの 50点  
注 集菌塗抹を行った場合には集菌塗抹加算として32点を所定点数に加算する
- ② : 染色の有無および方法の如何にかかわらず、2種類以上用いた場合であっても、1回としての算定となります。
- ③ : 検体の採取部位が異なる場合であっても、同時にまたは一連として検体を採取した場合は、1回のみ算定できます。
- ④ : 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できます。
- ⑤ : 4薬剤以上使用した場合に限り、算定できます。
- ⑥ : 他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみ算定できます。「抗酸菌同定」と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。
- ⑦ : 診察または画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。

## ▶ 主要材料の採取保存方法

### 1) 口腔・気道・呼吸器系材料

#### ■ 喀痰

口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2～3回うがいしてから喀出痰を採取します。できるだけ唾液・鼻粘液の混入は避けるようにしてください。

#### ■ 咽頭液

滅菌生理食塩水でうがいした後、滅菌綿棒(細菌検査用スワブ付属の綿棒)で病変部をよく擦って粘液を採取します。

### 2) 消化器系材料

#### ■ 糞便

急性期の排出便を採取します。糞便の量は1g程度とし、細菌検査用採便容器に入れてください。便の状態を含め臨床所見は病原菌検出に大きな手がかりとなりますので、必ずご記入願います。

#### ■ 胆汁

胆管内胆汁(A胆汁)、胆嚢内胆汁(B胆汁)、肝内胆汁(C胆汁)のうち、検査には通常、胆嚢内胆汁(B胆汁)を培養します。滅菌スピッツ管に2～3mL採取します。

### 3) 泌尿器・生殖器系材料

#### ■ 尿

患者自身が採尿する場合はほとんどなため、採尿に際して適切な指示をしてください。

男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌ハルンカップなどに取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。

女性の場合は、膣などの常在菌汚染があるため、充分洗浄してから採尿となります。消毒綿で消毒後、滅菌水を浸したガーゼで数回洗浄します。ガーゼは1回ごとに取り替えるように指示して下さい。尿は滅菌ハルンカップなどに取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。

いずれの場合も早朝尿が望ましく、また通常は前半尿を捨て、中間尿を取ります。

#### ■ 生殖器分泌物

男性の場合は、陰茎をしごき、分泌物を採取します。

女性の場合は、外陰部を消毒した後、陰鏡を用いて滅菌綿棒で後膣内蓋部より採取します。淋菌やトリコモナスを疑われる場合は、菌の死滅を防ぐために室温で保存して下さい。

### 4) 血液・穿刺液

#### ■ 血液

採血に当たり、穿刺部位を十分に消毒してください。消毒方法は、消毒用アルコールで穿刺部位を中心として円を外側に向かい描くよう拭いていきます。その後、少し擦るようにします。乾燥後、ヨードチンキで同様の方法で消毒します。1分後に注射器で採血します。血液培養用ボトル(レズンボトル好気性菌用・嫌気性菌用)は、予めキャップを取り、ゴム上部を消毒用アルコールで消毒します。培養用ボトルへの血液接種量は3～10mLです。接種後の培養用ボトルは、速やかに提出してください。

#### ■ 髄液

採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行ってください。

### 5) その他の部位

#### ■ 膿瘍・創傷

皮下組織や粘膜下の閉鎖性膿瘍は、穿刺部位を消毒後注射器で採取し、滅菌スピッツ管に入れてください。嫌気性菌の検査の場合は、注射器で嫌気培養用輸送容器(ケンキポーターまたはシードチューブ)のゴム栓に刺し、注入します。開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清拭後、滅菌綿棒(細菌検査用スワブ付属綿棒)で膿性部を採取し、指定容器(細菌検査用スワブ)に入れます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
<b>●尿中一般物質定性半定量検査</b>									
0701	蛋白定性	尿 10	25	冷蔵	試験紙法	(-)		1 5 2	【算定】実施料は、当該保険医療機関内で検査を行った場合のみ算定できます。
	グルコース定性					(-)			
	ウロビリノゲン					(±)			
	ビリルビン					(-)			
	ケトン体					(-)			
	PH					4.5 ~ 7.5			
	潜血					(-)			
	比重					1.005 ~ 1.030			
0743	(蓄尿)尿蛋白	尿 10	25	冷蔵	ピロガロール レッド法	mg/day 20 ~ 120	7 尿便	1 5 2	【依頼】依頼書に1日蓄尿量を必ず明記してください。
0744	(蓄尿)尿グルコース	尿 10	25	冷蔵 (当日中)	ヘキソキナーゼ法	mg/day 40 ~ 85	9 尿便	1 5 2	【依頼】依頼書に1日蓄尿量を必ず明記してください。
0711	尿沈渣顕微鏡検査	尿 10	25	冷蔵	鏡検法		27 尿便 ①	1 5 2	

●糞便検査

0355 0356	便中Hb定性	糞便 (専用容器)	31	冷蔵	金コロイド比色法	(-)	37 尿便	1 5 2	必ず指定容器使用 【容器】専用容器は、あらかじめご依頼ください。
0866	虫卵(集卵法)	糞便 親指頭大	29	冷蔵	集卵法	(-)	15 尿便	2 5 3	
0861	虫卵(塗抹法)	糞便 親指頭大	29	冷蔵	直接塗抹法	(-)	20 尿便 ②	2 5 3	【検体】検体は、乾燥させないでください。
6876	虫体鑑別	虫体	44	冷蔵	肉眼/鏡検法		23 尿便	2 5 3	【検体】検体は、乾燥させないでください。 【日数】検出される寄生虫の種類により、さらに鑑別に日数を要する場合があります。

[ご参考] 「尿検体の採取方法」(77頁)をご参照ください。

- ① : 尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣(鏡検法)を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後4時間以内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できます。
- ② : 実施料は、「塗抹顕微鏡検査」として一連の算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
-------	------	----------	----	----------	------	----------	--------	------	----

## ● 髄液検査

0772	[髄液一般] ノンネアベルト	脊髄液 2.5	25	冷蔵 (当日中)	比濁法	(-)	62 尿便 ①	1 5 2	
0773	[髄液一般] パンディ				比濁法	(-)~(±)			
0774	[髄液一般] 細胞数				鏡検法	0 ~ 5 /μL			
0779	[髄液一般] 比重				屈折計法	1.005 ~ 1.007			
0780	[髄液一般] トリプトファン				里見変法	(-)			
0781	(髄液)総蛋白	脊髄液 0.5	冷蔵	ピロガロール レッド法	10 ~ 40 mg/dL	11 生I	1 5 2		
0782	(髄液)グルコース	脊髄液 0.5	冷蔵 (当日中)	ヘキシキナーゼ法	50 ~ 75 mg/dL	11 生I	1 5 2		
0783	(髄液)クロール	脊髄液 0.5	冷蔵	イオン選択電極法	720 ~ 750 mg/dL	11 生I	1 5 2		

【ご注意】「髄液検査」を「微生物学検査(髄膜炎菌)」と併せてご依頼の場合、検体は常温にてご提出ください。

## ● 穿刺液(腹水・胸水・関節液)

0752	比重	腹水 胸水 関節液	5	25 冷蔵 (当日中)	屈折計法		採取料 に含む	1 5 2			
0753	細胞数				鏡検法	/μL					
0754	細胞種類				鏡検法	%					
0758	ムチン塊テスト				ムチン塊 形成試験法						
0760	(穿刺液)蛋白				屈折計法	g/dL				11 生I	1 5 2
0761	(穿刺液)グルコース				ヘキシキナーゼ 法	mg/dL				11 生I	1 5 2

① : 実施料は、「髄液一般検査」として一連の算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
-------	------	----------	----	----------	------	----------	--------	------	----

● 精液検査

0795	精液量	精液全量	各種	常温		2 以上 mL	70 尿便 ①	1 2	【検体】77頁参照:精液検体の採取方法
	精子数	精液全量		常温	鏡検法	40 以上 $\times 10^6/\text{mL}$			
	精子運動率	精液全量		常温	鏡検法	50 以上 %			

① : 実施料は、「精液一般検査」として一連の算定となります。

## 尿検体の採取方法

### 1) 普通尿の場合

新鮮尿を清潔な乾燥した容器に直接排尿するか、清潔な乾燥した携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。

### 2) 中間尿の場合

清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。

最初は便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、再び便器に放尿します。

### 3) 無菌尿の場合

男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。

細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採尿しても構いません。

## 精液検体の採取方法

精液検査のご利用に際して、射精可能な場合の精液の採取は、以下の手順で行ってください。

- 1) 禁欲期間は2日以上、7日以内が理想的です。  
氏名、禁欲期間、採取日時を記録してください。
- 2) 検査は2回行い、その間隔は7日以上、3か月以内とすることが推奨されます。これら2回の検査結果が著明に異なる場合には追加検査を行ってください。
- 3) 採取は(院内)検査室近くのプライバシーの保てる部屋で行うか、採取後1時間以内に持参させるようにしてください。
- 4) 精液はマスターベーションで採取します。  
容器は滅菌した広口のガラス製のものを温めて(20～40℃)使用してください。プラスチック製のものは精子に対する毒性がないことを確かめてから用いる必要があります。潤滑剤は使用しないでください。  
細菌学的検査を行う場合には、排尿後に手とペニスを洗浄・消毒してから滅菌した容器に採取してください。
- 5) 通常のコンドームは殺精子作用を示す可能性があるため、使用に適しません。マスターベーションで採取できない場合には、精液採取用コンドーム(S C D: seminal collection device, HDC Corporation, Mountain View, CA, USA)を利用することが推奨されます。

[上掲の記述は、日本不妊学会編「新しい生殖医療技術のガイドライン」に準じたものです]

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
6865 8101	病理組織検査 1臓器	10%ホルマリン固定組織	44	常温	染色・鏡検		860 病理	6 5 12	【項目】検査内容には標本作製と病理医による判定を含みません。 【項目】*1 【検体】*2 【日数】所要日数は、切り出し、脱灰、脱脂、再固定、特殊染色などの必要が生じた際は、さらに日数を要する場合がありますので、あらかじめご了承ください(検査結果がコンサルテーションとなった場合も同様です)。
6893 8102	病理組織検査 2臓器	10%ホルマリン固定組織	44	常温	染色・鏡検		1720 病理	6 5 12	
6894 8103	病理組織検査 3臓器	10%ホルマリン固定組織	44	常温	染色・鏡検		2580 病理	6 5 12	
6907 8191	HER2/neu 【IHC法】	パラフィンブロック (腫瘍組織) または 未染標本スライド 5枚 (4μm厚)	20	常温	免疫組織化学染色		690 病理	6 5 10	【項目】80頁参照:乳癌および胃癌HER2/neu(IHC法)【FISH法】検査の留意点
6988	HER2/neu 【FISH法】	パラフィンブロック (腫瘍組織) または 未染標本スライド 5枚 (4μm厚)	20	常温	FISH法		2700 病理 12	9 5 13	【項目】80頁参照:乳癌および胃癌HER2/neu(IHC法)【FISH法】検査の留意点
6995	胃癌HER2/neu 【IHC法】	パラフィンブロック (腫瘍組織) または 未染標本スライド 5枚 (4μm厚)	20	常温	免疫組織化学染色		690 病理	6 5 10	【項目】80頁参照:乳癌および胃癌HER2/neu(IHC法)【FISH法】検査の留意点 【検体】組織標本の固定は10%中性緩衝ホルマリン、6~48時間程度でお願いします。
6931	PD-L1 (22C3) 【IHC法】	未染標本スライド 5枚 (4~5μm厚)	20	常温	免疫組織化学染色		2700 病理 3	6 5 8	【検体】推奨固定時間:12~72時間 【検体】薄切後6カ月以内にご依頼ください。 【依頼】*3,4 【検体】*5 【日数】*6
7712	ALK融合タンパク 【高感度IHC法】	未染標本スライド 4枚 (4μm厚)	20	常温	高感度免疫染色法		2700 病理 4	5 5 8	【報告】染色と専門の病理医判定を合わせ結果をご報告致します。 【検体】*7
1864 8193	エストロゲンレセプター 【IHC法】 (ER)	パラフィンブロック (腫瘍組織) または 未染標本スライド 4枚 (4μm厚)	20	常温	免疫組織化学染色		720 病理 5	6 5 10	
1844 8194	プロゲステロンレセプター 【IHC法】 (PgR)	パラフィンブロック (腫瘍組織) または 未染標本スライド 4枚 (4μm厚)	20	常温		690 病理 5	6 5 10		

【ご参考】 「病理組織検査」材料の提出方法(80頁)、「病理検査」実施料の算定について(81頁)をご参照ください。

- \*1 : 検査材料の種類・検索目的などにより特殊染色が必要となった場合、追加検査として別途検査料金をご請求しますので、あらかじめご了承ください。
- \*2 : 遺伝子検査にも用いる場合は、10%中性緩衝ホルマリン固定組織を推奨します。
- \*3 : PD-L1(IHC)検査をご依頼の場合は、『病理検査(特殊染色・免疫染色)依頼書』をご使用ください。
- \*4 : 肺がん関連検査を併せてご依頼の場合は、【多項目同時依頼書】を用意していますので、営業担当者までお申し付けください。
- \*5 : スライドは剥離防止コートスライドガラスをご使用ください。組織標本の固定は10%中性緩衝ホルマリンが推奨されています。スライド枚数については、再検査用の検体も含んでいます。
- \*6 : 所要日数に再検査の日数は含まれません。また、パラフィンブロックでのご依頼および関連項目と同時にご依頼の場合は別途日数がかかります。
- \*7 : 非小細胞肺癌を含む組織のホルマリン固定パラフィン包埋ブロックから作製された未染標本スライドをご提出ください(スライドは剥離防止コートスライドガラスをご使用ください)。

- ① : 抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断するために遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。
- ② : HER2タンパクの免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製を併せて行った場合には、3050点を算定できます。
- ③ : 抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤または抗PD-L1抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。
- ④ : ALK融合タンパクは非小細胞肺癌患者に対して、ALK阻害剤の投与の適応を判断することを目的として当該薬剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。
- ⑤ : 病理標本作製を別に実施した場合も、実施料を別に算定できます。同一月に「PgR」と「ER」を併せて実施した場合は、いずれか一方の所定点数に180点の加算のみの算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
6863 8001	<b>細胞診</b> (婦人科材料等によるもの)	湿潤固定標本		常温	染色・鏡検		150 病理 ①	5 ~ 6	【検体】82頁参照:「細胞診検査」材料の提出方法
6864 8002	<b>細胞診</b> (穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの)			常温	染色・鏡検		190 病理 ②	5 ~ 6	【検体】81頁・82頁参照:「細胞診検査」材料の提出方法 【検体】生検体は、単独検体にてご提出ください。

**【ご注意】** 細胞診検査において、細胞診専門医の判定が必要な場合、通常日数よりご報告が遅れることがあります。

- ① : 同一または近接した部位より同時に数検体を採取して検査を行った場合であっても、1回としての算定となります。
- ② : 同一または近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、1回としての算定となります。

乳癌および胃癌HER2/neu《IHC法》《FISH法》検査の留意点

HER2 過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌に関する ハーセプチン®の使用が2011年3月に保険承認されました。この承認に伴い、投与適応を決定するために用いられるHER2/neu 検査が胃癌患者にも保険適用になりました。

【乳癌検体】

- 1) 乳癌におけるHER2/neu《IHC法》《FISH法》検査の検索対象は浸潤性乳癌細胞です。  
提出検体が、それ以外の組織型乳癌や原発臓器の異なる癌と確認された場合は、その旨をご報告します。
- 2) 10%中性緩衝ホルマリン液により固定後、速やかにパラフィン包埋し病理診断後ご提出ください。  
スライドで提出する場合は、ホルマリン固定パラフィン組織から4µm未染薄切切片をそれぞれ5枚作製し、シランコートスライドを使用しご依頼ください。
- 3) 薄切後、6週間以上経過した未染色スライドの提出は避けてください。
- 4) 染色途中で剥離することがありますので、未染色スライドは十分な予備の提出をお願いします。
- 5) 検査の参考にしますので、可能な範囲内で病理診断(組織型)、臨床情報などを依頼書にご記入ください。
- 6) 病理組織検査を実施している場合は、検査報告書のコピー添付をお願いします。
- 7) 検体をホルマリン固定組織にて提出された場合、原則として最初に病理判定(病理組織検査)を実施致します。  
「病理組織判定不要」あるいは「HER2検査」のみをご希望の場合は、依頼時にその旨をご指示ください。  
(HER2検査のみの場合はパラフィンブロック作製費用を別途申し受けます)

【胃癌検体】

- 1) 胃癌におけるHER2/neu《IHC法》《FISH法》検査の検索対象は原発巣および転移巣組織です。  
再発胃癌では転移巣における新たな検体採取が困難となる場合がありますので、過去の手術もしくは内視鏡生検による原発巣の組織ブロックが検索対象になります。
- 2) 10%中性緩衝ホルマリン液により固定後、速やかにパラフィン包埋し病理診断後ご提出ください。  
スライドで提出する場合は、ホルマリン固定パラフィン組織から4µm未染薄切切片をそれぞれ5枚作製し、シランコートスライドを使用しご依頼ください。
- 3) 薄切後、6週間以上経過した未染色スライドの提出は避けてください。
- 4) 染色途中で剥離することがありますので、未染色スライドは十分な予備の提出をお願いします。
- 5) 検査の参考にしますので、可能な範囲内で病理診断(組織型)、臨床情報などを依頼書にご記入ください。
- 6) 病理組織検査を実施している場合は、検査報告書のコピー添付をお願いします。
- 7) 検体をホルマリン固定組織にて提出された場合、原則として最初に病理判定(病理組織検査)を実施致します。  
「病理組織判定不要」あるいは「HER2検査」のみをご希望の場合は、依頼時にその旨をご指示ください。  
(HER2検査のみの場合はパラフィンブロック作製費用を別途申し受けます)

「病理組織検査」材料の提出方法

病理組織検査をご依頼の際は、検査材料を10～20%のホルマリン又は中性緩衝ホルマリン(ホルマリン原液5～10倍希釈)固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライドなど、HER2/neuをご依頼の際は、10%中性緩衝ホルマリン固定組織にてご提出ください。

【10～20%ホルマリン固定組織】

- 1) 検体は採取後、自家融解・乾燥などを防ぐために、できるだけ速やかに固定してください。
- 2) 検体の固定には十分量の10～20%ホルマリン液(推奨:10～20%中性緩衝ホルマリン液)をご使用ください。  
(組織の10～20倍量を目安としてください)
- 3) 複数個の内視鏡下生検材料などをご提出の際は、採取組織ごとに個々の容器に入れ、必要事項を記入しご提出ください。  
なお微細組織の場合は、濾紙に貼り付けた上、個々の容器にお入れください。
- 4) 手術材料などの大きい組織をご提出の際は、別掲表の点に注意し、固定液が十分に浸透するように固定してください。

組織	固定法
胃・腸管・胆嚢等	臓器を切開後、粘膜面を上にし、板に拵げ、虫ピンで止めて10～20%ホルマリン液に入れます。
肺	気管支断端から10～20%ホルマリンを注入し、割面にガーゼを挟み、表面にも厚めのガーゼを掛け、10～20%ホルマリン液に入れます。
子宮	前面よりY字型に切開して10～20%ホルマリン液に入れます。
厚みのある臓器	あらかじめ割を入れてから10～20%ホルマリン液に入れます。
廓清リンパ節	部位番号あるいは部位名を明記し、別々の容器で固定後、ご提出ください。

【未染色スライド】

- 1) 患者名、検査番号等を明記し、切片が傷つかないようにしてご提出ください。
- 2) 染色時の剥離が十分考えられますので、数枚余分にご提出ください。
- 3) スライドガラスは、剥離防止コートスライドガラスのものを使用し、37℃にて一晚乾燥後、パラフィンを融解せずにご提出ください。  
酵素抗体法染色用には、「陰性対照」が必要ですので、**依頼項目枚数 + 陰性対照用1枚 + 予備切片**をご用意ください。  
※判定までご要望の場合、HE染色用の未染色標本1枚もご準備ください。

注1: ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

注2: 切片の厚さ、伸展条件、保存状態などにより検査不能となる場合があります。

【パラフィンブロック】

患者名、検査番号などを明記し、ご提出ください。  
注: ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

## 「病理組織検査」実施料の算定について

- 1) 「病理組織標本作製「1」組織切片によるもの(1臓器につき)」として1臓器につき860点を算定することができます。  
但し、検査に当たって、3臓器以上の検査を行った場合は、3臓器が限度となります。
- 2) 次に掲げるものは、その区分毎に1臓器として算定します。
 

①気管支および肺	⑥上行結腸、横行結腸および下行結腸
②食道	⑦S字結腸
③胃および十二指腸	⑧直腸
④小腸	⑨子宮体部および子宮頸部
⑤盲腸	
- 3) リンパ節については、所属リンパ節毎に1臓器として数えます。  
ただし、複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を1臓器として数えるものとします。
- 4) 検査に当たって、免疫抗体法(蛍光抗体法、酵素抗体法)を用いた検査を行った場合は、400点を算定することができます。  
原発不明癌、原発性腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)、悪性黒色腫、筋ジストロフィーまたは筋炎が疑われ、確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には1200点を加算できます。
- 5) 肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)が疑われる患者に対して4)の加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌又は扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定することとし、その医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載する必要があります。なお、既にEGFR遺伝子変異解析、ROS1融合遺伝子または肺がんALK(FISH法)を算定している場合には、当該加算は算定できません。

### 検査実施料の算定例

臓器数	実施料	算定例
1 臓器	860 点	胃生検・十二指腸生検、食道生検、胆嚢、虫垂、子宮内膜生検・子宮頸部生検
2 臓器	1720 点	食道生検 + 胃生検、卵巣 + 卵管、腎臓 + 尿管、睾丸 + 副睾丸
3 臓器以上	2580 点	上行・横行・下行結腸生検 + S状結腸生検 + 直腸生検、胃癌(胃 + リンパ節 + 隣臓)、回盲部腫瘍(大腸 + 小腸 + 虫垂 + 所属リンパ節)

## 「細胞診検査」材料の提出方法

原則として塗抹固定した未染標本スライドにてご提出ください。スライドガラスのフロスト部分に鉛筆で、患者名、材料名、湿固定・乾燥固定の別を明記してご提出ください。細菌検査および一般検査とは別にご提出ください。

### 【固定操作】

- 1) 湿固定: 塗抹後、直ちに95%エタノールにて固定(最低30分以上)後、スプレー固定剤をかけ、ご提出ください。(固定液が滴るくらいに噴霧してください)
- 2) 乾燥固定: 塗抹後、直ちに冷風(ドライヤーなど)で急速に乾燥させてください。

注1: 細胞診判定における一般的な染色はパピニコロウ染色であり湿固定での染色になりますので、湿固定標本は必ずご提出ください。

注2: 特殊染色の必要が生じる場合がありますので、余分に塗抹、固定後、保存してください。

### 【標本作製法】

**喀痰**      必要スライド枚数: 湿固定2枚

スライドガラスに小豆大の喀痰をのせる

別のスライドガラスを重ねて挟み、軽い圧迫を加えて前後左右に数回すり合わせる

直ちに湿固定(95%エタノール)(30分間)

スプレー固定

\*癌細胞は、血痰部・不透明白濁部・ゼリー状粘液部に多く含まれるため、性状をよく観察してから採取してください。  
\*生痰または蓄痰材料の場合、それぞれの弊社指定容器にてご提出ください。



【標本作製法】

**胸水・腹水**      必要スライド枚数：湿固定3枚、乾燥固定1枚

1,500rpm  
5分間

上清を捨てる

バッフィーコート  
(有核細胞層)

赤血球層

毛細管ピペットでバッフィー  
コートの部分を1~2滴のせる

引きガラス法にて塗抹する。  
(引き終りが、ガラスの端から  
1cmくらい手前までに終るように)

直ちに湿固定  
(95%エタノール)  
(30分間)

直ちに乾燥固定  
(冷風：ドライヤーなど)  
(急速)

スプレー固定

\*ベッド上で2~3回体位を変換させてから穿刺採取してください。  
\*生検体の場合、それぞれの弊社指定容器にてご提出ください。

**尿**      必要スライド枚数：湿固定2枚、乾燥固定1枚

1,500rpm  
5分間

スピッツを逆さにして上清を捨てる  
その際水分は十分に切ること

毛細管ピペットで沈渣を取り、  
引きガラス法にて塗抹する。

直ちに湿固定  
(95%エタノール)  
(30分間)

直ちに乾燥固定  
(冷風：ドライヤーなど)  
(急速)

スプレー固定

\*検尿カップに採取後30分から1時間静置、上清を静かに捨て、底部より10 mL 残し、混和後スピッツに移してご提出ください。

**擦過標本**      必要スライド枚数：湿固定1枚(婦人科検体)、湿固定2枚・乾燥固定1枚(その他検体)

細胞採取量により塗抹幅を調節し乾燥を防ぐ  
A：採取量の少ない場合は、幅を狭く  
B：採取量の多い場合は、幅を広く

直ちに湿固定  
(95%エタノール)  
(30分間)

直ちに乾燥固定  
(冷風：ドライヤーなど)  
(急速)

スプレー固定

\*塗抹時の乾燥を防ぐため、標本作製は必ず採取現場で行い、塗抹後、瞬時に固定液に入れてください。  
\*婦人科頸部擦過スミアは、綿棒等を立てて塗抹してください。  
\*婦人科頸管内膜スミアは、綿棒等を寝かせて、回転させながら塗抹してください。

【固定操作】

- 1) 湿固定：塗抹後、直ちに95%エタノールにて固定(最低30分以上)後、スプレー固定剤をかけ、ご提出ください。  
(固定液が滴るくらいに噴霧してください)
- 2) 乾燥固定：塗抹後、直ちに冷風(ドライヤーなど)で急速に乾燥させてください。

注1：細胞診判定における一般的な染色はパ/パニコロウ染色であり湿固定での染色になりますので、湿固定標本は必ずご提出ください。

注2：特殊染色の必要が生じる場合がありますので、余分に塗抹、固定後、保存してください。

▶ 特定健診について

■ 健診セット内容

セット番号	S-911	S-912	S-901	S-902	S-920
検査項目	AST (GOT) ALT (GPT) γ-GT クレアチニン eGFR クレアチニン HDL コレステロール LDL コレステロール 中性脂肪 総コレステロール計算 赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット HbA1c (NGSP)	AST (GOT) ALT (GPT) γ-GT HDL コレステロール LDL コレステロール 中性脂肪 総コレステロール計算 HbA1c (NGSP)	HBs 抗原 定性 HCV 抗体 / 検診	HBs 抗原 定性 HCV 抗体 / 検診 HCV-RNA / 検診*	HCV 抗体 / 検診 HCV-RNA / 検診*
採取容器	汎用容器 4mL 血液学用 2mL HbA1c 用 2mL	汎用容器 4mL HbA1c 用 2mL	汎用容器 4mL	汎用容器 4mL ウイルス遺伝子用 5mL	汎用容器 4mL ウイルス遺伝子用 5mL

\* (HCV-RNA/ 検診)は、HCV 抗体が中・低力価の場合に検査いたします。  
※ご依頼の際は、[ 検診専用依頼書 ] をご使用ください。

【検査を委託していただく上での注意事項】

1) 健診者への事前注意事項

検査前の食事については、健診前10時間以上は、水以外のすべての飲食物を摂取しないように指示して下さい。

2) 採血時

採血は適切に行って下さい。(JCCLSの標準採血法ガイドライン(GP4-A3)を参考)

3) 採血管の選択(巻末容器一覧参照)

血清検査項目(TG、HDL-C、LDL-C、AST、ALT、γ-GT、CRE)の測定用には、原則として分離剤入りのプレイン管を使用して下さい。空腹時血糖測定用には、解糖阻止剤のフッ化ナトリウム(NaF)入りの採血管を使用して下さい。HbA1c測定用には、血糖測定用の採血管を使用して下さい。貧血検査測定用には、エチレンジアミン四酢酸(EDTA)入りの採血管を使用して下さい。

4) 採血した検体の取扱

◇血清

採血後の採血管は、室温に静置後、12時間以内に遠心分離を行って、血清分離を行って下さい。  
血清は測定まで4～10℃下で保存して下さい。

◇全血

〈空腹時血糖・HbA1c〉  
採血後は採血管内のフッ化ナトリウム(NaF)を血液に速やかに溶かして下さい。  
全血は測定まで4～10℃下で保存して下さい。  
〈貧血検査〉  
採血後は採血管内のエチレンジアミン四酢酸(EDTA)を血液に速やかに溶かして下さい。  
全血は測定まで室温で保存して下さい。

(注:例えば採血管をゆっくり転倒混和5回以上行うか、ローターに3分以上かける。)

◇尿

採尿後4時間以内に試験紙法で検査を行うことが望ましいです。困難な場合には、尿検体を専用の試験管に移して密栓し、4～10℃下に保存して下さい。  
(注:試験紙法の検査は、尿試験紙検査法JCCLS指針に従う)

5) 検体の搬送

検体の搬送は、4)の保存条件のもとに適切に行います。

6) 検査後の留意事項

検査結果については、報告書の記載内容の確認を行ってください。

【健診検査項目の判定値】

番号	項目名	保健指導判定値
1	血圧(収縮期)	130 以上
2	血圧(拡張期)	85 以上
3	中性脂肪	150 以上
4	HDL コレステロール	39 以下
5	LDL コレステロール	120 以上
6	non-HDL コレステロール	150 以上
7	空腹時血糖	100 以上
8	HbA1c (NGSP)	5.6 以上
9	随時血糖	100 以上
10	AST (GOT)	31 以上
11	ALT (GPT)	31 以上
12	γ-GT	51 以上
13	eGFR	60 未満
14	血色素量	13.0 以下(男性) 12.0 以下(女性)

【メタボリックシンドロームの診断基準】

- ①肥満 ……… 内臓脂肪蓄積(腹囲) 男性:85cm以上 女性:90cm以上 (内臓脂肪面積 男女ともに100cm<sup>2</sup>に相当)  
+  
下記2項目以上あてはまると「該当」となります
- ②脂質 ……… 高中性脂肪血症150mg/dL以上 または 低HDLコレステロール血症40mg/dL未満
- ③血圧 ……… 収縮期血圧130mmHg以上 または 拡張期血圧85mmHg以上
- ④血糖 ……… 空腹時血糖110mg/dL以上 または HbA1c(NGSP)6.0%以上

検査時の結果が上記を満たしていなくても、脂質異常症、高血圧症、糖尿病に対する薬を服用されている場合は、それぞれの項目に該当されます。

該当	①にあてはまり、②、③、④のうち2つ以上あてはまる場合、メタボリックシンドローム該当
予備群	①にあてはまり、②、③、④のうち1つあてはまる場合、メタボリックシンドローム予備群
非該当	該当、予備群以外の場合、メタボリックシンドローム非該当
判定不能	①、②、③、④の検査項目のうち1つでも未実施の検査があり、判定が確定できない場合

特定健診結果通知書 / 質問票 見本

【後期高齢者健康診査質問票】

【特定健診質問票】

健康診査結果通知書

※「質問票」は2枚複写になっています。1枚目の所定枠内に「健診専用依頼書」のバーコードラベルを添付してご提出下さい。2枚目は控えとなっています。

生化学検査		
総蛋白〈T P〉	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
アルブミン〈A l b〉	同上	
A / G比	同上	
グロブリン〈G l b〉		
蛋白分画	同上	
Z T T	同上	
総ビリルビン〈T - B i L〉	同上	
直接ビリルビン〈D - B i L〉	同上	
間接ビリルビン〈I - B i L〉	同上	
A S T 〈G O T〉	同上	
A L T 〈G P T〉	同上	
L D 〈L D H〉	同上	
アルカリフォスファターゼ〈A L P〉	同上	
L A P	同上	
γ - G T	同上	
コリンエステラーゼ〈C h E〉	同上	
C K 〈C P K〉	同上	
アルドラーゼ〈A L D〉	宮原洋一:Med. Technol.12,157,1984.	※03
アミラーゼ〈A M Y〉	加藤 隆則,他:日本臨床検査自動化学会 28(4) 353 2003	
(尿)アミラーゼ	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版医歯薬出版 (2012) p 246-252	
アデニンデアミナーゼ〈A D A〉	山田満廣,大西将則:日臨検自動化会誌 17,135,1992.	※03
(穿刺液)A D A	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
リゾチーム〈ムラミダーゼ〉(血清)	仁科甫啓,他:臨床病理 21,37,1973.	※03
リゾチーム(尿)	同上	※03
トリブシン	河野幹彦,櫻林郁之介:医学と薬学 53(5),635,2005. 宮谷博幸,他:医学と薬学 56 (5) ,771,2006.	※03
膵ホスホリパーゼ A 2 〈膵 P L A 2〉	上田 章,他:臨床病理 37,561,1989.	※03
ペプシノゲン〈P G〉	北内信太郎,他:Prog.Med.21,2451,2001.	※03
A B C 分類	乾 純和,他:Helicobacter Res.11,554,2007. 井上和彦,他:日本がん検診・診断学会誌.12,138,2005. 井上和彦:Helicobacter Res.11,562,2007.	※03
尿中N A G 〈N - アセチルグルコサミニダーゼ〉	杉田 収,日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 141-143,2004.	
M M P - 3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ - 3)	氏家真二,他:医学と薬学 51,503,2004.	※03
L D H アイソザイム	井出純子,他:日臨検自動化会誌 28,364,2003.	※03
A L P アイソザイム	同上	※03
C K アイソザイム	同上	※03
C K - M B ( % )	庄司進一,日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 340-343 2004.	
C K - M B 定量		※03
P 型アミラーゼ	日本臨床62巻 増刊号 11:元雄良治,日本臨床社 (2004) p 387-389	
(尿)P 型アミラーゼ	同上	
クレアチニン〈C R E〉	河合 忠,他:異常値の出るメカニズム 第6版 医学書院,2013	
(蓄尿)クレアチニン	中原一彦,他:日本臨床62巻増刊号 11 第6版 日本臨床社 (2004) p 579-583	
シスタチン C	斉藤恵祐:検査と技術 vol.34 no.11,医学書院 2006	
尿酸〈U A〉	河合 忠,他:異常値の出るメカニズム 第6版 医学書院,2013	
(蓄尿)尿酸	大久保 昭行,他:検査と技術 vol.20 no.6 増刊号 医学書院,1992	
尿酸窒素〈B U N〉	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
(蓄尿)尿酸窒素	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
アンモニア〈N H 3〉	中村郁夫,日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 597~599,2004	
アミノ酸分画(血漿)	植木真琴,他:臨床病理 28 (補) ,138,1980. 大沢恵津子,他:臨床化学シンポジウム 20,142,1980. Stein,W.H.and Moore, S.:J.Biol. Chem. 176,337,1948.	※03
アミノ酸分画(尿)	同上	※03
アミノ酸分画1 1 分画	小田 治,他:第24回液体クロマトグラフ研究会講演要旨集 22,32,1981.	※03
B T R (総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比)	飯塚誠一,他:現代医療 26 (増II) ,99,1994	※03
ホモシステイン		※03
グルコース〈血糖〉	富永真琴,日本臨床 62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 627-629,2004.	
グリコアルブミン〈G A〉	日本糖尿病学会:糖尿病治療ガイド2002-2003 7 2002	
H b A 1 C (N G S P)	河原玲子,日本臨床62巻 増刊号11 (通巻858号) 第6版 日本臨床社 p 648-650,2004.	
1,5 A G (1,5 - アンヒドログルシトール)	森脇貴美,他:機器・試薬 24,139,2001.	※03
ヒアルロン酸	島村 朗,他:医学と薬学 44,1141,2000.	※03
K L - 6		※03
乳酸	浅沼和子,他:生物試料分析 8,16,1985.	※03
ピルビン酸	同上	※03
ケトン体分画(静脈血)	Harano,Y.et al.:Clin. Chim.Acta 134,327,1983.	※03
ケトン体分画(動脈血)	Ozawa,K.et al.:Am.J.Surg. 146,299,1983. 鈴木尚子,他:Kameraden 25,20,1997.	※03
中性脂肪〈T G〉	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
総コレステロール〈T - C h o〉	同上	
H D L コレステロール〈H D L - C h o〉	同上	

L D L コレステロール (L D L - C h o)	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
リン脂質 (P L)	同上	
総胆汁酸 (T B A)	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
全脂質脂肪酸分画	芝原 章,他:油化学 27,233,1978. 内山 充:臨床化学 1,398,1972. 金井 晃.:ぶんせき 11,774,1978.	※03
脂肪酸 4 分画	日本質量分析学会:質量分析総合討論会講演要旨集 55,454,2007.	※03
β リポ蛋白 (β - L P)	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
リポ蛋白分画	厚生労働省・日本医師会編:高脂血症診断の手引き,33,日本医事新報社,1991.	※03
リポ蛋白分画精密測定	Roche,D.et al.:Clin.Chem. 31,1893,1985.	※03→21
リパーゼ	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
リポ蛋白(a) (L p(a))		※03
レムナント様リポ蛋白コレステロール (R L P - C)	滝野 豊,他:医学と薬学 56,269,2006.	※03
アポリポ蛋白	野間昭夫,他:動脈硬化 16,832,1988.	※03
ビタミン B 1 (サイアミン)	宮川秀則,他:生物試料分析 36 (4) ,327,2013.	※03
ビタミン B 2 (リボフラビン)	安田和人,他:臨床病理 29,564,1981.	※03
ビタミン B 1 2 (シアノコバラミン)	河口行雄,他:医学と薬学 41,145,1999.	※03
葉酸	安田和人,他:機器・試薬 25,441,2002.	※03
カルニチン分画	市本景子,他:新薬と臨床 66 (9) ,1176,2017. 松井朝義,他:生物試料分析 35(4),271,2012.	※03
ビタミン C (アスコルビン酸)	J Lykkesfeldt, et al.:Analytical Biochemistry 229,329,1995.	※03→16
2 5 - O H ビタミン D (T o t a l)	小島 哲:臨床化学 48 (3) ,239,2019.	※03
2 5 - O H ビタミン D [骨粗鬆症]	岡崎亮:医学のあゆみ 263(13),1088-1092,2017.	
1 α, 2 5 - (O H) 2 ビタミン D	鈴木正司,他:臨床透析 14,371,1998.	※03
ナトリウム (N a)	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
クロール (C l)	同上	
カリウム	同上	
マグネシウム (M g)	同上	
カルシウム (C a)	同上	
無機リン (P)	同上	
鉄 (F e)	同上	
U I B C (不飽和鉄結合能)	同上	
T I B C [計算値] (総鉄結合能)		
銅 (C u)	長谷川浩子,他:機器・試薬 19,814,1996.	※03
(尿)銅	奥田 稔,林 康之:臨床病理 (特集第17号) ,84,1970.	※03
亜鉛 (Z n)	松本武志,金井 晃:検査と技術 9,478,1981.	※03
亜鉛 (尿)	同上	※03
アルミニウム (A l)	Mazzeo-Farina, A. and Cerulli, N.:Clin.Chim. Acta 147,247,1985.	※03
セレン (S e)		※03
マンガン (M n)	加地 浩,他:日本災害医学会会誌 37,195,1989.	※03
マンガン (血清)	同上	※03
マンガン (尿)	同上	※03
鉛 (P b)	労働省労働基準局労働衛生課 (監修):鉛健康診断のすすめ方,p.56, (社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990.	※03
δ - アミノレブリン酸 (δ - A L A)	岡山 明,他:医学のあゆみ 139,845,1986.	※03
エタノール	鈴木加奈子:薬毒物分析実践ハンドブック,118,じほう,東京,2002.	※03
浸透圧 (血清)	長浜大輔:検査と技術 14,961,1986.	※03
浸透圧 (尿)	同上	※03
I C G 停滯率	金井正光,他:臨床検査法提要 (改訂第34版) 金原出版株式会社 p 1441-1442,2015.	
I C G 消失率	同上	
2 4 時間 クレアチニンクリアランス	中原一彦,他:日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 579-583,2004.	
クレアチニンクリアランス	同上	
結石鑑別 (結石分析)	亀田治男:医化学実験講座B,p.525, 中山書店,東京,1973.	※03→21
馬尿酸 (H A)	労働省労働基準局労働衛生課 (監修):有機溶剤健康診断のすすめ方,p.135, (社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990.	※03
メチル馬尿酸 (M H A)	同上	※03
マンデル酸	同上	※03
総三塩化物 (T T C)	同上	※03
トリクロル酢酸 (T C A)	同上	※03
N - メチルホルムアミド	同上	※03
2, 5 - ヘキサンジオン (2, 5 - H D)	同上	※03
血液ガス分析	諏訪 邦夫:血液ガスABC 中外医学社,1990	

薬物検査		
フェノバルビタール	川崎 博巳:日本臨床62巻増刊号12 日本臨床社,2004	
プリミドン	Oellerich,M.:J.Clin.Chem.Clin.Biochem. 18,197,1980.	※03
フェニトイン	川崎 博巳:日本臨床62巻増刊号12 日本臨床社,2004	
カルバマゼピン	同上	
バルプロ酸ナトリウム	同上	
エトサクシミド		※03
トリメタジオン		※03
クロナゼパム		※03
ニトラゼパム		※03
ジアゼパム		※03
ゾニサミド	熊谷 昇,他:臨床医薬 5,843,1989.	※03
ガバペンチン		※03
クロバザム		※03
レベチラセタム	赤松直樹,他:Epilepsy 4 (2) ,129,2010.	※03
ラモトリギン	小嶺幸弘:沖縄医報 45 (9) ,51,2009.	※03
トピラマート	小嶺幸弘:沖縄医報 45 (9) ,51,2009.	※03
	金澤 治:こころの科学 (157) ,45,2011.	
ペランパネール	花田敏久:脳21 16 (3) ,322,2013.	※03
	Yuji Mano et al.:J. Pharm. Biomed. Ana. 107,56,2015.	
ラコサミド	Kim JS, et al.:Brain Dev 36 (6) ,510,2014.	※03
リチウム	Pybus, J. and Bowers Jr.,J.:Clin.Chem. 16,139,1970.	※03
ハロペリドール	上野 哲,他:日臨検自動化会誌 29,360,2004.	※03
プロムペリドール	同上	※03
キニジン	Kessler K.M. et al.:New Eng.J.Med. 290,706,1974.	※03
プロカインアミド	Jolley,M.E. et al.:Clin.Chem. 27,1575,1981.	※03
ジソピラミド		※03
リドカイン	Cobb,M.E. et al.:Clin.Chem. 23,1161,1977.	※03
アプリンジン		※03
塩酸ビルジカイニド		※03
プロパフェノン		※03
メキシレチン		※03
アミオダロン		※03
ピルメノール		※03
コハク酸シベンゾリン		※03
フレカイニド		※03
ベプリジル	鎌倉 令,他:心電図 31 (2) ,150,2011.	※03
ジゴキシン	山本 康次郎:日本臨床62巻増刊号12 日本臨床社,2004	
テオフィリン	西原 カズヨ:日本臨床62巻増刊号12 日本臨床社,2004	
ゲンタマイシン	Jolley,M.E. et al.:Clin.Chem. 27,1575,1981.	※03
トブラマイシン	Anhalt J.P.:Interpretation of antimicrobial concentrations in serum.American Association for Clinical Chemistry Therapeutic Drug Monitoring Continuing Education and Quality Control Program,April,1981.	※03
アミカシン	同上	※03
アルベカシン	Jolley,M.E. et al.:Clin.Chem. 27,1575,1981.	※03
バンコマイシン	伊賀立二, 他:薬剤師・薬学生のための実践TDMマニュアル,じほう,東京,2004.	※03
テイコブラニン	諸岡美里,他:日本臨床検査自動化学会誌 38 (1) ,79,2013.	※03
ポリコナゾール		※03
アセトアミノフェン	Rumack BH:Arch Intern Med. 141,380,1981.	※03
サリチル酸	野口佳男, 他:基礎と臨床 21,511,1987.	※03
メトトレキサート	中原佑香里,他:医学と薬学 72 (4) ,761,2015.	※03
L-ドーパ	Felice,L.J. et al.:J.Neurochem. 31,1461,1978.	※03
	Hegstrand,L.R.and Eichelman, B.:J.Chromatogr. 222,107,1981.	
シクロスポリン	古屋 実, 他:医学と薬学 70 (5・6) ,961,2013.	※03
タクロリムス	同上	※03
エベロリムス	小谷一夫:今日の移植 26 (6) ,505,2013.	※03

内分泌学検査		
GH (成長ホルモン)	小山沙世,他:医学と薬学 68:899,2012.	※03
LH (黄体形成ホルモン)	坂倉 啓一,他:ホルモンと臨床53(5),123-129 2005	
FSH (卵胞刺激ホルモン)	同上	
ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	阿部正樹,他:医学と薬学 57,239,2007.	※03
TSH (甲状腺刺激ホルモン)	楚南 盛正,他:医学と薬学46(5) 759-771 2001	
プロラクチン (PRL)	高加 国夫,他:医学と薬学56(4),577-586 2006	
AVP (ADH) (抗利尿ホルモン)	田中誠仁,他:医学と薬学 72(8),1379,2015	※03
ソマトメジンC (IGF-I)		※03
T <sub>4</sub> (総サイロキシン)	楚南 盛正,他:医学と薬学46(5) 759-771 2001	
T <sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)	同上	
FT <sub>4</sub> (遊離サイロキシン)	同上	
FT <sub>3</sub> (遊離トリヨードサイロニン)	同上	
サイログロブリン (Tg)	北川 亘,他:医学と薬学71(9),1655-1666 2014	
サイロイドテスト	西野道夫,日本臨床63巻増刊号8 (通巻876号) 第6版 日本臨床社 p 280-283,2005.	
抗サイログロブリン抗体 (Tg-A b)	森田 新二,他:医学と薬学55(5),775-782 2006	
マイクロゾームテスト	西野道夫,日本臨床63巻増刊号8 (通巻876号) 第6版 日本臨床社 p 280-283,2005.	
抗TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	森田 新二,他:医学と薬学55(5),775-782 2006	
TSHレセプター抗体 (TRAb)	吉村 弘,他:医学と薬学 59:1111,2008.	※03
TSA b (TSH刺激性レセプター抗体)	上条桂一,他:医学と薬学 71 (5) ,903,2014.	※03
カルシトニン (CT)	北川 亘,他:医学と薬学 72:97,2015.	※03
ホールPTH (副甲状腺ホルモンwhole)	吉野亜紀,他:崎臨技会誌61 (1) ,1,2014.	※03
PTHインタクト (副甲状腺ホルモン)	猪俣 啓子,他:オステオポロシス ジャパン12(3) 449-456 2004	
骨型ALP (BAP)	倉澤健太郎,他:医学と薬学 55,279,2006.	※03
TOTAL P1NP (I型コラーゲン-N-プロペプチド)	日高好博:医学と薬学 70 (2) ,357,2013.	※03
NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	日本骨粗鬆症学会:Osteoporosis Japan 12,191,2004.	※03
NTx (尿)	同上	※03
TRACP-5 b (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	三木隆巳,他:医学と薬学55,443,2006.	※03
デオキシピリジノリン (Dpyr)	日本骨粗鬆症学会:Osteoporosis Japan 12,191,2004.	※03
低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	白木正孝,他:医学と薬学 57 (4) :537,2007.	※03→37
カテコールアミン 3分画	辻 潮,他:機器・試薬 11,635,1988.	※03
カテコールアミン 3分画(尿)	守 和子:第47,48回島津デュボン高速液体クロマトグラフィー講座,高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集,p.6-8,1977. Anderson, G.M. et al.:Clin.Chem. 27,2060,1981.	※03
遊離カテコールアミン 3分画	同上	※03
メタネフリン 2分画	守 和子:第47,48回島津デュボン高速液体クロマトグラフィー講座,高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集,p.6-8,1977.	※03
VMA (バニリルマンデル酸)	Flood, J. G. et al.:Clin. Chem. 25,1234,1979.	※03
HVA (ホモバニリン酸)	Rosano, T. G. et al.:Clin. Chem. 27,228,1981.	※03
5-HIAA (5-ハイドロキシインドール酢酸)	Rosano, T. G. et al.:Clin. Chem. 28,207,1982.	※03
血漿レニン活性 (PRA)	宇津貴央,他:医学と薬学 73 (3) ,311,2016.	※03
レニン濃度 (PRC)	松村充子,他:日本臨床検査自動化学会誌 44 (1) ,47,2019 酒本美由紀,他:臨床病理 66 (suppl) ,131,2018.	※03
アルドステロン	同上	※03
アルドステロン(尿)	同上	※03
ACE (アンジオテンシン I 転換酵素)	Kasahara, Y. et al.:Clin. Chem. 27,1922,1981.	※03
コルチゾール		※03
17-KS分画 (3分画)	Suzuki, T. et al.:Endocrine J. 50,571,2003.	※03
17-KS分画 (7分画)	同上	※03
ステロイド 10分画	同上	※03
DHEA-S (デハイドロエピアンドロステロンサルフェート)	市原清志:日本臨床検査自動化学会誌 37 (Suppl1) ,36,2012 増戸梨恵,他:医学と薬学 56 (3) ,443,2006.	※03
プレグナンジオール (P2)	Suzuki, T. et al.:Endocrine J. 50,571,2003.	※03
プレグナントリオール (P3)	同上	※03
テストステロン	木内 理世,他:医学と薬学64(1),87-93 2010	
遊離テストステロン	K. Van Uytfanghe et al.:Clin Biochem. 38,253,2005.	※03
プロジェステロン	岩佐 武,他:産科と婦人科 73 (1) ,133,2006.	※03
E2 (エストロジオール)	松崎 利也,他:医学と薬学72(5),931-941 2015	
抗ミューラー管ホルモン (AMH)	平成27~28年度生殖・内分泌委員会 生殖医療リスクマネージメント小委員会報告:日産婦誌 69,1721,2017.	※03
HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン)	河合 忠,他:異常値の出るメカニズム 第6版 医学書院,2013	
HCG(尿)	同上	
(尿)HCG定性(妊娠反応)	櫻木郁之介,他:検査項辞苑第2版 大塚製薬株式会社 大塚アッセイ研究所発行 p530,1999.	
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	北村 光,他:機器・試薬 21,357,1998. 高田竜二,他:医学と薬学 33,979,1995.	※03
インスリン (IRI)	青山 昭,他:医学と薬学 45(3) 467-472 2001	
インスリン抗体	村山 寛,他:医学と薬学 60,289,2008.	※03
抗GAD抗体	及川洋一,他:医学と薬学 72 (9) ,1551,2015.	※03
抗IA-2抗体	川崎英二,他:医学と薬学 75 (6) ,669,2018. 川崎英二,他:医学と薬学 66 (2) ,345,2011.	※03
C-ペプチド (CPR)		
C-ペプチド(尿)		※03
ガストリン	竹田昌弘,他:ホルモンと臨床 31,1123,1983.	※03

HANP (ヒト心房性Na利尿ペプチド)	積田智佳,他:検査機器・試薬 36 (5),699,2013.	※03
BNP (脳性Na利尿ペプチド)	葛本 尚慶,齊藤 能彦編:新BNPと日常臨床第2版,南江堂,2006	
NT-proBNP (脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
エリスロポエチン (EPO)	増田詩織,他:医学と薬学 67 (2),297,2012. 市原清志:日本臨床検査自動化学会誌 37 (suppl.1):15,2012.	※03
<b>腫瘍関連検査</b>		
A F P (αフェトプロテイン)	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
A F P レクチン分画	Shimizu, K. et al.:Clin. Chim. Acta 214,3,1993. H,Oka. et al.:Journal of Gastroenterology and Hepatology16,1378,2001.	※03
C E A	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
B F P (塩基性フェトプロテイン)	石井 勝,他:癌と化療 15,2107,1988.	※03
T P A (組織ポリペプチド抗原)		※03
C A 1 9 - 9	金井正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
S P a n - 1 抗原	梅山 馨,他:臓臓 3,528,1988.	※03
D U P a n - 2	竹森康弘,他:癌と化療 14,119,1987.	※03
エラスターゼ 1	大出勝也,沢井時男:臨床病理 50,376,2002.	※03
P I V K A II 定量	菅原昌章,他:医学と薬学 73 (3),293,2016.	※03
S L X (シアリル L e x - i 抗原)	井村裕夫,他:癌と化療 14,1322,1987.	※03
N C C - S T - 4 3 9	大倉久直,他:癌と化療 14,1901,1987.	※03
B C A 2 2 5	小林美耶子,他:医学と薬学 72 (7),1249,2015.	※03
C A 1 5 - 3	梅木尚子,他:日臨検自動化誌 26,143,2001.	※03
抗 P 5 3 抗体	橋本礼輔,他:医学と薬学 75 (8),955,2018.	※03
N S E (神経特異エノラーゼ)	堀田多恵子,他:生物試料分析 34 (5),345,2011.	※03
Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	宮越静代,他:医学と薬学 63,809,2010. Yoshimura T.et al.:Tumor Biol. 29,224,2008.	※03
S C C 抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	高木 康,他:医学と薬学 52,413,2004.	※03
シフラ (サイトケラチン 19 フラグメント)		※03
γ-Sm (γ-セミノプロテイン)	佐藤達郎,他:医学と薬学 43,97,2000.	※03
P S A (前立腺特異抗原)	武田 悟,他:Progress in Medicine21(9) 149-153 2001	
P S A 高感度	Witherspoon, L. R. and Lapeyrolerie, T.:J. Urol. 157,1322,1997. 武田 悟,他:Progress in Medicine21(9),2279,2001	※03
P S A - A C T	新井京子,他:泌尿器外科 17,399,2004.	※03
P S A フリーノトータル比	栗山 学,他:泌尿器外科 11,639,1998.	※03
C A 1 2 5	Blackburn G.F. et al:Clin Chem 37 1534-1539 1991	
H E 4 (ヒト精巢上体蛋白 4)	木村英三:産婦人科の実験 64(8),1055,2015. 竹内 聡,他:Biotherapy 23(2),136,2009.	※03
S T N (シアリル T n 抗原)	井村裕夫,他:癌と化療 16,3213,1989.	※03
C A 7 2 - 4	青山 昭,他:医学と薬学 49,127,2003.	※03
遊離 H C G - β (H C G - β サブユニット)	菅原由人,他:機器・試薬 14,467,1991.	※03
遊離 H C G - β (尿)		※03
I 型 C T P (I 型コラーゲン-C-テロペプチド)	清原 剛,他:ホルモンと臨床 42, 1189,1994.	※03
s I L - 2 R (可溶性インターロイキン-2レセプター)	伏見美津恵,他:医学と薬学 73(7),875,2016 古川亜紀,他:医療と検査機器・試薬 39(3),263,2016.	※03
<b>ウイルス学検査</b>		
単純ヘルペス (H S V) (C F 法)	井上 栄:臨床検査 17,838,1973. 厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 (第3版) 第 I II III 分冊,日本公衆衛生協会,東京,1987. 国立予防衛生研究所学友会 (編):ウイルス実験学各論 (改訂二版),p.133-135,丸善,東京,1982.	※03
水痘・帯状ヘルペス (V Z V) (C F 法)	同上	※03
サイトメガロ (C M V) (C F 法)	同上	※03
インフルエンザ A 型 (C F 法)	同上	※03



インフルエンザ B 型 (C F 法)	井上 栄:臨床検査 17,838,1973. 厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リッチア検査 (第3版) 第ⅢⅢ分冊,日本公衆衛生協会,東京,1987. 国立予防衛生研究所学友会 (編):ウイルス実験学各論 (改訂二版),p.133-135,丸善,東京,1982.	※03
ムンプス (C F 法)	同上	※03
日本脳炎 (C F 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 9 型 (C F 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 1 型 (C F 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 2 型 (C F 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 3 型 (C F 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 4 型 (C F 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 5 型 (C F 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 6 型 (C F 法)	同上	※03
インフルエンザ (H I 法)	臨床ウイルス談話会 (編):ウイルス実験室診断法,p.76-86,101-105,日本栄養化学,東京,1964. 芦原義守:臨床とウイルス 別冊,77,1975. 国立予防衛生研究所学友会 (編):ウイルス実験学各論 (改訂二版),p.133-135,丸善,東京,1982. 厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リッチア検査 (第3版) 第ⅠⅡⅢ分冊,日本公衆衛生協会,東京,1987.	※03
ムンプス (H I 法)	同上	※03
麻疹 (H I 法)	同上	※03
風疹 (H I 法)	同上	※03
エコー 3 型 (H I 法)	同上	※03
エコー 7 型 (H I 法)	同上	※03
エコー 1 1 型 (H I 法)	同上	※03
エコー 1 2 型 (H I 法)	同上	※03
日本脳炎 (H I 法)	同上	※03→16
風疹 (L A 法)	金井正光:臨床検査法提要 (改訂第34版) p 1127	
単純ヘルペス 1 型 (H S V) (N T 法)	石井慶蔵:免疫血清検査 (臨床検査技術全書4),p.235-262,医学書院,東京,1973. 国立予防衛生研究所学友会 (編):ウイルス実験学各論 (改訂二版),p.52,72-73,132-139,丸善,東京,1982.	※03
単純ヘルペス 2 型 (H S V) (N T 法)	同上	※03
アデノ 1 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 2 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 3 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 4 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 5 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 6 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 7 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 8 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 1 1 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 1 9 型 (N T 法)	同上	※03
アデノ 3 7 型 (N T 法)	同上	※03→16
ムンプス (N T 法)	同上	※03
麻疹 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 2 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 3 型 (N T 法)	同上	※03→16
コクサッキー A 群 4 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 5 型 (N T 法)	同上	※03→16
コクサッキー A 群 6 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 7 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 9 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 1 0 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー A 群 1 6 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 1 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 2 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 3 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 4 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 5 型 (N T 法)	同上	※03
コクサッキー B 群 6 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 3 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 4 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 5 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 6 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 7 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 9 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 1 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 2 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 3 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 4 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 6 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 7 型 (N T 法)	同上	※03
エコー 1 8 型 (N T 法)	同上	※03

エコー 1 9型 (NT法)	石井慶蔵:免疫血清検査 (臨床検査技術全書4), p.235-262,医学書院,東京,1973. 国立予防衛生研究所学友会 (編):ウイルス実験学各論 (改訂二版), p.52,72-73,132-139,丸善,東京,1982.	※03
エコー 2 1型 (NT法)	同上	※03
エコー 2 2型 (NT法)	同上	※03
エコー 2 4型 (NT法)	同上	※03
エコー 2 5型 (NT法)	同上	※03
エコー 3 0型 (NT法)	同上	※03
エンテロ 7 0型 (NT法)	同上	※03
エンテロ 7 1型 (NT法)	同上	※03
EBV VCA IgG (FAT法)	日沼頼夫, 他:臨床病理 (特集第35号), 179,1978.	※03
EBV VCA IgM (FAT法)	同上	※03
EBV VCA IgA (FAT法)	同上	※03
EBV EA-DR IgG (FAT法)	同上	※03
EBV EA-DR IgA (FAT法)	同上	※03
EBV EBNA (FAT法)	同上	※03
水痘・帯状ヘルペス IgG (VZV) (EIA法)	厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査 (第3版第1分冊), p.48-61,日本公衆衛生協会,東京,1987.	※03
水痘・帯状ヘルペス IgM (VZV) (EIA法)	同上	※03
風疹 IgG (EIA法)	同上	※03
風疹 IgM (EIA法)	同上	※03
麻疹 IgG (EIA法)	同上	※03
麻疹 IgM (EIA法)	同上	※03
単純ヘルペス IgG (HSV) (EIA法)	同上	※03
単純ヘルペス IgM (HSV) (EIA法)	同上	※03
サイトメガロ IgG (CMV) (CLIA法)	熊田洋高,他:医学と薬学 72 (6), 1087,2015.	※03
サイトメガロ IgM (CMV) (CLIA法)	同上	※03
ムンプス IgG (EIA法)	厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査 (第3版第1分冊), p.48-61,日本公衆衛生協会,東京,1987.	※03
ムンプス IgM (EIA法)	同上	※03
パルボウイルス B19 IgG	要藤裕孝,他:感染症誌 69,1135,1995.	※03
パルボウイルス B19 IgM	同上	※03
HA抗体 (IgG-HA抗体)	矢野公士,他:医学と薬学 58,151,2007.	※03
IgM-HA抗体	同上	※03
HBs抗原	大黒 学,日本臨床63巻増刊号7 第6版 日本臨床社 p 404-407 2005.	
高感度HBs抗原	新海 登,他:臨床病理 58 (11), 1078,2010.	※03
HBs抗体 半定量	大黒 学,日本臨床63巻増刊号7 第6版 日本臨床社 p 404-407 2005.	
HBs抗体	同上	
HBc抗原	同上	
HBc抗体	金井正光,他:臨床検査法提要34版 金原出版 p 1447-1455.	
IgM-HBc抗体	中尾瑠美子,他:医学と薬学 52,847,2004.	※03
B型肝炎ウイルスコア関連抗原 (HBcrAg)	伏見昌子,他:医学検査 58 (11), 1237,2009.	※03
HBV-DNA定量	菅原昌章,他:医学と薬学 73 (10), 1329,2016.	※03
HBVジェノタイプ判定 (HBV遺伝子型)	田中靖人,他:臨床病理 57 (1), 42,2009.	※03
HCV抗体-II	金井正光,他:臨床検査法提要34版 金原出版 p 1456-1459,2015.	
HCV抗体-III	小柳博明,他:医学と薬学 55,467,2006.	※03
HCV群別	長谷川瞳,他:医学と薬学 70 (3), 633,2013.	※03
HCVコア抗原	熊田博光,他:消火器科 45 (4), 454,2007.	※03
HCV-RNA定量	菅原昌章,他:医学と薬学 73 (10), 1329,2016.	※03
IgA-HEV抗体	飯野四郎,他:医学と薬学 53 (4), 461,2005.	※03
HIV抗原・抗体	武田 悟,他:Prog.Med. 27,425,2007.	※03
HIV-1抗体 (WB法)	Garro, R. et al.:New Engl. J.Med. 312,265,1985.	※03
HIV-2抗体 (WB法)	菱田 靖,他:医学と薬学 27,959,1992.	※03
HTLV-I抗体価 (ATLA抗体)	山口一成,日本臨床63巻増刊号7 (通巻874号) 第6版 日本臨床社 p 430-433 2005.	
HTLV-I抗体価 (PA法)	宮本寛治,他:医学と薬学 23,351,1990.	※03
単純ヘルペスウイルス特異抗原	Espy, M.J. et al.:J.Clin.Microbiol. 26,22,1988.	※03
サイトメガロウイルス抗原	浅井隆善,他:今日の移植 7,553,1994.	※03
HPV-DNA同定 [中~高リスク型]	石 和久,他:医学と薬学 39,849,1998.	※03
HPV-DNA同定 [低リスク型]	同上	※03
HPV核酸検出 (HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定)	三浦俊昭,他:医学と薬学 69 (1), 157,2013.	※03
HPVジェノタイプ判定	尾崎 聡,他:臨床病理 60 (7), 621,2012	※03

免疫血清学検査

ASO価(抗ストレプトリジンO)	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
ASK価(抗ストレプトキナーゼ)	加野象次郎,日本臨床63巻 増刊号6版 日本臨床社, p 127-135 2005.	
RPR 定性(梅毒血清反応)定性	窪田哲朗,他:臨床検査学講座第2版 免疫検査学,医歯薬出版 p 162-171, 2015.	
TPHA 定性(梅毒トレポネーマ抗体)定性	同上	
FTA-Abs 定性	金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第34版),p.917,金原出版,東京,2015.	※03
RPR(梅毒血清反応)定量	窪田哲朗,他:臨床検査学講座第2版 免疫検査学,医歯薬出版 p 162-171, 2015.	
TPHA(梅毒トレポネーマ抗体)定量	金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第34版),金原出版,東京,p 914-920, 2015.	
マイコプラズマ抗体《CF法》	富山哲雄:臨床検査 19,1240,1975.	※03
マイコプラズマ抗体《PA法》	福島和子,日本臨床63巻増刊号7 第6版 日本臨床社 p 227-230, 2005.	
マイコプラズマ抗体 I g M	同上	
マイコ核酸同定 LAMP	山口恵三,他:医学と薬学58(4),565-571,2007.	
寒冷凝集反応	窪田哲朗,他:臨床検査学講座第2版 免疫検査学,医歯薬出版 p 120,198-199, 2015.	
百日咳菌抗体	岡田賢司:医学と薬学 65(4),531,2011.	※03
	岡田賢司:臨床検査 56(4),412,2012.	
百日咳菌核酸同定	日本小児感染症学会:小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2017年版,2017 伊藤宏明,他:小児感染免疫24(4),431,2013.	※03
トキソプラズマ I g G	Sickinger E, et al.:Diagn Microbiol. Infect. Dis.62(3),235,2008.	※03
トキソプラズマ I g M	同上	※03
透析液エンドトキシン	秋葉 隆,他:透析液水質基準と血液浄化器性能評価基準2008(透析会誌41(3)) 日本透析医学会,2008	
β-D-グルカン((1→3)-β-D-グルカン)	吉田耕一郎,他:医学と薬学 67,895,2012. 大林民典:臨床病理 44,528,1996.	※03
プロカルシトニン(PCR)	齋藤大輔,他:医学と薬学 62(2),323,2009.	※03
プレセプシン	Shozushima T., et al.:J. Infect Chemother.17(6),764,2011. 岡村佳和:臨床病理63,62,2015.	※03
ツツガム ギリアム I g G	山本正悟:臨床とウイルス 12,270,1984.	※03→17
ツツガム ギリアム I g M	同上	※03→17
ツツガム カトー I g G	同上	※03→17
ツツガム カトー I g M	同上	※03→17
ツツガム カーブ I g G	同上	※03→17
ツツガム カーブ I g M	同上	※03→17
クラミジア・トラコーマチス同定DNA	熊本悦明,他:医学と薬学 66(6),1007,2011.	※03
クラミジア・トラコーマチス同定DNA(うがい液)	同上	※03
クラミジア・トラコーマチス抗体 I g A & I g G	梶原祥子,他:医学と薬学 37,711,1997.	※03
クラミジア・ニューモニエ抗体 I g G	宮下修行,他:小児科診療 71(1),95,2008. Miyashita N, et al.:J. Infect. Chemother.21(7),497,2015.	※03
クラミジア・ニューモニエ抗体 I g A	同上	※03
クラミジア・ニューモニエ抗体 I g M	同上	※03
淋菌同定DNA	熊本悦明,他:医学と薬学 66(6),1007,2011.	※03
淋菌同定DNA(うがい液)	同上	※03
アスペルギルス抗原	見手倉久治,他:医学と薬学 42,207,1999.	※03
H. ピロリ抗体	井上和彦,他:医学と薬学 72,331,2015.	※03
便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	神谷 茂,他:感染症誌 76,378,2002.	※03
尿素呼吸試験	金井正光(監修):臨床検査法提要(改訂第34版) p 1399-1400 金原出版,2015.6.30	
プレアルブミン	河合 忠,他:臨床病理 44(5),429,1996.	※03
尿ALB・CRE補正	熊坂一成,他:日本臨床62巻 増刊号11 第6版 日本臨床社 p 88-90 2004.	
α1マイクログロブリン(α1-MG)	徳山昌司郎:医学と薬学 39(4),835,1998. 伊藤喜久:検査と技術 16(7),658,1988 伊藤喜久:臨床検査 32(8),863,1988	※03
β2-m(β2-マイクログロブリン)	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
(尿)β2-m	同上	
フェリチン	同上	
ハプトグロビン(Hp)型判定	河合 忠,他:臨床病理(特集第101号),207,1996.	※03
α2マクログロブリン	飯村康夫,他:日本臨床 42(春季臨増),1209,1984.	※03
CRP(C反応性蛋白)	浦山 修,他:臨床化学検査学第3版 医歯薬出版,2010	
アミロイドA(SAA)	香坂隆夫,他:医学と薬学 31,1191,1994.	※03
セルロプラスミン(Cp)	飯村康夫,他:日本臨床 42(春季臨増),1209,1984.	※03
トランスフェリン(Tf)	島 英明,他:医学と薬学 32,145,1994.	※03
尿中トランスフェリン	齋藤良一,他:日本臨床検査自動化学会誌 25(5),687,2000.	※03
クリオグロブリン	Okazaki,T. et al.Clin.Chem. 44(7),1558,1998.	※03
ミオグロビン		※03
ミオグロビン(尿)	吉川文雄,他:医学と薬学 37,1255,1997.	※03
高感度 心筋トロポニン I	Ricchiuti V,et al.:Clin.Chem.45(12),2129,1999. Buiten MS,et al.:PLoS One 10(8),e0134245,2015.	※03
IV型コラーゲン	重村雅彦,他:日臨検自動化会誌 28,513,2003.	※03
Mac2結合蛋白(Mac2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	柴田 宏,他:臨床病理 63,72,2015.	※03

TARC	石田俊雄,他:医学と薬学 58,901,2007. 藤澤隆夫,他:日本小児アレルギー学会誌 19,744,2005. 玉置邦彦,他:日本皮膚科学会雑誌 116,27,2006. Sugawara N, et al.:Allergy 57,180,2002.	※03
便中カルプロテクチン	松岡克善,他:医学と薬学 74 (6) ,717,2017.	※03
肺サーファクタントプロテインA (SP-A)	大木 卓,他:医学と薬学 71 (1) ,161,2014.	※03
肺サーファクタントプロテインD (SP-D)	田中誠仁,他:医学と薬学 59,439,2008.	※03
免疫電気泳動 IEP (抗ヒト血清による定性)	Richie, R.F. et al.:Clin.Chem.22,497,1976. 広瀬美子,他:臨床検査機器・試薬 16,253,1993.	※03 ※03
免疫電気泳動 (免疫固定法によるM蛋白同定)	同上	※03
尿中免疫電気泳動 (ベンス・ジョーンズ蛋白 (BJP) 同定)	長縄謙子:検査と技術 12,401,1984.	※03
遊離L鎖κ/λ比 (FLC)	守田由香,他:医学と薬学 74 (8) ,945,2017.	※03
IgG インデックス	中島一郎:Animus 8,38,2003.	※03
オリゴクローナルバンド	同上	※03
IgG	河合 忠,他:臨床病理 特集第101号 207~209 1996	
IgGサブクラス IgG4	Usami Y, et al.:Clin.Chem. Acta. ,2019. 松木友里,他:医学と薬学 75 (7) ,849,2018.	※03
IgA	河合 忠,他:臨床病理 特集第101号 207~209 1996	
IgM	同上	
IgE (非特異的 IgE)	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
IgE (特異的 IgE)	奥平博一,他:アレルギー 40,544,1991. 金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	※03
アトピー鑑別試験 (ファディアトープ)	金井 正光,他:臨床検査法提要改訂第34版 金原出版,2015	
RAST-16	同上	
View アレルギー 39	鈴木義徳,他:臨床病理 60 (7) ,621,2012.	※03
CH50 (血清補体価)	金井正光,他:臨床検査法提要 (改訂第34版) 金原出版 p 791~796,2015	
C3	同上	
C4	同上	
RF 定量 (リウマトイド 因子)	吉野谷 定美:日本臨牀増刊号3 (通巻第753号) 第5版 日本臨牀社 386~389 1999	
IgG-RF (IgG型リウマチ 因子)		※03→21
抗ガラクトース欠損 IgG抗体 (CA-RF)	山田雄二,他:基礎と臨床 31,81,1997.	※03→37
抗CCP抗体 (抗シトルリニ化ペプチド抗体)		※03
抗核抗体 (ANA)	柴崎光衛,他:医学と薬学 36,319,1996.	※03
抗DNA抗体	宮脇晶二,他:日臨免疫会誌 17,164,1994.	※03
抗ds DNA抗体 IgG	西山 進,他:医学と薬学 69 (4) ,689,2013. 磯田健太郎,他:医学と薬学 70 (1) ,119,2013.	※03
抗ds DNA抗体 IgM		※03
抗ss DNA抗体 IgG	西山 進,他:医学と薬学 69 (4) ,689,2013. 磯田健太郎,他:医学と薬学 70 (1) ,119,2013.	※03
抗RNP抗体 (免疫拡散法)	石川英一,竹内裕子:臨床免疫 17,221,1985.	※03
抗RNP抗体 (CLEIA)	西山 進,他:医学と薬学 68 (2) ,345,2012.	※03
抗Sm抗体 (免疫拡散法)	石川英一,竹内裕子:臨床免疫 17,221,1985.	※03
抗Sm抗体 (CLEIA)	西山 進,他:医学と薬学 68 (2) ,345,2012.	※03
抗SS-A抗体 (免疫拡散法)	宮脇昌二,小豆沢秀夫:臨床免疫 14,127,1982.	※03
抗SS-A抗体 (CLEIA)	西山 進,他:医学と薬学 68 (2) ,345,2012.	※03
抗SS-B抗体 (免疫拡散法)	宮脇昌二,小豆沢秀夫:臨床免疫 14,127,1982.	※03
抗SS-B抗体 (CLEIA)	西山 進,他:医学と薬学 68 (2) ,345,2012.	※03
抗Scl-70抗体 (免疫拡散法)	Douvas,S.A. et al.:J.Biol.Chem. 254,10514,1979.	※03
抗Scl-70抗体 (CLEIA)	小島和夫,他:医学と薬学 69 (4) ,677,2013.	※03
抗RNAポリメラーゼ III抗体	Kuwana,M. et al.:Arthritis Rheum.52,2425,2005.	※03
抗Jo-1抗体 (免疫拡散法)	西海正彦:機器・試薬 13,835,1990.	※03
抗ARS抗体	吉藤 元:医学のあゆみ 239 (1) ,71,2011.	※03
抗MDA5抗体 (抗CADM-140抗体)	佐藤慎二:炎症と免疫 22(6),443,2014.	※03
抗セントロメア抗体	小島和夫,他:医学と薬学 69 (4) ,677,2013.	※03
抗ミトコンドリア抗体	長島秀夫,小出典男:日本臨牀 42 (春季臨増) ,1416,1984.	※03
抗ミトコンドリアM2抗体	丹野 瑞木,他:医学と薬学 67 (3) ,485,2012.	※03
抗平滑筋抗体	長島秀夫,他:日本臨牀 42 (春季臨増) ,1430,1984.	※03
抗デスマogleイン 1抗体	横山知明,他:Mebio 27 (6) ,102,2010. 天谷雅行:日本臨牀 68 (増刊6) ,614,2010.	※03
抗デスマogleイン 3抗体	同上	※03
抗BP180抗体	吉田かおり,他:医学と薬学 70 (5・6) ,989,2013.	※03
PR3-ANCA (抗好中球細胞質抗体)	平田寛之,他:医学と薬学 66 (6) ,1099,2011. 宮原涼馬,他:医学と薬学 73 (1) ,91,2016.	※03
MPO-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	同上	※03
抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	平田寛之,他:医学と薬学 66 (6) ,1099,2011.	※03
抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体)	Jeffries,G.H. et al.:J.Clin.Invest. 44,2021,1965.	※03→18
抗CL2GPI抗体 (抗カルジオリピンβ <sub>2</sub> グロコプロテインI複合体抗体)	小池隆夫,他:医学と薬学 26,535,1991.	※03
抗CLRリピン抗体 (IgG) (抗カルジオリピン抗体)	岡田 純,他:医学と薬学 36,1389,1996.	※03
抗アセチルコリンレセプター結合抗体 (抗AChR抗体)	太田光昭,他:ホルモンと臨床 48,89,2000.	※03

抗MuSK抗体(抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)	本村政勝,他:医学と薬学 70 (2) ,421,2013.	※03
	Hoch,W et al.:Nature Medicine 7 (3) ,365,2001.	
ミエリンバシク蛋白(MBP)	Mitsuhiro O.et al.:Clin.Chem. 46 (9) ,1326,2000.	※03
免疫複合体(C1q)	上田 章,他:医学と薬学 24,115,1990.	※03
抗血小板抗体	坂本久浩:Med. Technol. 11,724,1983.	※03
PA-IgG(血小板表面IgG)	倉田義之,他:臨床検査 32,641,1988.	※03
ABO血液型	白石泰夫スタンダード輸血検査テキスト第3版,医歯薬出版 p 60-69, 2017.	
Rh(D)血液型	藤田勝治 Medical Technology(2003.臨時増刊号) vol.3 No.13,医歯薬出版,p 1480, 2003.	
Rh-Hr式血液型	山崎順啓:Med. Technol. 11,631,1983.	※03
直接クームス試験	白石泰夫スタンダード輸血検査テキスト第3版,医歯薬出版 p 106-113, 2017.	
間接クームス試験	白石泰夫スタンダード輸血検査テキスト第3版,医歯薬出版 p 84-93, 2017.	
間接クームス試験 定量	小崎繁昭,新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 132,2009.	
不規則性抗体	藤田勝治 Medical Technology(2003.臨時増刊号) vol.3 No.13,医歯薬出版, p 1503-1521, 2003.	
<b>細胞性免疫検査</b>		
T細胞・B細胞百分率	松元康治,他:臨床免疫 16,862,1984.	※03
	網野信行,他:細胞性免疫機能検査のすべて ,p.102,医歯薬出版,東京,1985.	
IgG-FcR+T細胞百分率	同上	※03
リンパ球幼若化試験 PHA	大野竜三,三島秀人:免疫実験操作法B ,p.1417,日本免疫学(編),1976.	※03
リンパ球幼若化試験 ConA	同上	※03
NK細胞活性	原田弘智,他:臨床検査 28,72,1984.	※03
HLA型判定(A, B Locus)	吉川枝里,他:MHC 10,21,2003.	※03
HLA型判定(DR Locus)	同上	※03
HLA遺伝子型判定(A Locus)	猪子英俊,他(監修):移植・輸血検査学,講談社,東京,2004.	※03
HLA遺伝子型判定(B Locus)	同上	※03
HLA遺伝子型判定(C Locus)	同上	※03
<b>遺伝子関連検査</b>		
WT1 mRNA定量	宮脇修一,他:臨床血液 46,1279,2005.	※03
EGFR遺伝子変異解析	Nagai, Y.et al.:Cancer Res.65,7276,2005.	※03
ROS1融合遺伝子解析	松本慎吾:がん分子標的治療 13 (3) ,406,2015.	※03
	片山量平:医学のあゆみ 252 (7) ,797,2015.	
RAS-BRAF遺伝子変異解析	日本臨床腫瘍学会:大腸癌診療における遺伝子関連検査のガイダンス 第3版,2016.	※03
<b>染色体検査</b>		
Gバンド分染法	福島義光,井上信男:臨床検査 28,759,1984.	※03
	寺島 寛:病理形態検査(臨床検査技術全書8) ,p.456,医学書院,東京,1978.	
肺がんALK	Soda, M.et al.:Nature 448 (7153) ,561,2007.	※03
	Kwak,E.L.et al.:N.Engl.J.Med.363 (18) ,1693,2010.	
	日本肺癌学会ハイオマーカ委員会:肺癌患者におけるALK遺伝子検査の手引き,2011.	
<b>血液学検査</b>		
[末梢血液一般検査]白血球	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院, p 5,18-21,200-204, 2012.	
[末梢血液一般検査]赤血球	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院, p 11-12,182,198, 2012.	
[末梢血液一般検査]ヘモグロビン	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院, p 47,182, 2012.	
[末梢血液一般検査]ヘマトクリット	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院, p 47,50,2012.	
[末梢血液一般検査]血小板数	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院, p 23,26, 2012.	
網赤血球数	日本臨床62巻 増刊号12第6版,日本臨牀社, p 558,560, 2004.	
鼻汁好酸球	三村邦裕,他:臨床検査学講座・臨床検査総論第3版,医歯薬出版,p 158, 2013.	
末梢血液像(自動機械法)《5分類》	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院,p 90,200-203, 2012.	

末梢血液像(鏡検法)《6分類》	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院,p 200-204, 2012.	
P T時間(プロトロンビン時間)	矢富 裕,他:標準臨床検査学 血液検査学 第1版,医学書院,p 154-155, 2012.	
A P T T (活性化部分トロンボプラスチン時間)	奈良信雄:検査値ポケットマニュアル第2版,医歯薬出版, p 119, 2007.	
フィブリノゲン	奈良信雄:検査値ポケットマニュアル第2版,医歯薬出版, p 124, 2007.	
F D P定量(フィブリン・フィブリノゲン分解産物)	山崎 哲,他:Medical Technology vol.35 ,医歯薬出版, p 132-139, 2007.	
(尿) F D P	堀内伸純,他:機器 ・ 試薬 14,267,1991.	※03
D ダイマー	山崎 哲,他:Medical Technology vol.35 ,医歯薬出版, p 132-139, 2007.	
プロテイン C (抗原量)	有村国明,木村典子:機器 ・ 試薬 15,159,1992.	※03
プロテイン C (活性)		※03
プロテイン S (抗原量)		※03
プロテイン S (活性)		※03
アンチトロンビン III (A T III)活性	湯浅宗一,他:検査と技術2000 vol.28 No7 ,医学書院, p 879, 2000.	
T A T (トロンビン・アンチトロンビン複合体)	木村真波,他:機器 ・ 試薬 33,525,2010.	※03
P I Cテスト(α2プラスミンヒビター・プラスミン複合体)	徐 吉夫,他:機器 ・ 試薬 16,1107,1993.	※03
β-トロンボグロブリン(β-T G)	高橋芳右,他:血液と脈管 18,326,1987.	※03
P F - 4 (血小板第4因子)	同上	※03
フォン・ウィルブラント因子定量(第Ⅷ因子様抗原)	Peltier,J.Y. et al.:Proceeding of XVI th Congress of the ISTH,513,1997.	※03
フォン・ウィルブラント因子活性	杉原卓朗:機器 ・ 試薬 6,321,1983.	※03
ルーブスアンチコアグラント	佐藤久美子,他:臨床病理 43,263,1995.	※03
第Ⅱ因子活性(F 2)	安達眞二,他:Med.Technol. 24,629,1996.	※03
第Ⅴ因子活性(F 5)	同上	※03
第Ⅶ因子活性(F 7)	同上	※03
第Ⅷ因子活性(F 8)	同上	※03
第Ⅸ因子活性(F 9)	同上	※03
第Ⅹ因子活性(F 1 0)	同上	※03
第Ⅺ因子活性(F 1 1)	同上	※03
第Ⅻ因子活性(F 1 2)	同上	※03
第Ⅻ因子定量(F 1 3)	Fikenscher.K. et al.:Thromb.Haemost. 65,535,1991.	※03
第Ⅷ因子インヒビター(F 8 I N H)	高松純樹:日本臨牀 57 (増刊 広範囲血液 ・ 尿化学検査、免疫学的検査2) ,604,1999.	※03
第Ⅸ因子インヒビター(F 9 I N H)	日笠 聡:日本臨牀 57 (増刊 広範囲血液 ・ 尿化学検査、免疫学的検査2) ,611,1999.	※03

## 微生物学検査

一般細菌塗抹	小栗豊子:臨床微生物検査ハンドブック.2011. 永田邦昭:感染症診断に役立つグラム染色 2006,守殿貞天・荒川創一(監修)ひとめでわかる微生物検査3トラス 2000	
M R S A簡易培養検査	小栗豊子:臨床微生物検査ハンドブック.2011. 堀井俊伸(監修):微生物検査ナビ(第2版) 2016. 山口英世(著):病原真菌と真菌症 1999.	
細菌培養同定検査	小栗豊子:臨床微生物検査ハンドブック.2011. 山中喜代治,他:カラーアトラス微生物検査.1996. 坂崎利一(監修):医学細菌同定の手びき.1993.	
大腸菌 血清型別	小栗豊子:臨床微生物検査ハンドブック.2011.	
嫌気性培養	宮治 誠,西村和子(編著) 医真菌学辞典(第2版) 1993.	
細菌薬剤感受性検査		
抗酸菌塗抹	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 33-38	
抗酸菌分離培養検査	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 39-45	
抗酸菌同定 D D H	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 47-66	
抗酸菌薬剤感受性検査	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 87-97	
結核菌群同定	渡邊あゆみ,他:医学と薬学 58,331,2007.	※03
M A C同定-D N A	田口直子,他:医学と薬学 62,121,2009.	※03
Q F T - T B(第4世代)	森 享:現場で役に立つ IGRA使用の手引き vor.2,公益財団法人結核予防会, 2018.	
赤痢菌・サルモネラ菌		
腸管出血性大腸菌		
O - 1 5 7		
レジオネラ菌定量培養	小栗豊子:臨床と微生物 25,7,1998. (財)ピル管理教育センター :第3版レジオネラ症防止指針 ,東京,2009.	※03

**一般臨床検査**

尿中一般物質定性半定量検査	金井正光 (監修):臨床検査法提要 (改訂第34版) p128-159 金原出版,2015	
(蓄尿)尿蛋白	大野岩男,日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 84-87,2004.	
(蓄尿)尿グルコース	河原玲子,日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 91~94,2004.	
尿沈渣顕微鏡検査	社団法人 日本臨床衛生検査技師会 尿沈渣検査法 2000 社団法人 日本臨床衛生検査技師会 尿沈渣検査法 2010	
便中Hb定性	金井正光 (監修):臨床検査法提要 (改訂第34版) p 165-167 金原出版,2015	
虫卵(集卵法)	金井正光 (監修):臨床検査法提要 (改訂第34版) p 193-195 金原出版,2015	
虫卵(塗抹法)	金井正光 (監修):臨床検査法提要 (改訂第33版) p 1047-1056 金原出版,2010.4.1	
虫体鑑別	同上	
虫体鑑別	横川 定,他:人体寄生虫学提要,菊屋書房,東京,1974.	※03
髄液一般検査	社) 日本臨床衛生検査技師会:髄液検査技術教本 金井正光 (監修):臨床検査法提要 (改訂第34版) p212-219 金原出版,2015	
(髄液)総蛋白		
(髄液)グルコース		
(髄液)クロール	金井正光 (監修):臨床検査法提要 (改訂第34版) p222 金原出版,2015	
穿刺液一般検査	三橋尚志,他:検査と技術 増刊号18 (6) ,1990	
(穿刺液)蛋白	同上	
(穿刺液)グルコース		
精液一般検査	日本泌尿器科学会:精液検査標準化ガイドライン2003	

**病理学検査**


病理組織検査	三友喜夫:病理学(臨床検査講座),医歯薬出版,東京,1982. 渡辺恒彦,福島範子, 他(編):病理技術マニュアル(日本病理学会 編),医歯薬出版,東京,1986. 佐野 豊:組織学検査法,南山堂,東京,1976. 影山圭三(編):病理組織標本の作り方,医学書院,東京,1975. 平山 章:病理組織標本染色法,清至書院,東京,1982. 飯島宗一(編):組織病理アトラス,文光堂,東京,1984. 石川栄世(編):外科病理学,文光堂,東京,1984. 齋藤 脩, 他:整形外科病理,HBJ出版局,東京,1987. 笹井陽一郎:皮膚病理組織学,金原出版,東京,1986. 檜澤一夫, 他(編):筋病理学,文光堂,東京,1989. 島峰徹郎(編):骨髄組織病理アトラス,文光堂,東京,1984. 宮地 徹, 他:耳鼻咽喉科領域の病理,杏林書院,東京,1992. 渡辺慶一, 他(編):酵素抗体法,学際企画,東京,1992. 渡辺慶一, 他(編):免疫組織化学(病理と臨床 臨時増刊),文光堂,東京,1989.	※04,07
HER2/neu《IHC法》	Jacobs,T.W. et al.:J.Clin.Oncol. 17,1983,1999. Espinoza,F.and Anguiano,A.:J.Clin.Oncol. 17,2293,1999.	※03,04
HER2/neu《FISH法》	Persons,D.L. et al.:Ann.Clin.Lab.Sci. 30,41,2000.	※03
胃癌HER2/neu《IHC法》	Bang YJ,et al.:Lancet.376 (9742) ,687,2010.	※03
PD-L1(2 2 C 3)《IHC法》	丹保裕一, 他:日本胸部臨床 75 (10) ,1095,2016. 比島恒和, 他:病理と臨床 34 (1) ,98,2016. 北野滋久:日本医事新報 4817,36,2016.	※03
ALK融合タンパク《高感度IHC法》	Takeuchi,K. et al.:Clin.Cancer Res.15 (9) ,3143,2009. 竹内賢吾,:病理と臨床 28 (2) , 139, 2010.	※03
エストロゲンレセプター(ER)		※03,04
プロゲステロンレセプター(PgR)		※03,04
細胞診	石東嘉男:細胞診の実際,医学書院,東京,1977. Koss,L.G.:細胞診断学-その病理組織学的基礎(太田邦夫,石東嘉男 訳),医学書院,東京,1964. 服部正次:細胞診断,医歯薬出版,東京,1977. 田中 昇(編):細胞診教本,宇宙堂八木書店,東京,1981. 小島 端(編):細胞診とその技術(日本病理学会 編),医歯薬出版,東京,1981. 矢谷隆一, 他:細胞診を学ぶ人のために,医学書院,東京,1992. 坂本穆彦, 他:臨床細胞診断学アトラス,文光堂,東京,1993. 沢田勤也:肺癌の細胞診,医学書院,東京,1985. 蔵本博行:カラーアトラス 子宮体癌検診,医学書院,東京,1989. 栗田宗次, 他:悪性リンパ腫細胞診アトラス,名古屋大学出版,愛知,1994.	※04,07


<b>01</b> 汎用容器(分離剤入り)  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>8.5mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr> </table>	容量	8.5mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目		<b>02</b> 汎用容器  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>4mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>血清、血漿提出用</td></tr> </table>	容量	4mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	血清、血漿提出用	<b>03</b> 汎用容器(分離剤なし)  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>5mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>クームス試験等</td></tr> </table>	容量	5mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目	クームス試験等
容量	8.5mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目																																
容量	4mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	血清、血漿提出用																															
容量	5mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目	クームス試験等																															
<b>04</b> グルコース、HbA1c用容器  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>2mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>NaF EDTA-2Na</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>グルコース HbA1c</td></tr> </table>	採取量	2mL	添加剤	NaF EDTA-2Na	保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目	グルコース HbA1c	<b>05</b> アンモニア用容器  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>1mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>除蛋白液4mL</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外装及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>血中アンモニア</td></tr> </table>	採取量	1mL	添加剤	除蛋白液4mL	保管方法	常温	有効期間	外装及び箱表示	主な検査項目	血中アンモニア	<b>06</b> 乳酸・ビルビン酸用容器  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>1mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>除蛋白液1mL (0.8N過塩素酸)</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>冷蔵</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>乳酸 ビルビン酸</td></tr> </table> <p>(前処理用) (提出用)</p>	採取量	1mL	添加剤	除蛋白液1mL (0.8N過塩素酸)	保管方法	冷蔵	有効期間	容器表示	主な検査項目	乳酸 ビルビン酸
採取量	2mL																															
添加剤	NaF EDTA-2Na																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目	グルコース HbA1c																															
採取量	1mL																															
添加剤	除蛋白液4mL																															
保管方法	常温																															
有効期間	外装及び箱表示																															
主な検査項目	血中アンモニア																															
採取量	1mL																															
添加剤	除蛋白液1mL (0.8N過塩素酸)																															
保管方法	冷蔵																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	乳酸 ビルビン酸																															
<b>07</b> 免疫抑制剤用容器  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>5mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2Na</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>シクロスポリン タクロリムス エベロリムス</td></tr> </table>	採取量	5mL	添加剤	EDTA-2Na	保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目	シクロスポリン タクロリムス エベロリムス	<b>08</b> アプロチニン容器  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>2mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2Na アプロチニン</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>hANP</td></tr> </table>	採取量	2mL	添加剤	EDTA-2Na アプロチニン	保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目	hANP	<table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td></td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr> </table>	採取量		添加剤		保管方法		有効期間		主な検査項目	
採取量	5mL																															
添加剤	EDTA-2Na																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目	シクロスポリン タクロリムス エベロリムス																															
採取量	2mL																															
添加剤	EDTA-2Na アプロチニン																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目	hANP																															
採取量																																
添加剤																																
保管方法																																
有効期間																																
主な検査項目																																
<b>10</b> ヘパリン容器  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>4mL・9mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>ヘパリンNa</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>アミノ酸分析 微量金属 染色体検査 その他</td></tr> </table>	容量	4mL・9mL	添加剤	ヘパリンNa	保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目	アミノ酸分析 微量金属 染色体検査 その他	<table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td></td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr> </table>	採取量		添加剤		保管方法		有効期間		主な検査項目		<table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td></td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr> </table>	採取量		添加剤		保管方法		有効期間		主な検査項目	
容量	4mL・9mL																															
添加剤	ヘパリンNa																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目	アミノ酸分析 微量金属 染色体検査 その他																															
採取量																																
添加剤																																
保管方法																																
有効期間																																
主な検査項目																																
採取量																																
添加剤																																
保管方法																																
有効期間																																
主な検査項目																																

容器取扱・保管上のご注意：有効期間は包装開封前のもです。


検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。



<b>13 血液学容器</b>		
	採取量	2mL
	添加剤	EDTA-2K
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び箱表示
	主な検査項目	末梢血液一般 血液像 その他

<b>14 内分泌学用容器</b>		
	容量	5.5mL
	添加剤	EDTA-2Na
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び箱表示
	主な検査項目	カテコールアミン3分画 レニン サイクリックAMP その他

<b>15 血液凝固検査用容器</b>		
	採取量	1.8mL
	添加剤	3.2%クエン酸Na 0.2mL
	保管方法	常温
	有効期間	外装及び箱表示
	主な検査項目	凝固因子活性 PT, APTT, FIB ATⅢ, 血中FDP その他

<b>16 尿中C-ペプチド用容器</b>		
	採取量	10mL
	添加剤	全尿保存の場合は必ず専用保存剤を添加して下さい
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	尿中C-ペプチド

<b>17</b>	
採取量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	

<b>18 尿中FDP用容器</b>		
	採取量	2mL
	添加剤	抗プラスミン剤
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び外袋表示
	主な検査項目	尿中FDP

<b>19 β-TG, PF-4用容器</b>		
	採取量	2.7mL
	添加剤	テオフィリン, アデニン, シリガモール, クエン酸, クエン酸Na
	保管方法	常温 <遮光>
	有効期間	容器及び外袋表示
	主な検査項目	β-トロンボグロブリン 血小板第4因子

<b>20 プレパレート</b>		
	容量	
	添加剤	
	保管方法	常温
	有効期間	
	主な検査項目	血液像 鼻汁好酸球 細胞診

<b>21 リンパ球保存容器</b>		
	容量	8mL
	添加剤	CPD
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び外袋表示
	主な検査項目	細胞性免疫

<b>22</b>	
採取量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	

<b>23 結石用容器</b>		
	容量	
	添加剤	
	保管方法	常温
	有効期間	
	主な検査項目	結石鑑別

<b>25 尿一般容器</b>		
	容量	10mL
	添加剤	
	保管方法	常温
	有効期間	
	主な検査項目	尿一般検査

容器取扱・保管上のご注意：有効期間は包装開封前のもです。

検査でご利用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。


<p><b>26 褐色ポリ瓶</b></p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>50mL・100mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr> </table>	容量	50mL・100mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目		<p><b>27 滅菌スピッツ</b></p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>10mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>尿細菌検査</td></tr> </table>	容量	10mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	尿細菌検査	<p><b>28 滅菌採水ボトル</b></p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>500mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>微生物学検査 レジオネラ定量培養</td></tr> </table>	容量	500mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	微生物学検査 レジオネラ定量培養
容量	50mL・100mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目																																
容量	10mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	尿細菌検査																															
容量	500mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	微生物学検査 レジオネラ定量培養																															
<p><b>29 採便容器</b></p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>3～5g</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>糞便検査</td></tr> </table>	採取量	3～5g	添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	糞便検査	<p><b>30 遺伝子検査用標本スライド容器</b></p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>EGFR遺伝子変異解析 等癌関連遺伝子検査 肺がんALK《FISH法》</td></tr> </table>	採取量		添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	EGFR遺伝子変異解析 等癌関連遺伝子検査 肺がんALK《FISH法》	<p><b>31 便中ヘモグロビン採便管</b></p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>約0.5g</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>保存液</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>便中ヘモグロビン</td></tr> </table>	採取量	約0.5g	添加剤	保存液	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	便中ヘモグロビン
採取量	3～5g																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	糞便検査																															
採取量																																
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	EGFR遺伝子変異解析 等癌関連遺伝子検査 肺がんALK《FISH法》																															
採取量	約0.5g																															
添加剤	保存液																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	便中ヘモグロビン																															
<p><b>32 呼気採取バッグ</b></p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>各250mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>尿素呼気試験</td></tr> </table>	採取量	各250mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	尿素呼気試験	<p><b>33 カルプロテクチン採便セット</b></p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>1g</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>便中カルプロテクチン</td></tr> </table>	採取量	1g	添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	便中カルプロテクチン	<p><b>34 嫌気培養用輸送容器(ケンキポーター)</b></p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>レザズリン寒天</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>微生物学検査 (嫌気性菌)</td></tr> </table>	容量		添加剤	レザズリン寒天	保管方法	常温	有効期間	外箱表示	主な検査項目	微生物学検査 (嫌気性菌)
採取量	各250mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	尿素呼気試験																															
採取量	1g																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	便中カルプロテクチン																															
容量																																
添加剤	レザズリン寒天																															
保管方法	常温																															
有効期間	外箱表示																															
主な検査項目	微生物学検査 (嫌気性菌)																															
<table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td></td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr> </table>	採取量		添加剤		保管方法		有効期間		主な検査項目		<p><b>37 レズンボトル</b></p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>各30mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>精製水、消化ブロス、酵母エキス、アミノ酸 他</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>微生物学検査</td></tr> </table> <p>(好気用) (嫌気用)</p>	容量	各30mL	添加剤	精製水、消化ブロス、酵母エキス、アミノ酸 他	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	微生物学検査	<p><b>38 細菌検査用採便容器</b></p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>Cary-Blair</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>微生物学検査</td></tr> </table>	容量		添加剤	Cary-Blair	保管方法	常温	有効期間	外箱表示	主な検査項目	微生物学検査
採取量																																
添加剤																																
保管方法																																
有効期間																																
主な検査項目																																
容量	各30mL																															
添加剤	精製水、消化ブロス、酵母エキス、アミノ酸 他																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	微生物学検査																															
容量																																
添加剤	Cary-Blair																															
保管方法	常温																															
有効期間	外箱表示																															
主な検査項目	微生物学検査																															


容器取扱・保管上のご注意：有効期間は包装開封前のもです。

検査でご利用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

<b>39</b>	<b>細菌検査用スワブ(一般細菌用)</b>		採取量	
			添加剤	改良アミーズ培地
			保管方法	常温
			有効期間	容器及び外袋表示
			主な検査項目	微生物学検査


<b>40</b>	<b>細菌検査用スワブ(耳鼻科用)</b>		採取量	
			添加剤	改良アミーズ培地
			保管方法	常温
			有効期間	容器及び外袋表示
			主な検査項目	微生物学検査 (耳、目、鼻咽腔、男性尿道等からの材料)

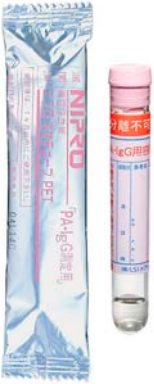
<b>43</b>	<b>組織保存容器(RNA安定化剤入り)</b>		容量	
			添加剤	RNA安定化剤
			保管方法	常温
			有効期間	容器表示
			主な検査項目	mRNA検査


<b>44</b>	<b>組織片容器</b>		容量	
			添加剤	10%中性緩衝ホルマリン液
			保管方法	常温
			有効期間	
			主な検査項目	病理組織検査


<b>45</b>	<b>HP培地</b>		添加剤	チオグリコール酸 (その他 選択剤、発育支持剤)
			保管方法	冷蔵
			有効期間	外箱表示
			主な検査項目	ヘリコバクター・ピロリ

			採取量	
			添加剤	
			保管方法	
			有効期間	
			主な検査項目	

<b>51</b>	<b>血中エンドキシン・β-D-グルカン用容器</b>		採取量	3mL
			添加剤	ヘパリンNa
			保管方法	常温
			有効期間	容器及び箱表示
			主な検査項目	エンドキシン定量 (1→3)-β-D-グルカン

<b>52</b>	<b>PA-IgG用容器</b>		容量	8mL
			添加剤	ACD-A液
			保管方法	常温
			有効期間	容器及び外袋表示
			主な検査項目	PA-IgG

<b>53</b>	<b>百日咳菌核酸同定用スワブ</b>		採取量	
			添加剤	
			保管方法	常温
			有効期間	外袋及び外箱表示
			主な検査項目	百日咳菌核酸同定

<b>55</b>	<b>感染症遺伝子増幅検査用容器</b>		容量	15mL
			添加剤	
			保管方法	常温
			有効期間	
			主な検査項目	結核菌群同定 MAC同定-DNA

<b>56</b>	<b>HSV抗原容器</b>		容量	
			添加剤	
			保管方法	常温
			有効期間	外袋表示
			主な検査項目	単純ヘルペスウイルス特異抗原

<b>58</b>	<b>ビタミンC用容器</b>		採取量	0.5mL
			添加剤	0.8N過塩素酸
			保管方法	冷蔵
			有効期間	容器表示
			主な検査項目	ビタミンC

(前処理用)(提出用)


容器取扱・保管上のご注意：有効期間は包装開封前のもです。  
検査でご利用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。


<p><b>59</b> 金属分析用容器(尿)</p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>10mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>尿中銅 亜鉛 マンガン クロム 水銀</td></tr> </table>	容量	10mL	添加剤		保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	尿中銅 亜鉛 マンガン クロム 水銀	<p><b>61</b> HPV容器(ハイブリッドキャプチャー法)</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>トリスヒドロキシメチルアミノメタン、EDTA、アジ化ナトリウム(0.1%未満)、塩</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>HPV-DNA同定 (ハイブリッドキャプチャー法)</td></tr> </table> <p>(検診用) (妊婦用)</p>	採取量		添加剤	トリスヒドロキシメチルアミノメタン、EDTA、アジ化ナトリウム(0.1%未満)、塩	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	HPV-DNA同定 (ハイブリッドキャプチャー法)	<p><b>62</b> ウイルス遺伝子検査用容器(5mL管)</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>5mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>凝固促進剤</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>高感度HBs抗原 HBV-DNA定量 HCV-RNA定量 (TaqManPCR法) HIV-抗原・抗体</td></tr> </table>	採取量	5mL	添加剤	凝固促進剤	保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目	高感度HBs抗原 HBV-DNA定量 HCV-RNA定量 (TaqManPCR法) HIV-抗原・抗体
容量	10mL																															
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	尿中銅 亜鉛 マンガン クロム 水銀																															
採取量																																
添加剤	トリスヒドロキシメチルアミノメタン、EDTA、アジ化ナトリウム(0.1%未満)、塩																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	HPV-DNA同定 (ハイブリッドキャプチャー法)																															
採取量	5mL																															
添加剤	凝固促進剤																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目	高感度HBs抗原 HBV-DNA定量 HCV-RNA定量 (TaqManPCR法) HIV-抗原・抗体																															
<p><b>68</b> 金属分析用容器(血清)</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>3mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>凝固促進剤</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器及び箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>亜鉛 アルミニウム セレン マンガン</td></tr> </table>	採取量	3mL	添加剤	凝固促進剤	保管方法	常温	有効期間	容器及び箱表示	主な検査項目	亜鉛 アルミニウム セレン マンガン	<p><b>69</b> 採痰管</p>  <table border="1"> <tr><td>容量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td></td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>微生物学検査(喀痰) 細胞診検査(喀痰)</td></tr> </table>	容量		添加剤		保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	微生物学検査(喀痰) 細胞診検査(喀痰)											
採取量	3mL																															
添加剤	凝固促進剤																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器及び箱表示																															
主な検査項目	亜鉛 アルミニウム セレン マンガン																															
容量																																
添加剤																																
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	微生物学検査(喀痰) 細胞診検査(喀痰)																															
<p><b>70</b> 透析液エンドトキシン用容器</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>4mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>0.64%トリエタノールアミン 0.16%ポリエチレングリコール 0.01Mクエン酸三ナトリウム</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>冷蔵</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>透析液中エンドトキシン</td></tr> </table>	採取量	4mL	添加剤	0.64%トリエタノールアミン 0.16%ポリエチレングリコール 0.01Mクエン酸三ナトリウム	保管方法	冷蔵	有効期間	容器表示	主な検査項目	透析液中エンドトキシン	<p><b>71</b> 顆粒球エラスターゼ</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>抽出液(リン酸バッファー)</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>冷蔵</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外袋表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ</td></tr> </table>	採取量		添加剤	抽出液(リン酸バッファー)	保管方法	冷蔵	有効期間	外袋表示	主な検査項目	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	<p><b>73</b> 尿中ミオグロビン用容器</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>6mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>二亜硫酸ナトリウム、プロクリン、EDTA-3Na</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>尿中ミオグロビン</td></tr> </table> <p>※2つのラインの間にに入れて下さい</p>	採取量	6mL	添加剤	二亜硫酸ナトリウム、プロクリン、EDTA-3Na	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	尿中ミオグロビン
採取量	4mL																															
添加剤	0.64%トリエタノールアミン 0.16%ポリエチレングリコール 0.01Mクエン酸三ナトリウム																															
保管方法	冷蔵																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	透析液中エンドトキシン																															
採取量																																
添加剤	抽出液(リン酸バッファー)																															
保管方法	冷蔵																															
有効期間	外袋表示																															
主な検査項目	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ																															
採取量	6mL																															
添加剤	二亜硫酸ナトリウム、プロクリン、EDTA-3Na																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	尿中ミオグロビン																															
<p><b>76</b> 便中H.ピロリ抗原用採便管</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>ホウ酸</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>便中ヘリコバクター・ピロリ抗原</td></tr> </table>	採取量		添加剤	ホウ酸	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	<p><b>81</b> HPV型別用容器(ThinPrep)</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>メタノール含有</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>HPV型別</td></tr> </table>	採取量		添加剤	メタノール含有	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	HPV型別	<p><b>82</b> 液状細胞診(LBC)婦人科用(surePath)</p>  <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td></td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>エタノール、メタノール、イソプロパノール</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>LBC婦人科</td></tr> </table>	採取量		添加剤	エタノール、メタノール、イソプロパノール	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	LBC婦人科
採取量																																
添加剤	ホウ酸																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原																															
採取量																																
添加剤	メタノール含有																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	HPV型別																															
採取量																																
添加剤	エタノール、メタノール、イソプロパノール																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	LBC婦人科																															

容器取扱・保管上のご注意：有効期間は包装開封前のもです。

検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分なお注意をお願い致します。

	<b>84</b>	<b>ビタミンB<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>用容器</b>
	容量	4mL
	添加剤	EDTA-2Na
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び箱表示
主な検査項目	ビタミンB <sub>1</sub> ビタミンB <sub>2</sub>	


	<b>85</b>	<b>クラミジア・淋菌(TaqManPCR)用 (ぬぐい液用)</b>
	採取量	
	添加剤	塩酸グアニジン
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び外袋表示
主な検査項目	クラミジア核酸同定 淋菌核酸同定 〈TaqManPCR法〉	


	<b>86</b>	<b>クラミジア・淋菌(TaqManPCR)用 (尿・うがい液用)</b>
	採取量	4.5mL
	添加剤	塩酸グアニジン
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び外袋表示
主な検査項目	クラミジア核酸同定 淋菌核酸同定 〈TaqManPCR法〉	


	<b>89</b>	<b>遺伝子検査用容器</b>
	容量	7mL
	添加剤	EDTA-2Na
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び箱表示
主な検査項目	遺伝子検査	

	採取量	
	添加剤	
	保管方法	
	有効期間	
	主な検査項目	

	採取量	
	添加剤	
	保管方法	
	有効期間	
	主な検査項目	


	<b>95</b>	<b>血液型用容器</b>
	採取量	2mL
	添加剤	EDTA-2K
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び箱表示
主な検査項目	ABO血液型 Rh(D)血液型	

	<b>96</b>	<b>BNP用容器</b>
	採取量	2mL
	添加剤	EDTA-2K
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び箱表示
主な検査項目	BNP	

	<b>97</b>	<b>QFT-TB(クオンティフェロン)用容器</b>
	採取量	5mL
	添加剤	ヘパリンリチウム
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
主な検査項目	QFT-TB(第3世代)	

	<b>98</b>	<b>不規則性抗体用容器</b>
	採取量	7mL
	添加剤	EDTA-2Na
	保管方法	常温
	有効期間	容器及び箱表示
主な検査項目	不規則性抗体	

	<b>99</b>	<b>マイコプラズマ・ニューモニ(LAMP)用スワブ (咽頭用)</b>
	採取量	
	添加剤	
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
主な検査項目	マイコプラズマ・ニューモニ 核酸同定 〈LAMP法〉	

	<b>100</b>	<b>マイコプラズマ・ニューモニ(LAMP)用スワブ (鼻腔用)</b>
	採取量	
	添加剤	
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
主な検査項目	マイコプラズマ・ニューモニ 核酸同定 〈LAMP法〉	

容器取扱・保管上のご注意：有効期間は包装開封前のもです。

検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。



A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing notes or a memo.



A series of horizontal dashed lines for writing, spanning the width of the page.



A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for writing a memo.





A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing notes or a memo.

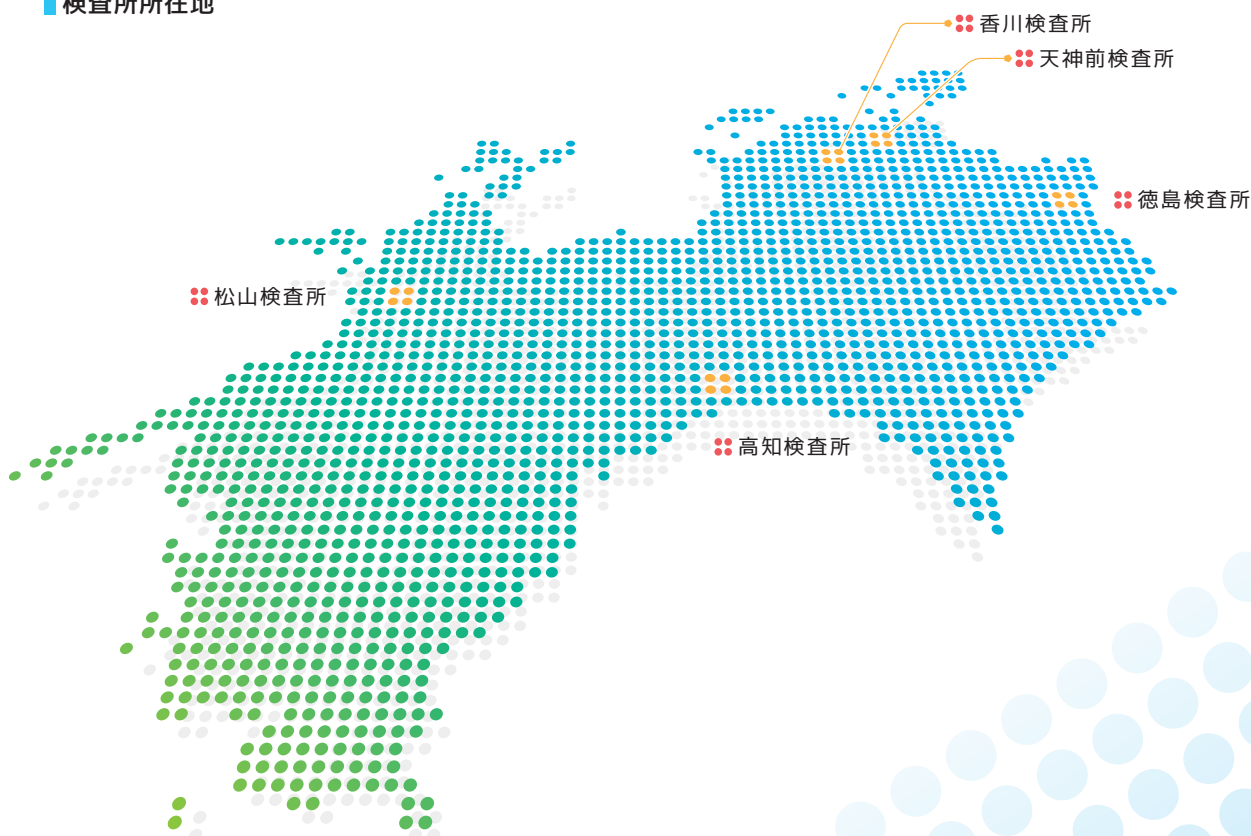
## 登録衛生検査所一覧

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先	自治体登録番号
香川検査所	生・清・血・寄・微	〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田3322	TEL 087-877-0111	香川県 第21号
天神前検査所	生・清・血	〒760-0018 香川県高松市天神前5-5	TEL 087-862-0070	高松市 第3号
高知検査所	生・清・血・寄・微	〒781-0111 高知県高知市池3200-1	TEL 088-802-7250	高知市 第21号
松山検査所	生・清・血・寄・微	〒791-1102 愛媛県松山市来住町1339-1	TEL 089-955-7600	松山市 第9号
徳島検査所	生・清・血・寄・微	〒771-0132 徳島県徳島市川内町平石夷野224	TEL 088-665-3125	徳島県 第29号

### 分類

生: 生化学的検査 清: 血清学的検査 血: 血液学的検査 寄: 寄生虫学的検査 微: 微生物学的検査 病: 病理学的検査

## 検査所所在地



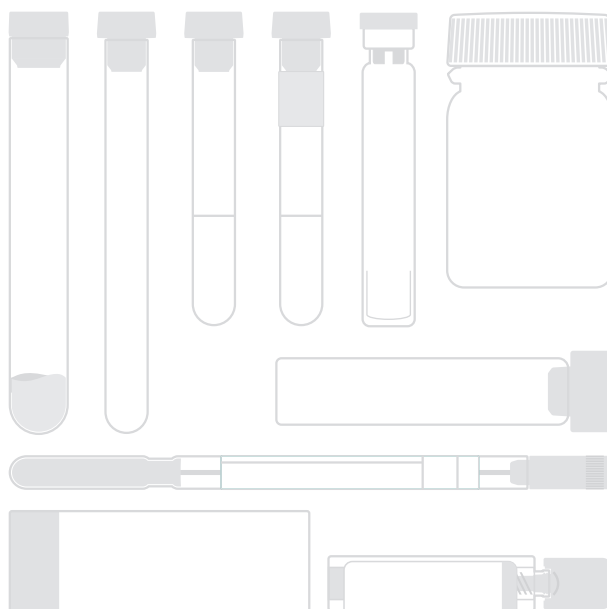


本部：〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田3322

URL：<http://www.s-cyuken.co.jp/>

■ 検査所一覧

検査所	郵便番号	住 所	電話番号
香川検査所	〒761-2101	香川県綾歌郡綾川町畑田3322	087-877-0111
天神前検査所	〒760-0018	香川県高松市天神前5-5	087-862-0070
高知検査所	〒781-0111	高知県高知市池3200-1	088-802-7250
松山検査所	〒791-1102	愛媛県松山市来住町1339-1	089-955-7600
徳島検査所	〒771-0132	徳島県徳島市川内町平石夷野224	088-665-3125



貴院担当

CENTRAL BIO LABORATORY